令和３年度

病院年報

第45号

伊勢崎市民病院

理　　念

誠実で質の高い医療

基本方針

1．安全な医療サービスに努めます

2．急性期医療を中心とした医療を提供します

3．救急医療の向上を図ります

4．がん診療の充実に努めます

5．地域医療連携を推進します

6．医療従事者の育成に努めます

7．公共性と効率性の確保に努めます

まえがき

令和３年度も前年度と同様に終始、新型コロナウイルス感染症対応に追われた１年でした。令和３年３月からみられたアルファ変異株主体の新型コロナウイルスの第４波、７月からのデルタ株主体の第５波、令和４年１月からのオミクロン変異株（ＢＡ．２系統）主体の第６波と続き、令和４年度も７月からのオミクロン変異株（ＢＡ．５系統）主体の第７波、令和４年１２月現在では第８派が襲来しており、依然として予断を許さない状況であります。

令和３年度は新型コロナウイルスのＰＣＲ検査、抗原検査、抗ウイルス薬の治療やワクチン接種が始まりました。それらは重症化予防として功を奏しており、コロナ禍でも日常生活や経済活動は徐々に落ち着きを取り戻してきました。

国は令和２年度診療報酬改定で、「地域医療構想」・「医師、医療従事者の働き方改革」・「医師の確保と偏在対策」の三位一体改革を掲げ、また、厚生労働省は令和元年に「再編検討４２４（後に４３６病院）の病院」を公表し、令和２年９月までに対応策を定めるよう地方自治体や病院へ求めましたが、令和２年に発生の新型コロナのパンデミックのために、協議は中断していました。

ところが、令和３年６月に医療提供体制改革を目指す改正医療法が成立し、「地域医療構想の推進」・「医師の働き方改革」・「医師の確保対策」に加えて「新興感染症への対応を医療計画に追加」・「外来機能の明確化」等が追加項目として明記されました。また、令和４年３月に総務省から公立病院に対して「持続可能な地域医療体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」が公表され、令和５年度中に経営強化プランの策定が義務付けられました。今回の改革では不採算病院の多くがコロナ感染症患者を受け入れている実態が判明したことから、「地域での役割・機能を明確化して、持続可能な医療経営を担保すること」・「医師、看護師等の偏在対策として医師派遣に係る特別交付税措置の拡充」等の記述により、地域の医療連携に重点を置き、地域医療構想を前進させたい意向があることが分かります。

また、令和４年度の診療報酬改定においても新興感染症対策では感染対策向上加算や紹介受診重点医療機関に関する加算が新設されました。さらに、高度急性期医療では急性期充実体制加算が新設されました。これらの新規加算は、「医療法での感染症対応」及び「地域医療構想」の促進を目的としたものと考えています。

このように、当病院はコロナ禍において平時の医療とコロナ医療を両立させた体制を維持している最中ですが、医療改革は既に待ったなしの状況であると考えています。

令和３年度の経営状況については、医業収支は前年度と比較し改善していますが約６億２千万円の赤字でありました。経常収支は医業外収益となる新型コロナ関連補助金の影響で約７億８千万円の黒字となっています。依然として本業である医業収支が赤字であり、コロナ後を見据えた経営改革も必要であると判断しています。

また、事業としては、ハイブリッド手術室で低侵襲心臓血管治療センター（心臓血管外科・循環器内科等合同チーム）による経カテーテル大動脈弁置換術（TAVR）を開始しました。さらに、手術支援ロボット daVinci 手術では呼吸器外科による肺癌及び縦隔腫瘍の手術を開始し、ロボット手術が拡大しました。

いまだにコロナ禍の状況ですが、安心・安全な医療を追求し、健全な経営を目指して参ります。

令和４年１２月１日

伊勢崎市病院事業管理者

小　林　　幹　男

目　　次

Ⅰ　病院の現況

Ⅰ　病　院　の　現　況

１．病　院　の　概　要　（令和4年3月31日現在）

（1）	開　設　者	伊　勢　崎　市
（2）	開設年月日	平成17年1月1日(伊勢崎佐波医療事務市町村組合から継承、組合開設 昭和23年5月24日)
（3）	管　理　者	小　林　幹　男
（4）	施設名称	伊勢崎市民病院
（5）	病　院　長	小　林　裕　幸
（6）	所　在　地	〒372-0817　群馬県伊勢崎市連取本町12番地1
（7）	電話番号	(0270) 25－5022（代表）　ＦＡＸ（0270）25－5023
（8）	診療科目	内科、精神科（心療内科）、脳神経内科、循環器内科、消化器内科、内視鏡内科、小児科、外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、麻酔科、歯科口腔外科、緩和ケア内科、救急科
（9）	病　床　数	一般490床、感染症4床、計494床
(10)	外来受付	午前8時30分～午前11時
(11)	人間ドック	1日ドック　週5回
(12)	人工透析	ベッド数　28床
(13)	救急体制	救急センター、救急指定、第二次救急医療病院群輪番制
(14)	集中治療室設置	ＩＣＵ　8床
(15)	がん診断治療施設	MR診断装置（2台）、血管撮影装置（3台）、乳房撮影装置（2台） 全身用マルチスライスＣＴ装置（2台）、SPECT-CT、放射線治療装置（ライナック）
(16)	リハビリテーション施設	理学療法室（心電図セントラルモニタ、プレステップ、エルゴメーター） 作業療法室　電動昇降式訓練用（キッチン、洗面化粧台） 言語聴覚療法室
(17)	未熟児施設	ベッド数　7床、人工呼吸器、生体情報モニター、経皮酸素分圧測定装置
(18)	病理解剖施設	病理組織検査室、検鏡室、解剖室

(19)　専門外来等

内科	胆膵・甲状腺・肝臓・消化管・喘息呼吸器・腎臓内科・糖尿病
循環器内科	不整脈
脳神経内科	もの忘れ
小児科	アレルギー・神経発達・予防接種・乳児健診・内分泌
外科	乳腺・甲状腺・下部消化管・大腸肛門・肝胆膵・がん遺伝カウンセリング 呼吸器・食道胃
整形外科	股関節
心臓血管外科	ステントグラフト・弁膜症・下肢静脈瘤
皮膚科	特殊・レーザー
泌尿器科	小線源・前立腺肥大症・ＣＡＰＤ・腫瘍、免疫・腎・前立腺・前立腺ホルモン 腎腫瘍・前立腺パス・排尿機能
眼科	特殊
耳鼻咽喉科	特殊・補聴器
歯科口腔外科	外来小手術・口腔粘膜
看護外来	糖尿病療養指導士・糖尿病フットケア・小児糖尿病療養指導士・乳腺看護 ストーマ・ウロストーマ・助産師・母乳・緩和看護
その他	セカンドオピニオン

(20)　診療指定等

病院の指定状況等	
保険医療機関	指定自立支援医療機関（精神通院医療）
労災指定	原爆被爆者一般疾病医療機関
母体保護法指定	群馬県エイズ診療協力病院
指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）	管理栄養士必置指定施設
特定疾患・小児慢性特定疾患医療	指定難病指定医療機関
救急告示	短期人間ドック
第二種感染症指定医療機関	群馬県周産期協力医療機関
地域がん診療連携拠点病院	群馬県臨床検査値標準化施設認証
災害拠点病院（地域災害医療センター）	大腸癌研究会施設会員
国保療養取扱機関	群馬肺癌研究会幹事施設
養育医療機関	ステントグラフト実施施設
生活保護指定医療機関	マンモグラフィ検診施設
地域医療支援病院	ＮＳＴ稼働施設
肝疾患専門医療機関	

(21) 施 設 基 準

基本診療料の施設基準等に関する届出事項	
一般病棟入院基本料（急性期一般入院料１）	総合入院体制加算２
臨床研修病院入院診療加算(基幹型)	救急医療管理加算
超急性期脳卒中加算	妊産婦緊急搬送入院加算
診療録管理体制加算１	医師事務作業補助体制加算１（15 対1）
急性期看護補助体制加算（50 対1）	療養環境加算
重症者等療養環境特別加算	重症皮膚潰瘍管理加算
がん拠点病院加算	栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算１	医療安全対策地域連携加算１
感染防止対策加算１	感染防止対策地域連携加算
抗菌薬適正使用支援加算	患者サポート体制充実加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	ハイリスク妊娠管理加算
ハイリスク分娩管理加算	後発医薬品使用体制加算１
病棟薬剤業務実施加算１・２	データ提出加算２
入退院支援加算１	入院時支援加算
地域連携診療計画加算	総合機能評価加算
認知症ケア加算１	せん妄ハイリスク患者ケア加算
排尿自立支援加算	地域医療体制確保加算
特定集中治療室管理料３	早期離床・リハビリテーション加算
早期栄養介入管理加算	小児入院医療管理料４
プレイルーム加算	緩和ケア病棟入院料２
地域歯科診療支援病院歯科初診料	歯科外来診療環境体制加算２

特掲診療料の施設基準等に関する届出事項	
外来栄養食事指導料の注２	糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料	がん患者指導管理料イ・ロ・ハ・ニ
糖尿病透析予防指導管理料	小児運動器疾患指導管理料
乳腺炎重症化予防ケア・指導料	婦人科特定疾患治療管理料
小児科外来診療料	院内トリアージ実施料
夜間休日救急搬送医学管理料の注３に規定する救急搬送看護体制加算	外来リハビリテーション診療料
外来放射線照射診療料	ハイリスク妊産婦共同管理料Ⅰ
がん治療連携計画策定料	がん治療連携管理料
外来排尿自立指導料	薬剤管理指導料
医療機器安全管理料１・２・歯科	歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医学管理料
持続血糖測定器加算（間欠注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）	持続血糖測定器加算（間欠注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）
遺伝学的検査	ＢＲＣＡ１／２遺伝子検査
先天性代謝異常症検査	ＨＰＶ核酸検出及びＨＰＶ核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
検体検査管理加算Ⅰ・Ⅳ	遺伝カウンセリング加算
植込型心電図検査	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト

ヘッドアップティルト試験	皮下連続式グルコース測定
神経学的検査	小児食物アレルギー負荷検査
画像診断管理加算１・２	ＣＴ撮影及びMRＩ撮影
冠動脈CT 撮影加算	心臓MRＩ撮影加算
乳房MRＩ撮影加算	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算１	連携充実加算
無菌製剤処理料	心大血管疾患リハビリテーション料Ｉ
脳血管疾患等リハビリテーション料Ｉ	運動器リハビリテーション料Ｉ
呼吸器リハビリテーション料Ｉ	がん患者リハビリテーション料
歯科口腔リハビリテーション料２	エタノールの局所注入（甲状腺・副甲状腺）
人工腎臓（慢性維持透析を行った場合１）	導入期加算１
透析液水質確保加算２	下肢末梢動脈疾患指導管理加算
センチネルリンパ節加算	組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。）
椎間板内酵素注入療法	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
乳がんセンチネルリンパ節加算１及びセンチネルリンパ節生検（併用）	乳がんセンチネルリンパ節加算２及びセンチネルリンパ節生検（単独）
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除及び肺葉切除又は１肺葉を超えるものに限る）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	
食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）及び膣腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）	
経皮的冠動脈形成術	経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
経皮的冠動脈ステント留置術	胸腔鏡下弁形成術
胸腔鏡下弁置換術	経カテーテル大動脈弁置換術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	大動脈バルーンパンピング法（ＩＡＢＰ法）
補助人工心臓	腹腔鏡下胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
腹腔鏡下噴門側胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	腹腔鏡下胃全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上））
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	腹腔鏡下直腸切除・切断術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
膀胱水圧拡張術	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	人工尿道括約筋植込・置換術
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	医科点数表第２章第１０部手術の通則５及び６に掲げる手術
手術の休日加算１、時間外加算１及び深夜加算１	輸血管理料Ｉ
輸血適正使用加算	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
麻酔管理料（Ｉ・Ⅱ）	歯科麻酔管理料
放射線治療専任加算	外来放射線治療加算
高エネルギー放射線治療	１回線量増加加算
画像誘導放射線治療加算（ＩＧＲＴ）	体外照射呼吸性移動対策加算

定位放射線治療	定位放射線治療呼吸移動対策加算
クラウン・ブリッジ維持管理料	

食事療養に関係する基準	
入院時食事療養（Ⅰ）	食堂加算
特別食加算	

(22) 教 育 指 定 等

臨床研修病院（基幹型）（平成15年10月30日厚生労働省指定）	
臨床研修病院（平成3年4月1日厚生省指定）	
日本内科学会認定医制度教育関連病院	日本小児科学会小児科専門医制度研修施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設	日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設	日本神経学会専門医制度准教育施設
日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設	日本泌尿器科学会専門医制度基幹教育施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設	日本医学放射線学会専門医制度修練機関
日本脳神経外科学会専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ（研修･関連）施設	日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院	日本呼吸器学会専門医制度認定施設
日本病理学会認定病理専門医制度研修認定施設Ｂ	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設（内科）	日本肝臓学会認定施設
日本消化器外科学会専門医制度修練施設	日本呼吸器外科学会専門医制度基幹施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定基幹施設	日本心臓血管外科手術データベース施設
日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設	日本大腸肛門病学会専門医認定施設
日本透析医学会専門医制度認定施設	日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設）
日本ペインクリニック学会指定研修施設	日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育施設
日本臨床細胞学会認定施設	日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設
日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設	日本脈管学会研修指定施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設	日本医学教育学会機関会員
日本緩和医療学会認定研修施設	日本人間ドック学会会員施設
認定臨床微生物検査技師制度研修施設	日本消化器がん検診学会認定指導施設
群馬大学産婦人科研修プログラム専門研修連携施設	浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
日本口腔外科学会認定准研修施設	特定行為研修指定研修機関（３区分）
太田医療技術専門学校臨床工学科実習施設	伊勢崎敬愛看護学院実習施設
桐生大学医療保健学部看護学科実習施設	桐生大学医療保健学部栄養学科実習施設
群馬大学医学部医学科卒前教育臨床実習施設	群馬県立県民健康科学大学看護学部実習施設
群馬パース大学保健科学部看護学科実習施設	群馬大学医学部保健学科理学療法学専攻実習施設
上武大学看護学部看護学科実習施設	群馬大学医学部保健学科作業療法学専攻実習施設
高崎健康福祉大学健康福祉学部医療情報学科実習施設	群馬パース大学保健科学部検査技術学科実習施設
高崎健康福祉大学保健医療学部看護学科実習施設	西武学園医学技術専門学校臨床検査科実習施設
高崎健康福祉大学薬学部実習施設	高崎健康福祉大学健康福祉学部健康栄養学科実習施設
帝京大学医療技術学部臨床検査学科実習施設	高崎健康福祉大学保健医療学部理学療法学科実習施設
東邦大学薬学部実習施設	日本看護協会看護研修学校臨地実習施設
東群馬看護専門学校母性看護・小児看護学実習施設	本庄児玉看護専門学校実習施設
前橋医療福祉専門学校医療秘書学科実習施設	目白大学保健医療学部言語視覚学科実習施設

桐生大学別科助産専攻実習施設	目白大学保健医療学部理学療法学科実習施設
群馬県立県民健康科学大学診療放射線学部実習施設	太田医療技術専門学校救急救命学科実習施設
太田医療技術専門学校歯科衛生学科実習施設	群馬パース大学保健科学部放射線学科実習施設
人間総合科学大学リハビリテーション学科実習施設	上武大学ビジネス情報学部救急救命士コース実習施設

2．位 置 と 案 内

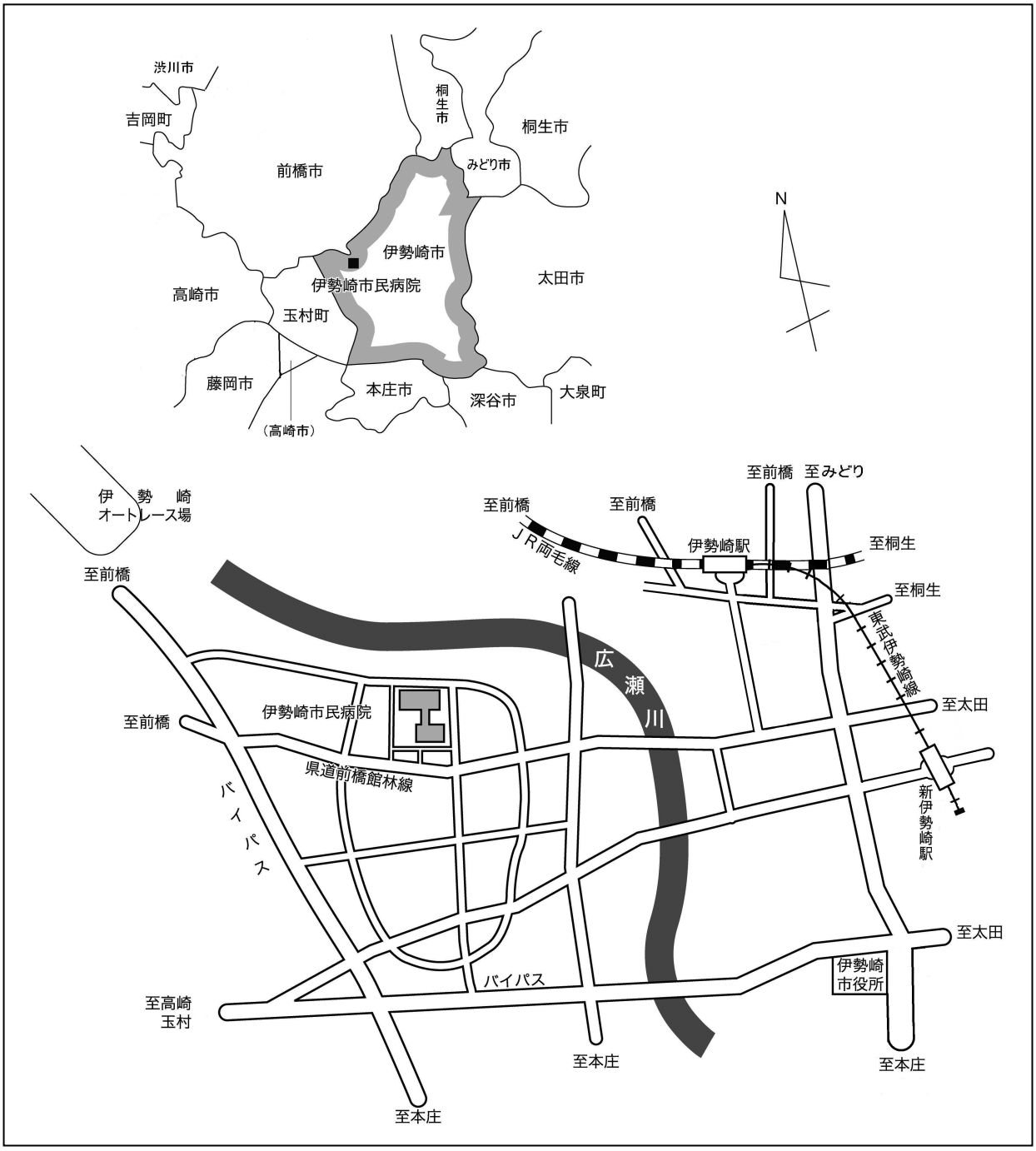
本市は群馬県南東部、関東平野の北西に位置し、前橋市、高崎市、桐生市、太田市、みどり市などの群馬県の主要都市に囲まれ、その中央部に位置しています。また、赤城山麓の南面に位置し、北部に一部丘陵地があるほか、全体はほぼ平坦地であり、南部には利根川が流れ、その支流である広瀬川、粕川、早川、韮川などの河川や沼池があります。

交通はJR両毛線と東武伊勢崎線が結節する鉄道交通の要衝であるとともに、北関東自動車道が東西に横断し、伊勢崎インターチェンジ、波志江PA・スマートインターチェンジが設置されています。また、東部を貫通する国道17号線上武国道、南北を結ぶ国道462号線と県道伊勢崎大間々線、さらに北に国道50号線、南に国道354号線が東西に横断しています。そのほか主要地方道が市の中心部から放射状に伸びており、交通アクセスに恵まれています。

気候は県内では比較的温暖で、雨の日が少なく日照時間が長いという特徴があります。冬季は「上州のからっ風」と呼ばれる寒風が吹きます。

面積は、139.44㎢、東西13.1㎞、南北約18.4㎞で南北にやや細長い形状をしています。

人口は、約21万2千人で県内12市中4番目の人口規模を持つ都市です。



３．沿　　革

昭和 23 年	5 月 24 日	佐波伊勢崎医療事務市町村組合を設立し日本医療団より土地建物施設（西町）一切を譲り受ける
	7 月 20 日	佐波伊勢崎国民健康保険団体連合会を設立　名称「伊勢崎病院」
昭和 24 年	6 月 10 日	幸町小暮病院土地建物買収（23 床）
	11 月 30 日	西町（現三光町）より幸町（現中央町）へ病院移転
	12 月 1 日	診療開始
昭和 26 年	12 月 23 日	病棟、診療棟、レントゲン室、産院増築（計 75 床）
昭和 37 年	11 月 8 日	伊勢崎佐波医療事務市町村組合と改称
昭和 38 年	7 月 23 日	病院開設許可（200 床）
	9 月 10 日	新病院起工
昭和 39 年	7 月 14 日	救急病院告示
	8 月 31 日	新病院完成（200 床）
	9 月 30 日	佐波伊勢崎国民健康保険団体連合会　解散
	10 月 1 日	新病院開設　初代管理者　伊勢崎市長　中澤豊七氏就任 初代病院長　平山圭一郎氏就任 診療科目　内科、神経科、小児科、外科、整形外科、皮膚泌尿器科、産婦人科、眼科、 耳鼻いんこう科、理学診療科、歯科
	10 月 26 日	病院施設使用許可（200 床）
昭和 40 年	1 月 4 日	人間ドック開設
	4 月 1 日	地方公営企業法一部適用（財務規定等）
	9 月 16 日	総合病院の名称承認
昭和 41 年	12 月 15 日	自治大臣から財政再建団体としての指定を受け、財政健全化のための計画を樹立
昭和 42 年	3 月 14 日	財政再建計画承認申請の承認
	3 月 18 日	病院開設許可事項一部変更許可（伊勢崎伝染病院市町村組合立伝染病棟（45 床）を伊勢崎病院敷地内に併設）
	5 月 2 日	第 2 代管理者　伊勢崎市長　下城義三郎氏就任
昭和 44 年	7月 1 日	第 2 代病院長　岡村輝彦氏就任
昭和 45 年	5 月 7 日	第 3 代管理者　伊勢崎市長　下城雄索氏就任
昭和 47 年	3 月 31 日	財政再建完了
昭和 48 年	4 月 1 日	医師陣の群馬大学医学部全面移行 第 3 代病院長　近藤忠徳氏就任 初代名誉院長　七條小次郎氏就任
昭和 50 年	4 月 15 日	診療科目　皮膚泌尿器科を皮膚科、泌尿器科へ変更
	6 月 16 日	病棟増改築工事着工（昭和 49 年度より昭和 51 年度まで 3 箇年継続事業）
昭和 51 年	1 月 23 日	病院開設許可事項一部変更許可（200 床増、一般病床計 400 床）
	9 月 1 日	病院施設使用許可（一般病床計 242 床）
	11 月 30 日	病棟増改築工事竣工
昭和 52 年	5 月 1 日	病院施設使用許可（一般病床計 284 床）

昭和 52 年	6 月	1 日	院内保育所開設（定員 20 名）
昭和 53 年	1 月	1 日	診療科目　脳神経外科新設
	4 月	1 日	群馬県立養護学校伊勢崎病院分教室開設
	5 月	1 日	病院施設使用許可　（一般病床計 344 床）
	9 月	1 日	診療科目　放射線科新設
	11 月	8 日	頭部用 CT 導入
昭和 54 年	3 月	1 日	年報第 1 号発行
	4 月	1 日	病院名を伊勢崎病院から伊勢崎市民病院に改称
			伊勢崎佐波広域市町村圏振興整備組合から伊勢崎伝染病院の移管をうける（伝染病床 45 床）
			群馬県立養護学校伊勢崎病院分教室を群馬県立東毛養護学校伊勢崎市民病院分教室に名称変更
			診療科目　循環器科新設
	5 月	1 日	病院施設使用許可（一般病床計 390 床）
	10 月	1 日	指定出納取扱金融機関の伊勢崎信用金庫が病院内に会計窓口を開設
昭和 55 年	4 月	1 日	群馬県立東毛養護学校伊勢崎市民病院分教室が群馬県立東毛養護学校伊勢崎分校に昇格
			群馬県救急医療システムスタート（当病院に特Ⅱ型の端末機設置）
昭和 56 年	2 月	19 日	ガンマカメラ導入
	6 月	2 日	診療科目　麻酔科新設
	9 月	1 日	自治省財政局「公立病院経営改善事例集」（昭和 56 年度分）調査対象（基幹病院 3、地域中核病院 10、地区病院 11、へき地病院 11）のモデル病院として地域中核病院 10 病院の中に選ばれる
昭和 57 年	10 月	1 日	コンピュータ入院診療会計業務開始
	11 月	1 日	コンピュータ外来診療会計業務開始
昭和 58 年	3 月	1 日	コンピュータ薬剤管理業務開始
	9 月	16 日	中国研修医受入（研修期間 6 箇月）
			陝西省西安市西安医学院第二付属医院より2名
	12 月	25 日	全身用 CT 導入
昭和 60 年	4 月	1 日	コンピュータ財務管理、経理業務開始
昭和 61 年	6 月	3 日	病院増改築工事着工（昭和 60 年度より昭和 62 年度まで 3 箇年継続事業）
昭和 62 年	3 月	31 日	初代名誉院長　七條小次郎氏退任
	5 月	22 日	自治体立優良病院表彰制度に基づく全国自治体病院開設者協議会会長及び全国自治体病院協議会会長表彰受賞
	6 月	22 日	病院施設使用許可（南病棟 100 床増、東病棟 50 床減、一般病床計 440 床）
昭和 63 年	3 月	31 日	病院増改築工事竣工
平成　元年	10 月	2 日	診療科目　精神科新設
平 成 2 年	9 月	29 日	中国研修医受入（研修期間 3 箇月）
			陝西省渭南地区医院より1名、陝西省西安市蘭田県人民医院より1名
	10 月	1 日	内科外来診療予約制実施
	12 月	1 日	産婦人科外来診療予約制実施
平成 3 年	2 月	28 日	MR 診断装置　（1.5T）導入
	4 月	1 日	臨床研修病院指定

平成 3 年	7 月 10 日	第 44 回病院管理実地研究会を当病院において開催(全国自治体病院開設者協議会・全国自治体病院協議会共催)
平成 4 年	9 月 9 日	救急医療・救急業務功労団体として群馬県知事表彰受賞
	9 月 14 日	全科外来診療予約制実施
平成 5 年	3 月 1 日	第 4 代管理者 伊勢崎市長 髙橋基樹氏就任
	5 月 13 日	平成 5 年度自治体立優良病院自治大臣表彰受賞
	6 月 7 日	完全週休 2 日制実施
平成 6 年	11 月 30 日	循環器 X 線診断システム導入
平成 7 年	6 月 6 日	選択メニュー 全病棟 毎週火・木曜実施
平成 8 年	4 月 1 日	病院改築工事着工 (平成 6 年度より平成 9 年度まで 4 箇年継続事業)
	5 月 8 日	群馬県エイズ診療協力病院指定
	9 月 13 日	中国研修医受入 (研修期間 3 箇月) 陝西省婦幼保健院より1名、陝西省人民医院より1名
	12 月 16 日	リアルタイムヘリカル CT 導入
	12 月 20 日	診療科目 歯科を歯科口腔外科へ変更、理学診療科をリハビリテーション科へ変更
平成 9 年	2 月 4 日	選択メニュー 全病棟 毎週火・水・木曜実施
	4 月 1 日	群馬県立東毛養護学校伊勢崎分校を群馬県立赤城養護学校伊勢崎分校に改称
	7 月 29 日	腸管出血性大腸菌感染症における透析治療協力医療機関指定
平成 10 年	2 月 27 日	第 2 期病院改築工事着工(平成 9 年度から平成 11 年度まで 3 箇年継続事業)
	3 月 15 日	病院改築工事竣工
	3 月 30 日	放射線治療装置(ライナック)導入
	4 月 3 日	病院施設使用許可(一般病床 500 床、伝染病床 30 床)
	5 月 6 日	新病院稼働(トータルオーダリングシステム導入)
	6 月 1 日	診療科目 神経内科、形成外科新設
平成 11 年	1 月 4 日	検診センター・腎センター稼働
	1 月 6 日	災害拠点病院(地域災害医療センター)指定
	5 月 12 日	老人保健施設ひまわり開設 (一般 26 床、痴呆加算 24 床)
	9 月 1 日	老人訪問看護ステーション開設、レストラン棟開設
	10 月 28 日	診療科目 心臓血管外科新設
	12 月 31 日	病院北駐車場借用地返還 伊勢崎市西部第一土地区画整理組合 34,250 ㎡、 伊勢崎市都市計画事業西部土地区画事業(伊勢崎市)5,750 ㎡
平成 12 年	3 月 31 日	第 2 期病院改築工事竣工
	4 月 1 日	介護老人保健施設ひまわり(一般 50 床)及び訪問看護ステーションいせさきと改称
	7 月 28 日	病院施設使用許可申請許可 524 床(4 階病棟一般 20 床増、計 520 床・感染症病床 4 床)
	7 月 31 日	4 階病棟人間ドック移設、ホームページ開設 (http://www.hospital.isesaki.gunma.jp)
	9 月 1 日	計量管理規定の認可(電子顕微鏡)
	11 月 29 日	角度可変型3検出器ガンマカメラ(スペクト)導入
平成 13 年	1 月 1 日	リハビリテーション科作業療法開始
	2 月 28 日	第 5 代管理者 伊勢崎市長 矢内一雄氏就任

平成 13 年	4 月 1 日	第 4 代病院長 荒井泰道氏就任
		第 2 代名誉院長 近藤忠徳氏就任
	12 月 25 日	全身用マルチスライスCT装置導入
平成 14 年	2 月 15 日	病院施設使用申請許可(病院・老人保健施設薬局共用)
	4 月 1 日	地域医療連携室開設
	7 月 1 日	感染管理室開設
平成 15 年	1 月 20 日	病院機能評価認定(一般病院種別B)
	10 月 30 日	管理型臨床研修病院指定(厚生労働省)
	11 月 22 日	病院地番変更(土地区画整理による 連取町 1180 番地から連取本町 12 番地1に変更)
平成 16 年	1 月 5 日	女性総合外来開設
	3 月 15 日	レセプト電算処理開始届(4 月請求分から)
	3 月 25 日	病院増築工事竣工(本館棟 1、2、3 階の一部)
	3 月 30 日	病院施設使用申請許可(救急外来の一部)
	4 月 1 日	医療安全管理室開設
	12 月 31 日	伊勢崎佐波医療事務市町村組合解散(構成団体:伊勢崎市、佐波郡赤堀町、同郡東村、同郡境町及び同郡玉村町)
		玉村町を除く 4 市町村の合併により、新市(伊勢崎市)に承継
平成 17 年	1 月 1 日	伊勢崎市を開設者とする病院開設許可、使用許可(一般病床 520 床、感染症病床 4 床)、介護老人保健施設開設許可(50 床)及び訪問看護ステーション開設許可
	2 月 28 日	第 2 次病院総合情報システム完了(平成 15 年 9 月からの継続事業)
	3 月 28 日	災害派遣医療チーム(DMAT)資格取得
	3 月 31 日	病院施設使用申請許可(前立腺小線源治療室)
	4 月 26 日	前立腺がん密封小線源療法開始
	5 月 18 日	入院において電子カルテ運用開始
	6 月 1 日	群馬県周産期協力医療機関認定
	10 月 1 日	セカンドオピニオン外来開設
平成 18 年	1 月 4 日	治験管理室開設
	3 月 3 日	DPC 対象病院として調整係数通知(18 年 6 月から開始)
	3 月 31 日	マルチスライス CT 装置導入、PACS 及び放射線部門情報システム導入
	4 月 1 日	全診療科院外処方化(平成6年4月1日から診療科ごとに開始)
	5 月 30 日	病院施設使用申請許可(一般病床をICU4 床に変更)
	8 月 24 日	がん診療連携拠点病院指定(厚生労働省)
	10 月 5 日	病院施設使用申請許可(言語聴覚療法室)、言語聴覚療法開始
	12 月 26 日	病院施設使用申請許可(集中治療室増改修工事に伴うICU6 床外)
平成 19 年	3 月 15 日	集中治療室増改修工事竣工
	3 月 27 日	病院施設使用申請許可(集中治療室増改修工事に伴うICU2 床外)
	4 月 1 日	8 階B病棟を「循環器センター」化、レセプトオンライン化
	5 月 16 日	輸血システム稼動
	7 月 1 日	院内保育所土曜日保育開始

平成 20 年	1 月 20 日	病院機能評価認定更新（Ver.5）
	2 月 1 日	生命保険等にかかる診断書作成支援システム稼動
	3 月 1 日	看護必要度入力支援システム稼動
	3 月 31 日	第 2 代名誉院長　近藤忠徳氏退任
		FPDバイプレーンフルデジタルIVRシステム導入
	4 月 1 日	院内保育所 24 時間保育開始
	8 月 1 日	伊勢崎市民病院経営検討委員会設置
	11 月 1 日	伊勢崎市民病院経営検討審議会設置
平成 21 年	1 月 23 日	第 6 代管理者　伊勢崎市長　五十嵐清隆氏就任
	3 月 19 日	がん診療総合センター（緩和ケア病棟竣工）
	3 月 30 日	伊勢崎市民病院改革プラン及び伊勢崎市民病院経営健全化計画策定
	3 月 31 日	病院施設使用申請許可（緩和ケア病棟 17 床）
	4 月 1 日	診療科目　病理診断科新設
		診療科目　循環器科を循環器内科へ変更
	7 月 1 日	災害派遣医療チーム群馬DMAT病院指定
	8 月 31 日	がん診療総合センター（内視鏡センター、外来化学療法センター）竣工
	9 月 14 日	病院施設使用申請許可（内視鏡センター、外来化学療法センター）
	9 月 24 日	一般撮影（CR・FPD）システム、画像配信（PACS）システム導入
	10 月 1 日	相談支援センターを 1 階外来棟から 2 階がん診療総合センターに移動、がんサロンオアシス開設
平成 22 年	4 月 8 日	第 2 売店（コンビニエンスストア）オープン
	4 月 15 日	看護師研修室常設
	8 月 1 日	逆紹介専用窓口開設
	11 月 1 日	院内保育所定員増員（定員 25 名）
	12 月 18 日	循環器 X 線診断システム更新
平成 23 年	1 月 4 日	歯科口腔外科で全曜日の紹介型外来を開始
	3 月 11 日	DMAT（災害派遣医療チーム）東日本大震災被災地派遣（福島県・宮城県：隊員ほか計 10 名）
	4 月 1 日	職員定数条例一部改正（定数 726 人）
		全診療科で火曜日及び金曜日の紹介型外来を開始（歯科口腔外科を除く）
	6 月 22 日	地域医療支援病院承認（群馬県知事）
	10 月 1 日	第 3 次病院総合情報システム（電子カルテ等基幹システム）稼働開始（平成 23 年度から 3 箇年継続事業）
	11 月 3 日	MRI装置（1.5T）更新
平成 24 年	4 月 1 日	第 5 代病院長　小林幹男氏就任
		第 3 代名誉院長　荒井泰道氏就任
		診療科目　放射線診断科、放射線治療科、緩和ケア内科、救急科新設
	5 月 1 日	診療科目　内視鏡内科新設
	8 月 1 日	入退院支援センター開設
	10 月 1 日	外来において電子カルテ運用開始
平成 25 年	2 月 28 日	病院施設使用許可（本館1階診察室、待合廊下、廊下）
	3 月 6 日	放射線治療装置（ライナック）更新

平成 25 年	3 月 31 日	第 3 代名誉院長　荒井泰道氏退任
	9 月 1 日	通院 2 日ドック開始
	10 月 1 日	CT装置更新(64 列)
	11 月 1 日	CT装置更新(128 列×2 管球)
	12 月 11 日	伊勢崎市民病院中期経営計画策定
平成 26 年	3 月 31 日	新腎センター稼働
	4 月 1 日	病院施設使用許可申請許可 504 床(4 階病棟一般 20 床減、計 500 床・感染症病床 4 床)
		内科で月曜日から金曜日の紹介型外来を開始
	9 月 1 日	手術支援ロボットdaVinci Si 稼働
平成 27 年	3 月 1 日	ホームページリニューアル (http://www.hospital.isesaki.gunma.jp)
	4 月 1 日	職員定数条例一部改正(定数 776 人)
		群馬県立赤城養護学校伊勢崎分校を群馬県立赤城特別支援学校伊勢崎市民病院内教室に改称
		1 日ドックＳコース開始
	6 月 3 日	小児糖尿病療養指導士外来開設
平成 28 年	1 月 15 日	病院機能評価認定(一般病院2、緩和ケア病棟)
	3 月 7 日	新入退院支援センター稼働
	4 月 1 日	一般病床を 490 床に減床
	9 月 1 日	３－Dマンモグラフィ装置更新
平成 29 年	1 月 31 日	SPECT－CT装置更新
	3 月 16 日	伊勢崎市民病院新改革プラン及び新公立病院改革プランに関する事業推進計画(アクションプラン)策定
	9 月 1 日	新第1駐車場使用開始
	9 月 8 日	産科医療功労者厚生労働大臣表彰受賞
平成 30 年	1 月 26 日	MRI装置更新(3 テスラ)
	3 月 20 日	MRI装置更新(1.5 テスラ)
	5 月 14 日	ハイブリッド手術室稼働(多軸透視・撮影システムARTIS pheno稼働)
平成 31 年	2 月 28 日	伊勢崎市民病院第1期病棟改修工事竣工(9階A病棟、7階A病棟、6階A病棟)
令和元年	6 月 3 日	整形外科で月曜日から金曜日の紹介型外来を開始
	12 月 2 日	泌尿器科で月曜日から金曜日の紹介型外来を開始
令和 2 年	2 月 28 日	伊勢崎市民病院第2期病棟改修工事竣工(6階B病棟、8階A病棟、8階B病棟、9階B病棟)
	4 月 1 日	地方公営企業法の全部適用へ移行。病院事業管理者の設置
		第 7 代管理者(病院事業管理者)　小林幹男氏就任
		第 6 代病院長　小林裕幸氏就任
		外科で月曜日から金曜日の紹介型外来を開始
	7 月 27 日	第 4 次病院総合情報システム(電子カルテ等基幹システム)稼動開始(令和元年度から2箇年継続事業)
令和 3 年	1 月 23 日	伊勢崎市長　臂泰雄氏(開設者)就任
	2 月 22 日	特定行為研修指定研修機関指定
		(3 区分:呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連、動脈血液ガス分析関連、循環動態に係る薬剤投与関連)

令和３年	３月　３日	救急医療功労者厚生労働大臣表彰受賞
	３月 15 日	井水の飲用浄水設備設置
	３月 24 日	伊勢崎市民病院新改革プラン継続計画及び伊勢崎市民病院新改革プラン継続計画に関する推進事業計画（アクションプラン）策定
	４月　１日	診療科目　消化器内科、呼吸器外科を新設
		診療科目　神経内科を脳神経内科へ変更、耳鼻いんこう科を耳鼻咽喉科へ変更
		診療科目　放射線科を削除
	６月 28 日	手術支援ロボット daVinci Xi 及び X 稼働（更新）
	８月　２日	産婦人科で月曜日から金曜日の紹介型外来（予約制）を開始
	10 月 20 日	救急外来棟増築工事竣工

４．施設の概要

（１）土　　地

①敷地及び借用地面積　　（伊勢崎都市計画事業西部第一土地区画整理事業に伴い換地処分後面積）（単位　㎡）

用　　途	面　　積（換地後）
病　院　敷　地	29,304.85
浄化槽・A駐車場用地	3,275.00
B 駐 車 場 用 地	476.00
C 駐 車 場 用 地	1,491.99
第 3 駐 車 場 用 地	3,993.00
第 4 駐 車 場 用 地	2,168.00
第 5 駐 車 場 用 地	2,118.00
計	42,826.84
第 1 駐 車 場 用 地 （ 市 有 地 ）	6,251.61
計	6,251.61
合　　計	49,078.45

②土地取得の状況　　（伊勢崎都市計画事業西部第一土地区画整理事業前面積）（単位　㎡）

年　　度	用　　途	面　　積
昭和38年度	病院敷地	21,682.60
53	第４駐車場用地（旧第２）	1,906.00
55	病院敷地	983.00
59	Ｂ駐車場用地（旧第３）	476.00
平成元年度	第３駐車場用地（一部）（旧第１）	240.00
〃	病院敷地	7,545.92
2	〃	3,275.00
7	〃	570.00
9	病院公舎敷地（連取町）	880.21
10	Ｃ駐車場用地	1,490.00
11	第３駐車場用地（旧第１）	2,902.00
12	用　　地（連取町）	74.98
13	第５駐車場用地	2,117.00
14	用　　地（連取町）	165.12

（2）建　　物

①建物建設状況

（単位　㎡）

建物名称	建築年月	構　　造	延面積	摘　　要
病院本館	平成10年 3月	鉄骨・鉄筋コンクリート造	39,341.879	地上10階建
（救急・管理・医局増築工事）	平成16年 3月	鉄骨・鉄筋コンクリート造	(605.684)	1･2･3階増築
（集中治療室増築工事）	平成19年13月	鉄骨・鉄筋コンクリート造	(595.995)	2･3･4階増築
（がん診療総合センター棟増築工事）	平成21年18月	鉄骨造	(1622.122)	1･2･3階増築
（救急外来棟増築工事）	令和 3年10月	鉄骨造	(113.850)	1階増築
受水槽ポンプ室	平成10年13月	鉄骨造	28.000	
ボンベ庫	平成10年13月	鉄筋コンクリート造	17.500	
南　棟	昭和62年16月	鉄筋コンクリート造	6,668.524	地下1階･地上4階建
（病院）			(4,483.524)	※使用面積
（介護老人保健施設ひまわり）			(2,149.000)	※使用面積
（訪問看護ステーションいせさき）			(36.000)	※使用面積
レストラン棟	平成11年18月	鉄骨造	252.455	平屋建
車　庫	平成10年10月	軽量鉄骨プレハブ造	A：　48.735	
			B：　28.500	
透析排水処理槽棟	平成12年13月	鉄筋コンクリート造	16.672	
渡り廊下	平成11年19月	鉄骨造	162.54	
キャノピー	平成11年19月	鉄骨造	大：486.000	
			小：　17.500	
自転車置場	平成11年12月	軽量鉄骨造	21.600	本館棟北
〃	平成21年 8月	軽量鉄骨造	49.005	本館棟西
倉　庫	平成 8年 3月	軽量鉄骨プレハブ造	145.700	
〃	平成20年 1月	〃	144.590	
〃	平成10年10月	〃	40.543	
〃	－	〃	21.300	
〃	－	〃	6.380	
〃	－	〃	2.970	
〃	－	〃	3.960	
〃	－	〃	9.360	
〃	－	〃	9.360	
〃	－	〃	4.680	
合　計			47,527.753	
汚水処理施設	平成 8年 7月	鉄筋コンクリート造	173.000	平屋建

（３） 設　　備　（令和３年度 購入分）

①医療機器購入一覧表（5,000 千円以上）

医 療 機 器 名	製 造 会 社	規　　格	数 量
脊椎内視鏡手術セット	ﾒﾄﾞﾄﾛﾆｯｸｿﾌｧﾓｱﾀﾞﾈｯｸ㈱	METRx	１式
手術支援ロボット	ｲﾝﾃｭｲﾃｨﾌﾞｻｰｼﾞｶﾙ合同会社	da Vinci X da Vinci Xi	１式
手術台(ダヴィンチ関連)	ヒルロムジャパン㈱	TruSystem 7000dv	１式
生化学自動分析装置	㈱日立ハイテクノロジーズ	LabOSPECT008α	１式
ＬＥＤ手術用照明器・術野カメラシステム	ｹﾞﾃｨﾝｹﾞｸﾞﾙｰﾌﾟ･ｼﾞｬﾊﾟﾝ㈱	PWDⅡ70SF AIM K3 11 PWDⅡ75SF AIM K3 1416 3軸雲台付30倍4K ｶﾒﾗｾｯﾄ　ｶﾘｰﾅ	１式
病理検体脱水装置	ｻｸﾗﾌｧｲﾝﾃｯｸｼﾞｬﾊﾟﾝ㈱	VIP6-AI-JO	１式
移動型デジタル式汎用一体型Ｘ線透視診断装置	GE ヘルスケアジャパン㈱	OEC One CFD 標準ﾊﾟｯｹｰｼﾞ	１式
全身麻酔器	GE ヘルスケアジャパン㈱	CARESTATION650Pro	１式
ＳＰＹ－ＰＨＩカメラシステム	日本ストライカー㈱	NVDQ セット	１式
人工呼吸器	ﾄﾞﾚｰｹﾞﾙﾒﾃﾞｨｶﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ㈱	EVITA V600 OPC6713	１式

(4)建 物 配 置 図
（令和4年3月現在）

病　院　本　館

		ヘリポート エレベーター機械室 倉庫
	10 F	大会議室　　中会議室　　小会議室　　空調機械室
	9 F	A病棟　50床 （4床室－10．1床室－5．1床室HCU－3．特床室－2） B病棟　50床 （4床室－10．1床室－4．1床室HCU－4．特床室－2）
	8 F	A病棟　46床　処置室 （4床室－9．1床室－5．1床室HCU－3．特床室－2） B病棟　50床 （4床室－10．1床室－4．1床室HCU－4．特床室－2）
	7 F	A病棟　48床 （4床室－9．2床室－1．1床室－5．1床室HCU－3．特床室－2） B病棟　50床 （4床室－10．1床室－8．特床室－2）
	6 F	A病棟　48床 （4床室－9．1床室－4．2床室HCU－1．1床室HCU－4．特床室－2） B病棟　50床 （4床室－9．3床室－1．1床室－9．1床室HCU－1．特床室－1）
	5 F	A病棟　31床　ﾌﾟﾚｲﾙｰﾑ　指導室　多目的室 （3床室－2．未熟児室－7床．2床室－2．1床室－13．1床室HCU－1） B病棟　42床　機材室 （4床室－9．1床室－5．特床室－1）陣痛室　分娩室　新生児室
	4 F	A病棟　4床 感染症（1床室－4）　腎センター（人工透析室） 空調機械室
	3 F	病理診断科 手術室 ICU　8床 ME室 病理検査室 医療部 医療部管理室 研究会室 図書資料室 講義室 会議室 医療安全管理室
2 F 外来化学療法センター 相談支援センター がんサロン「オアシス」	2 F	小児科 外科 呼吸器外科 皮膚科 産婦人科 耳鼻咽喉科 麻酔科 歯科口腔外科 緩和ケア内科 中央処置室　生理・検体検査室　薬剤部　中央材料室　ベッドセンター 医療サービス課　電話交換室　職員厚生室　共済会室　会議室　治験管理室 病院事業管理者室　病院長室　副院長室　経営企画部長室　看護部長室　専門委員室 管理事務室　物流倉庫　物流管理室　リネン庫　エネルギーセンター 電気室
1 F 内視鏡センター 内視鏡内科	1 F	内科 精神科（心療内科）　脳神経内科 循環器内科 消化器内科 整形外科 脳神経外科 心臓血管外科 泌尿器科 眼科 放射線診断科 放射線治療科 救急科 リハビリテーション科 中央処置室 救急処置室 中央放射線科 一般検査室 入退院支援センター 調剤室 栄養指導室 医療サービス課 地域医療連携室 栄養科 警備員室兼防災センター 解剖室 売店 コンビニエンスストア ATM　エントランスホール

救急外来棟

1 F
救急処置室

渡り

平面図

駐車台数

■第1駐車場	191台
一般	177台
身体障害者用	5台
思いやり駐車場	9台
■第2駐車場	110台
一般	103台
思いやり駐車場	7台
■第3駐車場	158台
一般	158台
■第4駐車場	62台
一般	62台
■第5駐車場	81台
一般	81台
■身体障害者用駐車場	11台

別　棟

汚水処理施設

倉庫

南　　棟

R F	エレベーター機械室 倉庫
4 F	（介護老人保健施設）　一般26床 （4床室－6．1床室－2）　食堂 談話室 レクリエーションルーム 通所者デイルーム 機能訓練室 サービスステーション
3 F	（介護老人保健施設）　一般24床 （4床室－5．1床室－4）事務室 相談室 診察室 食堂 談話室 機能訓練室 サービスステーション
2 F	緩和ケア病棟　17床 1床室－10．特床室－7 会議室
1 F	検診センター　結石破砕治療室 作業療法室 言語聴覚療法室 訪問看護ステーション 群馬県立赤城特別支援学校伊勢崎市民病院内教室 院内保育所
B F	ボイラー室　監視室　倉庫

レストラン棟

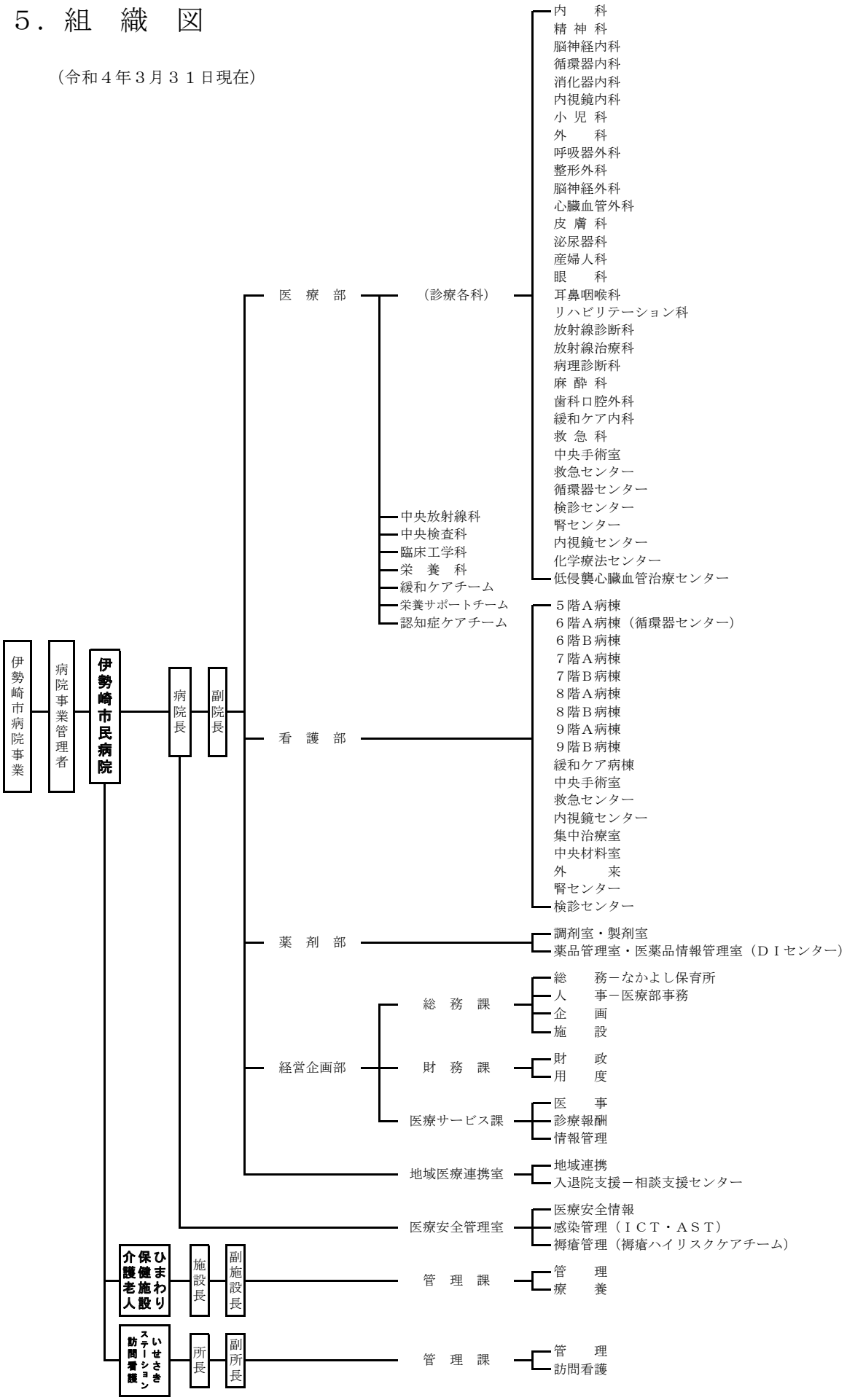
廊下

理容室（休止中）
美容室（休止中）

渡り廊下

５．組　織　図

（令和４年３月３１日現在）



6．職 員 の 現 況

（1）職員数の現況

①職員数の年度別推移（職員数は各年度末の人数）

職種別			年度	29		30		元		2		3	
				常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
医療部	医師			88	20	97	17	98	22	98	26	96	26
	歯科医師			2	0	2	0	2	0	3	0	2	0
	事務員			1	2	1	2	1	3	2	2	1	3
	計			91	22	100	19	101	25	103	28	99	29
看護部門	保健師			2	0	2	0	2	0	2	0	2	0
	助産師			21	2	21	2	22	2	20	2	21	1
	看護師			450	41	457	40	450	34	442	39	433	44
	准看護師			1	2	1	2	0	2	0	1	0	1
	看護助手			3	29	2	28	0	26	0	27	0	27
	事務員他			1	3	1	3	3	2	2	2	3	2
	計			478	77	484	75	477	66	466	71	459	75
専任	緩和ケアチーム			1	0	1	0	1	0	1	0	1	0
	医療安全管理室	看護師		4	0	4	0	4	0	5	0	5	0
		事務員		0	2	0	2	0	1	0	1	0	1
	地域医療連携室	看護師		7	2	9	3	9	3	7	3	8	3
		事務員		3	5	3	4	3	8	3	9	3	9
		社会福祉士		6	1	6	1	6	1	8	1	8	1
	計			21	10	23	10	23	13	24	14	25	14
技術部門	放射線	診療放射線技師		21	1	22	1	22	1	23	1	23	0
	検査	臨床検査技師		25	10	27	9	26	12	25	13	26	11
		事務員		0	2	0	2	0	2	0	2	0	2
	リハビリテーション	理学療法士		13	0	13	0	14	0	14	0	14	0
		作業療法士		6	0	6	0	6	0	6	0	6	0
		言語聴覚士		5	0	5	0	5	0	5	0	5	0
		事務員		0	3	0	3	0	3	0	3	0	3
	薬剤部	薬剤師		22	1	25	1	27	1	28	1	28	1
		事務員		0	5	0	5	0	5	0	5	0	5
	眼科	視能訓練士		2	0	2	0	2	0	2	0	1	1
	歯科	歯科衛生士		2	1	3	1	3	0	3	0	3	0
	臨床工学技士			10	0	10	0	10	0	10	0	10	0
	臨床心理士			1	1	1	0	1	1	1	0	1	1
	栄養	栄養士		7	5	7	5	8	4	9	4	9	4
		調理師		4	0	3	0	2	0	2	1	1	1
		事務員		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	計			118	30	124	27	126	29	128	30	127	29
事務部門	経営企画部長			1	0	1	0	1	0	1	0	1	0
	経営企画副部長			0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
	企画財政課	事務員		21	7	21	7	21	7	22	8		
		技師		7	0	7	0	7	0	7	0		
		保育士		1	5	1	5	2	5	2	4		
	総務課	事務員										13	5
		技師										7	0
		保育士										2	5
	財務課	事務員										10	4
	医療サービス課	事務員		11	42	10	41	10	42	9	42	8	44
		診療情報管理士		4	0	5	0	5	0	6	0	7	0
		看護師		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	計			45	54	46	53	47	54	47	54	49	58
合計				753	193	777	184	774	187	768	197	759	205

注１：事務部門は令和３年度機構改正により別枠掲載　　注２：非常勤については、会計年度任用職員を含む。

（２）主要役職員の現況

役　職　名	氏　　名	摘　　要
伊勢崎市長	臂　　泰　雄	
伊勢崎市病院事業管理者	小　林　幹　男	
○伊勢崎市民病院		
病院長	小　林　裕　幸	（内科）
副院長兼小児科部長	前　田　昇　三	（医療安全管理室長兼務）
副院長兼心臓血管外科部長	大　林　民　幸	（循環器センター長兼務） （集中治療室長兼務）
副院長兼泌尿器科部長	竹　澤　　豊	（腎センター長兼務） （地域医療連携担当医師兼務）
副院長兼経営企画部長	大　和　克　弘	
副院長兼看護部長	木　村　恭　子	
◇医　療　部		
医療部長兼麻酔科主任診療部長	富　田　行　成	（臨床工学科長兼務） （中央手術室長兼務） （集中治療室長補佐兼務）
医療副部長兼皮膚科主任診療部長	田　村　敦　志	
医療副部長兼内科主任診療部長	石　原　真　一	（化学療法センター長兼務） （介護老人保健施設ひまわり療養係兼務）
医療副部長兼外科主任診療部長	保　田　尚　邦	（医師事務作業補助担当医師兼務）
医療副部長兼整形外科主任診療部長	田　中　宏　志	（リハビリテーション担当医師兼務）
診療部長	田　中　司玄文	（介護老人保健施設ひまわり施設長兼務） （看護師特定行為担当医師兼務） （検診サポート医師兼務）
内　科		
診療部長	細　井　康　博	（栄養サポートチーム担当兼務） （介護老人保健施設ひまわり療養係兼務）
診療部長	大　谷　健　一	（研修医教育担当兼務） （介護老人保健施設ひまわり療養係兼務）
診療部長	増　尾　貴　成	
診療部長	鈴　木　邦　明	
診療部長	中　林　利　博	（検診センター長兼務）
脳神経内科		
主任診療部長	櫻　井　篤　志	（リハビリテーション科長兼務）
診療部長	長　嶺　　俊	
循環器内科		
主任診療部長	樋　口　京　介	
小　児　科		
主任診療部長	髙　野　洋　子	
外　科		
診療部長	富　澤　直　樹	（栄養科長兼務） （栄養サポートチーム長兼務）
診療部長	鈴　木　秀　樹	
診療部長	片　山　和　久	
診療部長	大　澤　秀　信	

役　職　名	氏　　名	摘　　要
診療部長	菅　野　雅　之	
診療部長	諸　原　浩　二	
診療部長	家　田　敬　輔	
整形外科		
診療部長	飯　塚　　伯	
診療部長	割　田　敏　朗	
診療部長	小　林　亮　一	
心臓血管外科		
主任診療部長	大　木　　聡	
診療部長	安　原　清　光	（低侵襲心臓血管治療センター長兼務） （医師事務作業補助チーム担当医師兼務）
診療部長	小此木　修　一	（低侵襲心臓血管治療センター副センター長兼務）
皮　膚　科		
診療部長	長谷川　道　子	（介護老人保健施設ひまわり療養係兼務）
泌尿器科		
主任診療部長	齋　藤　佳　隆	
診療部長	悦　永　　徹	
診療部長	牧　野　武　朗	
産婦人科		
主任診療部長	狩　野　　智	
診療部長	小　暮　佳代子	
診療部長	阿　美　寛　人	
耳鼻咽喉科		
主任診療部長	川　田　倫　之	
放射線診断科		
主任診療部長	徳　永　真　理	
診療部長	杉　山　宗　弘	
放射線治療科		
主任診療部長	樋　口　啓　子	
病理診断科		
医　長	髙　山　佳　泰	
麻　酔　科		
診療部長	安　齋　　健	
歯科口腔外科		
主任医長	小　杉　謙　介	
緩和ケア内科		
主任診療部長	押　本　直　子	
診療部長	廣　野　正　法	
救　急　科		
主任診療部長	鈴　木　一　也	（救急センター長兼務）
中央手術室		
室長（兼）	富　田　行　成	（医療部長兼麻酔科主任診療部長）
救急センター		
センター長（兼）	鈴　木　一　也	（救急科主任診療部長）
検診センター		
センター長（兼）	中　林　利　博	（内科診療部長）

役　職　名	氏　　名	摘　　要
腎センター		
センター長（兼）	竹　澤　　豊	（副院長兼泌尿器科部長）
化学療法センター		
センター長（兼）	石　原　真　一	（医療副部長兼内科主任診療部長）
診療部長	吉　田　武　史	
低侵襲心臓血管治療センター		
センター長（兼）	安　原　清　光	（心臓血管外科診療部長）
副センター長（兼）	小此木　修　一	（心臓血管外科診療部長）
副センター長	渡　邉　　真	（循環器内科医長）
リハビリテーション科		
科　長（兼）	櫻　井　篤　志	（脳神経内科主任診療部長）
技師長	丸　橋　俊　弘	
技師長補佐	後　藤　雄　一	
係　長	西　田　和　生	
係　長	松　井　道　浩	
中央放射線科		
技師長	武　田　　久	
技師長補佐	尾　池　真　弓	
係　長	高　橋　雅　彦	
係　長	杉　山　和　代	
係　長	高　木　信　樹	
中央検査科		
技師長	松　島　秀　子	
技師長補佐	荒　木　和　也	
係　長	新　保　千　春	
係　長	高　木　すづ江	
臨床工学科		
科　長（兼）	富　田　行　成	（医療部長兼麻酔科主任診療部長）
栄　養　科		
科　長（兼）	富　澤　直　樹	（外科診療部長）
◇看　護　部		
看護部長（兼）	木　村　恭　子	（副院長）
看護副部長	中　村　小枝子	
看護副部長	新　井　友　子	
看護副部長	金　井　靖　子	
５階Ａ病棟		
看護師長	林　　千賀子	
６階Ａ病棟（循環器センター）		
看護師長	定　方　芳　美	
６階Ｂ病棟		
看護師長	安　部　美和子	
７階Ａ病棟		
看護師長	大　澤　里　美	
７階Ｂ病棟		
看護師長	加　藤　久美子	

役　職　名	氏　　名	摘　　要
８階Ａ病棟		
看護師長	高　橋　ひろみ	
８階Ｂ病棟		
看護師長	高　橋　美穂子	
９階Ａ病棟		
看護師長	福　島　加　代	
９階Ｂ病棟		
看護師長	長　岡　陽　子	
緩和ケア病棟		
看護師長	井　田　維世子	
中央手術室		
看護師長	岡　部　香　織	（中央材料室看護師長兼務）
救急センター		
看護師長	下　山　映　子	
内視鏡センター		
看護師長	天　田　寿　江	
集中治療室		
看護師長	荒　牧　敦　子	
中央材料室		
看護師長（兼）	岡　部　香　織	（中央手術室看護師長）
外　来		
看護師長	須　永　知香子	
腎センター		
看護師長	新　井　静　江	
検診センター		
看護師長	小　暮　志　保	
◇薬　剤　部		
薬剤部長	大　和　由美子	
薬剤副部長	名　坂　輝　子	
薬剤副部長	下　城　正　明	（介護老人保健施設ひまわり療養係兼務）
係　長	栗　原　康　弘	（介護老人保健施設ひまわり療養係兼務）
係　長	須　永　美千代	（介護老人保健施設ひまわり療養係兼務）
◇経営企画部		
経営企画部長（兼）	大　和　克　弘	（副院長）
経営企画部副部長	小此木　　聡	（総務課長兼務）
総務課		
課　長（兼）	小此木　　聡	（経営企画部副部長）
総務係長	茂　木　　潤	
総務係長	井　野　登美子	
人事係長	茂　木　　淳	
企画係長	桑　名　隆　毅	
企画係長	大　月　　剛	
施設係長	深　町　俊　介	
施設係長	田　村　泰　男	

役　職　名	氏　　名	摘　　要
財務課		
課　長	松　原　弘　和	（介護老人保健施設ひまわり管理課長兼務） （訪問看護ステーションいせさき管理課長兼務）
財政係長	高　柳　哲　也	
用度係長	二　上　未　散	
医療サービス課		
課　長	須　斎　暁　男	
医事係長	磯　　均	
医事係長	井　野　香代子	
診療報酬係長	小　島　崇　史	
情報管理係長	関　根　克　浩	
◇地域医療連携室		
室　長	大　下　洋　美	
地域連携係長	本　間　千　嗣	
入退院支援係長	入　澤　のり子	
入退院支援係長	髙　橋　博　明	
◇医療安全管理室		
室　長（兼）	前　田　昇　三	（副院長兼小児科部長）
室長補佐	塚　原　みどり	
医療安全情報係長	石　原　恵美子	
感染管理係長	後　藤　　恵	
○介護老人保健施設ひまわり		
施設長（兼）	田　中　司玄文	（医療部診療部長）
管理課		
課　長（兼）	松　原　弘　和	（経営企画部財務課長）
管理係長	長　沼　龍　司	
療養係看護師長	飯　塚　敦　子	
○訪問看護ステーションいせさき		
所　長	登　山　寿美江	
管理課		
課　長（兼）	松　原　弘　和	（経営企画部財務課長）

Ⅱ　業 務 統 計

Ⅱ 業 務 統 計

1．医 事 統 計

（1）入院・外来患者の状況

①診療科別入院患者数

（単位 人）

年度	区分＼科別	内科	精神科	脳神経内科	循環器内科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	心臓血管外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	放射線科	麻酔科	緩和ケア内科	救急科	歯科口腔外科	合計	1日平均	前年比%
29	患者数	50,708	0	4,403	10,538	8,372	14,920	15,198	6,023	9,072	1,412	12,387	8,868	326	3,236	0	4	3,722	34	175	149,398	409.3	95.9
	1日平均	138.9	0	12.1	28.9	22.9	40.9	41.6	16.5	24.9	3.9	33.9	24.3	0.9	8.9	0	0	10.2	0.1	0.5			
30	患者数	50,597	0	6,335	8,938	7,817	16,303	15,773	3,470	8,797	2,672	11,829	7,326	285	3,802	0	2	4,384	122	421	148,873	407.9	99.7
	1日平均	138.6	0	17.4	24.5	21.4	44.7	43.2	9.5	24.1	7.3	32.4	20.1	0.8	10.4	0	0	12.0	0.3	1.2			
元	患者数	50,938	0	6,902	9,295	8,767	17,205	14,378	0	10,056	2,362	12,418	6,935	256	3,315	0	0	4,172	67	330	147,396	402.7	98.7
	1日平均	139.2	0	18.9	25.4	24.0	47.0	39.3	0	27.5	6.5	33.9	18.9	0.7	9.1	0	0	11.4	0.2	0.9			
2	患者数	48,206	0	4,480	10,705	4,562	14,143	12,654	0	8,105	2,135	11,077	6,295	205	2,404	0	1	4,307	264	387	129,930	356.0	88.4
	1日平均	132.1	0	12.3	29.3	12.5	38.7	34.7	0	22.2	5.8	30.3	17.2	0.6	6.6	0	0	11.8	0.7	1.1			
3	患者数	47,841	0	4,886	10,085	5,287	14,929	13,225	0	7,822	1,902	11,014	5,435	292	2,724	0	0	4,623	155	240	130,460	357.4	100.4
	1日平均	131.1	0	13.4	27.6	14.5	40.9	36.2	0	21.4	5.2	30.2	14.9	0.8	7.5	0	0	12.7	0.4	0.7			

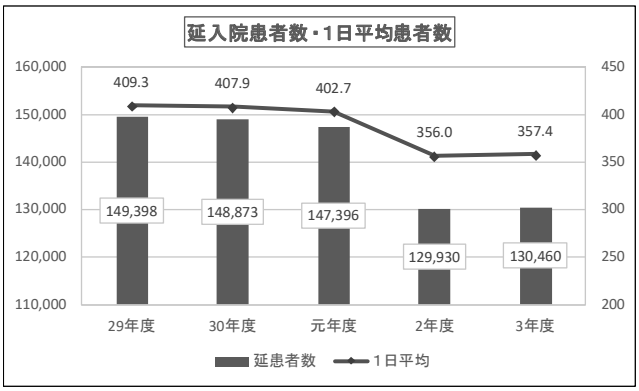
※ 退院数含む

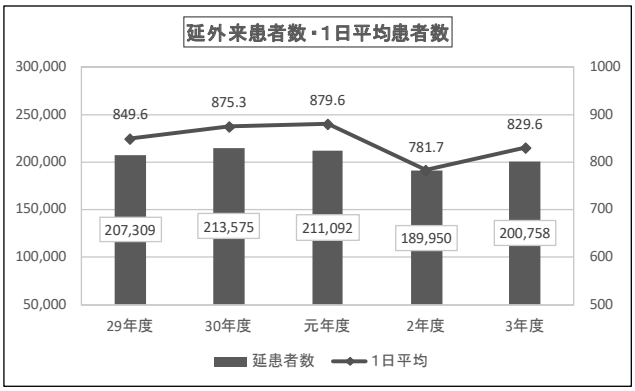
②診療科別外来患者数

（単位 人）

年度	区分＼科別	内科	精神科	脳神経内科	循環器内科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	心臓血管外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	放射線科	麻酔科	緩和ケア内科	救急科	歯科口腔外科	合計	1日平均	前年比%
29	患者数	48,200	383	2,637	9,159	18,987	20,450	13,346	4,245	4,710	7,068	28,265	19,856	7,571	7,767	4,034	1,732	600	782	7,517	207,309	849.6	98.8
	1日平均	197.5	1.6	10.8	37.5	77.8	83.8	54.7	17.4	19.3	29.0	115.8	81.4	31.0	31.8	16.5	7.1	2.5	3.2	30.8			
30	患者数	49,479	186	3,408	8,545	19,489	22,811	13,411	3,698	5,143	8,683	27,453	18,849	6,721	9,389	4,051	1,699	725	974	8,861	213,575	875.3	103.0
	1日平均	202.8	0.8	14.0	35.0	79.9	93.5	55.0	15.2	21.1	35.6	112.5	77.3	27.5	38.5	16.6	7.0	3.0	4.0	36.3			
元	患者数	50,076	138	3,866	8,048	19,465	24,382	12,885	2,258	5,230	8,493	27,389	18,083	4,609	9,258	3,711	1,566	758	991	9,886	211,092	879.6	100.5
	1日平均	208.7	0.6	16.1	33.5	81.1	101.6	53.7	9.4	21.8	35.4	114.1	75.3	19.2	38.6	15.5	6.5	3.2	4.1	41.2			
2	患者数	46,647	19	3,857	8,181	14,453	23,220	11,583	825	4,640	7,365	25,379	16,433	4,132	7,777	3,655	1,237	720	722	9,105	189,950	781.7	88.9
	1日平均	192.0	0.1	15.9	33.7	59.5	95.6	47.7	3.4	19.1	30.3	104.4	67.6	17.0	32.0	15.0	5.1	3.0	3.0	37.5			
3	患者数	48,888	10	4,227	8,478	15,755	24,184	12,625	1,001	4,813	7,890	27,967	15,264	4,081	9,388	4,820	1,625	865	722	8,155	200,758	829.6	106.1
	1日平均	202.0	0	17.5	35.0	65.1	99.9	52.2	4.1	19.9	32.6	115.6	63.1	16.9	38.8	19.9	6.7	3.6	3.0	33.7			

③年度別グラフ





④月別入院患者数

（単位　人，%）

項目＼月別	3・4	5	6	7	8	9	10	11	12	4・1	2	3	計
対象病床数	494	494	494	494	494	494	494	494	494	494	494	494	－
前月繰越患者数	330	311	299	301	338	326	293	342	200	324	340	353	－
新入院患者数	947	899	879	957	1,100	942	884	1,020	996	965	875	980	11,444
退院患者数	931	918	891	955	1,063	954	917	971	1,138	841	859	967	11,405
入院患者延数	10,817	10,839	10,401	10,962	11,621	10,378	10,390	11,082	11,071	10,895	10,442	11,562	130,460
１日平均入院患者数	360.6	349.6	346.7	353.6	374.9	345.9	335.2	369.4	357.1	351.5	372.9	373.0	357.4
平均在院日数	11.3	11.5	11.5	11.3	10.1	10.5	11.2	10.9	10.1	12.3	11.9	12.0	11.2
病床利用率（延患者数）	73.0	70.8	70.2	71.6	75.9	70.0	67.8	74.8	72.3	71.1	75.5	75.5	72.4
病床利用率（24時現在）	66.7	64.8	64.2	65.3	68.9	63.6	61.9	68.2	64.9	65.7	69.3	69.2	66.0

※ 平均在院日数については計算対象としない患者を除いて算出。

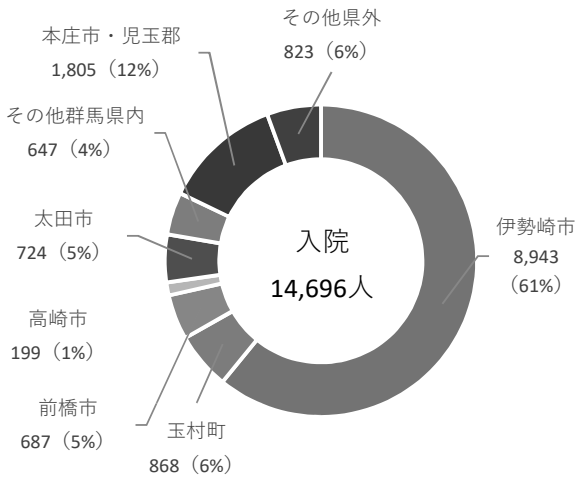
⑤月別外来患者数

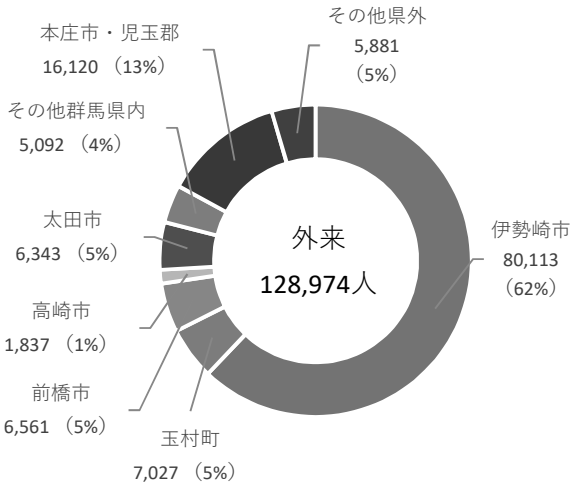
（単位　人，%）

項目＼月別		3・4	5	6	7	8	9	10	11	12	4・1	2	3	計
外来患者延数		16,639	14,762	16,832	17,427	17,382	17,010	16,760	17,031	17,315	16,297	14,949	18,354	200,758
１日平均外来患者数		792.3	820.1	765.1	871.4	827.7	850.5	798.1	851.6	865.8	857.7	830.5	834.3	829.6
新来患者数		1,533	1,405	1,523	1,737	1,722	1,505	1,564	1,584	1,628	1,617	1,290	1,574	18,682
再来患者数		15,106	13,357	15,309	15,690	15,660	15,505	15,196	15,447	15,687	14,680	13,659	16,780	182,076
１日外来患者数	最高	858	917	839	1,028	955	927	875	934	921	958	934	973	－
	最低	664	636	606	712	716	705	692	712	749	708	661	691	－
新患率		9.2	9.5	9.0	10.0	9.9	8.8	9.3	9.3	9.4	9.9	8.6	8.6	9.3
外来／入院比		2.2	2.3	2.2	2.5	2.2	2.5	2.4	2.3	2.4	2.4	2.2	2.2	2.3

※ 新患率 ＝ 新来患者数／延外来患者数×100

⑥地区別患者数（実数）





⑦セカンドオピニオン外来患者数

（単位　人）

年度	29	30	元	2	3
患者数	12	14	11	8	16

（2）病床利用率・平均在院日数

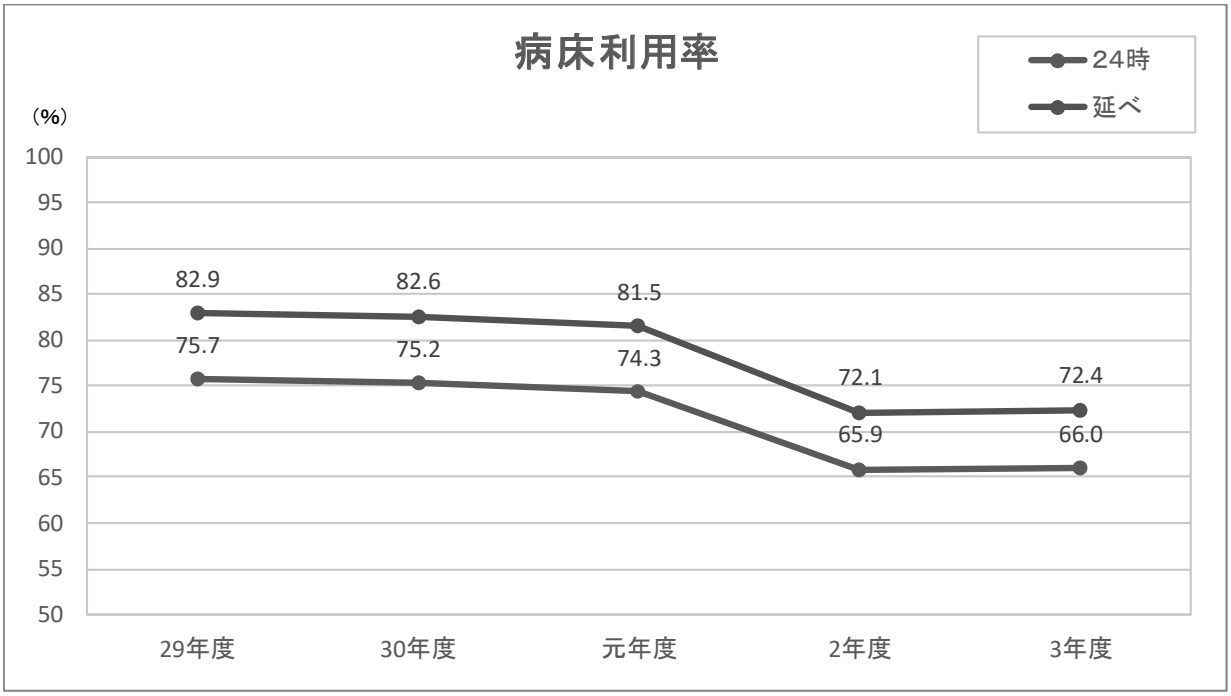
①病床利用率

（ア）病　棟　別

※令和４年３月 31 日現在

病棟別	病床数	1日平均（人）（24時現在）	利用率（%）		摘　　要
			24時現在	延べ	
４Ａ	4	0	0	0	感染症
５Ａ	31	18.2	58.7	72.0	小児科
５Ｂ	42	12.6	27.4	31.4	産婦人科・外科（乳腺）・泌尿器科（女性）
６Ａ	48	42.5	88.5	94.9	循環器内科・心臓血管外科
６Ｂ	50	42.7	85.4	91.3	整形外科・皮膚科・歯科口腔外科
７Ａ	48	14.1	29.3	33.1	内科・脳神経内科・眼科・耳鼻咽喉科
７Ｂ	50	11.5	23.0	25.2	内科
８Ａ	46	39.8	86.6	95.3	泌尿器科・内科
８Ｂ	50	44.2	88.4	94.1	内科
９Ａ	50	41.1	82.2	90.7	外科・内科
９Ｂ	50	41.8	83.6	92.2	内科
緩和病棟	17	11.8	69.4	74.5	
ICU	8	5.9	73.9	75.2	
計	494	326.2	66.0	72.4	

（イ）推移グラフ



②平均在院日数

診　療　科　別　　（単位　日）

年度 / 診療科	29	30	元	2	3
内科	12.1	11.5	11.7	12.4	11.9
精神科	－	－	－	－	－
脳神経内科	22.5	22.0	24.2	22.5	24.8
循環器内科	11.4	11.4	10.6	12.2	12.1
小児科	5.9	5.3	5.7	7.4	5.7
外科	11.7	12.4	12.1	11.3	11.1
整形外科	19.9	20.0	18.6	17.7	19.1
脳神経外科	27.3	31.6	－	－	－
心臓血管外科	15.5	16.2	19.6	19.9	20.2
皮膚科	8.9	9.8	8.9	9.6	10.5
泌尿器科	7.9	7.3	8.5	7.4	7.4
産婦人科	9.1	9.0	9.2	8.5	8.1
眼科	2.0	1.7	5.3	1.6	1.6
耳鼻咽喉科	4.8	5.3	5.1	4.9	5.4
放射線科	－	-	－	－	－
麻酔科	0.3	1.0	－	－	－
緩和ケア内科	16.6	18.2	17.3	17.1	15.3
救急科	1.8	5.6	2.6	7.9	3.8
歯科口腔外科	4.5	2.6	2.4	2.4	2.0
合計	11.3	11.0	11.1	11.4	11.2

$$＊平均在院日数＝\frac{在院患者延数}{1／2（入院患者数＋退院患者数）}$$

（3）診療稼働額の状況

入院・外来稼働額

（単位　千円）

診療科＼年度		29	30	元	2	3
入院	内科	2,347,844	2,464,691	2,502,242	2,399,327	2,510,754
	精神科	0	0	0	0	0
	脳神経内科	197,774	280,900	305,277	195,131	226,256
	循環器内科	723,244	601,423	675,139	804,632	773,632
	小児科	506,502	486,430	540,964	302,848	343,504
	外科	1,133,343	1,286,700	1,379,795	1,207,704	1,334,361
	整形外科	893,206	1,074,957	1,111,120	1,005,388	1,070,422
	脳神経外科	235,852	134,737	0	0	0
	心臓血管外科	1,498,754	1,508,369	1,526,947	1,411,042	1,277,422
	皮膚科	60,266	112,506	105,044	96,794	89,440
	泌尿器科	956,701	968,329	977,202	893,902	889,179
	産婦人科	571,985	503,389	478,700	465,636	425,228
	眼科	27,366	23,273	21,475	17,706	25,171
	耳鼻咽喉科	217,516	239,251	233,595	176,006	201,896
	放射線科	0	0	0	0	0
	麻酔科	287	85	0	48	0
	緩和ケア内科	193,150	237,230	232,739	236,194	254,209
	救急科	2,655	7,878	5,549	14,588	9,950
	歯科口腔外科	10,243	29,418	22,631	30,045	19,044
	計	9,576,691	9,959,565	10,118,420	9,256,992	9,450,468
外来	内科	1,246,671	1,410,237	1,424,146	1,280,648	1,567,129
	精神科	1,987	897	596	127	51
	脳神経内科	44,846	51,098	50,131	57,009	86,384
	循環器内科	98,641	92,648	88,812	101,716	104,914
	小児科	154,171	157,214	161,270	130,756	149,343
	外科	660,824	650,530	751,281	742,803	833,808
	整形外科	109,719	115,542	112,432	105,715	123,637
	脳神経外科	34,407	30,980	17,045	9,977	12,181
	心臓血管外科	66,409	72,961	72,227	65,218	68,644
	皮膚科	52,991	73,150	72,105	76,221	85,270
	泌尿器科	1,059,045	1,049,704	1,163,338	1,172,872	1,288,471
	産婦人科	183,100	175,765	176,455	166,533	150,259
	眼科	132,670	137,385	129,830	118,349	104,530
	耳鼻咽喉科	62,258	77,519	70,828	63,224	76,802
	放射線科	125,643	117,991	99,433	114,309	125,704
	麻酔科	10,462	10,983	7,672	6,176	6,804
	緩和ケア内科	4,417	5,387	5,227	5,149	7,500
	救急科	15,871	21,733	22,663	16,031	15,680
	歯科口腔外科	31,758	47,483	52,522	52,643	54,847
	計	4,095,890	4,299,206	4,478,013	4,285,476	4,861,957
合計		13,672,581	14,258,771	14,596,433	13,542,468	14,312,425

（4）救急患者の受入状況

①救急患者診療科別受入状況

（単位　人）

診療科＼年度	29			30			元			2			3		
	時間内	時間外	合計	時間内	時間外	合計	時間内	時間外	合計	時間内	時間外	合計	時間内	時間外	合計
内科	1,105	5,863	6,968	1,217	6,021	7,238	1,122	5,558	6,680	1,144	3,753	4,897	960	3,671	4,631
精神科	6	0	6	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳神経内科	74	46	120	83	80	163	73	72	145	50	44	94	46	41	87
循環器内科	177	119	296	135	142	277	152	372	524	203	194	397	196	161	357
小児科	124	3,026	3,150	164	2,782	2,946	172	2,825	2,997	75	917	992	130	1,574	1,704
外科	89	979	1,068	96	926	1,022	103	1,022	1,125	83	769	852	115	752	867
整形外科	175	987	1,162	138	1,083	1,221	173	978	1,151	154	680	834	122	720	842
脳神経外科	100	249	349	83	159	242	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓血管外科	52	72	124	54	62	116	51	66	117	36	57	93	55	50	105
皮膚科	6	5	11	16	15	31	15	11	26	15	14	29	12	1	13
泌尿器科	70	495	565	65	475	540	67	521	588	72	327	399	63	385	448
産婦人科	28	575	603	20	636	656	29	562	591	24	445	469	23	387	410
眼科	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	50	63	113	38	57	95	27	42	69	37	31	68	28	49	77
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緩和ケア内科	23	17	40	9	27	36	22	25	47	22	23	45	19	29	48
救急科	313	152	465	442	206	648	492	181	673	452	73	525	385	81	466
歯科口腔外科	3	10	13	0	21	21	2	11	13	5	15	20	2	3	5
合計	2,395	12,658	15,053	2,563	12,693	15,256	2,500	12,246	14,746	2,372	7,342	9,714	2,156	7,904	10,060

②救急車搬送患者年度別受入状況

（単位　人，%）

診療科＼年度	29		30		元		2		3	
	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比
内科	2,268	96.5	2,562	113.0	2,375	92.7	2,406	101.3	2,309	96.0
精神科	0	－	0	－	0	－	0	－	0	－
脳神経内科	84	280.0	108	128.6	79	73.1	24	30.4	10	41.7
循環器内科	196	103.2	167	85.2	189	113.2	112	59.3	83	74.1
小児科	260	94.9	300	115.4	307	102.3	141	45.9	235	166.7
外科	295	106.9	308	104.4	283	91.9	210	74.2	207	98.6
整形外科	357	86.0	342	95.8	365	106.7	221	60.5	180	81.4
脳神経外科	183	51.8	131	71.6	0	皆減	0	－	0	－
心臓血管外科	103	115.7	91	88.4	88	96.7	60	68.2	67	111.7
皮膚科	3	50.0	13	433.4	8	61.5	4	50.0	1	25.0
泌尿器科	142	102.2	153	107.8	134	87.6	86	64.2	83	96.5
産婦人科	57	63.3	60	105.3	66	110.0	54	81.8	42	77.8
眼科	0	皆減	1	皆増	0	皆減	0	－	0	－
耳鼻咽喉科	61	80.3	45	73.8	35	77.8	28	80.0	21	75.0
放射線科	0	－	0	－	0	－	0	－	0	－
麻酔科	0	－	0	－	0	－	0	－	0	－
緩和ケア内科	34	75.6	29	85.3	33	113.8	22	66.7	23	104.5
救急科	364	82.5	509	139.9	536	105.3	516	96.3	505	97.9
歯科口腔外科	3	33.3	0	皆減	2	皆増	5	250.0	2	40.0
合計	4,410	92.1	4,819	109.3	4,500	93.4	3,889	86.4	3,768	96.9

（5）疾病統計

①疾病統計

（ア）疾病分類別・診療科別・性別・退院患者数 （期間 2021．1．1～12．31）

（単位 人）

国際疾病大分類		退院患者数	内科	精神科	脳神経内科	循環器内科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	心臓血管外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	放射線科	麻酔科	緩和ケア内科	救急科	歯科口腔外科
I. 感染症および寄生虫症	計	290	137	0	5	5	104	3	1	0	1	20	5	2	0	5	0	0	1	1	0
（Ａ００～Ｂ９９）	男	154	66	0	4	1	61	3	0	0	1	11	4	0	0	2	0	0	1	0	0
	女	136	71	0	1	4	43	0	1	0	0	9	1	2	0	3	0	0	0	1	0
II. 新生物	計	3,311	1,022	0	3	2	0	714	2	0	1	120	851	225	0	58	0	0	308	1	4
（Ｃ００～Ｄ４８）	男	2,113	712	0	2	0	0	348	0	0	0	60	746	0	0	41	0	0	201	1	2
	女	1,198	310	0	1	2	0	366	2	0	1	60	105	225	0	17	0	0	107	0	2
III. 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	計	65	35	0	6	1	10	11	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
（Ｄ５０～Ｄ８９）	男	23	14	0	1	1	4	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	女	42	21	0	5	0	6	9	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
IV. 内分泌、栄養および代謝疾患	計	267	129	0	9	6	96	17	4	0	0	0	4	1	0	0	0	0	1	0	0
（Ｅ００～Ｅ９０）	男	181	78	0	7	3	81	3	4	0	0	0	4	0	0	0	0	0	1	0	0
	女	86	51	0	2	3	15	14	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
V. 精神および行動の障害	計	29	13	0	2	4	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
（Ｆ００～Ｆ９９）	男	6	4	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	23	9	0	2	2	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
VI. 神経系の疾患	計	133	11	0	88	1	15	1	6	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0
（Ｇ００～Ｇ９９）	男	76	7	0	52	0	8	0	4	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0
	女	57	4	0	36	1	7	1	2	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0
VII. 眼および付属器の疾患	計	106	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	104	0	0	0	0	0	0
（Ｈ００～Ｈ５９）	男	61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	61	0	0	0	0	0	0
	女	45	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43	0	0	0	0	0	0
VIII. 耳および乳様突起の疾患	計	88	8	0	6	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	67	0	0	0	0	0
（Ｈ６０～Ｈ９５）	男	47	5	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	38	0	0	0	0	0
	女	41	3	0	5	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	29	0	0	0	0	0
IX. 循環器系の疾患	計	1,265	87	0	49	764	7	3	4	0	346	0	2	2	0	0	0	0	0	1	0
（Ｉ００～Ｉ９９）	男	819	54	0	33	499	6	2	3	0	221	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	女	446	33	0	16	265	1	1	1	0	125	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0
X. 呼吸器系の疾患	計	990	486	0	5	7	190	46	0	0	11	0	1	1	0	235	0	0	3	4	1
（Ｊ００～Ｊ９９）	男	647	329	0	1	6	111	39	0	0	10	0	1	0	0	148	0	0	2	0	0
	女	343	157	0	4	1	79	7	0	0	1	0	0	1	0	87	0	0	1	4	1
XI. 消化器系の疾患	計	1,926	1,326	0	1	1	12	480	0	0	2	0	8	3	0	9	0	0	2	1	81
（Ｋ００～Ｋ９３）	男	1,144	790	0	0	1	7	298	0	0	1	0	2	0	0	6	0	0	1	0	38
	女	782	536	0	1	0	5	182	0	0	1	0	6	3	0	3	0	0	1	1	43
XII. 皮膚および皮下組織の疾患	計	78	6	0	1	1	8	7	2	0	3	41	0	0	0	6	0	0	1	0	2
（Ｌ００～Ｌ９９）	男	39	3	0	1	0	3	0	1	0	1	26	0	0	0	4	0	0	0	0	0
	女	39	3	0	0	1	5	7	1	0	2	15	0	0	0	2	0	0	1	0	2
XIII. 筋骨格系および結合組織の疾患	計	394	34	0	9	2	23	1	319	0	3	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0
（Ｍ００～Ｍ９９）	男	156	19	0	7	2	10	1	114	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	女	238	15	0	2	0	13	0	205	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
XIV. 腎尿路生殖器系の疾患	計	838	102	0	1	8	20	16	0	0	1	1	625	62	0	0	0	0	2	0	0
（Ｎ００～Ｎ９９）	男	399	32	0	0	3	13	2	0	0	1	0	347	0	0	0	0	0	1	0	0
	女	439	70	0	1	5	7	14	0	0	0	1	278	62	0	0	0	0	1	0	0
XV. 妊娠、分娩および産じょく＜褥＞	計	353	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	349	0	0	0	0	0	0	0
（Ｏ００～Ｏ９９）	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	353	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	349	0	0	0	0	0	0	0
XVI. 周産期に発生した病態	計	131	0	0	0	0	130	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
（Ｐ００～Ｐ９６）	男	71	0	0	0	0	71	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	60	0	0	0	0	59	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
XVII. 先天奇形、変形および染色体異常	計	54	5	0	1	0	10	1	7	0	2	0	9	2	0	16	0	0	0	0	1
（Ｑ００～Ｑ９９）	男	17	2	0	1	0	3	1	0	0	0	0	3	0	0	6	0	0	0	0	1
	女	37	3	0	0	0	7	0	7	0	2	0	6	2	0	10	0	0	0	0	0
XVIII. 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	計	356	120	0	17	30	90	28	12	0	3	4	19	13	0	18	0	0	0	2	0
（Ｒ００～Ｒ９９）	男	188	71	0	7	14	51	11	9	0	1	1	13	0	0	10	0	0	0	0	0
	女	168	49	0	10	16	39	17	3	0	2	3	6	13	0	8	0	0	0	2	0
XIX. 損傷、中毒およびその他の外因の影響	計	509	50	0	6	29	27	20	321	0	9	2	11	4	1	6	0	0	1	22	0
（Ｓ００～Ｔ９８）	男	235	26	0	2	13	17	9	134	0	3	2	10	0	1	3	0	0	0	15	0
	女	274	24	0	4	16	10	11	187	0	6	0	1	4	0	3	0	0	1	7	0
XX. 傷病および死亡の外因	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（Ｖ０１～Ｙ９８）	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
XXI. 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	計	30	0	0	0	11	0	15	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
（Ｚ００～Ｚ９９）	男	20	0	0	0	10	0	8	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	10	0	0	0	1	0	7	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
XXⅡ. 特殊目的用コード	計	360	356	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（Ｕ００～Ｕ９９）	男	221	218	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	139	138	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全体	**計**	**11,573**	**3,931**	**0**	**211**	**873**	**758**	**1,364**	**679**	**0**	**383**	**188**	**1,537**	**668**	**105**	**432**	**0**	**0**	**319**	**36**	**89**
	男	**6,617**	**2,430**	**0**	**119**	**556**	**451**	**727**	**270**	**0**	**242**	**100**	**1,130**	**0**	**62**	**264**	**0**	**0**	**207**	**18**	**41**
	女	**4,956**	**1,501**	**0**	**92**	**317**	**307**	**637**	**409**	**0**	**141**	**88**	**407**	**668**	**43**	**168**	**0**	**0**	**112**	**18**	**48**

(イ)疾病分類別・年齢階層別・性別・退院患者数 （期間 2021．1．1～12．31）

（単位 人）

国際疾病大分類		退院患者数	年齢階層														
			0～4歳	～9歳	～14歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～64歳	～69歳	～74歳	～79歳	～84歳	～89歳	90歳～
Ⅰ．感染症および寄生虫症	計	290	84	15	5	5	16	9	15	12	5	19	23	33	24	18	7
（A00～B99）	男	154	49	8	4	3	12	4	11	4	3	8	7	19	11	8	3
	女	136	35	7	1	2	4	5	4	8	2	11	16	14	13	10	4
Ⅱ．新生物	計	3,311	0	2	9	4	18	55	176	360	315	446	775	554	336	188	73
（C00～D48）	男	2,113	0	1	6	1	4	12	63	197	217	304	556	383	218	124	27
	女	1,198	0	1	3	3	14	43	113	163	98	142	219	171	118	64	46
Ⅲ．血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	計	65	4	1	2	1	4	2	6	5	0	6	6	9	11	3	5
（D50～D89）	男	23	2	1	1	1	1	0	1	1	0	3	1	7	4	0	0
	女	42	2	0	1	0	3	2	5	4	0	3	5	2	7	3	5
Ⅳ．内分泌、栄養および代謝疾患	計	267	15	11	12	60	11	5	31	26	11	11	21	23	20	7	3
（E00～E90）	男	181	13	6	8	55	3	3	20	20	8	7	12	11	12	2	1
	女	86	2	5	4	5	8	2	11	6	3	4	9	12	8	5	2
Ⅴ．精神および行動の障害	計	29	0	0	2	6	1	0	4	5	1	0	3	1	2	3	1
（F00～F99）	男	6	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	2	1
	女	23	0	0	2	6	1	0	4	4	1	0	2	1	1	1	0
Ⅵ．神経系の疾患	計	133	4	7	2	7	8	5	13	17	7	10	19	16	12	6	0
（G00～G99）	男	76	2	2	2	7	3	3	8	13	5	5	8	10	6	2	0
	女	57	2	5	0	0	5	2	5	4	2	5	11	6	6	4	0
Ⅶ．眼および付属器の疾患	計	106	0	0	0	0	1	1	2	11	3	9	20	28	10	19	2
（H00～H59）	男	61	0	0	0	0	1	1	2	10	3	6	12	18	2	6	0
	女	45	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	8	10	8	13	2
Ⅷ．耳および乳様突起の疾患	計	88	8	4	3	3	4	7	7	12	7	9	8	9	5	0	2
（H60～H95）	男	47	5	1	1	2	2	1	6	7	6	3	5	5	2	0	1
	女	41	3	3	2	1	2	6	1	5	1	6	3	4	3	0	1
Ⅸ．循環器系の疾患	計	1,265	2	0	5	0	4	12	67	141	96	139	232	198	168	109	92
（I00～I99）	男	819	2	0	4	0	3	4	48	104	70	104	160	134	101	64	21
	女	446	0	0	1	0	1	8	19	37	26	35	72	64	67	45	71
Ⅹ．呼吸器系の疾患	計	990	172	30	4	27	69	33	55	58	31	60	87	98	95	103	68
（J00～J99）	男	647	100	20	3	23	40	25	40	34	26	42	61	69	78	55	31
	女	343	72	10	1	4	29	8	15	24	5	18	26	29	17	48	37
Ⅺ．消化器系の疾患	計	1,926	8	10	18	19	68	103	163	239	154	205	324	254	177	115	69
（K00～K93）	男	1,144	5	7	11	5	36	58	98	139	93	126	222	149	107	53	35
	女	782	3	3	7	14	32	45	65	100	61	79	102	105	70	62	34
Ⅻ．皮膚および皮下組織の疾患	計	78	3	3	2	1	3	4	6	10	2	4	15	8	8	3	6
（L00～L99）	男	39	1	0	2	1	2	2	2	5	1	3	9	4	5	1	1
	女	39	2	3	0	0	1	2	4	5	1	1	6	4	3	2	5
XIII．筋骨格系および結合組織の疾患	計	394	21	2	8	7	4	13	17	54	42	45	65	56	33	18	9
（M00～M99）	男	156	9	1	4	1	3	8	7	24	22	14	23	18	12	7	3
	女	238	12	1	4	6	1	5	10	30	20	31	42	38	21	11	6
XIV．腎尿路生殖器系の疾患	計	838	17	5	2	8	21	30	64	78	57	69	129	117	89	88	64
（N00～N99）	男	399	11	4	1	3	7	9	11	35	38	46	86	63	39	30	16
	女	439	6	1	1	5	14	21	53	43	19	23	43	54	50	58	48
XV．妊娠、分娩および産じょく＜褥＞	計	353	0	0	0	9	128	192	24	0	0	0	0	0	0	0	0
（O00～O99）	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	353	0	0	0	9	128	192	24	0	0	0	0	0	0	0	0
XVI．周産期に発生した病態	計	131	130	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（P00～P96）	男	71	71	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	60	59	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
XVII．先天奇形、変形および染色体異常	計	54	2	12	8	7	4	3	4	8	3	0	2	0	1	0	0
（Q00～Q99）	男	17	2	2	3	3	0	2	1	2	0	0	1	0	1	0	0
	女	37	0	10	5	4	4	1	3	6	3	0	1	0	0	0	0
XVIII．症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	計	356	68	12	9	1	7	15	19	20	13	19	47	43	42	23	18
（R00～R99）	男	188	37	8	5	0	3	5	5	11	7	11	28	25	24	12	7
	女	168	31	4	4	1	4	10	14	9	6	8	19	18	18	11	11
XIX．損傷、中毒およびその他の外因の影響	計	509	15	20	17	15	24	21	32	31	33	40	45	62	68	46	40
（S00～T98）	男	235	8	12	11	12	15	11	18	20	16	12	21	27	27	10	15
	女	274	7	8	6	3	9	10	14	11	17	28	24	35	41	36	25
XX．傷病および死亡の外因	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（V01～Y98）	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
XXI．健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	計	30	0	0	0	0	1	1	3	4	1	9	3	5	3	0	0
（Z00～Z99）	男	20	0	0	0	0	0	0	3	3	1	8	2	1	2	0	0
	女	10	0	0	0	0	1	1	0	1	0	1	1	4	1	0	0
XXII．特殊目的用コード	計	360	1	1	2	2	28	38	65	69	30	24	25	22	17	22	14
（U00～U99）	男	221	0	0	2	0	17	25	43	42	21	18	15	12	9	13	4
	女	139	1	1	0	2	11	13	22	27	9	6	10	10	8	9	10
全体	**計**	**11,573**	**554**	**135**	**110**	**182**	**424**	**550**	**773**	**1,160**	**811**	**1,124**	**1,849**	**1,536**	**1,121**	**771**	**473**
	男	**6,617**	**317**	**73**	**68**	**117**	**152**	**173**	**387**	**672**	**537**	**720**	**1,230**	**955**	**661**	**389**	**166**
	女	**4,956**	**237**	**62**	**42**	**65**	**272**	**377**	**386**	**488**	**274**	**404**	**619**	**581**	**460**	**382**	**307**

②死亡統計

（ア）診療科別死亡数及び剖検数　（期間　２０２１．１．１～１２．３１）

（単位　人）

区　分	死亡患者数	うち剖検数
内科	362	7
精神科	0	0
脳神経内科	5	1
循環器内科	38	0
小児科	1	0
外科	35	0
整形外科	1	0
脳神経外科	0	0
心臓血管外科	22	0
皮膚科	0	0
泌尿器科	22	0
産婦人科	8	0
眼科	0	0
耳鼻咽喉科	3	0
放射線科	0	0
麻酔科	0	0
緩和ケア内科	176	0
救急科	12	0
歯科口腔外科	0	0
合計	685	8

（イ）死因分類表（期間　2021．1．1～12．31）

（単位　人）

国際疾病大分類	性別	死亡患者数 入院	死亡患者数 外来	合計
Ⅰ．　感染症および寄生虫症	計	17	1	18
（A00～B99）	男	10	1	11
	女	7	0	7
Ⅱ．　新生物	計	291	10	301
（C00～D48）	男	195	8	203
	女	96	2	98
Ⅲ．血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	計	1	0	1
（D50～D89）	男	1	0	1
	女	0	0	0
Ⅳ．　内分泌、栄養および代謝疾患	計	4	0	4
（E00～E90）	男	1	0	1
	女	3	0	3
Ⅴ．　精神および行動の障害	計	0	0	0
（F00～F99）	男	0	0	0
	女	0	0	0
Ⅵ．　神経系の疾患	計	2	2	4
（G00～G99）	男	0	2	2
	女	2	0	2
ⅤⅡ．　眼および付属器の疾患	計	0	0	0
（H00～H59）	男	0	0	0
	女	0	0	0
ⅤⅢ．　耳および乳様突起の疾患	計	0	0	0
（H60～H95）	男	0	0	0
	女	0	0	0
Ⅸ．　循環器系の疾患	計	70	75	145
（I00～I99）	男	36	47	83
	女	34	28	62
Ⅹ．　呼吸器系の疾患	計	92	8	100
（J00～J99）	男	60	2	62
	女	32	6	38
Ⅺ．　消化器系の疾患	計	34	5	39
（K00～K93）	男	15	2	17
	女	19	3	22
ⅩⅡ．　皮膚および皮下組織の疾患	計	0	0	0
（L00～L99）	男	0	0	0
	女	0	0	0
ⅩⅢ．　筋骨格系および結合組織の疾患	計	0	0	0
（M00～M99）	男	0	0	0
	女	0	0	0
ⅩⅣ．　腎尿路生殖器系の疾患	計	16	2	18
（N00～N99）	男	7	1	8
	女	9	1	10
ⅩⅤ．　妊娠、分娩および産じょく＜褥＞	計	0	0	0
（O00～O99）	男	0	0	0
	女	0	0	0
ⅩⅥ．　周産期に発生した病態	計	0	0	0
（P00～P96）	男	0	0	0
	女	0	0	0
ⅩⅤⅡ．　先天奇形、変形および染色体異常	計	0	0	0
（Q00～Q99）	男	0	0	0
	女	0	0	0
ⅩⅤⅢ．症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	計	27	15	42
（R00～R99）	男	16	7	23
	女	11	8	19
ⅩⅨ．　損傷、中毒およびその他の外因の影響	計	2	1	3
（S00～T98）	男	0	1	1
	女	2	0	2
ⅩⅩ．　傷病および死亡の外因	計	0	1	1
（V01～Y98）	男	0	1	1
	女	0	0	0
ⅩⅩⅠ．　健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	計	0	0	0
（Z00～Z99）	男	0	0	0
	女	0	0	0
ⅩⅩⅡ．　特殊目的用コード	計	9	0	9
（U00～U99）	男	6	0	6
	女	3	0	3
全　　体	計	565	120	685
	男	347	72	419
	女	218	48	266

③退院患者数

(ア)診療科別・性別・在院日数別 (期間 2021. 1. 1～12. 31)

(単位 人)

診療科	性別	退院患者数	在院日数						
			1日	～3日	～7日	～14日	～30日	～60日	61日～
内 科	計	3,931	44	950	754	1,146	772	219	46
	男	2,430	26	619	446	679	491	138	31
	女	1,501	18	331	308	467	281	81	15
精神科	計	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
脳神経内科	計	211	1	25	32	60	46	36	11
	男	119	0	8	20	39	24	23	5
	女	92	1	17	12	21	22	13	6
循環器内科	計	873	10	299	157	194	150	51	12
	男	556	3	220	114	120	69	25	5
	女	317	7	79	43	74	81	26	7
小児科	計	758	63	131	377	132	45	5	5
	男	451	58	75	213	72	27	3	3
	女	307	5	56	164	60	18	2	2
外 科	計	1,364	3	94	570	416	226	47	8
	男	727	0	52	289	234	125	23	4
	女	637	3	42	281	182	101	24	4
整形外科	計	679	3	66	43	121	367	68	11
	男	270	3	35	21	55	117	33	6
	女	409	0	31	22	66	250	35	5
脳神経外科	計	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓血管外科	計	383	2	100	21	88	94	63	15
	男	242	1	38	16	71	64	40	12
	女	141	1	62	5	17	30	23	3
皮膚科	計	188	0	21	37	91	31	6	2
	男	100	0	11	23	42	17	5	2
	女	88	0	10	14	49	14	1	0
泌尿器科	計	1,537	5	459	474	426	137	32	4
	男	1,130	4	352	333	316	98	24	3
	女	407	1	107	141	110	39	8	1
産婦人科	計	668	17	86	223	296	33	12	1
	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	668	17	86	223	296	33	12	1
眼 科	計	105	7	93	4	1	0	0	0
	男	62	5	52	4	1	0	0	0
	女	43	2	41	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	計	432	0	93	230	99	7	2	1
	男	264	0	60	144	53	4	2	1
	女	168	0	33	86	46	3	0	0
放射線科	計	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	計	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
緩和ケア内科	計	319	3	39	65	79	65	53	15
	男	207	1	24	49	49	42	31	11
	女	112	2	15	16	30	23	22	4
救急科	計	36	3	21	5	5	1	1	0
	男	18	2	11	1	3	0	1	0
	女	18	1	10	4	2	1	0	0
歯科口腔外科	計	89	0	80	5	4	0	0	0
	男	41	0	38	2	1	0	0	0
	女	48	0	42	3	3	0	0	0
全 体	**計**	**11,573**	**161**	**2,557**	**2,997**	**3,158**	**1,974**	**595**	**131**
	男	**6,617**	**103**	**1,595**	**1,675**	**1,735**	**1,078**	**348**	**83**
	女	**4,956**	**58**	**962**	**1,322**	**1,423**	**896**	**247**	**48**

２．リハビリテーション科

（1）管理料、加算、指導料

(単位　件)

区分＼年度	29	30	元	2	3
総合計画評価	1,311	1,492	2,036	2,514	2,660
初期加算	30,222	32,223	35,113	31,569	33,367
早期加算	46,694	48,148	51,213	45,200	47,400
退院時指導	1,048	1,145	1,295	1,442	1,662

（2）理学療法業務実績

①取得単位数

(単位　単位)

区分	年度	29	30	元	2	3
入院	脳血管	12,781	12,821	11,890	9,820	10,303
	運動器	14,095	14,272	13,154	11,406	11,605
	呼吸器	5,011	5,449	6,370	5,999	5,898
	心大血管	5,885	5,056	5,574	6,695	6,452
	がん	1,217	1,518	1,736	2,029	2,499
	合計	38,989	39,116	38,724	35,949	36,757
外来	脳血管	158	87	25	0	18
	運動器	603	563	531	365	297
	呼吸器	263	308	283	255	279
	心大血管	10	4	0	17	3
	合計	1,034	962	839	637	597
合計		40,023	40,078	39,563	36,586	37,354
緩和ケア病棟リハ		200	147	288	645	668
総点数（点）		9,957,654	9,988,215	9,913,528	9,358,405	9,607,312

②科別患者数

（単位　人）

区分 ＼ 年度		29	30	元	2	3
入院	内科	6,367	7,129	7,631	7,101	7,439
	脳神経内科	1,719	2,456	2,510	1,567	2,043
	循環器内科	2,265	1,865	1,766	3,102	3,367
	小児科	23	24	52	155	19
	外科	3,000	4,008	4,117	3,396	3,950
	整形外科	8,476	8,748	8,138	7,093	7,583
	脳神経外科	2,432	1,486	30	0	0
	心臓血管外科	3,769	3,492	4,257	3,560	3,748
	泌尿器科	1,075	914	1,308	1,337	1,418
	その他	292	455	467	749	760
	計	29,418	30,577	30,276	28,060	30,327
外来	内科	38	18	1	0	1
	脳神経内科	5	0	8	0	10
	循環器内科	1	23	2	0	0
	小児科	0	10	4	0	0
	外科	147	168	163	131	140
	整形外科	422	372	351	227	218
	脳神経外科	14	8	2	0	0
	心臓血管外科	5	0	0	14	3
	泌尿器科	0	1	0	0	0
	その他	22	0	0	1	0
	計	654	600	531	373	372
合計		30,072	31,177	30,807	28,433	30,699

③傷病別患者数

（単位　人）

年度	29			30			元			2			3		
区分 ＼ 傷病名	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計
脳出血	821	0	821	539	0	539	350	0	350	148	0	148	211	0	211
脳梗塞	2,485	1	2,486	1,957	16	1,973	1,506	2	1,508	1,098	0	1,098	1,194	0	1,194
頭部外傷	15	0	15	18	0	18	12	0	12	1	0	1	0	0	0
神経難病	298	5	303	274	0	274	281	0	281	295	0	295	596	10	606
脊髄損傷	130	0	130	139	0	139	67	0	67	32	0	32	44	0	44
骨折（一般）	3,841	145	3,986	3,121	154	3,275	2,581	142	2,723	2,485	70	2,555	2,056	119	2,175
靭帯損傷	124	42	166	97	59	156	22	39	61	5	14	19	0	27	27
大腿骨頚部骨折	768	42	810	644	18	662	1,029	35	1,064	747	11	758	727	11	738
変形性股関節症	2,205	82	2,287	2,834	130	2,964	2,186	118	2,304	2,043	82	2,125	2,603	35	2,638
変形性膝関節症	220	2	222	155	0	155	138	0	138	104	2	106	125	0	125
心大血管疾患	5,257	5	5,262	4,916	2	4,918	5,431	0	5,431	5,747	14	5,761	5,967	3	5,970
呼吸器疾患	3,075	0	3,075	3,456	17	3,473	3,948	3	3,951	3,071	0	3,071	2,722	2	2,724
悪性新生物	3,455	140	3,595	3,985	163	4,148	4,459	159	4,618	4,154	126	4,280	4,821	138	4,959
廃用症候群	113	37	150	45	11	56	84	0	84	20	0	20	62	0	62
その他	6,611	153	6,764	8,397	30	8,427	8,182	33	8,215	8,110	54	8,164	9,199	27	9,226
合計	29,418	654	30,072	30,577	600	31,177	30,276	531	30,807	28,060	373	28,433	30,327	372	30,699

（3）作業療法業務実績

①取得単位数

（単位　単位）

区分	年度	29	30	元	2	3
入院	脳血管	7,523	7,024	7,337	6,480	6,116
	運動器	904	2,695	3,142	2,499	3,241
	呼吸器	0	0	0	786	831
	心大血管	0	0	0	24	19
	がん	183	124	64	423	605
	合計	8,610	9,843	10,543	10,212	10,812
外来	脳血管	57	40	38	0	14
	運動器	1,203	910	646	776	613
	合計	1,260	950	684	776	627
合計		9,870	10,793	11,227	10,988	11,439
緩和ケア病棟リハ		138	341	386	266	389
総点数（点）		2,554,845	2,734,046	2,912,141	2,772,825	2,937,912

②科別患者数

（単位　人）

区分	年度	29	30	元	2	3
入院	内科	2,346	2,605	3,420	3,640	3,512
	脳神経内科	1,148	1,763	2,110	1,305	1,654
	循環器内科	72	115	51	241	88
	小児科	4	12	19	0	0
	外科	311	385	325	582	756
	整形外科	557	1,785	2,033	1,896	2,351
	脳神経外科	2,443	1,353	15	3	0
	心臓血管外科	79	63	140	22	159
	泌尿器科	92	162	256	492	457
	その他	198	396	468	419	555
	計	7,250	8,639	8,837	8,600	9,532
外来	内科	0	0	0	0	0
	脳神経内科	0	40	20	0	7
	循環器内科	0	0	0	0	0
	小児科	0	0	0	0	0
	外科	37	15	5	6	4
	整形外科	786	709	441	442	415
	脳神経外科	15	0	0	0	0
	心臓血管外科	0	0	0	0	0
	泌尿器科	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	計	838	764	466	448	426
合計		8,088	9,403	9,303	9,048	9,958

③傷病別患者数

(単位　人)

年度	29			30			元			2			3		
区分 / 傷病名	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計
脳出血	620	0	620	525	0	525	246	0	246	134	0	134	143	0	143
脳梗塞	2,017	0	2,017	1,430	0	1,430	1,296	11	1,307	625	0	625	856	7	863
頭部外傷	249	0	249	138	0	138	27	0	27	29	0	29	0	0	0
神経難病	155	0	155	120	0	120	237	0	237	219	0	219	424	0	424
脊髄損傷	190	0	190	6	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
変形性股関節症	0	0	0	1,118	0	1,118	1,346	1	1,347	1,384	0	1,384	1,775	0	1,775
骨折（上肢）	454	679	1,133	394	626	1,020	311	352	663	248	448	696	260	353	613
靭帯損傷	0	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心大血管疾患	0	0	0	66	0	66	149	0	149	122	0	122	48	0	48
呼吸器疾患	0	0	0	381	0	381	824	0	824	948	0	948	805	0	805
悪性新生物	494	0	494	854	0	854	1,092	0	1,092	1,223	0	1,223	1,553	0	1,553
廃用症候群	2,561	42	2,603	1,557	0	1,557	39	0	39	0	0	0	11	0	11
その他	510	107	617	2,050	138	2,188	3,270	102	3,372	3,668	0	3,668	3,657	66	3,723
合計	7,250	838	8,088	8,639	764	9,403	8,837	466	9,303	8,600	448	9,048	9,532	426	9,958

（4）言語聴覚療法業務実績

①取得単位数

(単位　単位)

区分 / 年度		29	30	元	2	3
入院	脳血管	11,034	10,647	13,869	7,946	7,865
	呼吸器	0	0	0	2,942	3,786
	がん	0	40	36	22	31
外来	脳血管	41	40	9	33	15
合計		11,075	10,727	13,914	10,943	11,697
摂食機能療法		2,180	2,175	43	5	0
緩和ケア病棟リハ		17	20	4	1	3
総点数（点）		3,267,446	3,076,195	3,407,633	2,605,561	2,800,165

②科別患者数

（単位　人）

区分	年度	29	30	元	2	3
入院	内科	4,544	5,377	5,145	5,076	5,626
	脳神経内科	1,316	1,915	1,829	891	1,372
	循環器内科	375	351	414	731	777
	小児科	2	8	18	9	0
	外科	279	504	288	485	288
	整形外科	195	207	403	232	232
	脳神経外科	1,762	917	14	2	0
	心臓血管外科	372	382	703	672	601
	泌尿器科	91	154	208	349	345
	耳鼻咽喉科	0	2	19	12	57
	歯科口腔外科	0	0	0	0	0
	その他	44	38	102	124	54
	計	8,980	9,855	9,143	8,583	9,352
外来	内科	1	0	0	0	1
	脳神経内科	0	0	0	0	0
	循環器内科	0	15	0	0	0
	小児科	6	6	2	0	0
	外科	0	2	0	0	0
	整形外科	0	0	0	0	5
	脳神経外科	1	0	0	0	0
	心臓血管外科	0	0	0	1	0
	泌尿器科	0	0	0	0	0
	耳鼻咽喉科	28	3	7	22	4
	歯科口腔外科	0	0	0	0	4
	その他	0	0	0	0	0
	計	36	26	9	23	14
合計		9,016	9,881	9,152	8,606	9,366

③傷病別患者数

（単位　人）

年度	29			30			元			2			3		
区分 傷病名	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計
脳出血	571	0	571	508	0	508	318	0	318	129	0	129	190	0	190
脳梗塞	2,263	0	2,263	1,717	12	1,729	1,071	0	1,071	697	0	697	765	0	765
頭部外傷	104	0	104	86	0	86	23	0	23	0	0	0	0	0	0
神経難病	273	0	273	240	0	240	176	0	176	193	0	193	381	0	381
脊髄損傷	1	0	1	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0
骨折	13	0	13	10	0	10	210	0	210	103	0	103	86	0	86
心大血管疾患	38	0	38	337	0	337	655	0	655	684	1	685	858	0	858
呼吸器疾患	747	0	747	2,186	0	2,186	2,896	0	2,896	2,664	0	2,664	2,595	0	2,595
悪性新生物	166	0	166	283	0	283	277	0	277	312	0	312	519	0	519
廃用症候群	3,352	6	3,358	2,281	9	2,290	0	2	2	0	0	0	19	0	19
その他	1,452	30	1,482	2,207	5	2,212	3,515	7	3,522	3,801	22	3,823	3,939	14	3,953
合計	8,980	36	9,016	9,855	26	9,881	9,143	9	9,152	8,583	23	8,606	9,352	14	9,366

３．中央放射線科

（１）年間業務量

①画像診断（単純撮影、透視、血管撮影、ＣＴ、ＭＲＩ）

人数　84,204 人

②核医学　（シンチグラム、ＳＰＥＣＴ）

人数　1,013 人

③放射線治療（ライナック）

人数　5,851 人　照射門数　19,839 門

（２）画像診断数

（単位　人）

年度＼項目	患者人数	
	総合計	１日平均
29	90,652	371.5
30	95,916	393.0
元	95,752	392.4
2	83,051	341.8
3	84,204	352.0

（３）画像診断・項目別件数

（単位　件）

項目＼年度		29	30	元	2	3
単純撮影		43,250	44,354	43,586	36,875	40,128
ポータブル		12,262	12,354	13,172	12,172	8,617
乳房撮影		3,066	3,593	3,689	2,950	3,525
パノラマ		155	1,392	1,298	1,340	1,227
CT		20,278	22,067	22,288	20,182	20,657
MRI		6,527	6,952	6,559	5,925	6,477
骨密度		1,019	1,163	1,228	1,194	1,388
消化管造影		2,077	1,952	1,781	371	215
一般造影		906	1,017	1,073	986	983
血管造影	頭頚部	12	0	0	0	0
	胸腹骨盤	269	298	269	264	188
	四肢	26	30	13	6	4
	小計	307	328	282	270	192
心臓	心カテ	509	495	514	433	428
	ＰＣＩ	205	172	208	226	215
	ペースメーカー	46	35	51	61	62
	一時ペーシング	16	21	15	21	29
	その他	29	21	8	45	61
	小計	805	744	796	786	795
合計		90,652	95,916	95,752	83,051	84,204

※CD、フィルム　コピー・取込みの件数は含みません。
※平成 29 年度：MRI 装置等の更新・工事のため、4 カ月半稼働中断

（4）核医学・項目別件数

（単位　件）

核医学検査			人数
シンチ	全身シンチ	骨シンチ	604
		Ｇａシンチ	9
		ＭＩＢＧ・^{201}Ｔｌ・^{123}Ｉ	12
	動　態	唾液腺・レノグラム	58
	静　態	その他	155
	小　計		838
ＳＰＥＣＴ	心筋血流	安　静	61
		負　荷	41
	脳血流	安　静	73
		負荷（ＲＶＲ）	0
	小　計		175
合　計			1,013

（5）放射線治療件数

（単位　件・門）

項目／年度	人数		照射門数	
	総合計	１日平均	総合計	１日平均
29	3,416	14.0	14,674	60.1
30	4,697	19.3	15,125	62.0
元	4,865	19.9	17,826	73.1
2	4,535	18.6	15,284	62.6
3	5,851	24.0	19,839	81.3

（6）放射線治療患者数

外部照射		組織内照射	合計
新規患者数	再来患者数	新規患者数（前立腺）	
260 人	31 人	19 人	310 人

（7）原発巣別新規患者

（単位　人）

部位	人数
１．脳・脊髄 腫瘍	0
２．頭頸部腫瘍（甲状腺を含む）	13
３．食道癌	10
４．肺癌・気管・縦隔腫瘍 （うち肺癌）	66 (64)
５．乳癌	83
６．肝・胆・膵臓	11
７．胃・小腸・結腸・直腸癌	14

部位	人数
８．婦人科腫瘍	2
９．泌尿器系腫瘍 （うち前立腺癌）	74 (53)
10．造血器リンパ系腫瘍	6
11．皮膚・骨・軟部腫瘍	1
12．その他（悪性腫瘍）	1
13．良性疾患	0
14．15 歳以下の小児例	0

４．中央検査科

（1）項目別検査件数

(単位　件)

項目＼年度	29	30	元	2	3
一般	486,143	487,228	483,458	420,745	438,833
血液	949,751	984,139	1,013,785	942,718	984,898
生化	1,608,931	1,675,771	1,731,219	1,624,211	1,708,375
免疫（血清）	165,594	174,510	180,576	168,640	177,750
細菌	33,843	40,399	39,615	32,604	44,150
生理	69,822	70,980	70,333	55,538	60,178
病理	25,447	26,289	26,783	22,838	25,482
計	3,339,531	3,459,316	3,545,769	3,267,294	3,439,666
前年比（％）	100.6	103.6	102.5	92.2	105.3

（2）採血件数

(単位　件)

項目＼年度	29	30	元	2	3
採血	318,659	330,419	336,790	309,863	323,986
前年比（％）	92.5	103.7	101.9	92.0	104.6

（3）循環器系及び超音波検査件数

(単位　件)

項目＼年度	29	30	元	2	3
ＵＣＧ	5,957	6,231	6,030	5,472	5,835
心電図	25,873	25,337	25,181	21,824	22,959
ホルター心電図	330	310	268	313	299
トレッドミル	54	81	76	30	73
超音波	18,325	19,386	18,412	15,522	16,797
計	50,539	51,345	49,967	43,161	45,963
前年比（％）	101.6	101.6	97.3	86.4	106.5

（4）輸血用血液管理

(単位　単位)

項目（1単位）＼年度	29	30	元	2	3
赤血球(RCC＋LR)　【140ml】	2,756	3,037	3,680	3,730	3,960
新鮮凍結血漿(FFP)　【120ml】	820	844	1,140	1,160	1,188
濃厚血小板　【 20ml】	1,305	1,200	1,840	1,970	2,490
計	4,881	5,081	6,660	6,860	7,638
自己血　【200ml】	616	674	562	564	553

５．臨床心理士業務件数

（1）相談件数

(単位　件，%)

年度	29					30					元					2					3				
区分 / 科名	入院	外来	その他	合計	前年比	入院	外来	その他	合計	前年比	入院	外来	その他	合計	前年比	入院	外来	その他	合計	前年比	入院	外来	その他	合計	前年比
新規	144	145	8	297	48.1	700	140	17	857	288.6	759	153	8	920	107.4	554	136	23	713	77.5	559	172	8	739	103.6
継続	30	15	2	47	25.4	203	24	4	231	491.5	216	49	4	269	116.5	145	29	17	191	71.0	145	43	4	192	100.5
計	174	160	10	344	42.8	903	164	21	1,088	316.3	975	202	12	1,189	109.3	699	165	40	904	76.0	704	215	12	931	103.0
延べ件数	355	228	13	596	39.9	2123	274	24	2,421	406.2	2,503	298	15	2,816	116.3	1,410	182	64	1,656	58.8	1,640	242	18	1,900	114.7

※［その他］は受診せず相談のみを示す。

（2）診療科別

(単位　件，%)

年度	29		30		元		2		3	
区分 / 診療科	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比
内科	86	40.2	347	403.5	366	105.5	349	95.4	311	89.1
精神科	0	皆減	0	－	0	－	0	－	0	－
脳神経内科	2	100.0	9	450.0	5	55.6	3	60.0	14	466.7
循環器内科	0	皆減	2	皆増	4	200.0	21	525.0	17	81.0
小児科	0	皆減	8	皆増	4	50.0	10	250.0	17	170.0
外科	29	37.7	118	406.9	124	105.1	106	85.5	123	116.0
整形外科	3	30.0	9	300.0	6	66.7	3	50.0	4	133.3
脳神経外科	1	5.3	2	200.0	0	皆減	0	－	0	－
心臓血管外科	0	皆減	3	皆増	4	133.3	8	200.0	14	175.0
皮膚科	0	－	0	－	0	－	1	皆増	1	100.0
泌尿器科	18	26.5	95	527.8	117	123.2	151	129.1	134	88.7
産婦人科	18	22.8	67	372.2	67	100.0	79	117.9	50	63.3
眼科	0	皆減	0	－	0	－	0	－	1	皆増
耳鼻咽喉科	1	33.3	2	200.0	5	250.0	4	80.0	1	25.0
放射線科	0	－	0	－	0	－	0	－	0	－
麻酔科	0	－	0	－	0	－	0	－	0	－
緩和ケア内科	174	56.9	404	232.2	474	117.3	129	27.2	231	179.1
歯科口腔外科	0	皆減	0	－	0	－	0	－	0	－
救急科	2	100.0	1	50.0	1	100.0	0	皆減	1	皆増
その他	10	125.0	21	210.0	12	57.1	40	333.3	12	30.0
合計	344	42.8	1,088	316.3	1,189	109.3	904	76.0	931	103.0

（3）新規相談の紹介者

(単位　件，%)

年　度	29		30		元		2		3	
区　分 紹介者	件　数	前年比	件　数	前年比	件　数	前年比	件　数	前年比	件　数	前年比
医　　師	276	46.0	822	297.8	900	109.5	679	75.4	717	105.6
看　護　師	13	130.0	16	123.1	11	68.8	11	100.0	10	90.9
本人・家族	0	皆減	4	皆増	4	100.0	12	300.0	2	16.7
他　職　員	8	266.7	14	175.0	5	35.7	11	220.0	9	81.8
そ　の　他	0	皆減	1	皆増	0	皆減	0	－	1	皆増
計	297	48.1	857	288.6	920	107.4	713	77.5	739	103.6

（4）相談内容

(単位　件，%)

年　度	29		30		元		2		3	
区　分 内　容	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比
緩和患者面接	307	119.0	709	231.0	911	128.5	276	30.3	568	205.8
緩和家族面接	23	575.0	33	143.5	163	493.9	1	0.6	7	700.0
緩和心理検査	0	－	0	－	1	皆増	0	皆減	0	－
緩和カンファレンス	172	14.6	1,548	900.0	1,671	107.9	1,246	74.6	1,219	97.8
他科心理検査	2	200.0	1	50.0	0	皆減	4	皆増	7	175.0
他科カウンセリング	60	203.6	70	116.7	45	64.3	35	77.8	53	151.4
他科カンファレンス	0	－	10	皆増	2	20.0	10	500.0	23	230.0
コンサルテーション	19	172.7	25	131.6	4	16.0	19	475.0	3	15.8
職員相談	11	183.3	19	172.7	15	78.9	64	426.7	16	25.0
そ　の　他	2	皆増	6	300.0	4	66.7	1	25.0	4	400.0
計	596	39.9	2,421	406.2	2,816	116.3	1,656	58.8	1,900	114.7

（5）援助手段

(単位　件，%)

年　度	29		30		元		2		3	
区　分 手　段	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比
面　　接	406	134.4	834	205.4	1,138	136.5	356	31.3	640	179.8
心理検査	2	33.3	1	50.0	1	100.0	4	400.0	7	175.0
電　　話	12	240.0	12	100.0	8	66.7	38	475.0	12	31.6
文　　書	0	－	1	皆増	0	皆減	0	－	0	－
カンファレンス	176	14.9	1,572	893.2	1,669	106.2	1,258	75.4	1,241	98.6
そ　の　他	0	－	1	皆増	0	皆減	0	－	0	－
計	596	39.9	2,421	406.2	2,816	116.3	1,656	58.8	1,900	114.7

6．分　娩　件　数

(単位　人，%)

項目＼年度			29		30		元		2		3	
			件　数	前年比	件　数	前年比	件　数	前年比	件　数	前年比	件　数	前年比
分　娩　件　数			478	90.7	445	93.1	420	94.4	337	80.2	296	87.8
内訳	単　胎		467	91.2	436	93.4	405	92.9	328	81.0	283	86.3
	双　胎		11	73.3	9	81.8	15	166.7	9	60.0	13	144.4
	三　胎		0	－	0	－	0	－	0	－	0	－
児　胎　数			489	90.2	454	92.8	435	95.8	346	79.5	309	89.3
内訳	生　産		476	90.3	439	92.2	415	94.5	336	81.0	301	89.6
	死産	22週未満	13	100.0	15	115.4	19	126.7	8	42.1	6	75.0
		22週以降	0	皆減	0	－	1	皆増	2	200.0	2	100.0

7．検　診　件　数

（1）ドック検診

(単位　人，%)

項目＼年度	29		30		元		2		3	
	件　数	前年比	件　数	前年比	件　数	前年比	件　数	前年比	件　数	前年比
1日人間ドック	6,736	96.7	6,614	98.2	6,363	96.2	4,826	75.8	5,721	118.5

（2）人間ドック年齢別

(単位　人)

項目＼年齢		10－20	21－30	31－40	41－50	51－60	61－70	71－80	81－	計
1日人間ドック	男	2	20	261	747	798	768	638	119	3,353
	女	1	20	122	491	579	632	459	64	2,368
	計	3	40	383	1,238	1,377	1,400	1,097	183	5,721

（3）人間ドックオプション

(単位　人，%)

項目＼年度	29		30		元		2		3	
	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比
脳ドック	564	80.3	553	98.0	561	101.4	433	77.2	511	118.0
骨ドック	80	75.5	93	116.3	74	79.6	51	68.9	78	152.9
歯科口腔ドック	10	100.0	11	110.0	8	72.7	6	75.0	6	100.0
前立腺ドック	1,097	88.9	1,216	110.8	1,300	106.9	1,066	82.0	1,156	108.4
乳腺ドック	1,730	92.6	2,010	116.2	2,075	103.2	1,500	72.3	1,630	108.7
心臓ドック	24	104.3	24	100.0	24	100.0	12	50.0	26	216.7
肺がんドック	117	91.4	109	93.2	107	98.2	89	83.2	107	120.2
ピロリペプシ検診	85	72.6	31	36.5	44	141.9	22	50.0	24	109.1
ピロリ検診	344	83.7	222	64.5	181	81.5	115	63.5	135	117.4
ＣＡ１２５	143	82.7	132	92.3	136	103.0	108	79.4	120	111.1
子宮頚がん検診	1,415	89.0	1,344	95.0	1,315	97.8	1,011	76.9	1,141	112.9
胃カメラ	－	－	4,581	皆増	4,494	98.1	3,766	83.8	4,335	115.1
計	5,609	88.2	10,413	185.6	10,319	99.1	8,179	79.3	9,269	113.3

（4）一般検診

(単位　人，%)

項目＼年度	29		30		元		2		3	
	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比
胃がん検診・胃透視（二次）	25	71.4	22	88.0	6	27.2	22	366.7	22	100.0
大腸がん検診（二次）	257	90.1	297	115.6	348	117.1	273	78.4	265	97.1
オート検診	89	94.7	90	101.1	－	皆減	－	－	－	－
乳児検診	466	87.7	413	88.6	408	98.7	281	68.9	251	89.3
特定健診・後期高齢者健診	163	92.0	142	87.1	139	97.8	124	89.2	128	103.2
計	1,000	89.1	964	96.4	901	93.4	700	77.7	666	95.1

（5）特定保健指導

(単位　人)

支援別＼年度	29	30	元	2	3
特定健診当日情報提供	1,277	1,200	1,146	1,196	1,131
動機付け支援	42	54	35	28	32
積極的支援	18	31	24	25	24
継続支援	156	175	183	194	178

８．内視鏡センター検査、処置件数および生検件数

（1）検査、処置件数

(単位　件)

項　目 ＼ 年　度	29	30	元	2	3
気管支内視鏡検査	139	158	171	135	137
胸腔鏡	6	13	6	8	13
胃・十二指腸内視鏡検査（一般診療）	3,231	3,121	3,151	2,746	2,957
〃　（一日ﾄﾞｯｸ）	4,658	4,578	4,494	3,769	4,335
小腸内視鏡検査（経口）	2	27	4	9	18
上部ＥＵＳ	106	81	64	28	44
胆膵ＥＵＳ	149	141	69	74	128
ＥＲＣＰ	33	18	23	8	15
大腸内視鏡検査（一般診療）	2,395	2,533	2,480	2,017	2,094
小腸内視鏡検査（経肛門）	4	5	5	14	14
下部ＥＵＳ	5	9	7	4	5
食道静脈瘤結紮術	18	20	14	14	13
食道静脈瘤硬化療法	26	27	34	41	34
上部消化管止血術	87	90	99	59	53
上部ポリペク・EMR	8	9	10	4	11
上部ＥＳＤ	58	71	72	39	66
上部腫瘍治療のEMCＴ・ＡＰＣ	4	2	4	1	0
上部異物摘出術	9	17	11	16	10
上部拡張術	9	23	36	7	8
上部金属ステント留置術	8	6	5	6	4
イレウス管挿入術（経鼻）	55	69	78	67	46
乳頭切開術	25	13	8	5	4
胆道結石除去術	141	118	117	121	99
胆道ドレナージ術	221	216	216	195	180
膵管ドレナージ術	8	10	12	12	12
胆管金属ステント留置術	27	30	21	10	13
胆道拡張術	0	0	0	0	2
下部消化管止血術	46	62	68	53	32
下部ポリペク・EMR	450	577	587	467	509
下部ＥＳＤ	42	44	48	41	51
下部腫瘍治療のEMCＴ・ＡＰＣ	1	1	2	0	0
下部異物除去術	2	3	0	2	0
下部拡張術	7	3	6	5	4
下部金属ステンント留置術	21	16	26	12	19
イレウス管挿入術（経肛門）	14	8	3	3	7
胃瘻造設術	16	19	39	15	11
胃瘻ボタン交換	24	26	45	44	26
透視室使用	32	21	46	42	44
カプセル内視鏡	17	21	22	14	20
PTCD	14	14	9	1	0
合　計	12,118	12,220	12,112	10,108	11,038

（2）生検件数

（単位　件）

項　目 ＼ 年　度	29	30	元	2	3
気管支	107	155	158	121	127
上部	827	660	782	651	795
下部	364	399	333	281	372
合　計	1,298	1,214	1,273	1,053	1,294

※本表は、内視鏡室において実施した件数である。

9．手　術　件　数

（1）科別手術件数（手術室）

(単位　件)

科名＼年度	29	30	元	2	3
内科	80	53	61	58	57
循環器内科	0	0	0	0	0
外科	900	1,019	1,108	954	1,016
整形外科	641	640	646	594	613
脳神経外科	0	0	0	0	0
心臓血管外科	484	481	456	384	356
皮膚科	306	420	416	314	310
泌尿器科	1,381	1,307	1,324	1,176	1,201
産婦人科	386	322	300	348	300
眼科	119	99	92	79	104
耳鼻咽喉科	309	332	366	268	304
麻酔科	3	1	2	3	0
歯科口腔外科	24	97	78	98	67
小児科	0	0	0	0	0
合計	4,633	4,771	4,849	4,276	4,328

（2）手術麻酔別件数（手術室）

(単位　件)

区分＼年度	29	30	元	2	3
全身麻酔（吸入・気管内）	2,383	2,633	2,694	2,480	2,496
脊髄麻酔	1,247	1,195	1,211	994	1,017
硬膜外麻酔	8	11	6	1	1
局所麻酔	655	665	698	587	589
静脈麻酔	0	0	0	0	0
神経ブロック	180	127	154	111	125
その他	160	140	86	103	100
合計	4,633	4,771	4,849	4,276	4,328

（3）科別手術麻酔別件数（手術室）

(単位　件)

区分＼科名	内科	外科	整形外科	脳神経外科	心臓血管外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	麻酔科	歯科口腔外科	小児科	合計
全身麻酔（吸入・気管内）	0	933	477	0	259	18	292	158	5	288	0	66	0	2,496
脊椎麻酔	0	69	67	0	0	1	757	123	0	0	0	0	0	1,017
硬膜外麻酔	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
局所麻酔	57	13	19	0	24	289	53	18	99	16	0	1	0	589
神経ブロック	0	0	50	0	73	2	0	0	0	0	0	0	0	125
その他	0	0	0	0	0	0	99	1	0	0	0	0	0	100
合計	57	1,016	613	0	356	310	1,201	300	104	304	0	67	0	4,328

（4）手術支援ロボットダヴィンチ手術件数（再掲）

（単位　件）

区分＼年度	開始年月	29	30	元	2	3	合　計
■ 泌尿器科							
前立腺癌	平成26年9月	122	122	137	121	113	615
腎癌	平成28年5月	27	43	32	30	31	163
膀胱癌	平成30年9月	－	4	8	9	12	33
計		149	169	177	160	156	811
■ 外科							
胃癌		－	11	16	18	37	82
※再掲（切除）	平成30年6月	－	(11)	(16)	(11)	(25)	(63)
※再掲（噴門）	令和2年9月	－	－	－	(1)	(1)	(2)
※再掲（全摘）	令和2年4月	－	－	－	(6)	(11)	(17)
直腸癌	平成30年8月	－	4	22	19	36	81
肺癌	令和3年5月	－	－	－	－	17	17
縦隔腫瘍	令和3年7月	－	－	－	－	5	5
計		－	15	38	37	95	185
合　計		149	184	215	197	251	996

■　平成２６年９月　手術支援ロボットdaVinci Si稼働

■　令和３年６月　手術支援ロボット daVinci Xi及びＸ稼働（更新）

（５）手術内容及び件数（全体）

手術名	件数
皮膚、皮下組織	
創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの・長径５㎝未満）	163
創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの・長径５㎝未満・真皮縫合）	1
創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの・長径５㎝以上１０㎝未満）	28
創傷処理（筋肉、臓器に達するもの・長径５㎝以上１０㎝未満）	10
創傷処理（筋肉、臓器に達するもの・長径５㎝未満）	44
創傷処理（筋肉、臓器に達するもの・長径５㎝未満・真皮縫合）	1
創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの・長径１０㎝以上）	5
創傷処理（筋肉、臓器に達するもの・長径１０㎝以上）（その他）	10
創傷処理（指１本）	10
創傷処理（指２本）	1
小児創傷処理（筋肉、臓器に達するもの・長径２．５㎝未満）	2
小児創傷処理（筋肉、臓器に達するもの・長径２．５㎝以上５㎝未満）	1
小児創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの・長径２．５㎝未満）	17
小児創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの・長径２．５㎝以上５㎝未満）	7
皮膚切開（長径１０㎝未満）	66
皮膚切開（長径１０㎝以上２０㎝未満）	3
皮膚切開（長径２０㎝以上）	2
デブリードマン（１００›以上３０００›未満）	1
皮膚血管腫摘出術（露出部・長径３㎝未満）	21
皮膚血管腫摘出術（露出部以外・長径３㎝未満）	1
皮膚血管腫摘出術（露出部以外・長径３㎝以上６㎝未満）	1
皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径２㎝未満）	28
皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径２㎝以上４㎝未満）	9
皮膚腫瘍摘出術（露出部）（長径４㎝以上）	1
皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径４㎝以上）	3
皮膚腫瘍摘出術（露出部）（長径２㎝未満）	60
皮膚腫瘍摘出術（露出部）（長径２㎝以上４㎝未満）	8
皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径３㎝未満）	24
皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径３㎝以上６㎝未満）	12
皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径６㎝以上１２㎝未満）	6
皮膚腫瘍摘出術（露出部以外）（長径３㎝未満）	37
皮膚腫瘍摘出術（露出部以外）（長径３㎝以上６㎝未満）	6
皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径１２㎝以上）	3
皮膚悪性腫瘍切除術（単純切除）	61
形成	
全層植皮術（２５ｃ㎡未満）	18
全層植皮術（２５ｃ㎡以上１００ｃ㎡未満）	3
全層植皮術（２００ｃ㎡以上）	1
皮弁作成術，移動術，切断術，遷延皮弁術（２５›未満）	22
組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合）	2
筋膜、筋、腱、腱鞘	
筋膜切開術	1
股関節内転筋切離術	17
腱鞘切開術（指）	8
筋肉内異物摘出術	2
四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術（前腕）	1
四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術（手）	1
腱縫合術（指）	2
腱縫合術（指１本）	2
腱縫合術	1
アキレス腱断裂手術	4
四肢骨	
骨折非観血的整復術（大腿）	1
骨折非観血的整復術（上腕）	8
骨折非観血的整復術（前腕）	40
骨折非観血的整復術（下腿）	4
骨折非観血的整復術（鎖骨）	1
骨折非観血的整復術（手）	12

手術名	件数
骨折非観血的整復術（足，その他）	8
骨折経皮的鋼線刺入固定術（前腕）	1
骨折経皮的鋼線刺入固定術（指（手，足））	2
骨折観血的手術（下腿）	33
骨折観血的手術（大腿）	53
骨折観血的手術（前腕）	28
骨折観血的手術（上腕）	12
骨折観血的手術（足）	1
骨折観血的手術（指（手，足））	2
骨折観血的手術（手舟状骨）	1
骨折観血的手術（鎖骨）	13
骨折観血的手術（膝蓋骨）	5
観血的整復固定術（インプラント周囲骨折に対するもの）（大腿）	3
一時的創外固定骨折治療術	2
難治性骨折超音波治療法（一連につき）	3
超音波骨折治療法（一連につき）	8
骨内異物（挿入物）除去術（肩甲骨）	1
骨内異物（挿入物）除去術（上腕）	6
骨内異物（挿入物）除去術（大腿）	8
骨内異物（挿入物）除去術（前腕）	19
骨内異物（挿入物）除去術（下腿）	19
骨内異物（挿入物）除去術（鎖骨）	5
骨内異物（挿入物）除去術（手）	1
骨内異物（挿入物）除去術（足）	1
骨内異物（挿入物）除去術（指（手，足））	3
難治性感染性偽関節手術（創外固定器によるもの）	1
骨移植術（同種骨移植、生体）	7
骨移植術（自家骨移植）	56
骨移植術（軟骨移植術を含む、同種骨移植、非生体、その他）	60
四肢関節、靭帯	
化膿性又は結核性関節炎掻爬術（股）	4
関節脱臼非観血的整復術（肩）	5
関節脱臼非観血的整復術（肘）	4
関節脱臼非観血的整復術（股）	4
関節脱臼非観血的整復術（手）	2
関節脱臼非観血的整復術（足）	1
関節脱臼非観血的整復術（小児肘内障）	22
関節脱臼非観血的整復術（指・手）	3
関節脱臼非観血的整復術（指・足）	1
先天性股関節脱臼非観血的整復術（両側）（リーメンビューゲル法）	7
関節脱臼観血的整復術（股）	2
関節脱臼観血的整復術（指・足）	1
関節脱臼観血的整復術（肩鎖）	1
関節内骨折観血的手術（股）	1
関節内骨折観血的手術（肘）	2
人工骨頭挿入術（肩）	1
人工骨頭挿入術（股）	18
人工関節置換術（股）	167
人工関節置換術（膝）	9
人工関節抜去術（股）	2
人工関節再置換術（股）	7
人工関節再置換術（膝）	1
人工股関節摺動面交換術	5
直達牽引（右下肢）	5
四肢切断、離断、再接合	
四肢切断術（足）	1
四肢切断術（下腿）	12
四肢切断術（上腕）	1
四肢切断術（大腿）	6
断端形成術（軟部形成のみ）（足・指）	3

手術名	件数
断端形成術（骨形成を要す）（手・指）	3
断端形成術（骨形成を要す）（足・指）	4
断端形成術（骨形成を要す）（その他）	1
手、足	
陥入爪手術（複雑なもの）	6
手根管開放手術	8
脊柱、骨盤	
脊椎内異物（挿入物）除去術	13
椎間板摘出術（後方摘出術）	5
内視鏡下椎間板摘出（切除）術（後方摘出術）	7
寛骨臼移動術	3
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（椎弓切除）	48
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（椎弓形成）	19
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（前方椎体固定）	5
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（後方又は後側方固定）	19
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（後方椎体固定）	42
脊椎側彎症手術（固定術）	7
内視鏡下椎弓形成術	5
頭蓋、脳	
後頭蓋窩減圧術	1
脊髄、末梢神経、交感神経	
脊髄腫瘍摘出術（髄外）	4
涙道	
涙点プラグ挿入術、涙点閉鎖術	3
結膜	
結膜縫合術	1
結膜結石除去術（少数のもの）（１眼瞼ごと）	4
角膜、強膜	
角膜・強膜縫合術	1
角膜潰瘍掻爬術	1
角膜・強膜異物除去術	2
治療的角膜切除術（その他のもの）	1
ぶどう膜	
虹彩光凝固術	3
眼房、網膜	
網膜光凝固術（その他特殊なもの・一連につき）	22
網膜光凝固術（通常のもの・一連につき）	20
水晶体、硝子体	
硝子体切除術	3
水晶体再建術（眼内レンズを挿入する場合・その他のもの）	98
水晶体再建術（眼内レンズを挿入しない場合）	3
水晶体再建術（眼内レンズを挿入する場合・縫着レンズを挿入するもの）	3
後発白内障手術	8
外耳	
外耳道異物除去術（単純なもの）	17
外耳道異物除去術（複雑なもの）	5
先天性耳瘻管摘出術	14
耳介腫瘍摘出術	13
外耳道腫瘍摘出術（外耳道真珠腫手術を含む）	1
耳介悪性腫瘍手術	2
中耳	
鼓膜切開術	3
乳突削開術	4
鼓膜（排液，換気）チューブ挿入術	24
鼓膜穿孔閉鎖術（一連につき）	1
鼓膜形成手術	6
鼓室形成手術（耳小骨温存術）	3
鼓室形成手術（耳小骨再建術）	1

手術名	件数
鼻	
鼻腔粘膜焼灼術	53
鼻骨骨折整復固定術	2
鼻内異物摘出術	5
鼻甲介切除術（その他のもの）	2
粘膜下下鼻甲介骨切除術	84
鼻茸摘出術	2
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅱ型（副鼻腔単洞手術）	7
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅲ型（選択的（複数洞）副鼻腔手術）	117
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅳ型（汎副鼻腔手術）	34
鼻副鼻腔腫瘍摘出術	1
鼻中隔矯正術	49
咽頭、扁桃	
咽後膿瘍切開術	1
扁桃周囲膿瘍切開術	3
咽頭異物摘出術（簡単）	2
咽頭異物摘出術（複雑）	5
アデノイド切除術	20
中咽頭腫瘍摘出術（経口腔）	5
口蓋扁桃手術（摘出）	91
喉頭、気管	
深頸部膿瘍切開術	3
気管切開術	19
喉頭・声帯ポリープ切除術（直達喉頭鏡）	3
声帯ポリープ切除術（直達喉頭鏡）	15
気管異物除去術（直達鏡による）	1
喉頭蓋嚢腫摘出術	6
喉頭腫瘍摘出術（直達鏡）	18
気管切開孔閉鎖術	1
歯、歯肉、歯槽部、口蓋	
抜歯手術（埋伏歯）	2
口腔前庭、口腔底、頬粘膜、舌	
頬粘膜腫瘍摘出術	3
舌腫瘍摘出術（その他のもの）	6
甲状舌管嚢胞摘出術	1
舌悪性腫瘍手術（切除）	2
舌小帯形成手術	1
顔面	
口唇腫瘍摘出術（粘液嚢胞摘出術）	5
口唇腫瘍摘出術（その他）	6
口唇悪性腫瘍手術	6
顔面骨、顎関節	
下顎骨折非観血的整復術	1
顎関節脱臼非観血的整復術	1
顎骨腫瘍摘出術（長径３㎝未満）	12
顎関節授動術（徒手的授動術）（パンピングを併用）	10
唾液腺	
唾石摘出術（一連につき）（表在性のもの）	7
顎下腺腫瘍摘出術	1
顎下腺摘出術	8
耳下腺腫瘍摘出術（浅葉）	18
甲状腺、副甲状腺（上皮小体）	
甲状腺腫摘出術（片葉）	16
甲状腺腫摘出術（両葉）	2
甲状腺部分切除術（片葉）	5
バセドウ甲状腺全摘術（両葉）	2
甲状腺悪性腫瘍手術（切除）（頸部外側区域郭清を伴わないもの）	5
甲状腺悪性腫瘍手術（全摘）（頸部外側区域郭清を伴わないもの）	4
甲状腺悪性腫瘍手術（切除）（頸部外側区域郭清を伴うもの）	1

手術名	件数
甲状腺悪性腫瘍手術（全摘）（片側頸部外側区域郭清を伴うもの）	2
甲状腺悪性腫瘍手術（全摘）（両側頸部外側区域郭清を伴うもの）	1
副甲状腺（上皮小体）腺腫過形成手術（摘出術）	5
その他の頸部	
頸嚢摘出術	2
乳腺	
乳腺腫瘍摘出術（長径５cm未満）	12
乳腺腫瘍摘出術（長径５cm以上）	4
乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術（マンモグラフィー又は超音波装置によるもの）	217
乳房切除術	3
乳腺悪性腫瘍手術（単純乳房切除術）	1
乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術・胸筋切除併施しない）	25
乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術・胸筋切除併施有り）	3
乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術）　（内視鏡下によるものを含む）	5
乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術）（腋窩部郭清を伴わないもの）	41
乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術・腋窩部郭清を伴わないもの）	45
胸壁	
胸壁悪性腫瘍摘出術（胸壁形成手術を併施）	1
胸壁腫瘍摘出術	2
胸腔、胸膜	
試験開胸術	1
胸腔鏡下試験切除術	1
胸腔内（胸膜内）血腫除去術	1
胸腔鏡下醸膿胸膜切除術	1
胸腔鏡下胸膜胼胝切除術	1
経皮的膿胸ドレナージ術	4
膿胸腔有茎大網充填術	2
縦隔	
胸腺摘出術	1
縦隔切開術（経胸腔）	2
胸腔鏡下縦隔切開術	2
拡大胸腺摘出術	1
縦隔悪性腫瘍手術（広汎摘出）	3
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術	2
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器使用）	2
気管支、肺	
肺膿瘍切開排膿術	1
気管・気管支ステント留置術（軟性鏡によるもの）	1
気管支瘻孔閉鎖術	2
肺切除術（楔状部分切除）	1
胸腔鏡下肺切除術（肺嚢胞手術（楔状部分切除によるもの））	21
胸腔鏡下肺切除術（部分切除）	11
胸腔鏡下肺切除術（肺葉切除又は１肺葉を超えるもの）	1
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術	2
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器使用）	2
胸腔鏡下良性胸壁腫瘍手術	1
胸腔鏡下肺縫縮術	1
肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は１肺葉を超えるもの）	3
肺悪性腫瘍手術（気管支形成を伴う肺切除）	1
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（部分切除）	22
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除）	1
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は１肺葉を超えるもの）	20
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除、１肺葉超・手術用支援機器使用）	13
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除）（内視鏡手術用支援機器使用）	4
食道	
食道狭窄拡張術（食道ブジー法）	2
食道狭窄拡張術（拡張用バルーンによるもの）	6
食道ステント留置術	1
内視鏡的食道粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術）	9
食道・胃静脈瘤硬化療法（内視鏡によるもの，一連として）	35

手術名	件数
内視鏡的食道・胃静脈瘤結紮術	15
心、心膜、肺動静脈、冠血管等	
心膜切開術	1
心腔内粘液腫摘出術（単独）	1
経皮的冠動脈形成術（急性心筋梗塞に対するもの）	11
経皮的冠動脈形成術（その他のもの）	21
経皮的冠動脈形成術（不安定狭心症に対するもの）	6
経皮的冠動脈形成術（高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルによるもの	17
経皮的冠動脈ステント留置術（急性心筋梗塞に対するもの）	16
経皮的冠動脈ステント留置術（その他のもの）	88
経皮的冠動脈ステント留置術（不安定狭心症に対するもの）	57
冠動脈形成術（血栓内膜摘除）（２箇所以上）	1
冠動脈バイパス移植術（１吻合）	2
冠動脈バイパス移植術（２吻合以上）	21
冠動脈バイパス移植術（人工心肺を使用しないもの）（１吻合）	1
冠動脈バイパス移植術（人工心肺を使用しないもの）（２吻合以上）	3
心室瘤切除術（単独）	1
左室形成術（冠動脈血行再建術（２吻合以上））	2
心室中隔穿孔閉鎖術（単独）	1
弁形成術（１弁のもの）	3
弁形成術（２弁のもの）	6
弁置換術（１弁のもの）	18
弁置換術（２弁のもの）	4
弁置換術（３弁のもの）	1
経カテーテル大動脈弁置換術（経心尖大動脈弁置換術）	2
経カテーテル大動脈弁置換術（経皮的大動脈弁置換術）	5
大動脈弁下狭窄切除術	1
大動脈瘤切除術（上行大動脈・その他のもの）	5
大動脈瘤切除術（上行大動脈・大動脈弁置換術又は形成術を伴うもの）	2
大動脈瘤切除術（腹部大動脈・分枝血管の再建を伴うもの）	2
大動脈瘤切除術（上行大動脈及び弓部大動脈の同時手術・その他のもの）	20
大動脈瘤切除術（弓部大動脈）	2
大動脈瘤切除術（腹部大動脈・その他のもの）	7
大動脈瘤切除術（上行大動脈・人工弁置換術を伴う大動脈基部置換術）	5
大動脈瘤切除術（上行及び弓部同時手術・大動脈弁置換又は形成術を伴う）	3
大動脈瘤切除術（上行及び弓部同時手術・人工弁置換を伴う大動脈基部置換術）	1
ステントグラフト内挿術（胸部大動脈）	41
ステントグラフト内挿術（腹部大動脈）	39
ステントグラフト内挿術（腸骨動脈）	7
冠動脈起始異常症手術	1
不整脈手術（メイズ手術）	4
体外ペースメーキング術	50
ペースメーカー移植術（心筋電極）	1
ペースメーカー移植術（経静脈電極）	36
ペースメーカー移植術（リードレスペースメーカー）	7
ペースメーカー交換術	18
大動脈バルーンパンピング法（初日）	30
大動脈バルーンパンピング法（２日目以降）	109
人工心肺（初日）	99
経皮的心肺補助法（初日）	13
経皮的心肺補助法（２日目以降）	35
動脈	
血管結紮術（その他）	1
血管縫合術（簡単）	2
動脈塞栓除去術（その他）（観血的）	7
動脈血栓内膜摘出術（その他）	4
抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置（頭頸部その他）	67
末梢動静脈瘻造設術（内シャント造設術）（単純なもの）	40
血管移植術（その他の動脈）	1
バイパス移植術（大動脈）	1

手術名	件数
バイパス移植術（頸部動脈）	15
バイパス移植術（その他の動脈）	11
バイパス移植術（下腿動脈）	3
血管移植術（膝窩動脈）	1
バイパス移植術（膝窩動脈）	2
血管塞栓術（胸腔）（止血術）	2
血管塞栓術（腹腔内）（止血）	7
血管塞栓術（胸腔）（その他のもの）	2
血管塞栓術（腹腔内血管等）（その他のもの）	6
血管塞栓術（腹腔内血管等）（選択的動脈化学塞栓術）	84
四肢の血管拡張術	43
四肢の血管拡張術・血栓除去術	2
経皮的シャント拡張術・血栓除去術（初回）	21
経皮的シャント拡張術・血栓除去術（初回の実施後３月以内に実施する場合）	2
静脈	
下肢静脈瘤手術（抜去切除術）	3
下肢静脈瘤手術（硬化療法）	28
大伏在静脈抜去術	1
下肢静脈瘤血管内焼灼術	108
中心静脈注射用植込型カテーテル設置（四肢）	1
中心静脈注射用植込型カテーテル設置（頭頸部その他）	8
静脈血栓摘出術（開腹）	2
下大静脈フィルター留置術	6
下大静脈フィルター除去術	2
静脈形成術（その他の静脈）	1
リンパ管、リンパ節	
リンパ節摘出術（長径３㎝未満）	18
リンパ節摘出術（長径３㎝以上）	1
リンパ節群郭清術（腋窩）	3
リンパ管吻合術	1
腹壁、ヘルニア	
ヘルニア手術（臍ヘルニア）	5
ヘルニア手術（腹壁瘢痕ヘルニア）	6
ヘルニア手術（鼠径ヘルニア）	88
ヘルニア手術（大腿ヘルニア）	3
腹腔鏡下ヘルニア手術（腹壁瘢痕ヘルニア）	5
腹腔鏡下ヘルニア手術（大腿ヘルニア）	1
腹腔鏡下ヘルニア手術（閉鎖孔ヘルニア）	2
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	43
腹膜、後腹膜、腸間膜、網膜	
胸水・腹水濾過濃縮再静注法	23
試験開腹術	2
腹腔鏡下試験開腹術	1
経皮的腹腔膿瘍ドレナージ術	7
急性汎発性腹膜炎手術	4
腹腔鏡下汎発性腹膜炎手術	5
大網切除術	1
腹腔鏡下大網、腸間膜、後腹膜腫瘍摘出術	1
胃、十二指腸	
胃縫合術	3
腹腔鏡下胃・十二指腸潰瘍穿孔縫合術	4
内視鏡的胃、十二指腸ステント留置術	3
内視鏡的十二指腸ポリープ・粘膜切除術（その他のポリープ・粘膜切除術）	8
内視鏡的胃ポリープ・粘膜切除術（早期悪性腫瘍胃粘膜下層剥離術）	59
内視鏡的胃ポリープ・粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜切除術）	3
内視鏡的胃ポリープ・粘膜切除術（早期悪性腫瘍ポリープ切除術）	1
内視鏡的胃内異物摘出術	8
内視鏡的食道異物摘出術	6
内視鏡的消化管止血術	56
腹腔鏡下胃局所切除術（その他のもの）	1

手術名	件数
胃切除術（悪性腫瘍）	5
腹腔鏡下胃切除術（単純）	3
腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍）	5
腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍）（内視鏡手術用支援機器使用）	26
腹腔鏡下噴門側胃切除術（悪性腫瘍）（内視鏡手術用支援機器使用）	1
胃全摘術（悪性腫瘍）	6
腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍）	2
腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍）（内視鏡手術用支援機器使用）	10
胃腸吻合術（ブラウン吻合を含む）	1
腹腔鏡下胃腸吻合術	1
胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む）	13
胃瘻抜去術	1
胆嚢、胆道	
胆管切開結石摘出術（胆嚢摘出を含む）	2
胆嚢摘出術	33
腹腔鏡下胆嚢摘出術	124
胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢に限局する）	2
胆嚢悪性腫瘍手術（肝切除（亜区域切除以上）を伴うもの）	2
総胆管胃（腸）吻合術	1
胆嚢外瘻造設術	1
経皮的胆管ドレナージ術	41
内視鏡的経鼻胆管ドレナージ術（ＥＮＢＤ）	2
内視鏡的胆道結石除去術（胆道砕石術を伴うもの）	28
内視鏡的胆道結石除去術（その他のもの）	55
内視鏡的胆道拡張術	4
内視鏡的乳頭切開術（乳頭括約筋切開のみのもの）	15
内視鏡的乳頭切開術（胆道砕石術を伴う）	9
内視鏡的胆道ステント留置術	188
肝	
経皮的肝膿瘍ドレナージ術	7
肝切除術（部分切除）（単回の切除によるもの）	6
肝切除術（亜区域切除）	2
肝切除術（外側区域切除）	2
肝切除術（１区域切除（外側区域切除を除く））	4
肝切除術（２区域切除）	8
肝切除術（部分切除）（複数回の切除を要するもの）	1
肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法（一連として）（２ｃｍ以内のもの）（その他）	37
肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法（一連として）（２㎝を超えるもの）（その他）	18
膵	
膵体尾部腫瘍切除術（リンパ節・神経叢郭清等を伴う腫瘍切除術）	2
内視鏡的膵管ステント留置術	9
脾	
脾摘出術	2
空腸、回腸、盲腸、虫垂、結腸	
腸管癒着症手術	10
腹腔鏡下腸管癒着剥離術	5
腸重積症整復術（非観血的なもの）	4
腹腔鏡下腸重積症整復術	1
小腸切除術（その他のもの）	17
小腸切除術（複雑なもの）	1
腹腔鏡下小腸切除術（その他のもの）	2
虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍を伴わないもの）	2
腹腔鏡下虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍を伴わないもの）	33
腹腔鏡下虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍を伴うもの）	19
結腸切除術（小範囲切除）	12
結腸切除術（結腸半側切除）	4
結腸切除術（亜全切除）	1
結腸切除術（悪性腫瘍手術）	25
腹腔鏡下結腸切除術（小範囲切除、結腸半側切除）	10
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	70

手術名	件数
内視鏡的大腸粘膜切除術（長径２㎝未満）	4
内視鏡的大腸ポリープ切除術（長径２㎝以上）	38
内視鏡的大腸ポリープ切除術（長径２㎝未満）	470
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	51
小腸結腸内視鏡的止血術	32
腸吻合術	3
腸瘻造設術	3
人工肛門造設術	12
腹腔鏡下人工肛門造設術	8
人工肛門閉鎖術（腸管切除を伴わない）	1
人工肛門閉鎖術（腸管切除を伴う）（その他のもの）	4
人工肛門閉鎖術（腸管切除を伴う）（直腸切除術後のもの）	17
小腸・結腸狭窄部拡張術（内視鏡）	6
下部消化管ステント留置術	19
直腸	
直腸異物除去術（経肛門（内視鏡によるもの））	1
低侵襲経肛門的局所切除術（ＭＩＴＡＳ）	1
直腸切除・切断術（切断術）	1
直腸切除・切断術（低位前方切除術）	5
直腸切除・切断術（切除術）	5
腹腔鏡下直腸切除・切断術（低位前方切除術）	6
腹腔鏡下直腸切除・切断術（切断術）	1
腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術）	6
腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術）（内視鏡手術用支援機器使用）	12
腹腔鏡下直腸切除・切断術（低位前方切除術）（内視鏡手術用支援機器使用）	22
腹腔鏡下直腸切除・切断術（切断術）（内視鏡手術用支援機器使用）	2
直腸脱手術（経会陰）（腸管切除を伴うもの）	1
腹腔鏡下直腸脱手術	3
肛門、その周辺	
痔核手術（根治手術（硬化療法（四段階注射法によるもの）を伴わないもの））	2
痔核手術（根治手術（硬化療法（四段階注射法によるもの）を伴うもの））	3
肛門周囲膿瘍切開術	4
痔瘻根治手術（単純）	1
痔瘻根治手術（複雑）	1
毛巣洞手術	2
副腎	
腹腔鏡下副腎摘出術	3
腹腔鏡下副腎悪性腫瘍手術	2
腎、腎盂	
腎周囲膿瘍切開術	1
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術（一連につき）	7
経皮的腎嚢胞穿刺術	1
腹腔鏡下腎摘出術	2
腎（尿管）悪性腫瘍手術	1
腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	39
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	31
経皮的腎（腎盂）瘻造設術	1
経皮的腎（腎盂）瘻拡張術（一連につき）	1
尿管	
経尿道的尿路結石除去術（その他のもの）	1
経尿道的尿路結石除去術（レーザーによるもの）	112
経尿道的尿管狭窄拡張術	13
経尿道的尿管ステント留置術	292
経尿道的尿管ステント抜去術	10
尿管膀胱吻合術	1
膀胱	
膀胱内凝血除去術	1
膀胱結石摘出術（経尿道的手術）	29
膀胱壁切除術	1
経尿道的電気凝固術	6

手術名	件数
膀胱水圧拡張術	2
腹腔鏡下膀胱部分切除術	4
膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術・電解質溶液利用のもの）	160
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（全摘・腸管等利用し尿路変更なし）	1
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（回腸等導管利用尿路変更あり・手術用支援機器）	11
腹腔鏡下尿膜管摘出術	2
膀胱瘻造設術	1
尿道	
尿道異物摘出術（前部尿道）	1
尿道結石摘出術（前部尿道）	1
尿道異物摘出術（後部尿道）	1
外尿道腫瘍切除術	3
尿道狭窄拡張術（尿道バルーンカテーテル）	3
陰茎	
陰茎尖圭コンジローム切除術	1
陰茎悪性腫瘍手術（陰茎切除）	1
包茎手術（環状切除術）	5
包茎手術（背面切開術）	2
陰嚢、精巣、精巣上体、精管、精索	
精巣摘出術	24
精巣外傷手術（精巣白膜縫合術）	1
精巣上体摘出術	1
精巣悪性腫瘍手術	2
陰嚢水腫手術（その他）	5
精索捻転手術（その他のもの）	6
精索捻転手術（対側精巣固定術を伴う）	1
精嚢、前立腺	
経尿道的前立腺手術（電解質溶液利用のもの）	10
経尿道的レーザー前立腺切除・蒸散術（ホルミウム又は倍周波数レーザー）	43
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	113
外陰、会陰	
女子外性器腫瘍摘出術	2
女子外性器悪性腫瘍手術（切除）	1
膣	
膣壁裂創縫合術（後壁裂創）	1
膣壁尖圭コンジローム切除術	2
子宮	
子宮内膜掻爬術	10
子宮脱手術（膣壁形成手術・子宮全摘術）	1
子宮頸管ポリープ切除術	21
子宮頸部（膣部）切除術	23
子宮息肉様筋腫摘出術（膣式）	1
子宮筋腫摘出（核出）術（腹式）	4
腹腔鏡下子宮筋腫摘出（核出）術	1
子宮全摘術	57
腹腔鏡下膣式子宮全摘術	28
子宮悪性腫瘍手術	5
子宮附属器	
卵管結紮術（両側，開腹）	5
子宮附属器腫瘍摘出術（両側，腹腔鏡）	29
子宮附属器腫瘍摘出術（両側，開腹）	63
子宮附属器悪性腫瘍手術（両側）	5
産科手術	
吸引娩出術	16
会陰（陰門）切開及び縫合術（分娩時）	83
会陰（膣壁）裂創縫合術（分娩時・筋層に及ぶ）	55
頸管裂創縫合術（分娩時）	1
帝王切開術（緊急切開）	50
帝王切開術（選択切開）	55

手術名	件数
胎盤用手剥離術	2
流産手術（妊娠１１週まで）（その他のもの）	5
流産手術（妊娠１１週まで）（手動真空吸引法によるもの）	4
子宮内容除去術（不全流産）	9
胞状奇胎除去術	5
異所性妊娠手術（開腹）	1
異所性妊娠手術（腹腔鏡）	3
新生児仮死蘇生術（仮死第１度）	9
新生児仮死蘇生術（仮死第２度）	3
歯科口腔外科（歯科点数による算定数）	
後出血処置	6
抜歯手術・乳歯	24
抜歯手術・前歯	180
抜歯手術・臼歯	685
ヘミセクション（分割抜歯）	4
抜歯手術・埋伏歯	864
抜歯窩再掻爬手術	2
口腔内消炎手術（歯肉膿瘍等）	13
口腔内消炎手術（骨膜下膿瘍・口蓋膿瘍等）	3
口腔内消炎手術（顎炎・顎骨骨髄炎等）１／３顎未満	1
口腔内消炎手術（顎炎・顎骨骨髄炎等）１／３顎以上	1
口腔外消炎手術　骨膜下膿瘍、皮下腫瘍、蜂窩織炎等（２ｃｍ未満）	6
口腔外消炎手術　骨膜下膿瘍、皮下腫瘍、蜂窩織炎等（５ｃｍ未満）	1
顎骨腫瘍摘出術（３ｃｍ未満）	12
歯肉・歯槽部腫瘍手術（軟組織）	8
歯根嚢胞摘出手術（歯冠大）	2
歯根嚢胞摘出手術（拇指頭大）	4
歯根端切除手術（２以外の場合）	3
舌腫瘍摘出術（粘液嚢胞摘出術）	3
口蓋腫瘍摘出術（口蓋粘膜）	2
口唇腫瘍摘出術（粘液嚢胞摘出術）	10
歯槽骨骨折非観血的整復術（１～２歯）	1
下顎骨折非観血的整復術	2
顎関節脱臼非観血的整復術	1
口腔内軟組織異物（人工物）除去術（簡単）	1
腐骨除去手術（歯槽部）	4
腐骨除去手術顎骨（片側１／３未満）	2
頬・口唇・舌小帯形成術	6
顎骨嚢胞開窓術	10
口蓋隆起形成術	4
下顎隆起形成術（片側）	3
歯の再植術（外傷性脱臼歯）	10
埋伏歯開窓術	10
下顎隆起形成術（両側）	2
術後性上顎嚢胞摘出術（上顎に限局するもの）	1
歯の移植手術（自家骨移植）	2
上顎結節形成術（簡単なもの）	1

※ 手術名、件数は診療報酬算定データから抽出
※ 手術加算は除く

10. 透　析　件　数

（1）透析患者数

（単位　人）

項目＼年度	29	30	元	2	3
入院患者延数	2,502	2,355	2,366	1,909	1,745
外来患者延数	7,870	7,239	6,613	6,328	7,739
計	10,372	9,594	8,979	8,237	9,484
透析開始者数	40	38	34	34	38
死亡者数	20	16	11	7	10
中止者数	1	13	4	8	7
転出者数	193	199	176	163	196
転入者数	152	184	178	252	195
年度末透析患者数	62	58	57	58	60

（2）アダカラム患者数

（単位　人）

項目＼年度	29	30	元	2	3
入院患者延数	23	31	23	12	4
外来患者延数	106	66	64	15	30
計	129	97	87	27	34
アダカラム開始者数	13	11	10	4	6

（3）ＣＡＰＤ患者数

（単位　人）

項目＼年度	29	30	元	2	3
ＣＡＰＤ年度末患者数	(透析と併用1) 4	(透析と併用1) 4	(透析と併用1) 4	(透析と併用2) 2	(透析と併用1) 1
ＣＡＰＤ開始患者数	0	0	0	0	0
死亡者数	0	0	0	0	0
透析へ移行者数	0	0	0	0	1

11. 中央材料件数

（1）滅菌装置及び洗浄装置運転回数

（単位　回）

項目＼年度	29	30	元	2	3
オートクレーブ　１号缶	772	904	862	819	847
オートクレーブ　２号缶	711	845	821	751	779
オートクレーブ　３号缶	714	515	640	693	707
ハイスピード	494	581	424	420	406
ＥＯＧ（３M社）	258	247	254	249	247
ステラッド 100ＮＸ滅菌器	1,256	1,470	1,616	1,626	1,610
真空超音波洗浄装置	416	498	262	156	294
蛇管洗浄器	289	295	281	284	274
ジェットウォッシャー１号機	779	1,070	734		
ジェットウォッシャー２号機	1,265	1,631	1,273	1,407	1,258
ウォッシャーディスインフェクタ１号	1,741	1,853	1,773	1,892	2,266
ウォッシャーディスインフェクタ２号			1,059	1,669	1,906
内視鏡洗浄消毒器	158	198	146	216	251
ベッド洗浄器	747	129	10		

※令和元年７月新オートクレーブ３号缶更新

※令和元年８月ウォッシャーディスインフェクタ２号設置

※令和元年11月内視鏡洗浄消毒器更新

12. 薬剤部

（1）院内処方せん

項目 / 年度	枚数			件数（処方数）			剤数		
	入院	外来	計	入院	外来	計	入院	外来	計
29	49,174	14,002	63,176	93,109	30,316	123,425	739,923	300,671	1,040,594
30	49,079	14,063	63,142	96,780	30,576	127,356	786,566	291,390	1,077,956
元	50,080	14,116	64,196	101,513	30,038	131,551	819,175	289,492	1,108,667
2	46,987	10,366	57,353	93,328	24,213	117,541	756,976	283,197	1,040,173
3	47,742	11,351	59,093	100,040	27,558	127,598	778,815	310,309	1,089,124

（2）院外処方せん

項目 / 年度	29	30	元	2	3
枚数	83,108	87,004	86,007	79,050	82,603
発行率（%）	85.6	86.1	85.9	88.4	87.9

（3）注射薬処方せん

項目 / 年度	29	30	元	2	3
枚数	84,007	80,761	74,887	67,734	68,526
件数	195,650	240,006	248,823	243,388	242,218
剤数	303,508	413,211	422,289	414,752	407,925

（4）製剤状況

項目 / 年度	一般製剤		滅菌製剤		注射剤		軟膏類		点眼、点耳、点鼻	
	品目数	製剤量	品目数	製剤量	品目数	製剤量	品目数	製剤量	品目数	製剤量
29	10	7.30L	7	20.18L	4	0.69L	7	12.3Kg	7	4,717個
30	9	7.09L	7	18.93L	3	0.72L	7	13.8kg	7	3,568個
元	9	7.24L	7	16.02L	3	1.09L	5	14.1kg	7	723個
2	10	6.36L	7	11.81L	4	1.06L	3	12.0kg	6	129個
3	10	18.59L	5	7.01L	4	5.34L	3	6.48kg	6	107個

（5）無菌製剤処理業務

（単位　件）

項目 / 年度	29	30	元	2	3
TPN	451	716	756	1,059	977
外来化学療法（抗がん剤調製）	5,773	6,684	7,532	7,241	8,292
入院化学療法（抗がん剤調製）	1,992	1,577	1,742	1,676	1,550

（6）服薬指導業務

（単位　件）

項目＼年度	29	30	元	2	3
薬剤管理指導料算定件数	12,810	12,475	13,401	12,112	12,251
退院時服薬指導加算件数	1,344	1,093	1,174	1,309	1,313
麻薬管理指導加算件数	95	146	196	297	374
がん患者指導料３算定件数	269	270	305	352	398
糖尿病教室指導件数	92	64	72	56	46
外来窓口相談件数	540	344	247	194	263

（7）医薬品情報業務

（単位　件）

項目＼年度	29	30	元	2	3
薬剤便り	4	4	4	4	4
添付文書改訂情報	12	9	8	11	21
質問件数	69	34	35	30	30
薬剤鑑別件数	11,368	11,975	12,398	11,006	11,486

※薬剤鑑別件数：病棟業務における持参薬確認を含むICM集計

（8）治験・市販後調査件数

（単位　件）

項目＼年度	29	30	元	2	3
治験等	8	7	6	9	8
市販後調査	58	56	37	50	41

13. 栄養科

（1）食事別延食数

(単位　食)

区分＼年度	29	30	元	2	3
常食	77,892	85,826	78,726	59,913	54,830
軟食	82,148	82,781	84,241	74,297	72,694
流動食	7,017	6,652	6,132	5,949	5,425
特別食	160,617	150,285	151,190	133,247	138,474
調乳	8,158	7,475	7,270	6,828	7,031
その他（感染症）	0	0	194	7,556	11,015
計	335,832	333,019	327,753	287,790	289,469

（2）特別食延食数

(単位　食)

区分＼年度	29	30	元	2	3
腎臓食	67,565	59,906	61,376	57,898	54,229
肝臓食	12,470	11,706	11,984	12,480	10,474
糖尿食	41,033	43,992	39,744	37,699	40,903
術後食	4,704	3,550	4,608	2,816	4,289
濃厚流動食	9,608	7,721	8,545	5,840	5,965
幼児食・離乳食	9,702	8,888	10,900	3,197	4,892
胆石食	8,167	7,079	8,040	8,017	7,459
その他（胃潰瘍食含む）	7,368	7,443	5,993	5,300	10,263
計	160,617	150,285	151,190	133,247	138,474

（3）栄養指導件数

①個人指導

(単位　件)

区分＼年度	29	30	元	2	3
腎臓食（高血圧食・心臓食含む）	306	285	382	500	734
肝臓食	8	8	13	20	72
糖尿食	604	574	604	592	884
その他（肥満・高脂血症・その他）	288	348	361	494	1,948
計	1,206	1,215	1,360	1,606	3,638

②集団指導

(単位　件)

区分＼年度	29	30	元	2	3
糖尿病教室	98	69	78	61	48
母親学級	166	136	100	0	2
腎臓病教室	9	22	12	0	0
計	273	227	190	61	50

（4）計画立案件数

(単位　人, 件, %)

区分＼年度	29	30	元	2	3
入院患者数（人）	12,886	13,209	13,087	11,121	11,444
計画立案件数（件）	5,858	6,301	6,231	5,504	5,544
作成率（%）	45.5	47.7	47.6	49.5	48.4

14. 看護外来受診者数

（1）受診者数

(単位　人)

項目＼年度	開設	29	30	元	2	3
乳腺看護外来	平成16年度	342	479	474	443	233
緩和看護外来	平成20年度	172	99	101	76	58
糖尿病フットケア外来	平成17年度	193	182	161	147	141
糖尿病療養指導士外来	平成16年度	803	865	813	761	517
小児糖尿病療養指導士外来	平成27年度	65	40	29	60	93
糖尿病地域連携パス外来	平成20年度	240	214	208	200	184
ストーマ看護外来	平成14年度	208	256	331	329	323
ウロストーマ看護外来	平成20年度	140	165	153	170	141
助産師外来	平成17年度	780	737	697	293	230
母乳外来	平成14年度	838	816	827	798	506
合計		3,781	3,853	3,794	3,277	2,426

Ⅲ　災害拠点病院

Ⅲ　災害拠点病院

１．指　定　要　件

当病院は平成 11 年 1 月 6 日から災害拠点病院の指定を受けており、群馬県内では、令和 4 年 3 月末現在で 17 病院が災害拠点病院となっている。

災害拠点病院は、災害が発生し、通常の医療体制では適切な医療確保が困難な場合に、都道府県知事の要請により傷病者の受け入れや医療救護班の派遣等を行う病院である。平成 7 年 1 月の阪神・淡路大震災を契機として、災害拠点病院の整備、広域災害・救急医療情報システム（ＥＭＩＳ）の整備、災害派遣医療チーム（ＤＭＡＴ）の養成等が行われてきた。平成 23 年 3 月の東日本大震災後、「災害時における医療体制の充実強化について」（平成 24 年 3 月 21 日 厚生労働省医政局長通知）により、災害指定病院の指定要件も見直しされ、災害医療体制の強化が図られている。

２．業　務　概　要

平成 22 年 12 月から DMAT 隊員及び関係部署職員で構成した災害医療ワーキングチームを立ち上げ、訓練の企画実施やマニュアルの進行管理など、災害医療活動の基盤強化を進めている。令和 3 年 10 月から災害医療活動委員会と発展的に改組し、その下にマネジメント小委員会、マニュアル小委員会、研修小委員会を設置し、多様化する災害に対応するため組織の強化を図った。

災害医療プロバイダーの養成数は、令和 4 年 3 月末で 196 人となっており、育成を進めるとともに、フォローアップ講習の開催など、習熟度の向上に努めていく。

今後も、関係機関と連携を図り、災害拠点病院としての使命を果たしていきたい。

３．群馬県内の災害拠点病院

区　分	病　院　名	所在地	二次医療圏
基　幹	前橋赤十字病院	前橋市	前橋市
地　域	群馬県済生会前橋病院	前橋市	前橋市
地　域	独立行政法人地域医療機能推進機構群馬中央病院	前橋市	前橋市
地　域	群馬大学医学部附属病院	前橋市	前橋市
地　域	独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター	高崎市	高崎・安中
地　域	医療法人社団日高会日高病院	高崎市	高崎・安中
地　域	独立行政法人国立病院機構渋川医療センター	渋川市	渋川
地　域	公立藤岡総合病院	藤岡市	藤岡
地　域	公立富岡総合病院	富岡市	富岡
地　域	原町赤十字病院	吾妻郡東吾妻町	吾妻
地　域	独立行政法人国立病院機構沼田病院	沼田市	沼田

区　分	病　院　名	所在地	二次医療圏
地　域	利根中央病院	沼田市	沼田
地　域	伊勢崎市民病院	伊勢崎市	伊勢崎
地　域	伊勢崎佐波医師会病院	伊勢崎市	伊勢崎
地　域	桐生厚生総合病院	桐生市	桐生
地　域	SUBARU 健康保険組合太田記念病院	太田市	太田・館林
地　域	公立館林厚生病院	館林市	太田・館林

４．ＤＭＡＴ活動

（１）設置目的

ＤＭＡＴ（Disaster Medical Assistance Team）とは主として超急性期の災害現場において、迅速性や機動性をもって医療活動をできる能力を持った医療チームであり、災害拠点病院は設置が義務づけられている。チームは医師・看護師・調整員の 4～5 名で活動することになっており、当病院は現在 2 チームが存在している。

東日本大震災の際には震災当日にいち早く被災地に出動し、被災地域の災害医療活動をサポートした実績を有し、また技能維持向上の目的で県内外の災害医療訓練に積極的に参加しており、群馬県の災害医療分野でその存在感は増している。

災害時にあっても市民・県民に医療サービスを途絶えることなく提供でき、安心安全を担保すること、これがＤＭＡＴ活動の目的である。

（２）活動の概要

①出動実績

平成 23 年

3 月 11～14 日　東日本大震災に出動（福島県及び宮城県）

3 月　24 日　福島県大町病院より広域医療搬送に出動（前橋市）

平成 28 年

5 月　9～13 日　平成 28 年熊本地震に出動（熊本県）

平成 30 年

1 月　23 日　本白根山噴火災害に出動（吾妻郡）

令和元年

9 月 11～13 日　千葉県風水害（台風 15 号）に出動（千葉県）

10 月　13 日　栃木県風水害（台風 19 号）に出動（栃木県）

10 月 14～15 日　長野県風水害（台風 19 号）に出動（長野県）

②訓練実績

平成 24 年

9 月　16 日　ビッグレスキューかながわ（神奈川県横須賀市）

11 月　9、10 日　ＤＭＡＴ関東ブロック実働訓練（茨城県日立市）

11 月　29 日　緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練（埼玉県入間市）

12 月　8 日　第 8 回群馬県災害医療研修（前橋赤十字病院）

平成 25 年

7 月　10 日　伊勢崎市 3 病院合同災害救護（伊勢崎市）

8 月	31 日	政府総合防災訓練における広域医療搬送訓練（愛知県）
9 月	7 日	群馬県総合防災訓練（伊勢崎市）
平成 26 年		
3 月	9 日	第 9 回群馬県災害医療研修（前橋赤十字病院）
8 月	30 日	政府総合防災訓練における広域医療搬送訓練（熊本県～大分県）
11 月	14 日	群馬県等関越自動車道等消防連絡協議会訓練（伊勢崎市）
11 月	29 日	ＤＭＡＴ関東ブロック実働訓練（群馬県）
平成 27 年		
9 月	1 日	平成 27 年度大規模地震時医療活動訓練（埼玉県）
10 月	3、4 日	第 12 回群馬県災害医療研修（前橋赤十字病院及び群馬県消防学校）
平成 28 年		
1 月	14 日	自衛隊航空機を使用したＤＭＡＴ広域医療搬送実機研修（群馬県）
1 月	30 日	ＤＭＡＴ関東ブロック実働訓練（東京都）
2 月	10 日	自衛隊航空機を使ったＤＭＡＴ広域医療搬送実機研修（埼玉県）
8 月	6 日	政府総合防災訓練における大規模地震時医療活動訓練（静岡県）
10 月	1、2 日	第 13 回群馬県災害医療研修（前橋赤十字病院及び群馬県消防学校）
11 月	9、10 日	上越新幹線救出救護活動合同訓練（群馬県）
平成 29 年		
1 月	15 日	捜索救助等連携訓練（渋川市）
3 月	4 日	伊勢崎市消防本部・総合演習（伊勢崎市）
7 月	29 日	政府総合防災訓練における大規模地震時医療活動訓練（大阪府）
9 月	29、30 日	第 2 回合同野営訓練（群馬県消防学校）
10 月	22、24 日	第 14 回群馬県災害医療研修（日本赤十字社群馬県支部）
平成 30 年		
2 月	10、11 日	ＤＭＡＴ関東ブロック実働訓練（栃木県）
8 月	4 日	政府総合防災訓練における広域医療搬送訓練（熊本県）
9 月	22、23 日	第 15 回群馬県災害医療研修（日本赤十字社群馬県支部）
10 月	19、20 日	第 3 回合同野営訓練（群馬県消防学校）
12 月	8、9 日	ＤＭＡＴ関東ブロック実働訓練（千葉県）
平成 31 年		
3 月	2 日	伊勢崎市消防本部・総合演習（伊勢崎市）
令和元年		
9 月	7 日	政府総合防災訓練における大規模地震時医療活動訓練（埼玉県）
令和 2 年		
1 月	23 日	自衛隊航空機を使ったＤＭＡＴ広域医療搬送実機研修（群馬県）

（３）今後の目標

災害は、東日本大震災のような巨大規模のものから、高速道路の多重事故のようなものまであり、いつ何時災害医療のニーズが発生してもおかしくない状況である。「災害に対する備えを怠ることは、既に災害が起きていることと同じである。」という格言もある。

今後も我々の活動を通して、災害医療活動の重要性が認知され病院全体が災害医療に取り組むマインドを創っていきたいと考えている。

Ⅳ　地域がん診療連携拠点病院

Ⅳ　地域がん診療連携拠点病院

１．がん診療連携拠点病院について

がん診療連携拠点病院とは、全国どこでも質の高いがん医療を提供することができるよう、全国にがん診療連携拠点病院として４０８箇所（都道府県がん診療連携拠点病院５１箇所、地域がん診療連携拠点病院（高度型）５５箇所、地域がん診療連携拠点病院２９３箇所、地域がん診療連携拠点病院（特例型）６箇所、特定領域がん診療連携拠点病院１箇所、国立がん研究センター２箇所）、地域がん診療病院を４５箇所、指定されている。（令和４年４月１日時点）

群馬県内では、群馬大学医学部附属病院が都道府県がん診療連携拠点病院として指定され、当病院を含む８病院が地域がん診療連携拠点病院の指定を受けている。

２．業務概要

当病院は、平成１８年８月２４日付けで厚生労働省から「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受け、平成２１年度に緩和ケア病棟、内視鏡センター、外来化学療法センターで構成される「がん診療総合センター」竣工。診断から治療、緩和医療に至るまでの一貫したがん医療を提供できる体制を整えた。さらに、平成２６年度から手術支援ロボットダヴィンチを導入し、泌尿器科領域（前立腺がん）に対する手術を開始。平成３０年度から外科領域の手術が保険適用となったことに伴い、外科領域の手術を行っている。地域の中核病院として、高度な医療水準をもって、安心安全な医療を提供している。

３．今後の目標

地域がん診療連携拠点病院として、地域の医療機関と連携した質の高い医療の提供、セカンドオピニオンの提示、緩和医療提供体制の充実、専門的な医療従事者の確保、地域の医療機関やがん患者からの相談体制の充実、院内がん登録の実施、がん医療従事者の研修、市民への啓発活動を行うとともに、伊勢崎保健医療圏におけるがん医療水準の向上を図っていきたい。

４．群馬県内のがん診療連携拠点病院

都道府県がん診療連携拠点病院	群馬大学医学部附属病院
地域がん診療連携拠点病院	前橋赤十字病院
地域がん診療連携拠点病院	独立行政法人国立病院機構　高崎総合医療センター
地域がん診療連携拠点病院	独立行政法人国立病院機構　渋川医療センター
地域がん診療連携拠点病院	公立富岡総合病院
地域がん診療連携拠点病院	伊勢崎市民病院
地域がん診療連携拠点病院	桐生厚生総合病院
地域がん診療連携拠点病院	群馬県立がんセンター
地域がん診療連携拠点病院	公立藤岡総合病院

※高度型、特例型、特定領域、地域がん診療病院、国立がん研究センターはなし。

５．院内がん登録件数

（１）腫瘍部位別・年齢別・性別・登録件数（期間　２０２１．１．１～１２．３１）

（単位 件）

腫瘍部位別	性別	登録件数	年齢階層																	
			0-4才	5-9才	10-14才	15-19才	20-24才	25-29才	30-34才	35-39才	40-44才	45-49才	50-54才	55-59才	60-64才	65-69才	70-74才	75-79才	80-84才	85-89才	90才以上
１、口唇・口腔及び咽頭	計	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	1	5	8	2	8	2
	男	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	3	4	1	5	2
	女	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	2	4	1	3	0
２、消化器	計	601	0	0	0	0	0	0	0	1	9	11	26	32	48	94	131	113	86	42	8
	男	409	0	0	0	0	0	0	0	1	5	9	18	25	28	64	96	83	48	30	2
	女	192	0	0	0	0	0	0	0	0	4	2	8	7	20	30	35	30	38	12	6
３、呼吸器系及び胸腔内臓器	計	189	0	0	0	0	0	0	1	2	3	6	3	6	11	20	53	40	28	13	3
	男	134	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5	2	3	11	15	34	30	19	11	2
	女	55	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	1	3	0	5	19	10	9	2	1
４、骨・関節・関節軟骨	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
５、造血系・細網内皮系	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
６、皮膚	計	61	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	5	5	8	8	8	14	9
	男	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4	3	5	4	6	7	2
	女	29	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	2	3	4	2	7	7
７、後腹膜・腹膜	計	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0
８、結合組織・皮下組織・軟部組織	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
９、乳房	計	150	0	0	0	0	0	0	3	2	9	17	16	13	16	12	22	14	14	8	4
	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	女	149	0	0	0	0	0	0	3	2	9	17	16	13	16	12	22	13	14	8	4
１０、女性性器	計	45	0	0	0	0	3	1	4	9	3	4	3	4	2	2	5	1	3	1	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	45	0	0	0	0	3	1	4	9	3	4	3	4	2	2	5	1	3	1	0
１１、男性性器	計	243	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	4	9	25	45	85	39	22	10	1
	男	243	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	4	9	25	45	85	39	22	10	1
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
１２、尿路	計	172	0	0	0	0	0	0	0	2	1	4	8	8	23	19	38	30	19	9	11
	男	129	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3	5	5	22	15	28	20	15	9	4
	女	43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	3	1	4	10	10	4	0	7
１３、眼・脳・中枢神経系	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
１４、甲状腺・その他の内分泌腺	計	24	0	0	0	0	0	1	0	1	6	0	1	3	4	2	2	2	2	0	0
	男	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0
	女	20	0	0	0	0	0	1	0	1	5	0	1	2	3	1	2	2	2	0	0
１５、その他・不明確な部位	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
１６、リンパ節	計	18	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	1	0	4	2	4	2	2	0
	男	11	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	1	3	2	1	0
	女	7	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	1	0	1	0
１７、原発部位不明	計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全体	計	1,538	0	0	0	1	3	2	9	18	35	44	62	81	136	204	352	259	187	107	38
	男	981	0	0	0	0	0	0	1	3	12	19	30	45	91	145	252	184	113	73	13
	女	557	0	0	0	1	3	2	8	15	23	25	32	36	45	59	100	75	74	34	25

1、本表は、2022年8月23日現在の登録済データで作成
2、腫瘍一種類につき一登録件数として計上

（２）腫瘍部位別・年別・性別・登録件数　（各年とも１．１～１２．３１）　（単位 件）

腫　瘍　部　位　別	性　別	登録件数				
		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
１、口唇、口腔及び咽頭	計	5	12	22	33	31
	男	3	7	17	29	17
	女	2	5	5	4	14
２、消化器	計	539	623	608	503	601
	男	352	393	403	321	409
	女	187	230	205	182	192
３、呼吸器系及び胸腔内臓器	計	170	158	185	164	189
	男	123	122	140	117	134
	女	47	36	45	47	55
４、骨・関節・関節軟骨	計	0	1	0	0	0
	男	0	1	0	0	0
	女	0	0	0	0	0
５、造血系・細網内皮系	計	4	3	2	1	0
	男	3	3	1	1	0
	女	1	0	1	0	0
６、皮膚	計	39	57	71	65	61
	男	23	28	34	28	32
	女	16	29	37	37	29
７、後腹膜・腹膜	計	2	0	2	2	3
	男	0	0	1	0	0
	女	2	0	1	2	3
８、結合組織・皮下組織・軟部組織	計	3	3	1	0	0
	男	2	2	1	0	0
	女	1	1	0	0	0
９、乳房	計	128	160	155	142	150
	男	0	2	1	1	1
	女	128	158	154	141	149
１０、女性性器	計	63	46	49	53	45
	男	0	0	0	0	0
	女	63	46	49	53	45
１１、男性性器	計	301	249	303	224	243
	男	301	249	303	224	243
	女	0	0	0	0	0
１２、尿路	計	205	199	176	178	172
	男	152	154	129	138	129
	女	53	45	47	40	43
１３、眼・脳・中枢神経系	計	9	17	7	3	0
	男	7	3	5	2	0
	女	2	14	2	1	0
１４、甲状腺・その他の内分泌腺	計	24	23	15	20	24
	男	7	6	3	6	4
	女	17	17	12	14	20
１５、その他・不明確な部位	計	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0
１６、リンパ節	計	10	2	11	9	18
	男	6	1	7	4	11
	女	4	1	4	5	7
１７、原発部位不明	計	6	11	2	10	1
	男	1	7	0	4	1
	女	5	4	2	6	0
全　　体	計	1,508	1,564	1,609	1,407	1,538
	男	980	978	1,045	875	981
	女	528	586	564	532	557

１、2021年は2022年8月23日現在の登録済データを基に作成
２、腫瘍一種類につき一登録件数として計上

６．相談支援センター相談件数

（1）がん診療相談内容

（単位　件）

区分＼年度	29	30	元	2	3
治療	256	276	154	3	6
検査	45	36	22	0	0
症状・副作用・後遺症	288	283	203	0	0
セカンドオピニオン（受入）	0	1	0	0	1
セカンドオピニオン（紹介）	3	2	3	0	1
治療実績	1	2	0	0	0
臨床試験・先進医療	4	2	1	0	0
受診方法・入院	3	2	3	4	1
転院	3	8	2	0	1
医療機関の紹介	4	1	1	0	0
予防・検診	9	54	66	1	0
在宅医療	1	0	1	3	10
ホスピス・緩和ケア	7	8	44	11	34
食事・服薬・入浴・運動・外出など	17	27	15	1	4
介護・看護・教育	5	2	3	5	2
社会生活（仕事・就労・学業）	55	71	43	2	2
医療費・生活費・社会保障制度	16	13	25	1	4
補完代替療法	0	0	3	0	0
生きがい・価値観	92	133	72	0	1
不安・精神的苦痛	415	518	583	5	8
告知	10	27	26	0	1
医療者との関係・コミュニケーション	21	34	76	1	2
患者ー家族間の関係・コミュニケーション	43	73	64	3	0
友人・知人・職場の人間関係・コミュニケーション	9	16	25	0	0
患者会・家族会（ピア情報）	17	6	8	0	0
不明	0	0	0	0	0
その他	4	6	12	3	0
合計	1,328	1,601	1,455	43	78

※令和２年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため電話のみの対応とした。

（2）対応内容

(単位　件)

区分＼年度	29	30	元	2	3
傾聴・語りの促進・支援的な対応	639	634	624	13	16
助言・提案	20	13	17	11	27
情報提供	23	7	14	18	34
自施設受診の説明	0	0	2	0	24
他施設受診の説明	0	0	0	0	1
自施設他部門への連携	3	0	3	4	5
他施設への連携	1	0	0	2	3
ピアサポート機能の紹介	0	0	0	1	0
その他	0	0	2	2	0
合計	686	654	662	51	110

（3）がんの種類別

(単位　件)

区分＼年度	29	30	元	2	3
脳・神経・眼	0	0	0	1	0
耳鼻咽喉・口腔	0	1	1	5	2
胃	53	33	23	0	4
食道	3	4	0	3	1
大腸	125	147	107	1	4
小腸・肛門	0	0	2	1	0
肝・胆	14	16	12	0	5
膵	48	27	63	3	7
肺	54	70	89	2	7
縦隔・心臓	0	0	0	6	0
乳房	224	172	191	0	7
卵巣・膣・外陰部	51	91	55	8	3
子宮	10	8	23	0	0
精巣	0	0	0	1	0
前立腺	18	25	14	0	3
腎・尿管・膀胱	29	25	23	4	5
甲状腺	6	5	3	2	1
副腎	0	0	0	0	0
血液・リンパ	2	3	2	0	1
皮膚	1	1	0	1	0
骨・軟部組織	0	0	0	0	0
後腹膜・腹膜	1	5	17	0	0
中皮腫	0	0	0	0	0
原発不明	0	1	0	0	0
不明	3	1	1	4	0
その他	2	0	0	0	3
合計	644	635	626	42	53

７．啓発事業（講演会）

年月日	項目	講師名	場所	参加者数
R4.2.1 ～ R4.2.28	市民公開講演会 「がんと共に生きる」	竹澤　豊 菅野　雅之 廣野　正法	オンデマンド開催	－

８．外来化学療法センター

（1）点滴実施件数

(単位　件)

診療科名	疾患名	29	30	元	2	3
内科	肺がん	417	398	572	533	673
	胃がん	204	140	78	117	121
	大腸がん	308	283	258	253	205
	胆・膵がん	317	265	228	189	281
	食道がん	13	19	5	1	0
	肝臓がん	－	－	－	25	123
外科	肺がん	160	209	173	164	142
	乳がん	850	791	806	837	1,040
	胃がん	201	151	125	170	172
	大腸がん	261	567	720	684	739
	食道がん	0	1	2	3	11
	胆・膵がん	193	222	180	34	92
婦人科	子宮がん	16	14	13	17	19
	卵巣がん	75	92	113	116	88
	腹膜がん	0	0	3	0	5
泌尿器科	前立腺がん	82	62	76	94	136
	腎がん	166	207	376	401	313
	膀胱がん	79	96	144	126	205
	尿路上皮がん	10	26	34	55	60
合計		3,352	3,543	3,906	3,819	4,425

※内科「肝臓がん」は令和２年度から統計開始

（2）皮下注射実施件数

(単位　件)

診療科名	疾患名	29	30	元	2	3
外科	乳がん	309	315	385	498	419
泌尿器科	前立腺がん	3,006	2,873	2,978	2,776	2,675
合計		3,315	3,188	3,363	3,274	3,094

９．緩和ケアチーム

（１）緩和ケアチーム依頼（依頼人数、実人数、初回依頼）　（単位　件，人）

区分 月	のべ件数	依頼人数	実人数	初回依頼
4 月	652	32	55	16
5 月	638	41	56	19
6 月	587	27	53	17
7 月	504	31	43	16
8 月	502	34	43	14
9 月	560	38	53	17
10 月	599	32	54	12
11 月	585	40	55	18
12 月	498	34	53	14
1 月	568	39	51	19
2 月	579	32	50	19
3 月	647	41	59	19
合計	6,919	421	625	200

Ⅴ　地域医療支援病院

Ⅴ　地 域 医 療 支 援 病 院

１．地域医療支援病院について

『地域医療支援病院』の役割は、「かかりつけ医」からの紹介患者に対する医療の提供、医療機器の共同利用、救急医療の提供及び医療従事者の研修を行うことです。

２．紹介患者に対する医療の提供

区　　分		29	30	元	2	3
紹介患者に対する医療の提供	紹介率	81.1%	83.8%	88.1%	81.2%	83.6%
	逆紹介率	92.0%	93.2%	99.3%	95.9%	103.4%
医療機器の共同利用（CT・MRI・RI）		685 件	680 件	466 件	381 件	433 件
救急医療の提供		16,721 人	16,862 人	16,283 人	12,250 人	12,317 人
医療従事者の研修	研修回数	43 回	40 回	33 回	6 回	16 回
	参加人数	2,292 人	2,575 人	1,438 人	220 人	475 人

３．連携登録医療機関

区　　分	29	30	元	2	3
登録医療機関数	543 施設	572 施設	579 施設	601 施設	613 施設
登録医師数	648 人	678 人	688 人	717 人	730 人

４． 地域医療連携業務統計

（1）紹介の状況

①診療科別紹介患者数

（単位　人，%）

年度 / 診療科	29		30		元		2		3	
	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比
内科	4,437	95.9	4,770	107.5	5,059	106.1	4,383	86.6	4,443	101.4
精神科	3	60.0	1	33.3	1	100.0	5	500.0	3	60.0
脳神経内科	211	180.3	298	141.2	310	104.0	295	95.2	344	116.6
循環器内科	980	102.7	978	99.8	991	101.3	990	99.9	1,030	104.0
小児科	2,202	103.0	2,165	98.3	2,180	100.7	1,436	65.9	1,733	120.7
外科	1,211	111.0	1,235	102.0	1,349	109.2	1,182	87.6	1,339	113.3
整形外科	1,263	109.3	1,487	117.7	1,417	95.3	1,178	83.1	1,289	109.4
脳神経外科	274	74.1	219	79.9	126	57.5	85	67.5	92	108.2
心臓血管外科	695	128.5	691	99.4	682	98.7	499	73.2	562	112.6
皮膚科	662	108.3	817	123.4	866	106.0	697	80.5	690	99.0
泌尿器科	2,366	108.5	2,432	102.8	2,649	108.9	2,554	96.4	2,804	109.8
産婦人科	1,005	92.9	986	98.1	891	90.4	811	91.0	759	93.6
眼科	455	105.6	406	89.2	302	74.4	284	94.0	326	114.8
耳鼻咽喉科	1,451	94.5	1,624	111.9	1,454	89.5	1,199	82.5	1,346	112.3
放射線科	724	97.2	712	98.3	481	67.6	395	82.1	467	118.2
病理診断科	0	0	0	0	0	0	0	0	1	皆増
麻酔科	22	129.4	18	81.8	22	122.2	13	59.1	31	238.5
歯科口腔外科	1,081	100.6	1,399	129.4	1,531	109.4	1,408	92.0	1,622	115.2
緩和ケア内科	50	106.4	44	88.0	45	102.3	33	73.3	45	136.4
救急科	31	67.4	34	109.7	33	97.1	27	81.8	35	129.6
合計	19,123	101.9	20,316	106.2	20,389	100.4	17,474	85.7	18,961	108.5
1日平均		78.4		83.3		85.0		71.9		78.4
紹介率		81.1		83.8		88.1		81.2		83.6

※紹介率算定式

$$\frac{\text{紹介患者数}}{\text{初診患者数－救急車搬送患者数－休日・夜間受診患者数}} \times 100$$

（2）逆紹介の状況

①診療情報提供書作成数の状況

（単位　人，%）

年度 / 診療科	29		30		元		2		3	
	逆紹介数	前年比	逆紹介数	前年比	逆紹介数	前年比	逆紹介数	前年比	逆紹介数	前年比
内科	3,750	89.5	3,841	102.4	4,215	109.7	3,833	90.9	4,013	104.7
精神科	66	38.2	38	57.6	46	121.1	52	113.0	32	61.5
脳神経内科	399	224.2	551	138.1	508	92.2	491	96.7	465	94.7
循環器内科	846	100.6	837	98.9	782	93.4	1,089	139.3	1,078	99.0
小児科	357	87.3	505	141.5	388	76.8	307	79.1	464	151.1
外科	1,236	89.4	1,362	110.2	1,496	109.8	1,438	96.1	1,747	121.5
整形外科	1,340	108.2	1,487	111.0	1,540	103.6	1,362	88.4	1,417	104.0
脳神経外科	514	72.0	485	94.4	320	66.0	60	18.8	69	115.0
心臓血管外科	577	139.4	609	105.5	551	90.5	512	92.9	689	134.6
皮膚科	486	98.6	703	144.7	656	93.3	533	81.3	522	97.9
泌尿器科	2,387	111.9	2,545	106.6	2,646	104.0	2,740	103.6	3,091	112.8
産婦人科	552	89.9	461	83.5	474	102.8	438	92.4	491	112.1
眼科	568	93.4	738	129.9	416	56.4	207	49.8	399	192.8
耳鼻咽喉科	624	81.7	840	134.6	679	80.8	416	61.3	474	113.9
放射線科	751	98.4	727	96.8	514	70.7	417	81.1	492	118.0
麻酔科	16	145.5	12	75.0	9	75.0	1	11.1	5	500.0
歯科口腔外科	1,062	124.1	927	87.3	1,364	147.1	1,081	79.3	1,478	136.7
緩和ケア内科	10	43.5	19	190.0	25	131.6	26	104.0	32	123.1
救急科	252	74.3	222	88.1	298	134.2	211	70.8	202	95.7
合計	15,793	97.8	16,909	107.1	16,927	100.1	15,214	89.9	17,160	112.8
1日平均		64.7		69.3		70.5		62.6		70.9
逆紹介率		92.0		93.2		99.3		95.9		103.4

※逆紹介率算定式

$$\frac{\text{逆紹介患者数}}{\text{初診患者数}-\text{救急車搬送患者数}-\text{休日・夜間受診患者数}}\times 100$$

②地域連携クリニカルパスの状況　（新規算定数）

（単位　人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
大腸がん	4	3	2	3	2	2	6	5	6	5	4	3	45
乳がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
胃がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
前立腺がん	11	7	10	10	11	10	10	4	14	9	13	10	119
腎臓がん	2	2	1	3	0	4	4	3	2	1	1	2	25
大腿骨	2	0	2	0	1	2	2	0	2	2	1	1	15
脳卒中	0	2	0	0	1	2	0	0	1	1	1	1	9
CKD	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

Ⅵ　入退院支援センター

Ⅵ. 入退院支援センター

1．業務概要

入退院支援センターは、入院する患者及びその家族に入院前から関わり退院を見据えた相談支援を行うことで、安心して入院生活を送ってもらえるように患者サービスの向上に努めている。また、入院・外来を問わず疾病に関する医学的な質問並びに生活上及び入院上の不安等様々な相談を受けている。患者支援の充実のため、医療ソーシャルワーカー、看護師、管理栄養士、事務員等多職種の職員を配置している。

2．業務統計

（1）入院支援業務

①患者数

（単位　人，%）

区分＼年度	29		30		元		2		3	
	人数	前年比	人数	前年比	人数	前年比	人数	前年比	人数	前年比
新規	3,572	116.2	4,734	132.5	7,791	164.6	7,105	91.2	7,536	106.1
継続	4,779	116.5	1,726	36.1	1,981	114.8	1,386	70.0	1,918	138.4
合計	8,351	116.4	6,460	77.4	9,772	151.3	8,491	86.9	9,454	111.3
延べ人数	11,206	107.0	8,634	77.0	12,015	139.2	10,579	88.0	11,835	111.9

②援助内容別件数

（単位　件，%）

区分＼年度	30	元		2		3	
	件数	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比
術前支援	8,273	9,110	110.1	7,869	86.4	9,053	115.0
入院時問診	4,680	5,236	111.9	4,568	87.2	4,757	104.1
褥瘡に関する危険因子の評価	2,545	5,203	204.4	4,550	87.4	4,740	104.2
栄養状態の評価	4,603	5,201	113.0	4,550	87.5	4,740	104.2
服薬中の薬剤の確認	6,461	7,808	120.8	6,779	86.8	7,422	109.5
退院困難な要因の評価	3,872	5,212	134.6	4,551	87.3	4,740	104.2
在宅サービス利用の把握	3,956	4,526	114.4	3,695	81.6	4,340	117.5
治療・検査説明（パス説明）	4,175	5,705	136.6	5,211	91.3	7,732	148.4
入院生活の説明（オリエンテーション）	4,701	7,562	160.9	6,931	91.7	7,137	103.0
合計	43,266	55,563	128.4	48,704	87.7	54,661	112.2

③加算件数

（単位　件，%）

区分＼年度	30	元		2		3	
	件数	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比
入院時支援加算	171	294	171.9	341	116.0	658	193.0

④科別件数

（単位　件，%）

診療科＼年度	29		30		元		2		3	
	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比
内科	853	1609.4	1,039	121.8	2,249	216.5	2,042	90.8	2,245	109.9
精神科	0	－	0	－	0	－	0	－	0	－
脳神経内科	0	－	17	皆増	95	558.8	67	70.5	108	161.2
循環器内科	0	－	108	皆増	414	383.3	405	97.8	401	99.0
小児科	0	－	0	－	53	皆増	53	100.0	51	96.2
外科	1,675	105.5	1,255	74.9	1,649	131.4	1,321	80.1	1,700	128.7
整形外科	590	92.3	635	107.6	734	115.6	722	98.4	808	111.9
脳神経外科	0	－	0	－	1	皆増	0	皆減	1	皆増
心臓血管外科	531	143.5	460	86.6	488	106.1	342	70.1	347	101.5
皮膚科	0	－	68	皆増	191	280.9	187	97.9	148	79.1
泌尿器科	3,278	109.0	1,792	54.7	2,298	128.2	1,860	80.9	2,106	113.2
産婦人科	647	105.0	293	45.3	553	188.7	558	100.9	522	93.5
眼科	0	－	1	皆増	52	520.0	97	186.5	174	179.4
耳鼻咽喉科	777	86.1	618	79.5	814	131.7	584	71.7	630	107.9
放射線科	0	－	0	－	2	皆増	2	100.0	3	150.0
麻酔科	0	－	0	－	1	皆増	1	100.0	0	皆減
歯科口腔外科	0	－	174	皆増	145	83.3	195	134.5	133	68.2
緩和ケア内科	0	－	0	－	6	皆増	37	616.7	64	173.0
救急科	0	－	0	－	0	－	0	－	0	－
その他	0	－	0	－	27	皆増	18	66.7	13	72.2
合計	8,351	116.4	6,460	77.4	9,772	151.3	8,491	86.9	9,454	111.3

（2）相談窓口業務

業務内容別件数

（単位　件，%）

区分＼年度	29		30		元		2		3	
	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比
限度額認定証説明	1,445	90.6	1,614	111.7	5,825	360.9	5,505	94.5	5,387	97.9
介護保険説明	35	62.5	39	111.4	24	61.5	16	66.7	22	137.5
入院に関すること	9	180.0	10	111.1	18	180.0	52	288.9	101	194.2
退院に関すること	7	43.8	14	200.0	12	85.7	7	58.3	7	100.0
経済問題に関すること	59	67.0	65	110.2	39	60.0	40	102.6	19	47.5
在宅療養に関すること	32	110.3	35	109.4	38	108.6	22	57.9	37	168.2
治療等に関すること	31	81.6	35	112.9	20	57.1	17	85.0	14	82.4
各種制度に関すること	480	135.6	523	109.0	77	14.7	109	141.6	88	80.7
接遇に関する要望等	75	1500.0	41	54.7	39	95.1	47	120.5	36	76.6
その他・案内等	217	44.6	224	103.2	90	40.2	49	54.4	49	100.0
合計	2,390	89.4	2,600	108.8	6,182	237.8	5,864	94.9	5,760	98.2

（3）退院支援業務

①相談件数

（単位　件，%）

区分＼年度	29		30		元		2		3	
	件　数	前年比	件　数	前年比	件　数	前年比	件　数	前年比	件　数	前年比
新　規	5,467	125.2	6,010	109.9	5,976	99.4	6,682	111.8	7,881	117.9
延べ件数	9,939	118.6	10,786	108.5	10,622	98.5	11,775	110.9	12,971	110.2

②診療科別件数

（単位　件，%）

診療科＼年度	29		30		元		2		3	
	件　数	前年比	件　数	前年比	件　数	前年比	件　数	前年比	件　数	前年比
内　科	2,015	112.3	2,348	116.5	2,341	99.7	2,735	116.8	3,360	122.9
精神科	3	75.0	4	133.3	0	皆減	0	－	0	－
脳神経内科	257	421.3	408	158.8	387	94.9	246	63.6	317	128.9
循環器内科	390	143.9	355	91.0	330	93.0	599	181.5	556	92.8
小児科	85	173.5	141	165.9	132	93.6	145	109.8	141	97.2
外　科	377	115.3	455	120.7	467	102.6	552	118.2	902	163.4
整形外科	955	144.3	991	103.8	1,029	103.8	961	93.4	983	102.3
脳神経外科	327	70.5	219	67.0	10	4.6	7	70.0	3	42.9
心臓血管外科	328	145.1	270	82.3	285	105.6	292	102.5	338	115.8
皮膚科	12	80.0	27	225.0	34	125.9	45	132.4	51	113.3
泌尿器科	341	158.6	354	103.8	413	116.7	414	100.2	464	112.1
産婦人科	173	184.0	195	112.7	243	124.6	318	130.9	302	95.0
眼　科	0	－	3	皆増	5	166.7	2	40.0	0	皆減
耳鼻咽喉科	13	52.0	22	169.2	21	95.5	16	76.2	39	243.8
放射線科	0	－	0	－	0	－	1	皆増	0	皆減
麻酔科	0	皆減	2	皆増	3	150.0	4	133.3	2	50.0
歯科口腔外科	1	6.7	3	300.0	1	33.3	4	400.0	1	25.0
緩和ケア内科	180	134.3	209	116.1	261	124.9	317	121.5	402	126.8
救急科	7	100.0	4	57.1	13	325.0	24	184.6	20	83.3
その他	3	皆増	0	皆減	1	皆増	0	皆減	0	－
合　計	5,467	125.2	6,010	109.9	5,976	99.4	6,682	111.8	7,881	117.9

※「その他」は受診せず相談のみを示す。

③加算等算定件数

（単位　件，％）

区分＼年度	29		30		元		2		3	
	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比
入退院支援加算１	1,899	111.4	1,929	101.6	1,942	100.7	2,636	135.7	3,879	147.2
介護支援連携指導料	568	91.9	574	101.1	430	74.9	148	34.4	96	64.9
退院前訪問指導料	－	－	6	皆増	6	100.0	6	100.0	0	皆減

④援助内容件数

（単位　件，％）

区分＼年度	29		30		元		2		3	
	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比
退院援助	5,960	124.3	6,443	108.1	6,128	95.1	6,581	107.4	6,119	93.0
在宅療養援助	625	86.8	492	78.7	518	105.3	684	132.0	885	129.4
経済的問題援助	200	121.2	250	125.0	146	58.4	173	118.5	299	172.8
制度利用援助	1,271	90.2	1,395	109.8	1,140	81.7	1,265	111.0	1,394	110.2
特定妊婦に関する援助	388	皆増	408	105.2	428	104.9	442	103.3	529	119.7
要保護児童及び虐待に関する援助	436	皆増	441	101.1	268	60.8	371	138.4	230	62.0
その他	552	96.3	602	109.1	452	75.1	392	86.7	349	89.0
合計	9,432	123.1	10,031	106.4	9,080	90.5	9,908	109.1	9,805	99.0

⑤転院先内訳

（単位　件，％）

区分＼年度	29		30		元		2		3	
	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比
一般病床	127	162.8	171	134.6	171	100.0	125	73.1	115	92.0
回復期リハビリテーション病棟	202	93.5	196	97.0	259	132.1	183	70.7	180	98.4
地域包括ケア病床	166	296.4	154	92.8	172	111.7	172	100.0	189	109.9
療養病床	83	85.6	85	102.4	57	67.1	102	178.9	62	60.8
精神科病床	8	61.5	13	162.5	11	84.6	23	209.1	13	56.5
緩和ケア病床（他院）	3	300.0	0	皆減	2	皆増	2	100.0	0	皆減
介護老人保健施設	100	113.6	82	82.0	77	93.9	72	93.5	92	127.8
施設（老健以外）	163	194.0	157	96.3	109	69.4	182	167.0	164	90.1
合計	852	134.6	858	100.7	858	100.0	861	100.3	815	94.7

（4）外来患者支援ボランティア活動状況

①活動人数等

（単位　人，日）

区分＼年度		29		30		元		2		3	
		人数	前年比増減	人数	前年比増減	人数	前年比増減	人数	前年比増減	人数	前年比増減
新規活動登録者		7	6	4	△3	7	3	0	皆減	0	－
活動中止者		6	5	6	0	8	2	8	0	6	△2
年度末現在登録者数		34	1	32	△2	31	△1	23	△8	17	△6
男女別	男	6	1	5	△1	7	2	5	△2	4	△1
	女	28	0	27	△1	24	△3	18	△6	13	△5
平均年齢（歳）		68.1	△1.0	68.1	0	70.9	2.8	71.5	0.6	71.4	△0.1
ボランティア活動日数		240	△5	244	4	217	△27	0	皆減	0	－
平均（人／日）		4.1	△0.4	4.3	0.2	4.1	△0.2	0.0	皆減	0	－

②活動内容

（単位　回，%）

区分＼年度	29		30		元		2		3	
	回数	前年比	回数	前年比	回数	前年比	回数	前年比	回数	前年比
車椅子提供	4,015	99.2	3,585	89.3	3,029	84.5	0	皆減	0	－
介助	1,881	129.0	1,687	89.7	1,356	80.4	0	皆減	0	－
受付支援	2,177	115.4	1,903	87.4	1,639	86.1	0	皆減	0	－
その他	1,846	92.7	1,947	105.5	1,706	87.6	0	皆減	0	－
合計	9,919	105.7	9,122	92.0	7,730	84.7	0	皆減	0	－

※「その他」は車椅子の点検やカートの貸し出し等を示す。

※令和２年度・令和３年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のためボランティア活動は実施せず。

Ⅶ　チ ー ム 医 療

Ⅶ　チ ー ム 医 療

１．院内褥瘡対策委員会

（１）設置目的

当病院における褥瘡の発生及び悪化を予防するための適切な評価とケアを提供することが目的である。

（２）活動の概要

「院内褥瘡対策マニュアル」に基づいて、院内褥瘡対策を実践している。入院時に危険因子の評価を行い、圧迫やずれの排除を行いながら予防に努めている。また、医師、看護師、薬剤師で構成する褥瘡対策チームが、毎月、第 2、4、5 火曜日に全病棟の褥瘡回診を行っている。除圧方法、体圧分散寝具の確認、栄養状態、スキンケア方法、リハビリテーションの確認を行って治療方針を決定するとともに、DESIGN-R®2020 に基づいた褥瘡の評価を実施している。毎月開催する院内褥瘡対策委員会および院内褥瘡対策小委員会においては、適宜、褥瘡対策・予防に関する調査、勧告、分析や情報提供を行っている。さらに、褥瘡対策の基本的な考え方について職員への周知徹底を図ることを目的に、新規採用職員の就職時初期研修、DESIGN-R®2020 についての研修や全職員対象の研修を開催している。また、必要に応じて、院内褥瘡対策マニュアルの改訂、褥瘡委員会ニュースの発行を行い、全職員に対しての啓発活動を行っている。体圧分散寝具および体圧分散クッションは一部中央管理とし、使用状況の確認を行いながら各病棟での過不足を解消するようにアレンジを行い、故障時や破損時の対応も委員会で行っている。

（３）今後の目標

褥瘡ケアの質の向上をはかるために、各自が専門家として自己研鑽を行い、褥瘡推定発生率・有病率の低下を目指すとともに、予防的スキンケアの定着、DESIGN-R®2020 の普及、院内褥瘡対策マニュアルの改訂、体圧分散寝具および体圧分散クッションの整備に努め、褥瘡予防を的確に行えるような体制の構築に努めていく。

（田村　敦志）

２．ＮＳＴ委員会

（１）設置目的

平成 24 年 4 月から、すべての入院患者に栄養管理を行う事が必須となった。その中で栄養状態に問題がある人を特別な栄養管理が必要として、栄養士が中心になって重点的に管理するようになった。ＮＳＴは、Nutrition Support Team の略称で、さらに栄養状態に問題がある人を対象として、多職種で最善の策を考えるものである。

（２）活動の概要

ＮＳＴは、平成16年12月から活動を開始し、当院は平成17年10月に日本静脈経腸栄養学会「ＮＳＴ稼働施設認定」、平成18年9月に日本栄養療法推進協議会「ＮＳＴ稼働施設認定」を取得した。

メンバーは、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、言語聴覚士で構成されており、栄養状態の改善が必要な患者を対象に、週1回のカンファレンスや回診を行い、栄養評価を実施し主治医へ報告・栄養管理方法の提案をしている。また、勉強会などを開催して、栄養管理に関する新しい知識の紹介や啓発を行っている。栄養管理という治療の土台を理解し実践することで、患者さんの治癒に貢献できるよう努めている。

（３）今後の目標

当病院の栄養管理をさらに充実させるべく、新しい栄養管理の情報を効率よく集めて院内に伝達普及し、また、院内での経験を蓄積し、定期的に院外の研究会等で報告する活動を行っていきたい。

（富澤　直樹）

３．緩和ケアチーム

（１）設置目的

当病院では平成 14 年 12 月に緩和ケア推進委員会が発足し、平成 15 年 2 月から緩和ケアチームの活動を開始した。

何らかの疾患を有して、身体的、精神的、社会的苦痛やスピリチュアルペインを有する入院中の患者を対象としている。

それらの患者やその家族に組織横断的に介入することで、患者、家族、医療スタッフの抱える問題を解決するための援助を行う事が目的である。

また、その活動を通じて院内の緩和ケア知識、技術の均てん化も図っている。

（２）活動の概要

緩和ケアチームの活動は 19 年目を迎え、スタッフは身体面担当医師（廣野）、専従看護師（五十嵐）、臨床心理士（神山）の 3 名となった。

令和 3 年 4 月から令和 4 年 3 月までの緩和ケアチームへの依頼は、延べ 421 人（前年度 549 人）であった。

チーム活動としては医師、専従看護師、臨床心理士の 3 人で行ってきた。

毎週月・水・木曜日に一般病棟をチームで訪問する多職種合同カンファレンスを行っており、年間 938 件（前年度 999 件）実施した。

緩和看護外来は年間で 58 件（前年度 76 件）の相談に対応した。

病棟主催のデスカンファレンスには緩和ケアチームとして 4 回（前年度 7 回）参加した。

（３）今後の目標

これまでと同様、病院内外の緩和ケアのレベルアップに尽力する。

（廣野　正法）

４．クリニカルパス委員会

（１）設置目的

医療の標準化の重要性が見直されている今日、患者ケアの質向上と効率化という、ある面で相反する目標を追求する効果的な医療手段としてクリニカルパスがある。

クリニカルパスとは、患者の状態と診療行為の目標、評価及び記録を含む標準診療計画であり、標準からの偏位を分析することで医療の質を改善する手法である。

クリニカルパスを効果的に運用するためには、医師・看護師・管理栄養士・理学療法士等、患者も含めた全ての医療に関わる人がチームとして一体となった医療が最も必要とされ、現在は地域の医療機関との連携も非常に重要になっている。

チーム医療によるクリニカルパス手法の更なる普及を目指し、患者中心の医療・ケアにさらに貢献したいという願いから設置された。

（２）活動の概要

①クリニカルパスの確認、承認

②院内講演会・院内クリニカルパス大会の開催

③日本クリニカルパス学会、日本医療マネジメント学会及び群馬クリニカルパス研究会などの各種学会・研究会への発表・参加

これらの活動を通してクリニカルパスに関する院内の啓発活動、院内におけるパスの推進を図っている。

地域の医療機関とも連携し、内科・脳神経内科・外科・整形外科・脳神経外科・泌尿器科で地域連携クリニカルパスの運用を行っている。

（３）今後の目標

スタッフの負担を軽減し、患者により良い医療を提供できるクリニカルパスの作成を目指したい。今後も研究を重ね、地域連携クリニカルパスを充実させ、地域の医療機関との連携にも努めていきたい。

（悦永　徹）

５.感染対策／抗菌薬適正支援チーム（ＩＣＴ／ＡＳＴ）

（１）設置目的

伊勢崎市民病院会議設置要綱に則し、病院および地域の感染管理活動推進を目的に設置。医師１名、看護師６名（うち感染管理認定看護師２名）、薬剤師２名（うち認定感染制御薬剤師１名）、検査技師２名（うち感染制御認定微生物検査技師２名）の感染管理の知識・技術を習得した 11 名で構成されている。

（２）活動の概要

耐性菌分離率、医療関連感染発生率等のサーベイランスやラウンド等を行う事で医療関連感染に関する情報を収集し、抗菌薬適正使用を含む感染症診療の援助、職員教育、マニュアル整備・見直し、職業感染対策、ファシリティマネジメント、コンサルテーション等の感染対策を推進している。ICT 活動の中心は、毎日の細菌等情報を検討するミーティングや週 1 回行われるカンファレンス、目的別に行われるラウンド、定期開催の地域カンファレンスなどである。多職種が各々の専門性を発揮し参加している。

2015 年 5 月に世界保健機関（WHO）総会で薬剤耐性に関する国際行動計が採択された。日本でも 2016 年～2020 年の 5 年間で薬剤耐性（AMR）対策アクションプランが計画され、2018 年 4 月より抗菌薬適正使用支援チームが新設された。MRSA を含む耐性菌の多くが市中での保菌であり、目標達成には地域全体での抗菌薬適正使用の推進が必要である。その活動の一端として、伊勢崎地域感染対策地域カンファレンス（IICC）を開催している。伊勢崎佐波及び本庄より計 9 病院および伊勢崎保健福祉事務所が参加し、地域での抗菌薬適正使用に取り組んでいる。また、感染対策の遵守状況を評価する相互ラウンドを継続して実施している。今後も参加医療機関の拡大を目指しながら感染対策の地域連携を強化していく。

（３）今後の目標

チームメンバーの各自が専門家として自己研鑽を行い、能力を発揮し、様々な感染対策をバランス良く行う事で医療関連感染と薬剤耐性菌の低減を目指す。また、他医療チームや部門、地域との連携を推進する事で病院内外の感染対策の質を高めていく。

（上野　敬史）

６．認知症ケアチーム

（１）設置目的

入院による環境の変化は、認知症の有無にかかわらず容易に高齢者の精神機能に支障を生じ、不穏状態、異常行動、意思疎通困難などを引き起こしうる。これらの状況は適切な医療処置や看護に重大な支障を来すことが予想される。本チームは患者の精神状態や異常行動などを把握・評価し、安心・安全な入院生活を送れるよう適切な対処法を提案することを目的に平成 29 年 2 月に設置された。

（２）活動の概要

本チームのスタッフは、認知症に関する専門的な研修を受けた医師、看護師、作業療法士、管理栄養士、薬剤師、社会福祉士などで構成されている。

精神・行動異常を呈する患者を対象に、週１回の回診とカンファレンスを行うことでその時点で最善と考えられる対処法を関係職員に提供している。さらに、週 4 回の集団レクリエーションも実施している。

また、年１回の病院全体研修のほか、看護師のみを対象とした研修を行い、認知症患者のケアに対する知識と理解を深める取組を継続して行うことで、入院生活の質の向上を図っている。

（３）今後の目標

認知症や高齢患者に対するケア・治療について院内職員に適切なアドバイスができるよう、チーム各自が研鑽を重ねる。

院内職員に定期的な研修を行うことで認知症について理解を深め、病院全体で安心・安全な入院生活を患者に提供できる体制の構築に努める。

（櫻井　篤志）

７．排尿ケアチーム

（１）設置目的

排尿に関するケアに係る専門的知識を有した多職種からなるチームであり、医師及び看護師等が連携し、患者の排尿自立の可能性及び下部尿路機能の評価に合わせた排尿誘導等の保存療法、リハビリテーション、薬物療法等を組み合わせ、下部尿路機能の回復のための包括的なケアを実施することを目的とする。

（２）活動の概要

排尿ケアチームは、手術、もしくは何らかの理由により尿道留置カテーテルが挿入となった患者に対し、早期の排尿自立を目指し活動している。尿路感染症対策、残尿測定、患者が在宅で行う自己導尿の指導、排尿ケアに関する排尿ケアマニュアルの整備及び見直しを行い職員への周知を図っている。また、職員の排尿ケアへの意識・知識の向上に繋がるよう、全職員を対象とした研修会を開催している。

メンバーは、医師、看護師、薬剤師、理学療法士で構成されており、排尿ケアが必要な患者を対象に週１回のカンファレンスと回診を行い、２箇月に１回、看護師を中心として排尿ケアに関するミーティングを行っている。

（３）今後の目標

排尿ケアの質の向上を図るために各自が専門家として自己研鑽を行い、様々な症例への対応を重ね、患者にとって的確な排尿ケアを行える体制を維持し、充実していくことを目指す。

患者が安心して日常生活が送れるよう、チームのみならず病院全体としても排尿ケアに対する知識、意識の向上を図り、的確なケア体制の構築に努めていく。

得られた知見を病院内外に発信する。

（竹澤　豊）

Ⅷ　経 営 状 況

Ⅷ 経 営 状 況

1．損 益 計 算 書

（単位　千円，％）

年度 / 科目	29		30		元		2		3	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
医業収益	13,890,935	100.3	14,477,057	104.2	14,846,739	102.6	13,664,534	92.0	14,592,694	106.8
入院収益	9,409,151	100.0	9,766,882	103.8	9,964,387	102.0	9,061,395	90.9	9,310,857	102.8
外来収益	3,977,695	101.4	4,192,251	105.4	4,376,999	104.4	4,198,217	95.9	4,755,612	113.3
その他医業収益	504,089	97.5	517,924	102.7	505,353	97.6	404,922	80.1	526,225	130.0
医業外収益	489,237	87.8	461,181	94.3	475,732	103.2	2,209,183	464.4	2,317,054	104.9
他会計補助金	343,059	97.2	330,207	96.3	322,481	97.7	312,119	96.8	294,823	94.5
その他医業外収益	146,178	71.7	130,974	89.6	153,251	117.0	1,897,064	1,237.9	2,022,231	106.6
特別利益	0	－	0	－	0	－	254,625	皆増	0	皆減
収入計	14,380,172	99.8	14,938,238	103.9	15,322,471	102.6	16,128,342	105.3	16,909,748	104.8
医業費用	13,883,817	101.1	14,380,341	103.6	14,905,874	103.7	14,767,604	99.1	15,212,490	103.0
給与費	7,188,579	99.7	7,419,818	103.2	7,699,849	103.8	7,699,084	100.0	7,676,001	99.7
材料費	3,950,957	104.5	4,205,223	106.4	4,467,242	106.2	4,276,207	95.7	4,632,547	108.3
経費	1,770,874	100.7	1,853,261	104.7	1,854,555	100.1	1,910,631	103.0	1,958,852	102.5
減価償却費	847,543	92.4	836,125	98.7	831,692	99.5	782,025	94.0	868,113	111.0
その他医業費用	125,864	190.7	65,914	52.4	52,536	79.7	99,657	189.7	76,977	77.2
医業外費用	700,851	100.5	742,320	105.9	814,896	109.8	866,397	106.3	917,357	105.9
支払利息及び企業債取扱諸費	204,333	91.2	187,178	91.6	169,895	90.8	152,259	89.6	134,306	88.2
その他医業外費用	496,518	104.9	555,142	111.8	645,001	116.2	714,138	110.7	783,051	109.6
特別損失	0	－	0	－	0	－	254,625	皆増	0	皆減
支出計	14,584,668	101.1	15,122,661	103.7	15,720,770	104.0	15,888,626	101.1	16,129,847	101.5
収支差引	△204,495	5.7	△184,423	90.2	△398,299	216.0	239,716	△60.2	779,901	325.3

2．貸借対照表

（単位　千円，％）

年度 / 科目	29		30		元		2		3	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
固定資産	12,852,717	98.1	12,765,382	99.3	12,626,993	98.9	12,640,146	100.1	12,558,583	99.4
有形固定資産	11,251,499	97.2	11,164,164	99.2	11,025,775	98.8	11,238,928	101.9	10,957,365	97.5
土地	1,454,320	100.0	1,454,320	100.0	1,454,320	100.0	1,454,320	100.0	1,454,320	100.0
償却資産	31,927,939	99.8	32,274,473	101.1	32,741,099	101.4	32,291,647	98.6	32,155,198	99.6
減価償却累計額（△）	22,159,315	101.1	22,593,184	102.0	23,198,199	102.7	22,543,532	97.2	22,680,708	100.6
建設仮勘定	0	皆減	0	－	0	－	7,938	皆増	0	皆減
その他有形固定資産	28,555	100.0	28,555	100.0	28,555	100.0	28,555	100.0	28,555	100.0
無形固定資産	1,108	100.0	1,108	100.0	1,108	100.0	1,108	100.0	1,108	100.0
投資その他の資産	1,600,110	104.7	1,600,110	100.0	1,600,110	100.0	1,400,110	87.5	1,600,110	114.3
流動資産	9,176,902	102.2	8,904,431	97.0	8,969,959	100.7	9,068,616	101.1	10,099,730	111.4
現金預金	6,789,300	104.6	6,433,284	94.8	6,430,257	100.0	5,916,369	92.0	6,456,965	109.1
未収金	2,261,863	95.9	2,341,433	103.5	2,405,393	102.7	2,998,587	124.7	3,455,177	115.2
貯蔵品	103,215	90.7	108,257	104.9	112,878	104.3	129,249	114.5	168,087	130.0
有価証券	3,000	100.0	3,000	100.0	3,000	100.0	3,000	100.0	3,000	100.0
前払金	19,524	105.6	18,457	94.5	18,431	99.9	21,411	116.2	16,501	77.1
資産合計	22,029,619	99.8	21,669,813	98.4	21,596,952	99.7	21,708,762	100.5	22,658,313	104.4
固定負債	9,947,139	94.3	9,271,128	93.2	8,697,546	93.8	8,076,759	92.9	7,616,034	94.3
企業債	8,042,042	91.7	7,300,405	90.8	6,601,214	90.4	5,851,809	88.6	5,242,839	89.6
リース債務	10,147	52.0	5,773	56.9	1,382	23.9	0	皆減	12,413	皆増
引当金	1,894,950	107.4	1,964,950	103.7	2,094,950	106.6	2,224,950	106.2	2,360,782	106.1
退職給付引当金	1,881,000	107.4	1,951,000	103.7	2,081,000	106.7	2,211,000	106.2	2,346,832	106.1
修繕引当金	13,950	100.0	13,950	100.0	13,950	100.0	13,950	100.0	13,950	100.0
流動負債	2,541,041	108.3	2,502,081	98.5	2,856,178	114.2	2,678,873	93.8	2,695,493	100.6
企業債	824,474	92.0	841,637	102.1	899,191	106.8	958,005	106.5	1,050,370	109.6
リース債務	10,838	62.8	4,374	40.4	4,391	100.4	1,382	31.5	3,164	228.9
未払金	1,217,105	125.6	1,159,441	95.3	1,453,489	125.4	1,213,070	83.5	1,149,956	94.8
引当金	430,236	107.2	439,465	102.1	441,678	100.5	445,655	100.9	430,487	96.6
その他流動負債	58,388	94.2	57,164	97.9	57,429	100.5	60,761	105.8	61,516	101.2
繰延収益	12,136	52.2	15,034	123.9	11,884	79.0	102,356	861.3	104,057	101.7
資本金	12,437,420	104.8	12,974,110	104.3	13,522,183	104.2	10,611,058	78.5	11,223,112	105.8
自己資本金	12,437,420	104.8	12,974,110	104.3	13,522,183	104.2	10,611,058	78.5	11,223,112	105.8
剰余金	△2,908,117	107.6	△3,092,540	106.3	△3,490,839	112.9	239,716	△ 0.1	1,019,617	425.3
資本剰余金	0	－	0	－	0	－	0	－	0	－
利益剰余金	△2,908,117	107.6	△3,092,540	106.3	△3,490,839	112.9	239,716	△ 0.1	1,019,617	425.3
負債資本合計	22,029,619	99.8	21,669,813	98.4	21,596,952	99.7	21,708,762	100.5	22,658,313	104.4

3．経　営　分　析

（1）経 営 分 析

項目		年度	29	30	元	2	3
財務比率	(1)流動比率（%）	流動資産／流動負債×100	361.1	355.9	314.1	338.5	374.7
	(2)自己資本比率（%）	自己資本／総資本（負債資本合計）×100	56.5	59.9	62.6	48.9	49.5
	(3)固定比率（%）	固定資産／自己資本×100	103.3	98.4	93.4	119.1	111.9
	(4)現金比率（%）	現金預金／流動負債×100	267.2	257.1	225.1	220.9	239.5
	(5)自己資本構成比率（%）	自己資本金＋剰余金／総資本（負債資本合計）×100	43.3	45.6	46.4	50.0	54.0
	(6)固定資産構成比率（%）	固定資産／固定資産＋流動資産＋繰延勘定×100	58.3	58.9	58.4	58.0	55.2
収支比率	(7)総収支比率（%）	総収益／総費用×100	98.6	98.8	97.5	101.5	104.8
	(8)経常収支比率（%）	経常収益／経常費用×100	98.6	98.8	97.5	101.5	104.8
	(9)医業収支比率（%）	医業収益／医業費用×100	100.1	100.7	99.6	92.5	95.9
	(10)給与費比率（%）	給与費／医業収益×100	51.8	51.3	51.9	56.3	52.6
	(11)材料費比率（%）	材料費／医業収益×100	28.4	29.0	30.1	31.3	31.7
	(12)経費比率（%）	経費／医業収益×100	12.7	12.8	12.5	14.0	13.4
	(13)減価償却費比率（%）	減価償却費／医業収益×100	6.1	5.8	5.6	5.7	5.9
生産性指標	(14)入院患者1人1日当たり診療収入（円）	入院収益／年延入院患者数	62,980	65,605	67,603	69,741	71,369
	(15)外来患者1人1日当たり診療収入（円）	外来収益／年延外来患者数	19,187	19,629	20,735	22,102	23,688
	(16)100床当たり職員数（人）	年度末職員数（会計年度含む）／一般病床数（４９０床）×100	192.9	192.9	192.4	193.5	196.5
	(17)100床当たり医師数（人）	年度末医師数（会計年度含む）／一般病床数（４９０床）×100	22.4	22.4	24.9	26.3	25.3
	(18)100床当たり看護師数（人）	年度末看護師数（会計年度含む）／一般病床数（４９０床）×100	108.8	108.8	105.9	104.7	105.5

（２）医業収益に対する費用の割合

（単位　千円，％）

年度 / 科目	29		30		元		2		3	
	金額	率	金額	率	金額	率	金額	率	金額	率
医業収益	13,890,935	100.0	14,477,057	100.0	14,846,739	100.0	13,664,534	100.0	14,592,694	100.0
病院事業費用	14,584,667	105.0	15,122,661	104.5	15,720,770	105.9	15,888,626	116.3	16,129,847	110.5
医業費用	13,883,817	99.9	14,380,341	99.3	14,905,874	100.4	14,767,604	108.1	15,212,490	104.2
給与費	7,188,579	51.8	7,419,818	51.3	7,699,849	51.9	7,699,084	56.3	7,676,001	52.6
材料費	3,950,957	28.4	4,205,223	29.0	4,467,242	30.1	4,276,207	31.3	4,632,547	31.7
経費	1,770,874	12.7	1,853,261	12.8	1,854,555	12.5	1,910,631	14.0	1,958,852	13.4
減価償却費	847,543	6.1	836,125	5.8	831,692	5.6	782,025	5.7	868,113	5.9
その他医業費用	125,864	0.9	65,914	0.5	52,536	0.4	99,657	0.7	76,977	0.5
医業外費用	700,850	5.0	742,320	5.1	814,896	5.5	866,397	6.3	917,357	6.3
特別損失	0	—	0	—	0	—	254,625	1.9	0	—

Ⅸ　業 務 概 要

Ⅸ 業 務 概 要

医療部

内 科

1．スタッフ

病院長、医療副部長１名、診療部長４名、医長 10 名、医員５名　計 21 名。

2．業務の現況

⑴ 外来：一般内科及び専門外来（消化器、肝臓、喘息呼吸器、甲状腺、糖尿病、腎臓）を設け診療している。

⑵ 入院：8B（主に呼吸器、肝臓病、内分泌・代謝）、9B（主に消化器）病棟に各専門分野の医師を配置した。また、新型コロナウイルス感染患者にも対応した。

⑶ 救急：内科は救急医療における中核的な役割を担っている。通常勤務時間は救急当番を配置。夜間・休日の宿日直は1、2 年次研修医に指導医として３年次以上の内科医が加わり、3-4 人体制で診療を行った。

⑷ 内視鏡センター：経鼻内視鏡、小腸内視鏡、カプセル内視鏡、ＮＢＩ内視鏡を導入している。内視鏡的早期胃癌切除術、ポリープ切除術、胆管結石除去術など内視鏡的治療も積極的に行っている。消化器内視鏡年間実績は観察＋処置で計 10,897 件であった。

呼吸器では超音波気管支内視鏡（EBUS）や局所麻酔下胸腔鏡検査も行っている。気管支内視鏡年間実績は 150 件であった。

⑸ 外来化学療法センター：肺癌、膵癌、胃癌、大腸癌を中心に外来化学療法を行っている。

⑹ 研修：初期臨床研修における内科系研修では、循環器、内分泌・代謝、消化器、肝臓、呼吸器、神経の各分野をローテート。プライマリーケアから専門分野まで幅広く研修できるようにした。また、全人的な診療を身につけてもらうために、患者のすべての問題点を抽出できるよう指導した。内科専攻医を対象とした内科専門研修カリキュラムでは、総合内科専門医を目標に、内科疾患をくまなく研修できるよう配慮した。また、専門的な検査・治療手技の研修も積極的に指導した。

3．今後の目標

⑴ 地域の基幹病院として他の医療機関との連携を推進し、役割分担を図る。

⑵ 確実で安全な救急医療を提供する。

⑶ 適切で効率的な医療のために、evidence に基づいた医療を実践し、各種ガイドライン、クリニカルパスの活用を図る。

⑷ 臨床研修の根幹をなすのは内科である。研修指導を通して診療レベルの向上を目指すとともに、地域医療に貢献できる医師を育成したい。

⑸ シニアレジデントの教育に力を注ぎ、学会発表や論文執筆を積極的に指導する。

（石原　真一）

精神科

1．スタッフ

非常勤医師 3 名（火･水･木曜日に各１名ずつ）、看護師 1 名の計４名。

2．業務の現況

他科からの院内コンサルトの増加傾向および、長期的な常勤医師不在を鑑み、院内コンサルトを中心に対応している。

⑴ コンサルテーション･リエゾン：当院他診療科の入院患者について、院内紹介への対応を行っている。

主な依頼内容は、下記のとおりであった。

・せん妄や認知症への対応、神経疾患に付随する精神症状への対応

・がんの告知や積極的治療の中止に際したメンタルサポートに代表される、身体疾患の罹患･進行に伴う不安、不眠、抑うつ等への対応

・精神疾患合併ケースの身体加療中の併診、周術期の薬物

調整

・精神疾患の有無についての評価

(2)外来：外来初診の新規受け入れは停止している。

(3)研修：臨床研修医に対して、研修１年目に１ヶ月間の精神科研修を協力病院にて行った。また、当院で開催される緩和ケア研修会でファシリテーターを務めている。

３．今後の目標

(1)業務を院内コンサルトに特化し当院他科入院中の精神症状・精神疾患に対する治療的介入および心理ケアに注力することで、身体加療が滞りなく進むよう図る。

(2)精神症状を呈する患者のケアにあたるスタッフに対して支援者支援を行う。特に、緩和ケアや小児、周産期などの領域でスタッフとの連携に努める。

(3)令和２年度の医師臨床研修制度改定で、精神科研修が必修化された。精神科研修を通して、患者を生物学的・心理的・社会的側面から多面的にとらえるという精神科診療の特性を経験してもらい、全人的医療の視点を養う一助となるよう努める。

（須田　真史）

脳神経内科

１．スタッフ

常勤医師３名、非常勤医師１名。

２．業務の現況

外来診療：一般外来は月曜日は終日、それ以外の平日は午前中に行っている。紹介患者を原則とするが、可能な限り紹介状をお持ちにならない患者にも対応するよう心がけている。さらに月曜日の午後には物忘れ外来を開設している。

入院診療：３名の常勤医師が担当している。週１回のカンファレンスのほか、診断、治療に関する偏りや漏れを防ぐため、毎朝ミーティングを行うことで各患者の診療方針を確認している。

脳血管障害のほか、てんかん、中枢神経感染症、自己免疫性神経疾患、神経変性疾患など、バリエーションに富んだ入院患者に対応している。

特に末梢神経や筋を対象にした電気生理学的検査は他施設と比較しても件数が多い。

３．今後の目標

(1) 病診連携を進め、神経救急疾患を積極的に受け入れる。

(2) 外来では特に変性疾患患者およびその家族に対して充分な診療時間を確保したい。

(3) 研修医の診療能力向上に寄与する。

(4) 積極的に症例報告を行う。

（櫻井　篤志）

循環器内科

１．スタッフ

令和３年度も常勤医師５名体制に変更はなかった。主任診療部長１名、医長３名、医員１名で外来診療、病棟診療、検査業務を行った。また、金曜日午前中の再診外来と木曜日の午後の不整脈外来を非常勤医師（群馬大学循環器内科より）に、毎週木曜日の経食道心エコー検査と心臓カテーテル検査を元常勤医師にお願いしている。

２．業務の現況

外来診療は月曜日から金曜日まで午前に再診と初診の外来を行っている。（ただし、水曜日は初診外来なし）また、木曜日の午後に不整脈外来を行っている。

入院患者は 5 名の常勤医師で担当している。主治医制をとっているが、カンファレンス等を通して、できるだけ全員が全患者を把握するように努めている。

循環器内科として施行している、特殊検査・治療として、心臓カテーテル検査、冠動脈や末梢動脈のカテーテル治療、ペースメーカーの植え込みなどがある。令和３年度は、血管造影室を用いた検査および治療の総数が、753 件（前年度 789 件）であった。内訳は、心臓カテーテル検査が 426 件（同 433 件）、冠動脈の血管内治療が 215 件（同 228 件）、ペースメーカー植え込みが 62 件（同 61 件）であった。また、冠動脈内の高度石灰化病変を切削するロータブレーターを 16 件施行。シャント及び下肢 PTA は 37 件施行した。

令和３年 12 月から心臓血管外科と協働で TAVI（経カテーテル大動脈弁置換術）を開始し７件施行した。TAVI は今まで

開胸手術が困難であった高齢者やフレイル患者にとって非常に有効な治療となっている（群馬県内2病院のみTAVI可能）。

３．今後の目標

⑴ 引き続き患者に必要で適切な検査や治療を、過不足なく行うことを心がけていきたい。

心臓血管外科を院内に有する、県内では数少ない施設のひとつであり、外科的治療も含めたうえでの、バランスの良い診療・治療を行っていくことを目標としている。

⑵ 研修医の教育はもちろんであるが、3～5年目ぐらいの若い循環器内科医の教育にも力を注いでいく。臨床医としての能力を向上させるだけでなく、臨床研究や学会発表、論文作成などを行う素養も育てていきたい。

（樋口　京介）

小児科

１．スタッフ

副院長１名・常勤医師５名・非常勤医師１名

２．業務の現況

外来業務は、午前中は主に一般診療を、午後には専門外来を行っている。小児科の一般診療としては、開業医からの紹介患者、学校健診や乳児健診等で問題となった児を中心に、急性疾患も含めて診療にあたっている。専門外来としては、喘息アレルギー外来を前田、今井、徳永（7月まで）、神経発達外来を緒方（非常勤医師）、内分泌外来を髙野と小針、その他慢性疾患外来を山口と土橋が担当し、多種の疾患に対応した。さらに、予防接種外来を水曜日に、パリビズマブ投与を木曜日に、乳児健診を金曜日に実施し、予防医療にも努めた。平均外来患者数は一日60名前後であったが、RS流行期となった7～8月は90名前後となった。

入院業務は、未熟児新生児室と小児一般病棟とに分けられる。入院患者数は、未熟児新生児が年間約120名、疾患とすると1,500ｇ～2,300ｇ前後の低出生体重児、呼吸障害や黄疸、初期嘔吐などである。一般小児病棟は年間約600名で、肺炎、気管支炎、喘息、胃腸炎、尿路感染症などの急性疾患が多数を占めている。そのため在院日数は平均6日前後と非常に短い。一方、長期入院を必要とする疾患は、川崎病やネフローゼ症候群、神経疾患、糖尿病などがあり、3週間以上の入院を必要とする学齢期の患者は、院内の赤城特別支援学校に転校し、勉強の遅れを心配せず治療に専念できる体制ができている。院内学級は、3週間以内の入院患者についても、床上学習で対応可能である。

小児科診療は、感染症の流行により、患者数がかなり変動するのが特徴である。令和3年度は、新型コロナウイルス感染対策の影響で、他の感染症が減少している状態が続いていたが、6月後半からRSウイルス感染症の流行を認めた。そのため、外来入院ともに患者数が急増し、年間の一般入院患者数は、令和2年度の約2倍となった。川崎病は、患者数は少ないものの、年間を通してみられた。急性胃腸炎や発熱に伴うケトン血性嘔吐症など消化器症状の入院患者は例年通りであった。

３．今後の目標

平成19年度末から当病院小児科が中心となり、伊勢崎佐波子ども健康増進研究会を設立した。この会を中心に、養護教諭や保育士、保護者に対する啓発活動として、年1回の講演会を実施しているが、令和3年度は令和2年度に続き新型コロナの影響で中止となった。また、毎年保育園等に出張して行っていた、感染症、救急、アレルギー等についての講演も実施できなかった。今後も、子どもの病気に関して啓発活動を継続していく必要があるため、早期に再開できるよう検討中である。

また、当病院は小児の内分泌代謝疾患を専門とする医師が2名いて、県内の小児内分泌疾患の中核病院となっている。新生児先天性代謝異常等の検査で異常値を認めた場合の精査加療依頼にも対応しており、今後もこの体制を維持していく。予防医学に関しては、定期接種ワクチンに加え、任意接種となっているムンプスのワクチンも積極的に行っている。年々ワクチンが増えて、予防可能な疾患が増えていくことは喜ばしいことである。ただ、それとともに接種スケジュールがとても難しくなってきているため、複数ワクチンの同時接種を行っている。今後も積極的に予防接種を進めていくつもりである。

（髙野　洋子）

外　科

１．スタッフ

8 名の診療部長を含む 12 名の常勤医師と 1 名の非常勤医師で診療を行った。

２．業務の現況

外来は紹介型外来である。外来業務は、午前中 3-4 診の専門外来と 1 診の予約初診外来、午後には 2-4 診の専門外来を行っている。また、ストーマや乳腺における心身の諸問題に対して看護外来を設け患者 QOL の向上を図っている。

手術は水曜日の午後以外は全日手術を行っており、年間の手術件数は 1,000 件を超えている。従来の開腹・開胸手術から最近は内視鏡手術が増加しており、さらにロボット手術を導入しており、最新の治療法を常に提供するように努めている。

水曜日午後には全員で術前カンファレンスを行い、全症例の検討を行っている。また、毎日当番医により回診/包交が行われているが、月曜日と水曜日には主任部長が回診/包交を行っている。

外科ではチーム医療やクリニカルパスを推進しており、多職種とともに周術期管理を行う、キャンサーボードで治療方針を決める、地域連携を推進するなど、安全で適切な医療が提供できるように努めている。

３．今後の目標

(1) 最新の治療法や手技を学び、高度で安全な外科診療を行うとともに、胃がん、大腸がん及び肺がんに対してはロボット手術を積極的に行う。

(2) 紹介や逆紹介を通して地域医療機関との連携を強化し、地域医療に貢献する。

(3) 外科系医師の減少を鑑みて、若い外科医の育成に努める。

（保田　尚邦）

整形外科

１．スタッフ

常勤医師６名、非常勤医師２名で診療を行った。

２．業務の現況

四肢と脊椎に対し、外傷及び変性疾患の治療を行った。

外傷に対しては、救急外来経由又は一般外来経由で対応した。

変性疾患に対しては、特殊外来にて対応した。

特殊外来

小児股関節外来（ 田中 ）
成人股関節外来（ 田中、割田、九嶋 ）
膝関節外来　　（ 佐藤 ）
脊椎外来　　（ 飯塚、小林 ）

手術は月、火、水、金に定期手術を行い、救急患者に対する手術は適宜この枠に割り振り対応した。

３．今後の目標

(1) 新たな診断法、治療法を展開していくこと。

(2) 予約患者は、ほぼ予約時間通りに診察を開始することができるようになった。紹介患者の待ち時間も短縮されてきた。しかし、救急患者が搬送されてきた時、初診外来が混みあった時など、外来の流れに支障がでることがあった。人員配分に工夫を加え（人員増員も含め）、一般外来の流れがなるべく途切れないような対応を考えている。

(3) 病診･病病連携をより充実させていくこと。

(4) 若手医師の育成にも力を注いでいくこと。

（田中　宏志）

脳神経外科

１．スタッフ

群馬大学からの非常勤医師で診療を行った。

２．業務の現況

外来診療は群大医師が火曜日の午後、水曜日の午前と金曜日の午後に行った。

３．今後の目標

引き続き、他科や地域医療機関と連携して外来診療を行っていきたい。

（堀口　桂志）

心臓血管外科

１．スタッフ

副院長１名、主任診療部長１名、診療部長２名、医長２名、と非常勤医師１名の総勢７名体制にて診療にあたった。令和３年10月から、後期研修を他病院で行っていた山口医師が当病院に赴任し、総勢８名となった。臨床工学技士６名で体外循環や人工呼吸器および血液浄化等の業務を担当した。

２．業務の現況

再診外来は原則火曜日の午後週１回で４診体制（大林、大木、安原、小此木、三木又は長澤）、初診と術前は大林、大木が月、水、金曜日の午前中に診察にあたった。また、静脈瘤外来を金曜日午前に平井が専任で担当した。術前自己血貯血は可能な限り外来で実施している。

入院患者は全て循環器センター（6階A病棟）に入院した。

定期手術は月、水、木、金の週４日で、体外循環心大血管手術や冠動脈バイパス術は主に月・木曜日に実施し、水、金曜日はその他の開心術またはステントグラフト治療を主とする大動脈血管内治療を始めとした動脈疾患の手術日とした。静脈瘤手術は全例TLA麻酔のため、他の手術とは独立して木曜の午前中に２例施行した。体外循環手術と心拍動下冠動脈バイパス手術および胸部大動脈手術の合計は182例であった。開心術の内訳は虚血性心疾患が30例、急性大動脈解離を含んだ胸部大動脈瘤が37例、弁膜症手術は43例であった。令和３年12月16日に経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）の１例目を施行し、令和４年３月31日までに７例施行した。胸部大動脈瘤の手術は90例であった。ステントグラフト治療では胸部及び腹部の総数107例行い、胸部（ＴＥＶＡＲ）は43例で、腹部（ＥＶＡＲ）は64例であった。下肢静脈瘤の血管内焼灼術は72例施行した。術後管理は、ＩＣＵ入室中は当科でＩＣＵ管理を行い、土・日曜日も全て病棟で引き続き重症管理を行った。

３．今後の目標

大動脈弁狭窄症に対するTAVIの治療を開始し、現在良好な成績を収めている。今後も時代に即した最先端の技術・手術を取り入れ、患者さんへの負担を軽減し、安全で質の高い治療の提供を目指していきたい。

（大木　聡）

皮膚科

１．スタッフ

常勤医師３名で診療を行った。外来看護師は１名である。

２．業務の現況

外来診療は、毎週月曜日から金曜日の午前中に一般外来を行い、初診、予約外、一般予約患者の診療を行った。午後は院内往診、特殊検査（皮膚生検、パッチテストなど）、術前説明を行い、手術を火曜日、水曜日、金曜日に、そしてレーザー外来（しみ、青あざ、茶あざなど）を木曜日にそれぞれ行った。また、褥瘡回診を第２、４、５火曜日に行った。

入院は６階B病棟（整形外科・歯科口腔外科・皮膚科混合）を中心として、治療を行った。

３．今後の目標

スタッフが患者の信頼に応えられるよう、新たな知識や技術の向上に努め、よりよい医療を提供できるようにしたい。また、病院の性格上、開業医からの紹介患者も多い。地域における連携を密にして、入院外来問わず、皮膚疾患の診断や治療を行えるように、更に努力していきたい。

（田村　敦志）

泌尿器科

１．スタッフ

病院事業管理者、副院長１名、診療部長３名、医長１名、医員２名の８名で診療を行った。

２．業務の現況

外来診療では、午前に新患予約外、再診の２診で診療を行い、患者の増加に対応し火曜、木曜、金曜は３診で行っている。さらに、専門外来として腫瘍・免疫、腎腫瘍を行っている。午後は、排尿機能外来、腎外来、前立腺外来、ＣＡＰＤ（持続携帯腹膜透析）外来、術前説明外来、地域連携パス外来などの専門外来を行っている。

1 日平均の外来患者は115.6 人、入院患者は30.2 人、平均在院日数は7.4 日であった。結石破砕、前立腺生検は当日入院、翌日退院として在院日数の短縮に努めている。平均在院日数は15 年連続で10 日を切っている。

腎センターでは 28 台の透析装置を稼動している。持続携帯腹膜透析は１人に施行している。

手術件数は1,201 件であった。患者への負担が少ない腹腔鏡手術を積極的に行っている。更により侵襲性の低いロボット支援手術を前立腺全摘術 113 件、腎部分切除術 40 件、膀胱全摘術 12 件、腎尿管全摘術 31 件、前立腺癌に対する密封小線源療法も 19 件施行した。レーザー前立腺摘出術（ＨＯＬＥＰ）も 43 件施行した。内視鏡による結石破砕を 113 件行った。

地域連携パスとしては、前立腺がんパス、腎がんパス、保存期腎不全パスを運用している。

３．今後の目標

コメディカルスタッフとともに入院前から退院後を含めた途切れのない良質な診療を提供したい。

地域連携パスを充実させ、地域の先生方と共に患者の診療にあたりたいと考えている。

また、患者に侵襲の少ない腹腔鏡手術、特にロボット支援手術を更に広めていきたいと考えている。

（齋藤　佳隆）

産婦人科

１．スタッフ

常勤医師４名、非常勤医師６名で診療を行った。

２．業務の現況

日常勤務は、外来診療、病棟回診、分娩、手術、人間ドックに分けられる。外来は、午前に産科外来・婦人科外来として３診で行い、午後の月、火、木曜日に特殊外来、金曜日に産科外来を行った。また、助産師外来を午前に、母乳外来を午後に行った。病棟回診は曜日毎に病棟担当医を決めて行い、さらに医師全員で夕方に回診を行った。

令和３年度の分娩件数は290 件であった。また、他の医療機関からのハイリスク妊娠の紹介や母体搬送もあり、緊急帝王切開も多く行っているのが現状である（3 年度帝王切開103 件、緊急帝王切開 47 件）。

予定手術は、月曜日の午後と水・木・金曜日の午前・午後に行い、それ以外の緊急手術も多数あった。令和３年度の手術件数は301 件で、そのうち子宮頚癌、子宮体癌、卵巣癌などの悪性腫瘍手術は10 件であった。

人間ドックは12 時前後に検診センターで行った。

３．今後の目標

産婦人科は女性にとって受診しにくい科の一つであるが、気軽にかかれる産婦人科、安心してかかれる産婦人科を目指して努力していきたい。

（狩野　智）

眼　科

１．スタッフ

非常勤医師、看護員１名、視能訓練士２名で診療を行った。

２．業務の現況

令和３年度は、月曜日から水曜日まで週３日外来を行い、月曜日の午後に手術を行った。外来の１日平均人数は20～30人であり、月曜日は２診体制、火･水曜日は１診体制で診療を行った。

白内障、糖尿病網膜症、緑内障、網膜動静脈閉塞症、網膜裂孔などの治療、その他全身疾患に合併した眼病の治療を行った。

進行した糖尿病網膜症に対してはレーザー光凝固療法による治療を行った。治療時期を逸すると予後不良であるため、早期発見が重要であり、糖尿病と診断されたら眼症状がなくても定期検査を受けるよう説明している。

緑内障の視野障害は慢性に経過し、自覚症状に乏しいものがあるが、視神経の詳細な評価、光干渉診断計による神経菲薄化の評価、自動視野計による精密な視野検査を行うことで早期発見、治療を目指している。緑内障は慢性疾患のため長期の治療が必要であり、患者の負担を考え、診断後は地域のかかりつけ眼科で治療継続をお願いした。

白内障手術に関しては、小切開の安全で侵襲の少ない手術となっているが、術後に思わぬトラブルを引き起こす可能性もあるため、術前の説明には十分に時間をかけるよう心がけている。また、乱視補正のためのトーリック眼内レンズを導入し、より患者にメリットのある治療が可能となった。基本は入院での手術を行っているが、患者の希望により、日帰り手術も行った。

加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症、近視性脈絡膜新生血管、糖尿病黄斑浮腫に対して、抗VEGF薬の硝子体注射の治療を行っている。近年、この治療はかかりつけ医院でも普及してきており、当科で治療が安定した患者は、治療が可能なかかりつけ眼科へ治療をお願いしている。

斜視弱視に関してはベテランの視能訓練士２名を擁しており、きめ細かいフォローを行っている。

地域の中核病院であるため開業医からの紹介も含め入院治療の必要な疾患にも出来る限り対応しているが、非常に進行した糖尿病網膜症や緑内障、重症な網膜剥離などは早急にしかるべき治療の出来る病院に紹介している。

３．今後の目標

かかりつけ眼科との連携を充実させて、患者負担の少ない医療を行っていきたい。

（斉藤　千真）

耳鼻咽喉科

１．スタッフ

常勤医師３名で診療を行っている。看護スタッフは看護員３名で、患者介助や器械整備などの業務を行っている。また、事務員（会計年度任用職員）が２名おり、カルテや書類の処理を行っている。

２．業務の現況

月・火・水・金曜日の午前中に一般外来を行っている。全て紹介状持参の患者のみの受付である。

火・水曜日の午後、木曜日の午前・午後は手術を行っている。火曜日の午前は、外来で手術説明を行っている。

月・金曜日の午後は特殊外来としており、生理検査や小手術等を行っている。特殊外来の枠で、穿刺吸引細胞診、ＡＢＲなどを行っている。

補聴器外来は、補聴器の適応、機種の選択・調整などを行っている。

主な手術は、慢性副鼻腔炎に対する内視鏡手術や慢性扁桃炎に対する扁桃摘出など、良性疾患に対する手術を行っている。

３．今後の目標

地域の医師との連携を強化し、入院治療の充実・手術件数の増加および、外来診療密度の増加を図りたい。

（川田　倫之）

リハビリテーション科

１．スタッフ

科長（脳神経内科主任診療部長）１名、リハビリ処方医16名（整形外科医、内科医、外科医、心臓血管外科医、循環器内科医、脳神経内科医）、理学療法士14名（老健勤務１名含む）、作業療法士６名（老健勤務１名含む）、言語聴覚士５名（老健勤務１名含む）、事務員（会計年度任用職員）３名、計45名。

２．業務の現況

病院の作業療法士１名の老健ひまわりへの半日兼務については令和３年度も継続となったため、実質の病院リハビリスタッフ数は、理学療法士13名、作業療法士4.5名、言語聴覚士４名であった。

また、老健ひまわりは、理学療法士１名、作業療法士2.5名（会計年度任用職員0.5人×２名を含む）、言語聴覚士１名の勤務体制でリハビリ業務を行った。

当院は公立の急性期病院であるため、在院日数短縮のためにも早期リハビリ開始、早期離床が何よりも重要である。また、短い入院期間の中で効果的なリハビリテーションを行うには計画的で効率的なリハビリテーションの実施が必要となる。

現在、外科系は術前ないし術直後から、内科系も入院当日からリハビリ処方されることが多くなっている。

また、今年度からは日曜日並びに祝祭日勤務（但し対象患者を限定）を開始した結果、土曜日には、理学療法士３名、作業療法士１名、言語聴覚士１名の計５名が、日曜日は理学療法士のみ３名、祝祭日は理学・作業療法士各１名が勤務しリハビリ開始の遅延の防止や連続性を確保するためリハビリテーションを提供している。

安全なリハビリテーションを実施するため、各病棟で開催されているカンファレンスに積極的に参加し、病棟と一致した目標に向けて廃用の予防改善や病棟での日常生活動作の拡大などを図っている。

また、転院時には地域の転院先病院に向けてリハビリ経過報告書を作成し、院内のリハビリ状況と必要な医事データを報告し、転院先においても同じ目標に向けた継続性のあるリハビリテーションが可能となるよう情報の提供を行っている。

引き続き、患者本位のリハビリテーションが展開されるよう業務形態の改善に努力したい。

３．今後の目標

限られた入院期間の中でリハビリ効果を上げるためには、リハビリ連続性の確保が重要となる。今年度から日曜日・祝祭日リハビリ診療を開始したが、マンパワー不足のため日曜日は理学療法のみしか対応できていない。今後も更なるマンパワーの増加を目指し、途切れのない急性期リハビリの連続性を確保したい。

また、病院に併設された訪問看護ステーションにはまだリハビリスタッフが勤務していない。今後、在宅でのリハビリにも幅広く介入し、急性期から維持期まで関われる勤務体制の準備を進めたい。

（後藤　雄一）

放射線診断科

１．スタッフ

常勤医師３名、非常勤医師５名。

２．業務の現況

令和 3 年度の当科で扱った検査は CT　20,639 件、MRI 6,463 件、核医学　1,022 件であった。

CT ガイド下生検／ドレナージ、CV ポート挿入、血栓溶解術、出血の止血術などの IVR も当科の業務とされている。令和３年度は 137 件の実施。伊勢崎佐波医療圏では IVR に対応できる施設は当院のみであるが、IVR はパート医師に依頼しており、緊急対応は原則不可であった。常勤の IVR 専門医を招聘することが喫緊の課題であるが、専門医は非常に少なく安定した人材の確保は困難を極める。

放射線診断科は病院の中央部門である中央放射線科と連携し、画像診断装置の整備や画像検査の管理も行っている。令和３年度は、医療被曝管理、施設の放射線業務従事者の被曝管理も行っている。

３．今後の目標

(1) 老朽化した血管撮影装置の更新。

(2) 人手不足対策として子育て中の潜在医師の活用。テレワークを可能とする働き方改革の推進。在宅読影のための端末整備。

（山﨑　郁郎）

放射線治療科

１．スタッフ

常勤医師１名、非常勤医師４名、診療放射線技師４名（放射線治療専門放射線技師１名、医学物理士１名、放射線取扱主任免状者１名を含む）、看護師１名で診療を行った。

２．業務の現況

種々の悪性腫瘍と一部の良性疾患に対して、X線による外部照射および小線源治療を行った。令和３年度の新規患者数は281人であった。

原発巣別の患者数としては、脳・脊髄腫瘍０人、頭頸部腫瘍(甲状腺を含む) 13人、食道がん10人、肺がん・気管・縦隔腫瘍66人、乳がん83人、肝・胆・膵臓11人、胃・小腸・結腸・直腸がん14人、婦人科腫瘍２人、泌尿器系腫瘍74人(前立腺癌Ｉ-125 小線源療法19人)、造血器リンパ系腫瘍６人、皮膚・骨・軟部腫瘍ｉ人、その他１人、良性疾患０人であった。

令和３年度は、左乳がん術後照射に対する呼吸性移動対策として深吸気位息止め照射を開始し14例に実施した。

骨転移への集学的治療を円滑に行う目的で、多診療科・多職種で構成する骨転移診療チームが令和３年度に設立された。コアメンバーは、放射線診断医、整形外科医、放射線治療医、緩和ケア科医、がん専門看護師、外来看護師、理学・作業療法士で、通常の診療連携に加え、骨関連事象高リスク骨転移患者の画像診断と同時に診断アラートにても情報共有を行い、月１回のカンファレンスを実施している。令和３年度の骨カンファレンスは83件(うち診断アラート25件)であった。骨転移照射66件の整形外科コンサル率は８割で、前年度５割と比べて増加し、組織横断的治療・連携の向上につながった。また、疼痛出現から３週間以内に放射線治療を開始できた割合は42.8%で前年度24.5%に比べて増加した。

３．今後の目標

令和４年度は、外照射では高精度治療の導入にむけての準備をすすめるとともに、小線源治療も含め放射線治療の安全管理・品質精度管理の継続とその向上を引き続き行うことを目標とする。

（樋口　啓子）

病理診断科

１．スタッフ

常勤病理医師１名、非常勤病理医師６名と常勤臨床検査技師４名（うち細胞検査士の有資格者３名）、会計年度臨床検査技師３名。

２．業務の現況

2021年度については、細胞診：6,545件、組織診：6,065件、術中診：146件、剖検：５件であった。CPCは５回開催され、合計９症例を示説・検討した。

各臓器の悪性病変は「臓器別取り扱い規約」に準じて検索・診断を行っている。ホルマリンによる過固定を防ぐため、検体を平日毎日適切に処理している。検体を標本化した後に診断しており、必要に応じて免疫染色・特殊染色を追加して検索している。また、診断困難症例に関しては、日本病理学会のコンサルテーションシステムなども利用することで、広い知見が得られるようにしている。臨床各科からの学会及び論文発表時の組織写真作成依頼や、過去の症例の再検討依頼などにも適宜応じている。

３．今後の目標

地域がん診療連携拠点病院の指定を堅持するため、正確かつ遅滞の少ない病理診断報告に努めるほか、院内研修医教育やCPCの開催、剖検数の確保に尽力する。また、近年治療法の進歩に伴い、過去の症例を検索することが増えており、病理関連資料と記録の保存・管理の充実を図るとともに、患者の個人情報保護には十分に注意したいと考えている。

（髙山　佳泰）

麻酔科

１．スタッフ

医療部長１名、診療部長１名、医長２名、医員４名、計８名の体制で麻酔科の業務を行った。業務内容は手術麻酔、ＩＣＵ管理、ペインクリニック外来、病棟診療と多岐にわたる。

資格は日本麻酔科学会指導医５名、日本ペインクリニック学会専門医２名、日本集中治療医学会専門医１名である。

麻酔・救急の基本的手技の研修を目的に、常時 1～2 名の研修医を教育している。

２．業務の現況

令和 3 年度の総手術件数は 4,336 件、麻酔科管理症例は 3,510 件であった。このうち全身麻酔件数は 2,483 件、脊椎麻酔は 1,011 件、硬膜外麻酔（単独および全麻併用）は 547 件であった。手術件数は昨年とほぼ同等であった。

今後、新型コロナが収束することにより手術件数は回復すると思われる。また、次年度から手術室使用枠を増加し、部屋利用の効率化や残業軽減への取組を行う予定である。

ペインクリニック外来は平日の午前に行っている。腰部交感神経ブロック、神経根ブロック、椎間関節ブロック、三叉神経ブロックなどの透視下ブロックは１泊入院で施行している。がん性疼痛に対しても神経ブロックを積極的に行っている。最近は超音波診断装置を用いたエコーガイド下神経ブロックを手術室や外来で行っている。

３．今後の目標

今年度から手術支援ロボットダヴィンチが２台稼動し使用も増えている。経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）も 12 月から開始された。

手術件数の増加と手術室の効率的な運用に対応するため次年度より手術枠増加や部屋利用の効率化を予定している。

また、新しい手技、器械、薬剤を積極的に取り入れて安全で円滑な麻酔の施行ならびに患者の満足度の高い周術期管理が行えるよう努力していきたい。

麻酔科の 3 本の柱である、「麻酔」・「ＩＣＵ」・「ペインクリニック」をしっかりとバランスよく行っていくことにより地域社会に貢献するとともに、麻酔専門医をめざす若手麻酔医に魅力のある麻酔科となることを目指していきたい。

（安齋　健）

歯科口腔外科

１．スタッフ

常勤歯科医師２名と非常勤歯科医師（粘膜外来３名、手術支援１名、初診支援１名）で診療を行っている。また、歯科衛生士４名、看護師１名を配置している。

２．業務の現況

外来業務：診療内容は抜歯が圧倒的に多く、特に智歯抜歯や難抜歯が目立つ。また、口腔がんや扁平苔癬などの粘膜疾患にも対応している。口腔がん症例及び疑診症例は、専門医による粘膜外来で診察を行っている。その他、顎骨壊死・骨露出に対する消炎、口腔乾燥症や舌痛症、顎関節症、全身管理が必要な一般歯科治療（う蝕、義歯など）も行っている。一次医療機関では対応が難しいような障害者歯科治療は、可及的に外来で行い、必要であれば全身麻酔下で加療している。口腔外科診療を中心としているが、全身管理が必要な一般歯科（う蝕、義歯など）にも対応している。前年度から歯科恐怖症、異常絞扼反射、障害者、侵襲の大きな智歯抜歯などに対し、静脈内鎮静法を併用した処置を開始した。また、今年度から周術期口腔機能管理を開始した。

病棟業務：全身麻酔下での口腔外科処置を行っている。こちらも同様に抜歯術が多く、嚢胞摘出術、骨折に対する整復・固定術などが続く。炎症に対する消炎・栄養状態改善を目的とした入院事例も認める。

３．今後の目標

慢性疾患(舌痛症、扁平苔癬、顎骨壊死など)に対する経過観察が長期間に及ぶことが多い。急を要さない症例が外来診療枠を圧迫しており、予約患者の待ち時間が長くなっている。また、初診枠も限られてしまい、二次医療としての機能を果たせなくなっている。一次医療機関、歯科医師会に働きかけ、紹介元に戻す努力を継続する。

（小杉　謙介）

緩和ケア内科

１．スタッフ

緩和ケア内科は、常勤医師２名と臨床心理士２名で診療を行った。

２．業務の現況

(1) 外来：令和 3 年度の緩和ケア病棟への依頼件数は 274 件（当院 231・他院 43)、面談数は 212 件、エントリー数は 211 件（当院 182・他院 29､)、未実施 50 件で令和２年度の 17.4%とほぼ同様だった。また、緩和ケア病棟エントリーとなった患者のみを対象とした外来診療も例年通り、訪問看護、介護福祉サービスと連携し、緩和ケアの質の向上、在宅療養期間の延長を図った。

(2) 入院：緩和ケア病棟に入院している患者を診療した。令和３年度の年間入院患者総数は 329 名（令和２年度比で 114.6%)、年間退院患者総数は 318 名（令和２年度比で 111.5%)、うち生存退院患者 136 名・42.7%、施設への転所は９名、平均在院日数は 15.3 日（令和２年度は 17.4 日)、令和２年度と比べ患者数は増加、平均在院日数は減少した。また、令和２年度に引き続き近親者（パートナー・実子・実の両親・実の同胞・未成年以外の同居者）に限っての面会を実施、新たな感染の発症はなく、家族の理解・協力も概ね得られた。

一般病棟入院中の患者に対しては緩和ケアチームが臨床心理士等を含めた多職種で対応し、患者の生活の質の向上を目指して診療にあたった。

３．今後の目標

(1) 緩和ケア病棟・緩和ケア専門外来・緩和ケアチームいずれもが、より質の高い緩和ケアを提供できるよう継続して努力し、患者、家族の生活の質を高めていきたい。

(2) 緩和ケア診療所、往診医、訪問看護ステーション、ケアマネージャー、介護施設等、地域との連携強化を継続、入院・在宅と切れ目のない質の高い緩和ケアを提供したい。

(3) 様々なリソースを用い地域への緩和ケアに対する啓発を行っていきたい。

（押本　直子）

救急科

１．スタッフ

救急科主任診療部長１名で診療を行った。

２．業務の現況

平日の昼間は必ず救急センターに在駐し、救急初期に携わっている。状態の安定化、診断、専門科への紹介を行っている。

３．今後の目標

(1) できるだけ多くの診療の求め、救急搬送の求めに応じること。

(2) 素早く確実な診断に辿り着くこと。

(3) 素早く苦痛を取り除く手段を講じること。

以上を目標に診療を受けて良かったと思っていただける救急外来を運営していきたい。

（鈴木　一也）

中央放射線科

１．スタッフ

診療放射線技師 23 名、看護員 14 名（救急外来所属)、計 37 名。

２．業務の現況

画像診断部門：前年度比単純撮影 8.8%増、ポータブル 29.2%減、乳房撮影 19.5%増、ＣＴ2.4%増、MR Ｉ9.3%増、骨密度 16.2%増、ＲＩ-シンチ 7.7%増、ＲＩ-ＳＰＥＣＴ30.7%増、デジタイズ関連 10.9%増、合計で 7.3%の増加であった。

３．今後の目標

(1) 画像診断と放射線治療精度の向上。

(2) 放射線の安全な運用と医療被ばくの低減。

(3) 施設機器の有効利用。

(4) 危機管理を徹底し医療事故の防止。

(5) チーム医療の一員として責任を果たす。

以上の事について更なる努力をしていきたい。

（武田　久）

中央検査科

１．スタッフ

臨床検査管理者１名、技師長１名、技師長補佐１名、係長２名、係長代理２名、主査５名（再任用職員２名含む）、主任４名、技師22名（会計年度任用職員９名含む）、事務職員（会計年度任用職員）２名、計40名。

２．業務の現況

(1) 生化学検査部門：測定の正確度維持を目的に多項目実用参照物質（MaCRM）を使用し、年３回の正確度の確認を継続している。また、生化学全自動分析装置の老朽化に伴い、測定装置の更新を行った。

(2) 血液検査部門：全自動血液凝固測定装置のバックアップ体制構築のため、機種の検討を行った。

(3) 免疫輸血検査部門：免疫検査では、新規項目として８項目（ACTH、コルチゾール、成長ホルモン、インタクトPTH、LH、FSH、テストステロン、NT-proBNP）を外注から院内検査として導入した。また、全自動化学発光免疫測定装置の老朽化に伴い、装置の更新を行った。輸血検査では、輸血製剤管理として、血液製剤の適正使用、損耗削減等に努め、安全で適正な輸血業務に寄与している。

(4) 一般検査部門：例年行っている外部精度管理に加え、メーカーによる尿沈渣フォトサーベイを導入し、全項目でA評価を獲得した。

(5) 細菌検査部門：救急外来を対象に、約15分で検査が可能な新型コロナウイルス核酸検出検査を開始した。また、感染制御チーム（ICT）や抗菌薬適正使用支援チーム（AST）、伊勢崎感染対策カンファレンス（IICC）などチーム医療に参画し、感染対策に貢献している。

(6) 生理検査部門：経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）実施施設認定にむけて、ハートチームカンファレンスへ参加した。実施施設認定後は、候補患者のエントリーに必要な経胸壁心エコー検査や経食道心エコーの介助、立ち会いを行っている。また、3D 経食道心エコーが導入されたため、今後もTAVIや他心疾患に対して、積極的に貢献していきたい。

(7) 新型コロナウイルスにおいて検体採取から処理、検査の一元化・迅速化を図り、医師・看護師の業務負担軽減に貢献した。

３．今後の目標

(1) 適正な人員配置および新規検査機器の導入による更なる効率化を実現

(2) 救急医療への貢献

(3) 患者サービスの更なる向上

(4) 最新の知識・技術の習得、各種認定資格の取得などスタッフのスキルアップ

（荒木　和也）

臨床工学科

１．スタッフ

科長（医療部長）１名、臨床工学技士10名、計11名。

スタッフは以下の認定資格を有している。体外循環技術認定士５名、透析技術認定士４名、医療安全管理者認定１名、呼吸療法士２名、医療ガス保安管理技術者１名。

２．業務の現況

ＭＥの業務場所は主に手術室、集中治療室、透析室、病棟である。

手術室では主に手術や麻酔に関連した機器の維持管理、心臓血管外科手術時の人工心肺業務を行っている。今年度の人工心肺症例数は99例であった。

集中治療室では主に人工呼吸器の維持管理および設定、血液浄化を行っている。今年度はIRRT（間歇的腎代替療法）109件、持続的血液濾過透析47件、アフェレシス療法９件、ECMO12件（65病日）であった。

透析室では9,459件の血液透析と34件の潰瘍性大腸炎に対する顆粒球吸着療法を行った。また、病棟では79件の往診血液透析と23件の腹水濃縮濾過再静注法を行った。

現在、ＭＥが管理している主な機器は麻酔器11台、人工呼吸器24台、除細動器８台、ＡＥＤ12台、輸液ポンプ165台、シリンジポンプ134台、経管栄養ポンプ18台、そのほかに院内各部署の様々な医療機器を管理している。

近年は、心臓血管外科分野において、TAVI に関連する業務などが新たに加わっている。

３．今後の目標

臨床工学技士をさらに増員し、院内医療機器の中央管理化、医療安全業務の強化、各種認定資格の取得によるＭＥ業務のレベル向上に努めたい。

（富田　行成）

栄　養　科

１．スタッフ

科長（外科診療部長）1名、主任2名（老健兼務1名含む）、管理栄養士9名（老健兼任1名、会計年度任用職員2名含む）、調理師2名（老健兼任2名含む）、計14名。

２．業務の現況

令和3年度の患者給食数は289,469食、前年度比100.6%、特別食の占める割合は47.8%であった。

介護老人保健施設ひまわりの給食数は42,490食、前年度比92.2%、特別食の占める割合は27.4%であった。

栄養指導は入院・外来で実施しており、化学療法センターや腎センター、透析予防外来での指導も実施している。

栄養食事指導件数は個人指導3,638件、集団指導開催数17回で50件、計3,688件であった。個人栄養指導は前年度比 248.3%であった。集団栄養指導の内訳は糖尿病教室 16回、母親教室1回であった。また、栄養管理は病棟担当制を設け、病棟の栄養管理を行っており、栄養サポートチームによる栄養介入も実施している。

３．今後の目標

多職種と連携し、病態に合わせた栄養管理を行っていく。また、委託業者と連携し、患者給食の充実のため、メニューの改善や調理方法など、より良い患者給食に取り組んでいく。

（富澤　直樹）

看　護　部

１．スタッフ

副院長兼看護部長1名、看護副部長3名、看護師長17名、看護副師長27名、看護師453名（会計年度任用職員45名含む）、看護補助者30名（会計年度任用職員27名含む）、他8名（会計年度任用職員3名含む）、計539名。

看護部以外に、看護副部長2名、看護師長5名、看護副師長3名、他21名（会計年度任用職員3名含む）、計31名。

看護部以外の配属部署は、地域医療連携室に11名（会計年度任用職員3名含む）、医療安全管理室に室長補佐1名、医療安全情報係1名、感染管理係2名、褥瘡管理係1名、緩和ケアチームに1名、併設の介護老人保健施設ひまわりに8名、訪問看護ステーションいせさきに6名。

２．業務の現況

(1) 安全で質の高い看護の提供

① 異常の早期発見、急変に対応できる看護師の育成

② 身体拘束減少に向けて取り組む

(2) ヘルシーワークプレイスの推進と業務改善の実施

① 時間外勤務を減少させる

(3) 看護の専門性を高める人材育成

以上を令和3年度看護部ＢＳＣ（バランススコアカード）として取り組んだ。

異常の早期発見のために、患者のいつもを知り、フィジカルアセスメントを行い、変化に気づくことに取り組んだ。変化に気づくために疾患や治療、検査等の基礎知識について勉強会等で理解を深めた。変化に気づいた時には、令和3年度より開始となった『院内迅速対応システム：RRS』を活用し、異常の早期発見、早期対応に努めた。副師長会が中心となり急変事例の振り返りを行い、各チームへフィードバックし看護力の向上に努めた。

身体拘束減少に向けて、せん妄のリスクをアセスメントして予防的ケアに取り組んだ。その結果、一般病棟の身体拘束患者割合は、令和2年度1.38%から令和3年度0.4%に減少した。今後も継続してせん妄予防に取り組んでいく。

時間外勤務は、ノー残業デーの導入や応援体制の整備など業務改善等に取り組んだが、前年度より増加した。

看護の専門性を高める人材育成では、令和3年度より当病院で、『呼吸器関連』、『動脈血液ガス分析関連』、『循環動態に係る薬剤投与関連』の3区分の特定行為研修を実施した。4名が受講し修了生として認定された。令和4年度も継続していく。

新人看護職員研修制度は、令和3年度で12年目を迎えた。30名の新卒新人看護師に対し、約3ヶ月間の研修プログラムを実施した。コロナ禍にて、シャドーイング研修を取り入れ、集合研修は縮小した。例年実施していたローテーション研修は、各部署での個別研修に変更した。研修期間修了後も1回/月程度の集合研修を実施し、同期入職者同士が集まる機会をつくった。各期の研修目標に到達するまでに例年より時間を要したものの、1年間の達成度はほぼ例年通りであった。

専門・認定看護師は、がん看護専門看護師2名、認定看護師は14分野20名で昨年同様であった。専門・認定看護師は、

関連する部署での看護実践と、患者やスタッフへの指導・相談を行い看護の質の向上に努めている。今後も育成に努めていく。

看護外来は、新型コロナウイルス感染症の影響で、外来の縮小や受診キャンセルがあり、ほとんどの看護外来が前年度と比較して受診者数が大きく減少した。10の看護外来の総受診者数は令和2年度3,277人から令和3年度2,426名となった。その中で、小児糖尿病療養指導士外来は前年度より増加した。

3．今後の目標

(1) 安全で質の高い看護の提供
(2) せん妄を予防するために、日常生活を整える
(3) ヘルシーワークプレイスの推進と業務改善の実施
(4) 看護の専門性を高める人材育成

（木村　恭子）

薬　剤　部

1．スタッフ

薬剤部長1名、薬剤副部長2名、係長2名、主査3名、主任12名、薬剤師9名（会計年度任用職員1名含む）、事務職員（会計年度任用職員）5名　計34名。

2．業務の現況

令和3年度は、病棟薬剤業務実施加算1（一般病棟）と病棟薬剤業務実施加算2（ICU）の算定を継続した。新型コロナウイルス感染症の影響で、患者数の減少傾向基調ではあるが薬剤部全体の業務量の減少傾向も穏やかになってきている。薬剤管理指導件数は、前年度比（以下同で表示）101.1%で増であった。令和2年10月から、連携充実加算の算定を開始した。

院外処方せん発行率は同87.9%と減少したが、発行枚数は同104.5%に増加した。院内処方箋の枚数は、同103.0%に増加。注射薬処方箋も同100.8%へ増加した。

製剤室の製剤量は、一般製剤は同292.3%の増、注射剤はワクチン希釈作業含み大幅に増加したが、滅菌製剤・軟膏類・点眼・点耳は減少。ＴＰＮ調製件数は同91.4%へ減少した。注射抗がん剤調製では、外来は同114.5%増、入院は同92.5%減であるが合算では同110.4%も増加している。

抗がん剤管理は、事前レジメン確認や注射調剤、同監査、混合調製、同監査に薬剤師が関わることで、安全性向上や適正使用につながり患者の安全な薬物療法に貢献出来た。また、薬剤部で抗癌剤を一括調製することで、薬剤の使用効率が上昇し、経済的に抗癌剤費の節約に大きく貢献できている。

地域がん診療連携拠点病院として抗がん剤及び麻薬の適正な使用と管理に努める。更に、薬・薬連携を推進するための抗がん剤等の勉強会（令和3年度3回実施）等も開催している。退院時薬剤情報管理指導数は同100.3%と増加し、がん患者指導料3算定件数は同113.1%と増加した。

治験業務は、外部 アイロムＥＣ(株) の協力を得て運営しており、治験の処方箋枚数は主に尋常性乾癬試験により同350.0%と大幅に増加した。

薬品管理室における発注・検収・在庫管理・出庫業務は、各種バーコードによる照合作業の導入により合理化されている。現行のシステム下では、特定生物由来製品のみのロット管理を行っている。注射薬処方箋による払い出しは、注射薬自動払出しシステムを使用し、個人別施用毎の払い出しで対応している。

後発医薬品加算の取得要件を満たすように、後発医薬品の導入と使用を推進している。しかし、昨今は医薬品の長引く出荷調整や、出荷停止、生産終了による先発薬戻り等が頻発し、後発薬必要量の安定した確保に難渋している社会的な背景がある。

手術前中止薬の使用中止を的確に実施する必要性がある。手術前中止薬の指導は薬剤部調剤室で行っていたが、令和元年7月より、入退院支援センターにて薬剤師が実施。持参薬鑑別件数は同102.6%で増加している。

調剤支援システムにより、医薬品のデータベースが一元化され、注射・内服・外用薬が処方時・調剤時にチェックがかかり、薬物療法の組み合わせ確認で安全性が向上した。調剤時バーコードを利用することにより、別物調剤過誤件数がほぼ消滅し患者の安全な薬物療法に貢献出来た。

3．今後の目標

(1) 病棟薬剤業務実施加算1と2の件数と病棟時間を堅持し、患者の安全な薬物療法に貢献していく
(2) 薬剤師関与診療報酬の積極的な取得を目指す
(3) ＤＰＣ算定病院として、適正な薬剤の採用選択と後発医薬品採用推進
(4) 積極的に多職種連携に参加
(5) 麻薬、向精神薬、ハイリスク薬管理への必要な関与

(6) 地域における薬・薬連携を推進
(7) 人材確保と人材育成、認定取得や維持の支援
(8) より良い職場環境を整備
(9) 新型コロナウイルス関連薬品の確保と頻用される高額薬品の適正な在庫管理に努める

（下城　正明）

経営企画部

1．スタッフ

副院長兼経営企画部長１名、副部長１名。

2．業務の現況

本年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、入院患者数、手術件数等はやや持ち直したものの病院経営に極めて大きな影響があった。地域の中核病院としての機能を果たすべく救急患者の受入体制の維持及び充実をはかるため病院救急センター（室）整備工事が完了した。また、平成26年度に購入した手術支援ロボットダヴィンチの更新と関連装置の整備を行い、医療提供体制の充実に努めた。

3．今後の目標

新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しながら、長期に渡る安定した経営基盤の構築に向け、「持続可能な地域医療体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」に基づく、伊勢崎市民病院の「経営強化プラン」の策定に向けて進捗管理や「ＢＳＣ（バランススコアカード）」活用による目標達成評価をしっかり行う。

（勅使川原　覚）

総務課

1．スタッフ

課長（兼）１名、総務係13名（再任用職員２名、会計年度任用職員５名含む）、人事係11名（会計年度任用職員５名含む）、企画係５名（再任用職員１名含む）、施設係７名、計37名。

2．業務の現況

総務課の主な業務としては、法規管理、人事・給与、各種事業計画の策定及び施設の維持管理業務などである。

総務係は、条例・規則及び文書管理の総括、議会対応、災害対策、病院警備、施設の運用・管理、院内保育所の管理運営等の業務を行っている。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して災害医療活動訓練は情報伝達訓練としたが、洪水時の避難確保計画を策定し、机上のシミュレーション訓練を実施するなど、災害に強い病院体制の構築に努めた。

人事係は、病院職員の人事・給与、福利厚生および衛生管理、職員研修、医療部事務、年末調整業務等を行っており、今年度も医師その他の医療従事者の確保に努めるとともに医師等の働き方改革に向けた検討を進めた。

企画係は、病院経営に関する中・長期計画の策定、経営改革の進行管理、病院事業の企画調整、院内会議及び委員会の調整、開設許可の申請、広報業務等を行っている。今年度は、令和 5 年度までの新公立病院改革プラン継続計画に掲げた指標の達成状況の進捗管理を中心に、新型コロナウイルス感染症の経営面に対する影響を検証した。

施設係は、各設備の効率化に努め、高度医療を支える地域医療の拠点病院として各種設備の維持管理業務を行っている。今年度は、エントランスホール照明器具交換、空調用リモートユニット更新、救急センター1 室・2 室改修工事などを行ったほか、各所修繕を実施し施設設備の充実と保全を図った。

3．今後の目標

診療報酬改定や消費税率改定の影響など、医療機関を取り巻く経営環境が厳しい中、入院及び外来患者数は昨年度と比較して若干増加したものの、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける以前と比較すると低調で、いまだ医業収支に大きくマイナスの影響を及ぼす状況となっている。

国等の補助により、経常収支は黒字となったが、今後の安定した病院経営のためには、新公立病院改革プラン継続計画及びアクションプランに掲げた目標の達成に向けた取組の検証を行っていくとともに、新たに国から求められている地域医療構想を踏まえた公立病院経営強化プランを策定していく中で、令和４年度診療報酬改定を踏まえ、経営強化面に資する施策を推進していく必要がある。

今後とも、収支改善に向けた取組について研究していくとともに、社会情勢の変化に留意しながら、地域の公立病院としての責務である良質で安全な医療を安定的に提供していきたい。

（小此木　聡）

財務課

１．スタッフ

課長１名、財政係７名（再任用職員１名、会計年度任用職員１名含む）、用度係６名（会計年度任用職員２名含む）、計14名。

２．業務の現況

財務課の主な業務としては、経営管理、予算、決算の調整、医療器械器具、診療材料、薬品、備品、消耗品等の購入などである。

財政係は、予算及び決算、財務経理、財政計画・資金計画の策定、建物・医療機器の財産管理、企業債手続等の業務を行っている。また、年度終了後には決算の調製を行い、病院事業の財務諸表等の決算報告書を作成している。今年度は、総合計画における手術支援ロボット更新事業と救急センター（室）整備事業に伴う起債を行った。

用度係は、薬品、診療材料、備品、消耗品等の契約・購入業務、医療機器等の修繕・保守契約業務を行っている。今年度も価格交渉による薬品等のコストを削減に努めるとともに、手術支援ロボットダヴィンチ更新や新型コロナウイルス感染症に対応するための医療機器として、人工呼吸器、空気清浄機能付陰圧装置などを購入し医療提供環境の充実を図った。

３．今後の目標

中期的な高額医療機器の更新計画や薬品、診療材料等の価格交渉を行い費用削減などについて取り組み、社会情勢の変化に的確に対応し、良質で安全な医療を維持しながら経営改善に繋げていきたい。

（松原　弘和）

医療サービス課

１．スタッフ

課長１名、医事係47名（会計年度任用職員42名含む）、診療報酬係５名、情報管理係６名（会計年度任用職員２名含む）、計59名。

２．業務の現況

今年度の医療サービス課は通常業務のほか、主に一般の方を対象にした新型コロナワクチン接種業務を中心に遂行した。運営は医師・看護師等の多職種による連携のもと、５月30日から毎週土・日曜日に実施し、10月30日までに１・２回目接種を約５千人の方に延べ約１万回の接種を行い、当病院の地域としての役割を概ね果たすことができた。また、３回目追加接種を２月14日から開始した。

医事係は、診療報酬調定、自費未収金管理、交通事故相談、公衆衛生活動に関する調整、医事業務契約、人間ドックなどの健診事務のほか、医師の事務負担軽減を目的とした医師事務作業補助業務を担当している。今年度は、自費未収金総額の圧縮を図るため、積極的に発生抑制及び回収の取組を実施した結果、前年度比で約8,400千円の削減を達成することができた。

診療報酬係は、入院及び外来の受付業務から診療報酬請求までを一貫して行うほか、診療報酬上の施設基準の申請や管理などを担当している。今年度は、診療報酬制度において増収の見込みとなる加算等について各部門と協議を図り、計画的に算定増加に繋げる取組を実施した結果、医業収益は前年度を上回ることができた。

情報管理係は、病院総合情報システムの管理、病歴管理、がん登録、診療録開示及び診療統計抽出業務を担当している。今年度は、インターネット回線の慢性的な動作遅延と帯域不足を解消すべく、主に中央手術室、外来診察室、医局等を中心にWi-Fi環境の構築及び増強を行った。また、光回線を切り換え、インターネットを活用した業務が円滑に利用できる環境を整備した。

３．今後の目標

診療報酬分析のための人材育成を行い、新規施設基準及び上位施設基準を取得する。また、ＩＣＴ等を有効活用し、患者サービスの向上と職員の業務効率化を図る取組等を実施していきたい。

（須斎　暁男）

地域医療連携室

１．スタッフ

室長（看護副部長）１名、地域連携係９名（事務職員３名、会計年度任用看護員 1 名、会計年度任用事務職員 5 名）、入退院支援係 23 名（看護員７名、社会福祉士８名、再任用管理栄養士１名、会計年度任用看護員２名、会計年度任用社会福祉士１名、会計年度任用事務職員４名）　計 33 名。

２．業務の現況

地域連携係は、紹介患者、関係機関との連携、苦情相談、地域の医療従事者等に対する研修、がん診療連携拠点病院事業、室の庶務等に関する業務を行っている。医療機関への訪問は感染状況に応じて再開した。地域の医療従事者に対する研修については、WEB にて開催した。

かかりつけ医ご案内カウンター業務を委託から職員業務とした。地域連携パスの説明や周術期口腔機能管理のための受診の説明を行った。

入退院支援係は、入退院支援に関する業務を行っている。入院支援に管理栄養士を配置し、入院前より栄養状態のアセスメント、外来栄養指導を開始した。せん妄アセスメントも予定入院患者全員に実施し、対象患者には指導を行っている。

退院支援は、退院後に医療・介護が必要となる患者・家族を対象に、医師会の在宅医療を担う医師による在宅医療相談会の定期開催（月１回）を継続できた。面会制限による介護支援専門員（ケアマネジャー）とのサービス担当者会議が困難となり、書面や電話での対応になっている。

相談支援センターでの相談は、コロナ禍のため入退院支援センターで行っているが、相談件数は減少している。「患者サロンオアシス」や「なごみカフェ」の患者会も休止となっている。

今後も、紹介患者の確保のために、地域医療機関と連携し、患者や家族が安心して入院生活を送るために入院前から関わり、退院後の不安を軽減できるように在宅復帰や転院に向けた支援を行っていく。

３．今後の目標

(1) 関係機関と密接な連携を図り、迅速かつ丁寧な対応を心がけます
(2) 患者が安心して入院できる支援を行います
(3) 地域全体で退院支援に取り組みます

（大下　洋美）

医療安全管理室

１．スタッフ

室長（副院長）、室長補佐（看護副部長）、専従医療安全管理者（看護師）１名、専従感染管理係（看護師）２名、専従褥瘡管理係（看護師）１名、事務職員（会計年度任用職員）１名の７名体制。

医療安全情報係

❑ 業務の現況

(1) インシデント・アクシデントレポートの収集・分析、再発予防のための対策の検討
(2) 医療安全に関する啓発及び知識の普及
(3) 医療安全管理委員会の開催
(4) リスクマネジャーの教育
(5) リスクマネジャーへの助言

インシデント・アクシデントレポートの報告は、令和３年度は総数 1,732 件であった。その内訳は、薬剤 342 件、輸血 12 件、治療・処置 127 件、医療機器等 27 件、ドレーン・チューブ類 273 件、検査 185 件、転倒・転落 287 件、療養上の世話 206 件、医師報告事項は 50 件、苦情・クレーム 43 件、その他 155 件、書類関係 25 件であった。

患者影響レベルは、レベル０：141 件、レベル１：678 件、レベル２：649 件、レベル３ａ：155 件、レベル３ｂ以上：59 件、レベルなし 50 件であった。

令和３年度は０レポートの推進に取り組み、報告件数は 60 件増加した。

インシデント・アクシデントレポート提出後、事故の事実関係を把握し、当該部署へ助言しながら問題の解決に当たっている。また、週報を作成し、タイムリーにフィードバックできるよう、医療安全カンファレンスで検討した。誤った医療の実施や警鐘事例を抽出し、是正レポートとして、当該部署への事後訪問を行い、現場評価や対策への助言を行った。医療安全管理委員会でレ

ポート集計結果や事例の報告を行いリスクマネジャー会で事例を共有し、各部署への周知徹底を図った。さらに、安全管理ニュースにて職員へ情報提供を行った。また、3件の事例検討を行い、医療安全ケースレポートを配信し、対策の周知を行った。

医療事故調査・支援センターからの再発防止に向けた提言集は関連のある診療科の医師へ配布するとともに、イントラネットに掲載し共有した。令和3年度は、RRS（Rapid Response System　院内迅速対応システム）の設置におけるマニュアルの作成や検証および改訂等の推進や、院内における心停止の兆候がみられる患者に対して、心停止を起こさせないように対応することと、その患者に対応するためのチーム（RRT：Rapid Response Team）を編成するため、医療安全管理委員会の下、RRSワーキングチームを設置し話し合いを開始した。

4月は新入職者対象に医療安全について教育研修を行った。全体研修はeラーニングを活用し「院内急変の早期発見、早期対応を考える」「医療安全の基礎：５Sの勧め」について行った。受講率は両研修ともに99.3%であった。6月～11月にかけて第9回リスクマネジャー養成研修会を開催し26名が修了した。研修を修了したリスクマネジャーは計212名となった。また、フォローアップ研修としてリスクマネージャー33 名を対象に「ヒアリング方法」の研修を実施した。

ＣＶＣ認定講習会では、新たに13名が受講し、修了者は計32名となった。

11月厚生労働省主催医療安全推進週間では、患者確認行動を徹底し患者間違い防止を強化した。また、各部署で医療安全川柳を考え1階ホールに掲示した。

医療安全対策における地域連携としては、公立館林厚生病院へ訪問し、公立藤岡総合病院より訪問を受け相互評価を行った。また、青木病院、石井病院へ訪問し評価を行った。各病院の取組を参考に、医療安全管理体制の整備につなげた。また、一般社団法人医療安全全国共同行動や日本医療機能評価機構PSP患者安全推進協議会へ参加し5S活動や薬剤管理について他施設の状況を把握するとともに見直し・検討を行った。

❑ 今後の目標

(1) インシデント・アクシデント報告の推進
(2) 医療安全カンファレンスの充実
(3) リスクマネジャーの能力向上
(4) ＩＣ内容の充実
(5) 安全文化の醸成
(6) 医療安全の地域連携推進
(7) メディエーションを活用した対応力の向上
(8) RRSの推進とRRTの結成

感染管理係

❑ 業務の現況

(1) 感染対策に関する啓発及び知識の普及
(2) 医療関連感染の原因究明と対策立案
(3) アウトブレイクの早期発見と介入
(4) 感染対策関連サーベイランスの実施
(5) 職業感染防止への取り組み
(6) 感染管理に必要な環境整備
(7) ＩＣＴ（感染対策チーム）/ＡＳＴ（抗菌薬適正支援チーム）の活動調整

上記を主な活動とし、医療関連感染の低減と薬剤耐性菌の低減を目指している。令和3年度も、アウトカム指標である医療関連感染率、耐性菌分離率はベンチマークデータと比較し、同等か低い傾向にあり、良好に管理されているといえる。

プロセス指標である職員教育は、研修医、新人、リンクナースなどターゲット研修のほか、全職員対象にオンデマンド配信を利用し「これだけは知っておきたいコロナ時代の感染対策の基本」「ブレイクスルー感染と感染対策の基本について」研修を行った。前者は追加研修を含め99.6%、後者は98.9%の参加率であった。抗菌薬適正使用に関する研修についても医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師を中心に２回行い、対象者の参加率は「アンチバイオグラムと抗菌薬使用状況」が98.9%、「抗菌薬意識調査レポート2021　報告」が97.7%のほか、多くの職員が参加した。

新型コロナウイルス対策では、全部署を対象としたオーデットや職員の食事摂取状況等を含む院内ラウンドにより対策の遵守状況をモニタリングしこれまでクラスターの発生は無い。その他、県クラスター対策チームの参加や地域高齢者施設への感染対策訪問指導、研修講師など地域活動も行っている。

医療関連感染率を把握する目的で取り組んでいるサーベイランスでは、集中治療室における各種デバイス、消化器外科・心臓血管外科における手術部位感染、全病棟において中心静脈カテーテル関連血流感染、カテーテル関連尿路感染サーベイランスを実施し現場へのフィードバックとともに、改善活動に取り組んでいる。また、手指衛生の遵守率の向上を目的に啓蒙活動を行っ

た結果、擦式手指消毒薬の1患者当たりの使用量が令和2年度と比較し6.52回/1患者/日から7.23回/1患者/日へ増加した。また、質的評価である直接観察を9月と12月に行った結果、手指衛生が必要とされる場面での遵守率は「患者に触れる前」が36%から50%へ「患者に触れた後」は50%から89%へ上昇した。

その他、チーム医療の推進に関連し排尿ケアチームとの協働によるカテーテル関連尿路感染の低減、ＲＳＴとともに肺炎予防に取り組んでいる。次年度以降も継続し医療の質向上を目指す。

今後の課題として、感染対策の基本となる手指衛生等の感染防止技術の遵守率向上に向けた取組、病院清掃の質向上、ＡＳＴの介入内容の充実、新型コロナ対策を中心に活動していく。また、地域活動として抗菌薬適正使用や新興感染症に対する対応について関連する医療機関等と協働で取り組んでいく。

❑ 今後の目標

(1) 新興感染症に対する体制整備
(2) 手指衛生遵守率向上
(3) 病院清掃の質向上
(4) 感染症発生時や抗菌薬適正使用等の地域連携推進
(5) ICT/AST活動の充実
(6) 感染管理に携わる人材の育成
(7) サーベイランスの充実
(8) ICDの設置

褥瘡管理係

❑ 業務の現況

(1) 褥瘡対策に関する啓発及び知識の普及
(2) 褥瘡発生時の対応策の検討
(3) 褥瘡ハイリスク患者への対応
(4) 褥瘡回診の実施
(5) 褥瘡対策に必要な環境調整
(6) 医療関連機器圧迫創傷への対応

上記を主な活動とし、院内の褥瘡発生数の減少と褥瘡の早期改善をめざしている。令和3年度の褥瘡推定発生率は平均0.8%、褥瘡有病率は平均3.1%であった。褥瘡発生数は88名であり、持ち込み褥瘡数は195名であった。褥瘡ハイリスク患者ケア加算では837件の介入を行った。

院内褥瘡対策委員会及び院内褥瘡対策小委員会と連携を図り、院内で褥瘡発生時には原因に対する対応策の検討を行い、褥瘡回診時には創部の評価を行いケア方法の検討を行った。また、褥瘡を保有して施設や在宅へと移行する患者に関しては、退院前カンファレンスに参加し、褥瘡の評価やケア方法の伝達、体圧分散用具についての検討を行った。院内で使用している体圧分散用具に関し、令和3年度は静止型マットレスのアルファプラＦの購入を行った。今後も体圧分散寝具の使用状況の確認を行いながら、体圧分散用具の効果的な使用方法について知識の普及に努めていく。令和3年度の医療関連機器圧迫創傷は合計99件の報告があった。医療関連機器の管理方法とともに個々の症例について対応策の検討を行った。

職員教育では、新人研修で褥瘡の発生原因、危険因子の評価、体位変換・背抜き、創部の洗浄方法など褥瘡対策に関する基本的な知識の普及を行った。また、10月に専任看護師の教育とともに、半年間以上の看護経験を有する看護師を対象に、褥瘡対策に関する診療計画書とDESIGN－R®についての研修を行った。さらに、12月に院内褥瘡対策小委員とスタッフ指導できる看護師を対象にポジショニングについての研修を2回行った。

❑ 今後の目標

(1) 褥瘡予防対策の標準化
(2) ポジショニング技術の向上・体圧分散用具の整備
(3) 褥瘡予防対策マニュアルの定期的な改正
(4) 褥瘡委員の能力向上
(5) 地域医療機関等との連携

（櫻井　篤志）

Ⅹ　会議･委員会・研究会・研修会等

X　会議・委員会・研究会・研修会等

1．会　　議

会　議　名	目　　的	開　催
幹　部　会　議	病院の最重要事項を審議し、基本的方針を決定する。	月２回 （第１水曜日、第３水曜日）
M　　C （経営会議）	病院の管理、運営における重要事項を審議するとともに、病院事業の充実発展及び業務を円滑に遂行するための調整を行う。	年４回
診　療　科 責任者会議	各部局又は各課(科)等の関連事項の協議、調整及び情報の交換伝達を行い円滑な業務運営を図る。	月１回 （第４金曜日）
医療運営会議	医療業務を遂行する上での関連事項の協議、調整及び情報の交換伝達を行い、適切な業務運営を図る。	月１回 （第１木曜日）
看護師長会議	看護業務を遂行する上での関連事項の協議、調整及び情報の交換伝達を行い、適切な業務運営を図る。	月１回 （第３火曜日）

2．委　　員　　会

委員会名	目　　的	開　催
働き方改革検討委員会	病院事業職員の健康保持及び仕事と生活の調和を図り、長時間勤務の是正に向けた取組等を検討し、病院事業における働き方改革を推進していくことを目的とする。	年１回
診療報酬対策委員会	医療保険制度の円滑な運用と診療業務の効率的運営を図る。	年12回
物流管理運営委員会	物品供給及び保管、新規医療材料の採否について審議し、もって有効かつ効率的な物流管理を図る。	年５回
病床機能分化検討委員会	病床機能を効果的に運用するための調査、検討を目的とする。	年５回
重症度、医療・看護必要度委員会	院内における重症度、医療・看護必要度の適切な評価を行うことを目的とする。	年１回
重症度、医療・看護必要度小委員会	重症度、医療・看護必要度の適切な評価を行い、看護職者の適正配置することを目的とする。	年10回
医療安全管理委員会	安全な医療を提供するための調査及び分析、評価等を行い医療事故防止や予防対策の推進を図る。	年12回
リスクマネージャー会	医療安全管理に関する取組みを推進する。	年22回
透析機器安全管理（水質管理）委員会	透析機器の安全管理を図る。	年12回
虐待対策委員会	院内における虐待に関する対応、方針を明確にし、被害者の権利の擁護に資することを目的とする。	年９回
感染対策委員会	院内における病原微生物の感染を積極的に防止し、院内衛生管理の万全を期する。	年13回
輸血療法委員会	院内で使用する血液の取扱いについて検討し、血液管理の円滑化を図る。	年６回
院内褥瘡対策委員会	病院内における褥創対策を討議・検討し、効率的な褥創予防の推進を図る。	年12回
院内褥瘡対策小委員会	院内褥瘡対策委員会と連携し、褥瘡ケアの質の向上を図り、院内の褥瘡推定発生率の低下を図る。	年12回

委員会名	目　　的	開　催
緩和ケア委員会	悪性腫瘍など生命を脅かす疾患に対し、身体・精神・社会・スピリチュアル等の苦痛緩和と、ＱＯＬの向上に向けて院内外の知識・技術の向上を図る。	年10回
緩和ケア小委員会	緩和ケア委員会と連携し、院内の緩和医療に対する意識を高め、緩和医療の知識・技術の向上を図り、看護実践の共有・改善、教育に関することなどを検討する。	年12回
クリニカルパス委員会	医療の標準化、効率化を図ることで患者により良い医療を提供し、病院業務の円滑な運営を図る。	年11回
クリニカルパス小委員会	現場でのクリニカルパス作成と分析後の変更等を推進する。	年22回
救急医療対策委員会	救急患者に対する良質で適正な医療サービスを提供するため、診療機能体制の円滑な運営を図る。	年12回
栄養管理委員会	理想的な栄養管理を確立し、医療の質の向上を図る。	年11回
ＮＳＴ委員会	患者の栄養状態及び治療成績、ＱＯＬ（生活の質）の改善を図るとともに、チーム医療の推進による医療の質の向上を目的として、適切な栄養アセスメント及び栄養指導を行う。	年10回
がん診療委員会	地域がん診療連携拠点病院として、地域における予防活動及びがんの早期発見と治療の向上を図る。	年１回
がん化学療法委員会	化学療法のレジメンの安全性などについて厚生労働省が承認した薬剤に基づき審査、管理、承認する。	年８回
病棟業務委員会	病棟の運営と、病床管理の適正化及び合理的かつ効率的運用を図る。	年９回
外来業務委員会	外来管理の適正化及び合理的かつ効率的運用を図る。	年15回
看護外来小委員会	通院治療を要する患者のＱＯＬ向上のために、看護外来の効率的運用と、看護外来の質の向上を図る。	年９回
慢性疾患療養指導委員会	慢性疾患療養指導に関する円滑な運営を図る。	年１回
糖尿病療養チーム小委員会	糖尿病の治療・指導を討議・検討し、その向上を図る。	年12回
腎臓病療養チーム小委員会	腎臓病の治療・指導を協議・検討し、その向上を図る。	年８回

委員会名	目　　的	開　催
呼吸器療養チーム小委員会	慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者の指導・教育及び人工呼吸、酸素療法についての職員研修体制を確保し、安全な看護を提供する。	年２回
放射線安全管理委員会	放射性同位元素等の安全管理を図り、放射線障害の発生を防止する。	年１回
医療の質評価向上委員会	質の高い医療の実践に役立てるために、臨床指標などの評価指数を活用して、当院の医療の質を評価する。	年１回
病院機能評価委員会	病院の問題点を明確にし、その改善に向けて協議検討し、第３者による病院機能評価を受審し、医療の質の向上と地域住民の信頼を確保する。	年７回
伊勢崎市民病院先進医療審査委員会	厚生労働省が定める先進医療の当院での実施について、審査、検討を行う。	年３回
伊勢崎市民病院医師事務作業補助業務委員会	医師の負担軽減に資するための医師事務作業補助者を育成して、医師事務作業補助チーム要綱に準じて効率的な業務を行っているか監査を行う。	年１回
伊勢崎市民病院フットケア委員会	フットケアを必要とする足病患者に対し専門的なチーム医療を提供する。	年３回
治験審査委員会	治験薬等の臨床試験の実施について倫理的、科学的及び医学的妥当性について審査等を行う。	随　時
伊勢崎市民病院倫理委員会	患者等の人権及び生命の擁護について、法律及び医学又は医療の倫理に照らし、適切な医療及び医学研究等が行われるよう審議する。	年６回
伊勢崎市民病院医療事故調査委員会	医療事故が発生した場合、その原因究明について調査を行うこと。	随　時
伊勢崎市民病院地域医療支援委員会	地域における医療の確保のために必要な支援を行う。	年２回
伊勢崎市民病院群初期臨床研修管理委員会	当病院を基幹型臨床研修病院とする医師の臨床研修の実施について、適切な指導及び管理運営を図る。	年２回
伊勢崎市民病院新専門医制度委員会	新専門医制度の基本理念の下、伊勢崎市民病院を基幹施設とする新専門医制度の充実を図ることを目的とする。	年１回
伊勢崎市民病院看護師特定行為研修管理委員会	医師のタスクシフト及びチーム医療を推進し、地域医療及び高度医療の現場において、医療安全を配慮しつつ、特定行為に必要な知識及び技術を教育し社会に貢献できる有能な看護師を育成するための特定行為研修を受ける看護師に対し、特定行為研修の円滑な指導、運営を図る。	年３回

委員会名	目　　的	開　催
情報システム委員会	医療情報システムで使用される機器ソフトウェア及び運用に必要な仕組み全般についての安全で適切な管理運営を図る。	年３回
診療情報開示検討委員会	診療情報の開示依頼があった場合、開示について検討する。	年７回
薬事委員会	病院で使用する医薬品等の副作用、薬効再評価情報、新規薬品の購入、在庫薬品の取扱いを検討し、より適正な病院経営及び診療・調剤の円滑化を図る。	年４回
地域医療連携室運営委員会	地域中核病院として関係機関との連携強化推進と、入退院患者の支援体制及び業務効率化の推進を図る。	年12回
退院支援委員会	患者の自己決定を尊重し、退院支援および退院調整を図ることを目的とする。	年12回
中央手術室運営委員会	各科との連絡調整と手術室の効率的利用について協議し、業務の円滑な運営を図る。	年12回
中央手術室運営小委員会	中央手術室の円滑な運用を図るため、手術支援ロボットの運用等について協議を行うことを目的とする。	年１回
集中治療室運営委員会	集中治療室（ＩＣＵ）の円滑な運営と高度な医療を提供することを目的とする。	年６回
中央放射線科運営委員会	診療部門の連絡を緊密にし、中央放射線業務の充実と業務の円滑な運営を図る。	年１回
中央材料室運営委員会	医療機器具等の再処理を安全かつ効率的に供給する。	年１回
診療記録管理委員会	診療記録及び病歴管理について審議する。	年８回
検査業務委員会	診療部門の連絡を緊密にし、検査業務の充実向上と業務の円滑な運営を図る。	年４回
検診運営委員会	検診センターの適正かつ効率的運営を図る。	年１回
DPC／PDPS コーディング委員会	標準的な診断及び治療方法の周知並びに適切なコーディングを行う体制の確保を図る。	年４回
伊勢崎市民病院脳死判定委員会	本院で行われる臓器の提供を前提とした脳死判定に関する事項を審議する。	随　時

委員会名	目　　的	開　催
伊勢崎市民病院臓器提供対策委員会	院内で行われる臓器移植に関する事項を審議する。	随　時
伊勢崎市民病院内視鏡センター運営委員会	内視鏡センターの円滑な運営と質の高い医療を提供することを目的とする。	年５回
臨床研修委員会	医師臨床研修の指導体制及び円滑な研修運営を図る。	年５回
接遇改善委員会	職員の接遇向上を図り患者サービスの充実を図る。	年５回
新人看護職員研修制度委員会	新人看護職員への臨床研修の企画・運営・評価を行う。	年23回
図書・学術支援・研修委員会	研修並びに病院内の図書の有効利用、職員の学術調査、研究の支援を行う。	年２回
伊勢崎市民病院地域医療従事者等研修委員会	地域の医療従事者等の資質の向上のために策定した研修プログラムの評価・検討を行う。	年１回
医療ガス安全管理委員会	医療ガス設備の安全管理を図り、患者の安全を確保する。	年１回
個人情報保護対策委員会	個人情報の取り扱いについて、条例に基づき適正な管理運営を図る。	年１回
衛生委員会	職員の安全衛生及び健康管理について審議する。	年12回
防火防災管理委員会	病院における防火防災管理の徹底を期し、もって火災及びその他の災害に因る物的、人的被害を軽減することを目的とする。	年１回
伊勢崎市民病院災害医療活動委員会	伊勢崎佐波地域の災害拠点病院として、昨今の多様化する災害に対応するにあたり、当病院で定める事業継続計画及び災害医療対策マニュアルを整備するとともに、病院全職員に教育・啓発を図る。	年５回
診療用放射線安全利用管理委員会	診療用放射線に係る安全体制について企画また審議する。	年１回
広報編集委員会	病院広報誌の作成及び病院ホームページの管理を行う。	年５回
年報編集委員会	病院年報の編集を行う。	年１回

３．院内外定期研究会および抄読会

所　　属	院内・院外定期研究会および抄読会	開　催
全　　科	M&Mカンファレンス C.P.C 示説会	月１回 年４回
内　　科	症例検討会（内科系総合） 呼吸器カンファレンス（内科・外科・放射線診断科・放射線治療科） 消化器内視鏡カンファレンス、肝胆膵カンファレンス	週１回
脳神経内科	症例検討会（内科系総合）、グランドカンファレンス、 病棟カンファレンス（医師･看護師･作業療法士･理学療法士･言語聴覚士･ＭＳＷ） ショートカンファレンス	週１回 週１回 週５回
循環器内科	循環器内科カンファレンス、研修医カンファレンス、病棟カンファレンス 抄読会（英文） ハートチームカンファレンス 群馬県症例検討会 群馬県冠動脈治療懇談会	週１回 月１回 月２回 年１回 年２回
小　児　科	入院症例検討会 抄読会（英文）	週１回 月２回
外　　科	病棟カンファレンス、術前術後検討会、レントゲンカンファレンス、抄読会、 呼吸器カンファレンス（内科・外科・放射線診断科・放射線治療科）、 キャンサーボード（消化管・肝胆膵）	週１回
整形外科	術前術後検討会、症例検討会 病棟カンファレンス（医師・看護師・作業,理学療法士・ＭＳＷ） 伊勢崎整形外科研究会	週１回 年６回 年２回
心臓血管外科	心臓血管外科カンファレンス、術前症例検討会 伊勢崎佐波医師会循環器勉強会、群馬県末梢血管懇談会	週１回 年２回
皮　膚　科	術前検討会、皮膚病理組織検討会	週１回
泌尿器科	透析カンファレンス 病棟カンファレンス、入院症例検討会（医師）	月１回 週１回
産婦人科	入院症例検討会、術前検討会	週１回
耳鼻咽喉科	術前検討会	週１回
放射線治療科	呼吸器カンファレンス（内科・外科・放射線診断科・放射線治療科） 骨キャンサーボード（放射線治療科・整形外科・緩和ケア内科、看護師・理学療法士・作業療法士） 部門カンファレンス（医師・診療放射線技師・看護師）	週１回 月１回 週１回
麻　酔　科	術前検討会	週５回
歯科口腔外科	術前検討会	週１回
緩和ケア内科	病棟カンファレンス（医師･看護師･薬剤師･うち理学療法士,管理栄養士　週１回） ミニデスカンファレンス、合同カンファレンス	週５回 不定期

所　　属	院内・院外定期研究会および抄読会	開　催
リハビリテーション科	リハビリテーション科内カンファレンス リハビリテーション勉強会	隔週 月１回
緩和ケアチーム	緩和ケアチームカンファレンス 多職種カンファレンス	週５回 週３回
中央放射線科	中央放射線科勉強会	月１回
中央検査科	臨床検査研究会	年１回
栄　養　科	ＮＳＴカンファレンス	週１回
看護部門	看護会議、看護教育部会、病棟勉強会 病棟カンファレンス 看護研究発表会 臨床倫理事例報告会	月１回 週４～５回 年２回 年２回
薬　剤　部	病棟カンファレンス 病棟薬剤業務・DI カンファレンス 群馬県病院薬剤師会研修会 部内新薬等説明会 伊勢崎佐波薬剤師会講演会 伊勢崎地区がん薬物療法勉強会	週１回 隔週 月１回 月１回 月１回 年３回
地域医療連携室	ボランティア活動研修会 群馬脳卒中医療連携の会 大腿骨頸部骨折地域連携パス合同委員会 群馬県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会 群馬県がん診療連携拠点病院連絡協議会地域連携パス部会 伊勢崎佐波地域医療連携実務者の会 症例検討会 患者サポートカンファレンス 伊勢崎市要保護児童対策地域協議会 伊勢崎地域緩和ケアネットワーク研修会 伊勢崎市こども支援部会 群馬県児童虐待防止ネットワーク研修会	年１回 年３回 年３回 年２回 年２回 年３回 年１回 週１回 月１回 年２回 年２回 年２回
医療安全管理室	医療安全カンファレンス 医療安全巡視 医療安全カンファ（全体研修） ICT/AST カンファレンス 伊勢崎感染対策カンファレンス	週１回 月２回 年２回 週１回 年５回

４．院内講演会および研修会

（単位　人）

年 月 日	演　　題	種　　類	受講者数	担 当 所 属
3.4.19	新規採用職員等研修会	職員研修	39	総　務　課
3.6.1 ～11.9	リスクマネージャー養成研修会	勉強会	29	医療安全管理委員会
3.6.29	伊勢崎地区がん薬物療法講演会	Web 研修	9 (13)	がん化学療法委員会
3.7.1 ～7.21	「ウィズコロナの為の感染対策セミナーこれだけは知っておきたいコロナ時代の感染対策の基本」	Web 研修	955 (14)	感染対策委員会
3.7.5 ～7.31	医療安全全体研修①「院内急変の早期発見・早期対応を考える」	Web 研修	952 (13)	医療安全管理委員会
3.7.13	伊勢崎地区がん薬物療法講演会	講演会	8 (14)	がん化学療法委員会
3.8.1 ～4.3.31	ＢＬＳ研修	ＢＬＳ演習	537	BLSワーキング
3.8.5 ～4.1.12	糖尿病療養指導勉強会（９回コース）	勉強会	19	糖尿病療養チーム小委員会
3.8.13 ～9.13	認知症を学ぼう２０２１	勉強会	642	認知症ケアチーム
3.8.19	「急変時はＯＮＲではない！ＤＮＲからＡＣＰへ」	勉強会	936	倫理委員会
3.8.30 ～9.3	接遇マナーの基本「あいさつ」で変わるおもてなしの心	動画視聴研修	1,014 (20)	接遇改善委員会
3.9.15	伊勢崎地区がん薬物療法講演会	講演会	8 (12)	がん化学療法委員会
3.10.13	「標準採血法ガイドラインと採血業務における基礎的な注意点」	Web 講演会	34	検査業務委員会

年 月 日	演　　題	種　　類	受講者数	担 当 所 属
3.10.15 ～11.8	排尿ケアチーム研修会	講演会	437	排尿ケアチーム
3.10.20	保険診療に関する講習会	講演会	50	医療サービス課
3.11.8 ～11.30	ブレイクスルー感染と感染対策の基本について	Web 研修	940	感染対策委員会
3.11.8 ～11.30	アンチバイオグラムと抗菌薬使用状況	Web 研修	940	感染対策委員会
3.11.30	保険診療に関する講習会	講演会	46	医療サービス課
3.12.6 ～4.1.7	「医療安全の基礎：５Ｓの勧め」	Web 研修	938 (15)	医療安全管理委員会
4.1.11	様々な職種からみた褥瘡	講演会	41	院内褥瘡対策委員会
4.1.17 ～2.18	診療放射線の安全利用のための研修	Web 研修	215	診療用放射線安全利用管理委員会
4.1.31 ～2.4	ハラスメントに関する研修「これもハラスメント？正しい理解と適切な対応法」	動画視聴研修	1,004 (20)	接遇改善委員会
4.2.9 ～2.28	第一部　人権啓発ビデオ「虐待防止シリーズ」高齢者虐待YouTube法務省チャンネル 第二部　「市民病院における虐待対応」前田昇三虐待対策委員長	Web 研修	758	虐待対策委員会
4.2.15 ～2.16	上級・中級職員研修	職員研修	34	総務課
4.2.14 ～3.14	「抗菌薬意識調査レポート２０２１報告」	Web 研修	668	感染対策委員会
4.3.1	伊勢崎市民病院クリニカルパス大会	Web 講演会	58 (13)	クリニカルパス委員会
4.3.16	世界腎臓デイ　慢性腎臓病について	データ配信	－	腎臓病療養チーム小委員会

※（　　）参加者のうち院外参加者数

５．看護研究発表会

年月日	テ　　ー　　マ	所　　属	発 表 者	出席人数
3.9.13～ 3.10.18	ストーマチェックリスト導入による病棟看護師のストーマケア指導の変化	9階A病棟	前田 貫太	－
	手術を受ける患児を受け持つ病棟看護師が手術看護師に対する術前訪問に求めるもの	9階A病棟	田島 洋貴	
	食事を摂取しようとしない患児への退院に向けた関わりを振り返って ～ペプロウ看護理論を活用して～	8階B病棟	井上 千種	
	当病院循環器センターに勤務する看護師が、術後せん妄を判断した要因 ～心臓血管術後の患者に焦点を当てて～	6階A病棟	齋藤 汐里	
※群馬県緊急事態宣言中であり、院内看護研究発表会を全看護職員対象のWeb開催とした。				
4.3.2	外来看護師の在宅療養に対する支援の実態	外来	登山 まり子	60
	乳腺看護外来を退院後複数回受診した乳がん患者の相談内容の調査	9階A病棟	武藤 愛	
	外科病棟の自己体動可能な手術患者の褥瘡への看護 ～看護の内容を振り返って～	9階A病棟	藤本 恵里那	
	緩和ケア病棟におけるリハビリテーションの現状と課題 ～リハビリカンファレンス開始前後の件数を比較して～	緩和ケア病棟	石丸 小百合	
	介護老人保健施設で介護福祉士が共同する看護師に依頼している業務と依頼理由 ～介護福祉士が看護師に期待する役割についての一考察～	8階B病棟	萩原 涼	
	妊娠糖尿病患者の療養指導を行う日本糖尿病療養指導士が抱く困難	外来	関口 知美	
	退院支援カンファレンスで「見える化」ボードを活用した効果	緩和ケア病棟	山本 美咲	
※新型コロナウイルス感染防止対策により、参加人数を60名に制限し開催した。				

６．臨床研修および臨地実習指導

（1）医　療　部

期　　間		学　校　名	人　数	研　修　・　実　習　科　名		
臨床研修病院研修医	2.4.1～4.3.31	群　馬　大　学	7	初期臨床研修		２年次
	〃	自治医科大学	1	〃		２年次
	〃	山　形　大　学	1	〃		２年次
	〃	鳥　取　大　学	1	〃		２年次
	〃	帝　京　大　学	1	〃		２年次
	〃	金沢医科大学	1	〃		２年次
	3.4.1～5.3.31	群　馬　大　学	7	〃		１年次
	〃	自治医科大学	2	〃		１年次
	〃	秋　田　大　学	1	〃		１年次
	〃	岩手医科大学	1	〃		１年次
	〃	昭　和　大　学	1	〃		１年次
医学生実習	3.5.10～3.6.4	群　馬　大　学	4	内　　科	臨床実習	６年生
	3.6.7～3.7.2	群　馬　大　学	3	内　　科	〃	６年生
	3.11.22～3.12.17	群　馬　大　学	4	内　　科	〃	５年生
	4.1.4～4.1.28	群　馬　大　学	4	内　　科	〃	５年生
	4.1.17～4.1.21	群　馬　大　学	1	麻　酔　科	〃	５年生
	4.1.31～4.2.25	群　馬　大　学	4	内　　科	〃	５年生
	4.2.28～4.3.11	群　馬　大　学	1	麻　酔　科	〃	５年生
	4.2.28～4.3.25	群　馬　大　学	2	内　　科	〃	５年生
病院見学	3.5.6	獨協医科大学	1	臨床研修希望者病院見学		
	3.5.18	群　馬　大　学	1	〃		
	3.5.20	群　馬　大　学	1	〃		
	3.5.27	岩手医科大学	1	〃		
	3.6.3	北海道大学	1	〃		
	3.6.9	新　潟　大　学	1	〃		
	3.6.9	日　本　大　学	1	〃		
	3.6.17	新　潟　大　学	1	〃		
	3.6.17	獨協医科大学	1	〃		
	3.6.22	群　馬　大　学	1	〃		
	3.6.24	群　馬　大　学	1	〃		
	3.7.1	群　馬　大　学	1	〃		
	3.7.6	群　馬　大　学	2	〃		
	3.7.7	群　馬　大　学	1	〃		
	3.7.8	群　馬　大　学	3	〃		
	3.7.13	群　馬　大　学	1	〃		
	3.7.15	秋　田　大　学	2	〃		

期間		学校名	人数	研修・実習科名
病院見学	3.7.15	金沢大学	1	臨床研修希望者病院見学
	3.7.19	群馬大学	1	〃
	3.7.20	群馬大学	3	〃
	3.7.26	群馬大学	2	〃
	3.7.29	群馬大学	3	〃
	3.8.5	群馬大学	3	〃
	3.8.6	徳島大学	1	〃
	3.8.10	群馬大学	1	〃
	3.8.10	山形大学	1	〃
	3.8.10	島根大学	1	〃
	3.8.12	山形大学	1	〃
	3.8.17	富山大学	1	〃
	3.8.26	群馬大学	1	〃
	3.8.30	山形大学	1	〃
	3.11.4	群馬大学	1	〃
	3.11.11	群馬大学	1	〃
	3.11.16	群馬大学	1	〃
	3.11.18	群馬大学	3	〃
	3.11.30	愛知医科大学	1	〃
	3.12.23	群馬大学	1	〃
	3.12.23	新潟大学	1	〃
	3.12.23	滋賀医科大学	1	〃
	4.1.6	山形大学	2	〃

（2）歯科口腔外科

期間	学校名等	人数	実習内容	
3.6.21～3.7.2	太田医療技術専門学校	2	歯科衛生学科	3年生
3.7.16～3.7.30	太田医療技術専門学校	2	歯科衛生学科	3年生

（3）リハビリテーション科

期間	学校名等	人数	実習内容	
3.5.31～3.7.17	目白大学	1	理学療法総合臨床実習	4年生
3.10.18～3.12.10	群馬大学	1	理学療法総合臨床実習	4年生
4.2.8～4.2.25	群馬大学	1	理学療法臨床実習	3年生

（4）中央放射線科

期　　間	学　校　名　等	人数	実　習　内　容	
3.4.13～3.7.9	群馬県立県民健康科学大学	16	診療画像技術学実習	4年生
3.5.10～3.7.16	群　馬　パ　ー　ス　大　学	10	核医学・放射線治療技術学臨床実習	4年生

（5）中央検査科

期　　間	学　校　名　等	人数	実　習　内　容	
3.5.10～3.8.6	群　馬　パ　ー　ス　大　学	2	臨床検査臨地実習	4年生

（6）臨床工学科

期　　間	学　校　名　等	人数	実　習　内　容	
3.8.23～3.9.7	太田医療技術専門学校	2	臨床工学技士臨床実習	3年生
3.10.11～3.10.26	太田医療技術専門学校	2	臨床工学技士臨床実習	3年生

（7）栄　養　科

期　　間	学　校　名　等	人数	実　習　内　容	
3.7.12～3.7.27	高崎健康福祉大学	2	臨床栄養学実習	4年生
4.2.28～4.3.11	桐　生　大　学	2	臨床栄養学実習	3年生

（8）看　護　部

期　　間	学　校　名　等	人数	実　習　内　容	
3.5.10～3.9.17	伊勢崎敬愛看護学院	12	小児看護学実習	3年生
3.5.10～3.9.10	伊勢崎敬愛看護学院	18	母性看護学実習	3年生
3.5.10～3.7.23	高崎健康福祉大学	12	成人看護学実習	3年生
3.5.10～3.7.30	上　武　大　学	15	急性期成人看護学実習	4年生
3.5.24～3.7.9	桐　生　大　学	12	成人看護学実習Ⅱ	3年生
3.5.31～3.10.15	本庄児玉看護専門学校	5	成人看護学実習Ⅰ	3年生
3.6.21～3.7.2	群馬県立県民健康科学大学	5	総合実習	4年生
3.6.28～3.9.17	本庄児玉看護専門学校	4	成人看護学実習Ⅱ	3年生
3.7.5～3.10.15	本庄児玉看護専門学校	10	小児看護学実習	3年生
3.7.12～3.7.23	群馬県立県民健康科学大学	5	チーム連携論実習	4年生
3.7.26～3.7.30	桐　生　大　学	25	早期体験合同実習	1年生
3.7.20～3.10.1	群　馬　パ　ー　ス　大　学	3	助産専攻　助産学実習	
3.8.2～3.8.13	桐　生　大　学	6	小児看護学実習	3年生
3.9.27～3.11.5	伊勢崎敬愛看護学院	22	成人看護学実習Ⅲ	3年生
3.10.4～3.12.24	群馬県立県民健康科学大学	30	生涯発達看護学　母胎期実習	3年生
3.10.4～3.12.17	桐　生　大　学	1	助産専攻　助産学実習	

期　　間	学　校　名　等	人数	実　習　内　容	
3.10.25～4.2.18	東群馬看護専門学校	6	小児看護学実習	３年生
3.11.8～3.11.19	桐生大学	24	基礎看護学実習Ⅱ	２年生
3.11.15～3.12.3	伊勢崎敬愛看護学院	12	基礎看護学実習Ⅱ	１年生
3.11.22～3.12.3	上武大学	24	受け持ち看護実習	２年生
3.12.6～3.12.17	上武大学	45	看護体験実習	１年生
4.1.11～4.1.28	群馬県立県民健康科学大学	6	生涯発達看護学　小児科実習	３年生
4.1.11～4.2.18	上武大学	30	慢性期成人看護学実習	３年生

（9）薬　剤　部

期　　間	学　校　名　等	人数	実　習　内　容	
3.11.22～4.2.10	高崎健康福祉大学	4	薬学生実務実習	５年生
3.9.6	東京理科大学	1	病院見学	５年生
4.1.6	高崎健康福祉大学	1	病院見学	５年生
4.3.25	京都薬科大学	1	病院見学	５年生

（１０）地域医療連携室

期　　間	学　校　名　等	人数	実　習　内　容	
3.8.11～3.9.27	高崎健康福祉大学	1	社会福祉相談援助実習	３年生

ＸＩ　研 究 業 績

XI 研 究 業 績

（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

1．論　　文　（原著・総説・著書など）

（1）欧文論文

【整形外科】

筆頭者名	共著者名	論文名	雑誌名	巻（号）	頁(初頁-終頁)	発行年月
Tomohiro Hikata	Haku Iizuka, Ryoichi Kobayashi, et al	Risk Factor for Poor Patient Satisfaction After Lumbar Spine Surgery in Elderly Patients Aged Over 80 years	Clinical Spine Surgery	34(4)	E223-E228	2021.5
Noriaki Shimokawa	Haku Iizuka,et al	Spinal malformation - A biochemical analysis using congenital kyphosis rats	Journal of Cellular Biochemistry	123(3)	501-505	2022.3

【心臓血管外科】

筆頭者名	共著者名	論文名	雑誌名	巻（号）	頁（初頁-終頁）	発行年月
Takao Miki	Satoshi Ohki, Tamiyuki Obayashi, Kiyomitsu Yasuhara, Shuichi Okonogi, Ayako Nagasawa	Complete Resection of Phosphoglyceride Crystal Deposition Disease After Cardiac Surgery	The Annals of thoracic surgery	111(5)	e315-e317	2021.5
Tadashi Umeno	Satoshi Ohki, Kiyomitsu Yasuhara, Tamiyuki Obayashi	Total Endovascular Repair with Chimney Grafts for Distal Stent Graft-induced New Entry After Type B Aortic Dissection	Indian Journal of Vascular and Endovascular Surgery	8	S185-187	2021.12
Takao Miki	Satoshi Ohki, Kiyomitsu Yasuhara, Tamiyuki Obayashi	Endovascular Aortic Repair of Mycotic Abdominal Aortic Aneurysm with Multiple Systemic Abscesses	Indian Journal of Vascular and Endovascular Surgery	1	111-113	2022.1

【皮膚科】

筆頭者名	共著者名	論文名	雑誌名	巻（号）	頁（初頁-終頁）	発行年月
Yuko Kuriyama	Atsushi Tamura, et al	Onychomatricoma mimicking subungual melanoma and Bowen's disease	Journal of Cutaneous Immunology and Allergy	5(1)	24-26	2022.2

【放射線治療科】

筆頭者名	共著者名	論文名	雑誌名	巻（号）	頁（初頁-終頁）	発行年月
Nobuteru Kubo	keiko Higuchi, et al	Radiotherapy Patterns of Care for Locally-advanced Non-small Cell Lung Cancer in the Pre-and Post-durvalumab Era：A Region-wide Survey in a Japanese Prefecture	Journal of Radiation Research	63(2)	264-271	2021.12

（2）邦文論文

【内科】

筆頭者名	共著者名	論文名	雑誌名	巻（号）	頁（初頁-終頁）	発行年月
佐藤　遼	関口雅則、石原眞悟、増尾貴成	腸閉塞をきたした回腸子宮内膜症の一例	Progress of Digestive Endoscopy	第99巻第1号	111-113	3年12月

【小児科】

筆頭者名	共著者名	論文名	雑誌名	巻（号）	頁（初頁-終頁）	発行年月
田端　洋太	前田昇三	低亜鉛母乳により湿疹を呈した亜鉛欠乏症の3兄弟例	THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL	第72巻第1号	97-100	4年2月

【外科】

筆頭者名	共著者名	論文名	雑誌名	巻（号）	頁（初頁-終頁）	発行年月
渡辺　裕	諸原浩二、保田尚邦、家田敬輔、大澤秀信	外傷を契機に診断され緊急手術を行った脾嚢胞破裂の1例	日本臨床外科学会雑誌	第82巻第6号	1206-1210	3年6月
保田　尚邦	諸原浩二、渡辺　裕	再発直腸脱に対するDelorme法の1例	群馬医学	第114巻	65-67	3年12月

【皮膚科】

筆頭者名	共著者名	論文名	雑誌名	巻（号）	頁（初頁-終頁）	発行年月
田村　敦志		爪疾患	Clinical Derma	第23巻第1号	3-6	3年4月
田村　敦志		基底細胞癌	皮膚疾患 最新の治療 2021-2022		240-241	3年4月
田村　敦志		できものが盛り上がる	愁訴から考える皮膚疾患診断ベストプラクティス		107-110	3年4月
堀内 あゆみ	長谷川道子、田村敦志	Subungual schwannomaの2例	日本皮膚外科学会誌	第25巻	112-113	3年5月
田村　敦志		爪部の局所解剖	爪の診療実践ガイド 改訂第2版		1-12	3年6月

筆頭者名	共著者名	論文名	雑誌名	巻（号）	頁（初頁-終頁）	発行年月
田村　敦志	長谷川道子	爪部の病理組織診断にあたっての基礎知識（爪生検の仕方，正常な爪部の組織像）	爪の診療実践ガイド 改訂第２版		13-23	３年６月
田村　敦志	長谷川道子	爪部の病理組織（非メラノサイト系疾患）	爪の診療実践ガイド 改訂第２版		24-34	３年６月
田村　敦志		陥入爪の治療方針に関するdebate：症例により外科的操作が必要と考える立場から	爪の診療実践ガイド 改訂第２版		144-153	３年６月
田村　敦志		爪部手術の麻酔法と駆血法	爪の診療実践ガイド 改訂第２版		181-191	３年６月
田村　敦志		陥入爪，過彎曲爪の治療：フェノール法を含めた外科的治療	爪の診療実践ガイド 改訂第２版		192-205	３年６月
田村　敦志	長谷川道子	爪部の手術療法	爪の診療実践ガイド 改訂第２版		206-224	３年６月
堀内あゆみ	長谷川道子、田村敦志、その他	MRI で液面形成（fluid-fluid level）を認めた大型の solid-cystic hidradenoma の１ 例	臨床皮膚科	第75巻第８号	605-610	３年７月
長谷川 道子	堀内あゆみ、田村敦志	仙尾部滑液包炎の３例	臨床皮膚科	第75巻第10号	807-811	３年９月
田村　敦志		爪甲下グロムス腫瘍	流れのわかる皮膚外科手術		31-35	３年11月
齋藤　龍一	長谷川道子、田村敦志、その他	潰瘍を伴う角化性局面が被角血管腫様の組織像を呈した男性外陰部硬化性苔癬の１例	臨床皮膚科	第76巻第２号	117-123	４年２月
齋藤　龍一	長谷川道子、田村敦志	炎症後に被覆皮膚に色素沈着をきたしたpigmented pilomatricoma の１例	臨床皮膚科	第76巻第２号	131-135	４年２月
田村　敦志		神経鞘腫（Schwann 細胞腫）	今日の皮膚疾患治療指針 第５版		779-780	４年３月
田村　敦志		悪性末梢神経鞘腫瘍	今日の皮膚疾患治療指針 第５版		783-785	４年３月
長谷川 道子	堀内あゆみ、田村敦志、その他	ステロイド全身投与が奏効した鶏用オイルアジュバントワクチン誤注射による壊死性肉芽腫性皮膚障害	日本皮膚科学会雑誌	第132巻第３号	479-486	４年３月

2．学 会 発 表

（1）座長・司会

【内科】

氏名	担当内容	学会名	年　月	開催地
増尾　貴成	座長　大腸治療4	第101回日本消化器内視鏡学会総会	3年5月	Web
関口　雅則	座長　食道・胃	第112回日本消化器内視鏡学会関東支部例会	3年6月	Web
松井　綾子	座長　胆道2	第113回日本消化器内視鏡学会関東支部例会	3年12月	Web

【脳神経内科】

氏名	担当内容	学会名	年　月	開催地
櫻井　篤志	座長	第238回日本神経学会関東・甲信越地方会	3年9月	Web

【整形外科】

氏名	担当内容	学会名	年　月	開催地
飯塚　伯	座長　一般口演46　上位頚椎手術	第50回日本脊椎脊髄病学会学術集会	3年4月	Web
飯塚　伯	座長　一般演題　脊椎2　頚椎2	第94回日本整形外科学会学術総会	3年5月	Web

【心臓血管外科】

氏名	担当内容	学会名	年　月	開催地
安原　清光	座長	第52回日本心臓血管外科学会学術総会	4年3月	神奈川

【皮膚科】

氏名	担当内容	学会名	年　月	開催地
田村　敦志	座長　一般演題8　創傷・その他	第36回日本皮膚外科学会総会・学術集会 第39回日本臨床皮膚外科学会総会・学術大会 The 6th Asian Congress of Dermatologic Surgery	3年5月	鹿児島
田村　敦志	座長　一般演題18　附属器腫瘍(2)	第37回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会	3年7月	長野
田村　敦志	座長　教育講演4　爪疾患	第39回日本美容皮膚科学会・学術大会	3年7月	京都
田村　敦志	座長　一般演題Ⅰ	第107回日本皮膚科学会群馬地方会	3年8月	前橋

【放射線治療科】

氏名	担当内容	学会名	年　月	開催地
樋口　啓子	大会長 座長　特別講演	第59回群馬放射線腫瘍研究会	4年2月	Web

【麻酔科】

氏名	担当内容	学会名	年　月	開催地
富田　行成	大会長 座長　教育講演	日本ペインクリニック学会第2回北関東・甲信越支部学術集会	4年3月	前橋

【中央放射線科】

氏名	担当内容	学会名	年　月	開催地
橋本　真衣子	座長	第49回日本放射線技術学会秋季学術大会	4年10月	熊本

(2) 口演・示説

【内　科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
細井　康博	大谷 健一、その他	出産後1年以上経過してACTHおよびPRL分泌低下症と診断された抗第XII因子抗体および抗ホスファチジルエタノールアミン(PE)抗体陽性不育症症例	第94回日本内分泌学会学術総会	3年4月	Web	示説
大谷　健一		当院の糖尿病地域連携パス患者の糖尿病合併症について	第94回日本内分泌学会学術総会	3年4月	Web	示説
石原　眞悟	その他	ステロイド抵抗/依存性好酸球性胃腸炎(EGE)の臨床病理学的特徴-多施設共同研究-	第107回日本消化器病学会総会	3年4月	東京	口演
佐藤　遼	関口 雅則、一色 綾希、渋澤 恭子、堤　俊之、石原 眞悟、増尾 貴成、富澤 直樹、関　貴臣、渡辺　裕、保田 尚邦	腸閉塞を来した回腸子宮内膜症の一例	第112回日本消化器内視鏡学会関東支部例会	3年6月	Web	口演
細井　愛美	吉成夫希子、松井 綾子、増尾 貴成、関　貴臣、鈴木 秀樹、髙山 佳泰、その他	胆嚢癌肝浸潤との鑑別に苦慮したIgG4関連胆嚢炎の一例	日本消化病学会関東支部第368回例会	4年2月	Web	口演
奥村　萌	笛木 瑛里、小林　頂、齋藤 康之、鈴木 邦明、石原 真一、小林 裕幸	鼻腔・頚部リンパ節結核の1例	第675回日本内科学会関東地方会	4年2月	Web	口演
片貝　朔也	堤　俊之、渋澤 恭子、石原 眞悟、関口 雅則、増尾 貴成、小林 裕幸	イレウス管挿入で加療しえた輸入脚症候群の1例	第676回日本内科学会関東地方会	4年3月	Web	口演
石渡　栞	石原 眞悟、関口 雅則、増尾 貴成、小林 裕幸	粘膜下腫瘍様隆起の陥凹部からの生検が胃底腺型胃癌の診断に有用であった1例	第676回日本内科学会関東地方会	4年3月	Web	口演

【脳神経内科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
櫻井　篤志	長嶺　俊、その他	両側顔面神経麻痺が先行したTolosa-Hunt症候群の40歳男性例	第237回日本神経学会関東・甲信越地方会	3年6月	Web	口演
長嶺　俊	飯塚 雄太、原澤　駿、村上雄一朗、漆田 優樹、櫻井 篤志、その他	新型コロナウィルス感染症ワクチン接種を契機に内頸動脈系の攣縮をきたした36歳女性例	第238回日本神経学会関東・甲信越地方会	3年9月	Web	口演

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
小澤　優樹	木部 朱理、児玉 智華、漆田 優樹、長嶺　俊、櫻井 篤志	C5-8頚髄症によりT1 radiculopathyを来した72歳男性例	第239回日本神経学会関東・甲信越地方会	3年12月	Web	口演
木戸　允也	漆田 優樹、長嶺　俊、櫻井 篤志	繰り返す失神の原因として中咽頭癌が疑われた83歳男性例	第240回日本神経学会関東・甲信越地方会	4年3月	Web	口演

【循環器内科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
藤井　孝成	渡邉　真、戸田 和辰、菊地聡一郎、樋口 京介	右冠動脈治療中にロータブレータがスタックし、6Frガイドカテーテルのまま Mother and Child法でベイルアウトした1例	第58回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会	3年10月	東京	口演
菊地　聡一郎	鈴木 邦明	深部静脈血栓症(DVT)の治療を機にCOVID-19肺炎慢性期の呼吸不全が軽快した1例	第675回日本内科学会関東地方会	4年2月	Web	口演

【小児科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
小針　靖子	髙野 洋子、その他	FGF23関連低リン血性くる病の小児に対するブロスマブの使用経験	第94回日本内分泌学会学術総会	3年4月	Web	示説
小針　靖子	髙野 洋子、土橋 里美、山口 将邦、今井　朗、徳永 真理、前田 昇三	当院で診療した骨形成不全症Ⅰ型5例の臨床的検討	第216回日本小児科学会群馬地方会講話会	3年7月	Web	口演
小針　靖子	髙野 洋子、前田 昇三	体重回復後に成長ホルモン分泌不全性低身長症診断に至った神経性やせ症の一女児例	第54回日本小児内分泌学会学術集会	3年10月	Web	示説
小針　靖子	髙野 洋子、前田 昇三	当院で診療した骨形成不全症Ⅰ型5例の臨床的検討	第54回日本小児内分泌学会学術集会	3年10月	Web	示説
小針　靖子	髙野 洋子、土橋 里美、山口 将邦、今井　朗、前田 昇三	Laron症候群の一例	第217回日本小児科学会群馬地方会講話会	3年12月	Web	口演
土橋　里美	山口 将邦、小針 靖子、今井　朗、髙野 洋子、前田 昇三	体重増加不良を主訴とした原発性副腎皮質機能低下症の1例	第218回日本小児科学会群馬地方会講話会	4年3月	Web	口演
桑原　幸佑	土橋 里美、山口 将邦、小針 靖子、今井　朗、髙野 洋子、前田 昇三	アトピー性皮膚炎に膿痂疹を合併し高IgE症候群が疑われた1例	第218回日本小児科学会群馬地方会講話会	4年3月	Web	口演

【外　科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
関　貴臣	鈴木 秀樹	Pancreatic metastasis from renal cell carcinoma ; report of 5 cases and review of the literature	第33回日本肝胆膵外科学会学術集会	3年6月	Web	示説
富澤　直樹		TaTME手技を応用した腹腔鏡下後方骨盤内臓全摘を行い、薄筋皮弁で膣形成した痔瘻癌の１例	第76回日本消化器外科学会総会	3年7月	京都	示説
関　貴臣	鈴木 秀樹、渡辺　裕、塚越 律子、飯島　岬、家田 敬輔、諸原 浩二、大澤 秀信、富澤 直樹、保田 尚邦	当院での単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術における上級医と外科専攻医での臨床的検討	第76回日本消化器外科学会総会	3年7月	京都	口演
片山　和久	塚越 律子	当院におけるHER2陽性乳癌の周術期療法の検討	第29回日本乳癌学会学術総会	3年7月	Web	示説
塚越　律子	片山 和久	みんなでHBOC診療を行っていくために	第29回日本乳癌学会学術総会	3年7月	Web	示説
諸原　浩二	渡辺　裕、関　貴臣、飯島　岬、塚越 律子、家田 敬輔、菅野 雅之、大澤 秀信、片山 和久、鈴木 秀樹、富澤 直樹、保田 尚邦	直腸癌に対するロボット支援下手術：新規導入施設の現状①	第83回日本臨床外科学会総会	3年11月	Web	口演
関　貴臣	鈴木 秀樹、渡辺　裕、塚越 律子、飯島　岬、家田 敬輔、諸原 浩二、菅野 雅之、片山 和久、大澤 秀信、富澤 直樹、保田 尚邦	未分化型肝細胞癌との鑑別を要した子宮平滑筋肉腫肝転移の1例	第83回日本臨床外科学会総会	3年11月	Web	口演
飯島　岬	富澤 直樹	複数回の動脈バイパス術後の症例に対し、腹腔鏡下手術、自然孔摘出を選択した１例	第34回日本内視鏡外科学会総会	3年12月	兵庫	口演
齊藤　裕紀乃	富澤 直樹、渡辺　裕、飯島　岬、家田 敬輔、諸原 浩二、大澤 秀信、鈴木 秀樹、保田 尚邦	集学的治療により低侵襲・機能温存手術が可能となった直腸癌の1例	第34回日本内視鏡外科学会総会	3年12月	兵庫	口演

【心臓血管外科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
安原　清光		Conformable TAG 追従する天才	第186回日本胸部外科学会関東甲信越地方会	3年6月	東京	口演
安原　清光	三木 隆生、長澤 綾子、小此木修一、大木　聡、大林 民幸	偽腔開存を伴う慢性B型大動脈解離に対する血管内治療戦略ー心電図同期CTと偽腔閉鎖治療の有用性ー	第74回日本胸部外科学会定期学術集会	3年11月	東京	口演
安原　清光		Endurant 手術動画で基礎から学ぶEVARの適応とポイント	第52回日本心臓血管外科学会学術総会	4年3月	神奈川	口演
安原　清光		いざ、出陣！TERUMO RelayPro	第52回日本心臓血管外科学会学術総会	4年3月	神奈川	口演
山口　亮	三木 隆生、長澤 綾子、小此木修一、安原 清光、大木　聡、大林 民幸	下壁急性心筋梗塞後の心室中隔穿孔に対し右室アプローチ修復後、心室中隔解離腔を認めた1例	第188回日本胸部外科学会関東甲信越地方会	4年3月	東京	口演

【皮膚科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
堀内 あゆみ	長谷川道子、田村 敦志	臨床的に一部に色素沈着を認めたdesmoplastic trichoepitheliomaの1例	第36回日本皮膚外科学会総会・学術集会 第39回日本臨床皮膚外科学会総会・学術大会	3年5月	Web	示説
長谷川 道子	堀内あゆみ、田村 敦志、その他	ステロイド全身投与が奏効した鶏用ワクチン誤注射による壊死性肉芽腫性皮膚障害	第120回日本皮膚科学会総会	3年5月	Web	示説
長谷川 道子	田村 敦志、その他	砒素ミルク中毒被災者に生じた多発Bowen病	第37回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会	3年7月	長野	口演
長谷川 道子	田村 敦志、その他	限界線照射後に生じた陰股部多発皮膚癌	第106回日本皮膚科学会群馬地方会	3年7月	前橋	口演
長谷川 道子	田村 敦志、その他	臨床的に侵襲性血管粘液腫との鑑別を要した血管筋線維芽細胞腫	第107回日本皮膚科学会群馬地方会	3年8月	前橋	口演
和田　茜	長谷川道子、田村 敦志	手掌に生じた基底細胞癌	日本皮膚科学会第398回福岡地方会	3年9月	Web	口演
和田　茜	長谷川道子、田村 敦志	肩の内側の皮下腫瘤を呈した傍肩関節ガングリオン	第85回日本皮膚科学会東部支部学術大会	3年9月	Web	示説
和田　茜	長谷川道子、田村 敦志	犬咬傷後に生じた非結核性抗酸菌症の1例	第108回日本皮膚科学会群馬地方会	3年12月	前橋	口演

【泌尿器科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
牧野　武朗	槁本 飛鳥、清水 孝倫、中山 紘史、悦永　徹、齋藤 佳隆、竹澤　豊、小林 幹男	伊勢崎市民病院におけるロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘術の初期経験	第35回日本泌尿器内視鏡学会総会	3年11月	Web	示説
清水　孝倫	石﨑 正徳、中山 紘史、牧野 武朗、悦永　徹、齋藤 佳隆、竹澤　豊、小林 幹男	左腎、下行結腸合併切除を要した左副腎褐色細胞腫の一例	第88回日本泌尿器科学会群馬地方会	3年11月	Web	口演
石﨑　正徳	清水 孝倫、中山 紘史、牧野 武朗、悦永　徹、齋藤 佳隆、竹澤 豊、小林　幹男	集学的治療が奏功した気腫性腎盂腎炎の2例	第88回日本泌尿器科学会群馬地方会	3年11月	前橋	口演
清水　孝倫	石﨑 正徳、中山 紘史、牧野 武朗、悦永　徹、齋藤 佳隆、竹澤　豊、小林 幹男	真菌性眼内炎を併発し失明しかけた左腎盂腎炎の一例	第89回日本泌尿器科学会群馬地方会	4年2月	Web	口演
石﨑　正徳	清水 孝倫、中山 紘史、牧野 武朗、悦永　徹、齋藤 佳隆、竹澤　豊、小林 幹男	画像上腎盂腫瘍との鑑別が困難であったIgG4関連疾患の1例	第89回日本泌尿器科学会群馬地方会	4年2月	Web	口演

【産婦人科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
阿美　寛人	豊田 奏子、小暮佳代子、狩野　智、その他	筋腫分娩による子宮内反症に対し腹腔鏡下膣式子宮全摘術を施行した一例	第61回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	3年9月	Web	口演
豊田　奏子	狩野　智、阿美 寛人、小暮佳代子	帝王切開後に診断に至った肺動脈性肺高血圧症合併妊娠の一例	第142回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会	3年11月	神奈川	口演

【放射線治療科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
神沼　拓也	樋口 啓子、その他	新型コロナウィルス感染症が放射線治療に与えた影響について～群馬県全県調査の解析～	第59回群馬放射線腫瘍研究会	4年2月	Web	口演
久保　亘輝	樋口 啓子、その他	JASTRO構造調査を用いた群馬県放射線治療実態調査	第59回群馬放射線腫瘍研究会	4年2月	Web	口演

【麻酔科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
須田 恵理香	その他	鈍的心外傷による右房損傷の救命例	日本麻酔学会関東甲信越・東京支部第61回合同学術集会	3年9月	Web	示説
樺澤　洋治	その他	側弯症手術において貯血式自己血輸血に希釈式自己血輸血を併用することで同種血輸血を回避し得た一症例	日本臨床麻酔学会第41回大会	3年11月	Web	示説
安齋　健	富田 行成、日尾 早香、藤井 理沙、齊藤 保雅、須田恵理香	ガルバマゼピンにより薬剤性過敏症症候群(DIHS) を発症した2症例	日本ペインクリニック学会第2回北関東・甲信越支部学術集会	4年3月	前橋	口演

【中央放射線科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
橋本　和也	関口 利佳、中村 康隆、北爪 翔太、樋口 啓子	左乳がん深吸気息止め照射の導入	第59回群馬放射線腫瘍研究会	4年2月	Web	口演

【中央検査科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
松島　秀子 **笹森　敏信** **熊川 慎一郎**		検体採取から学んだ検査技師の新しい可能性	第66回群馬県医学検査学会	3年11月	Web	口演
髙橋　凜	髙山 貞男、笹森 敏信、熊川慎一郎、松島 秀子	血液培養よりVibrio albensisが検出された一症例	第66回群馬県医学検査学会	3年11月	Web	口演

【臨床工学科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
關塚 くみ子	長沼　徹、富田　行成、竹澤　豊	当院における維持透析患者に対する運動療法を施行する中での臨床工学技士としての関わり方	第1回関東甲信越臨床工学会	3年10月	Web	口演

【栄養科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
柳澤　真由	上村 薫歩、齋藤 克哉、竹澤　豊、牧野 武朗、齋藤 佳隆、石倉 美穂子、富澤 直樹	血液透析患者に対する継続的な栄養指導の効果と課題	第8回日本臨床栄養代謝学会関越支部学術集会	3年10月	Web	口演

【看護部】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
小平　雄希	箱田　千恵 荒牧　敦子 手島　由紀子 髙橋　美春	身体抑制のない看護の実現に向けた急性期病院A病棟看護師の具体的行動	第52回日本看護学会学術集会	3年9月	Web	示説
内藤　千里	石井　美希 菊池　弥生 長岡　陽子	大動脈ステントグラフト内挿術を受けた患者の定期受診に対する認識～未受診患者を対象とした調査～	第60回全国自治体病院学会	3年11月	Web	示説
山名　有美香	小関　和美 柿沼　萌華 荒木　まどか 宮田　奈津紀 竹部　久美子 荒牧　敦子	ケア板を用いた褥瘡カンファレンスによる集中治療室看護師の褥瘡予防に対する行動	第25回群馬県看護学会	3年11月	Web	口演
石井　美希	樋口　啓子 徳永　真理 小林　亮一 押本　直子 永井　満里	骨転移診療チームの構築	第59回群馬放射線腫瘍研究会	4年2月	Web	口演
中島　智加実	石倉　美穂子 渡邉　美代子 新井　静江	腎センターで施行する血液透析患者に対する感染対策を踏まえた運動療法変更後の実態調査	第45回群馬県透析懇話会	4年2月	Web	口演

【薬剤部】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
加野　桂佑	馬郡　麻美 大和　由美子	ｵﾋﾟｵｲﾄﾞ減量にて離脱症候群を呈した1例	日本緩和医療薬学会	3年5月	Web	示説
田中　彩乃	大和　由美子	ｵﾋﾟｵｲﾄﾞの悪心・嘔吐に対してﾌﾟﾛｸﾛﾙﾍﾟﾗｼﾞﾝを使用した1例	日本病院薬剤師会第51回関東ブロック学術大会	3年8月	Web	示説

【地域医療連携室】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
石原　阿寿沙	柳岡　文恵	入院予定の患者家族の問い合わせ内容から入院支援職員の課題を見出す	第23回日本医療マネジメント学会学術総会	3年7月	Web	示説

【医療安全管理室】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
宮田　奈津紀		A 病院の外科病棟看護師のストーマケア指導の実態調査	第39回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会	4年2月	香川	口演

3．講　　演

【内　科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
上野　敬史	C型肝硬変に対するDAA治療	20210414伊勢崎佐波医師会学術講演会	伊勢崎佐波医師会病院	令和3年4月14日
石原　眞悟	逆流性食道炎と治療～初期治療とPPI抵抗性を含めて～	東毛消化器疾患研究会2021	Web開催	令和3年5月20日
小林　裕幸	重症喘息における最近の話題～メポリズマブの話題を中心に～	GSK重症喘息webセミナー	太田ナウリゾートホテル	令和3年5月21日
齋藤　康之	当院における小細胞肺癌の治療について	進展型小細胞肺癌治療講演会	Web開催	令和3年6月15日
小林　裕幸	今後の喘息治療を考える	呼吸器疾患カンファレンスin伊勢崎	伊勢崎プリオパレス	令和3年7月29日
関口　雅則	当院におけるニボルマブの臨床成績	胃がん治療 WEB Live Seminar	伊勢崎プリオパレス	令和3年9月15日
増尾　貴成	コロナ禍における当院のUC診療について	潰瘍性大腸炎 Cross Meeting	プラザアリア	令和3年10月6日
新井　大輝	新型コロナワクチン接種後に発症したS状結腸軸捻転の一例	第3回群馬 Emergency Surgery研究会	ホテル1-2-3前橋マーキュリー	令和3年10月8日
小林　頂	当院における局所麻酔下胸腔鏡検査の検討	第43回北関東胸部疾患研究会	群馬ロイヤルホテル	令和3年10月30日
笛木　瑛里	当院での肺外結核の検討	第43回北関東胸部疾患研究会	群馬ロイヤルホテル	令和3年10月30日
上野　敬史	肝癌診療ガイドラインと当院の診療状況	第19回群馬肝疾患制御研究会	Web開催	令和4年1月6日
増尾　貴成	コロナ禍におけるUC診療とUCに対するウステキヌマブの有用性	東毛潰瘍性大腸炎Webセミナー	プラザアリア	令和4年1月27日
小林　頂	肺癌治療 UP DATE ～ALK陽性肺がん～	メディカルスタッフ Lung Cancer Webinar	Web開催	令和4年2月1日

【脳神経内科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
櫻井　篤志	二次性進行型多発性硬化症にシポニモドを導入した症例	MS Online Meeting	群馬ロイヤルホテル	令和3年9月3日
櫻井　篤志	パーキンソン病　疾患と治療	薬剤師さん向けパーキンソン病Webセミナー	プラザアリア	令和3年12月15日
櫻井　篤志	病気のことをよく知りましょうーパーキンソン病と仲良くお付き合いするためにー	パーキンソン病友の会群馬県支部講演会	Web開催	令和4年3月13日

【循環器内科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
戸田　和辰	BMIPPにて評価し得た冠動脈解離の一例	群馬県心臓核医学読影勉強会	Web開催	令和3年6月18日

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
渡邉　真	Polyvascular diseaseを呈した高安動脈炎患者に対して段階的血管内治療が奏功した1例	3rd PRiNCE Gunma	Web開催	令和3年6月25日
戸田　和辰	高血圧と心不全ー両方の観点から見たARNIの活かし方	Cardiovascular disease Symposium in GUNMA	群馬ロイヤルホテル	令和3年11月15日
樋口　京介	若年男性に発症した冠動脈拡張症に伴う急性心筋梗塞の1例	第35回群馬県冠血管治療懇談会	前橋商工会議所	令和3年11月27日
渡邉　真	虚血性心疾患に対しての脂質異常症の治療について	パルモディアWebカンファレンス	前橋テルサ	令和4年1月20日
渡邉　真	分岐部病変でのUltimasterの有用性について	Terumo PCI seminar	Web開催	令和4年1月28日

【外　科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
片山　和久	ER+HER2-進行乳癌の治療自験例より	伊勢崎市薬剤師会学術講演会	アイランドヒルズ迎賓館	令和3年6月17日
関　貴臣	未分化型肝細胞癌との鑑別を要した肝腫瘍の治療経験	第175回群馬肝癌検討会	Web開催	令和3年7月28日
片山　和久	当院でのCDK4/6阻害剤のReal World Evidence	Breast Cancer Web Seminar in 東毛	Web開催	令和3年11月18日
片山　和久	ER+HER2-転移・再発乳癌の早期治療ラインにおけるハラヴェンの有用性	進行・再発乳がんの治療戦略を考える会in関信越	Web開催	令和4年2月3日

【整形外科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
飯塚　伯	腰椎疾患の診断と治療ー準保存療法、内視鏡手術からハイブリッドナビゲーションを用いた手術までー	第5回伊勢崎地区整形外科研究会	伊勢崎市文化会館	令和3年7月10日
飯塚　伯	骨粗鬆性脊椎椎体骨折の治療ー椎体形成術からハイブリッドナビゲーションを用いた手術までー	高崎骨粗鬆症研究会	ホテルグランビューー高崎	令和3年10月18日
飯塚　伯	腰椎疾患の診断と治療	群馬県脊柱靱帯骨化症友の会	伊勢崎市文化会館	令和4年2月27日

【心臓血管外科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
安原　清光	ステントグラフトにおける Ruby/PoD Coil の有効性	Medicos Hirata Coiling Web Conference	Web開催	令和3年5月13日
安原　清光	TAAAに対するPhysician Modified Endovascular Graft -Inpier Sleeve Technique-	Z conference	Web開催	令和3年6月10日
安原　清光	大動脈解離に対するステントグラフト治療	Cardiovascular Network in 伊勢崎	伊勢崎プリオパレス	令和3年8月25日

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
小此木　修一	弁膜症に対する治療最前線～大動脈弁狭窄症に対する治療を中心に～	Cardiovascular Network in 伊勢崎	伊勢崎プリオパレス	令和3年8月25日
安原　清光	EVAR治療戦略	AFX座談会	Web開催	令和3年10月20日
安原　清光	大動脈解離に対するステントグラフト治療	Cardiovascular Network in Fujioka	藤岡多野医師会館	令和3年11月17日
小此木　修一	弁膜症に対する治療の最前線～大動脈弁狭窄症に対する治療を中心に～	Cardiovascular Network in Fujioka	藤岡多野医師会館	令和3年11月17日
安原　清光	当院におけるAFXの使用経験	北関東　ＡＦＸ　Expert MTG	Web開催	令和3年12月7日
三木　隆生	当院におけるAFX2を使用した腹部大動脈及び腸骨動脈領域病変に対する腹部ステントグラフト内挿術～3例の治療経験呈示～	北関東　ＡＦＸ　Expert MTG	Web開催	令和3年12月7日
安原　清光	当院におけるＡＦＸの使用経験	秋田　Specialist Summit	Web開催	令和4年2月4日
安原　清光	当院におけるＡＦＸの使用経験	北海道　Specialist Summit	Web開催	令和4年2月9日

【皮膚科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
田村　敦志	爪疾患の診断へのアプローチと非手術的治療	2021年日本臨床皮膚外科学会教育セミナー	かごしま県民交流センター	令和3年5月29日

【泌尿器科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
牧野　武朗	泌尿器科専門医の考える腎性貧血治療	薬剤師さん向け腎性貧血連続Webセミナー	プラザアリア	令和3年11月2日
牧野　武朗	伊勢崎市民病院における地域連携パスの現状と課題について	伊勢崎市病診連携Conference～前立腺癌診療を考える～	伊勢崎プリオパレス	令和3年11月5日
悦永　徹	腎細胞癌におけるIO併用療法の使用経験	西毛地区腎細胞癌研究会	Web開催	令和3年12月3日
悦永　徹	シークエンス治療におけるカボメティクスの位置づけ	カボメティクスWEB講演会in群馬	ニューミヤコホテル足利	令和4年2月3日

【臨床工学科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
六本木　雄介	滴数制御方式から流量制御方式へ	TERUMO医療安全セミナー	オーベルジュ音羽倶楽部	令和3年4月3日

【看護部】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
箱田　千恵	コロナ禍における認知症看護の現状と取り組み「感染対策の工夫を講じた認知症看護の実践」	令和3年度 群馬県認知症看護認定看護師研修会	高崎健康福祉大学保健医療学部	令和3年4月3日
町田　千恵	助産診断技術学演習	看護学科　前期講義	群馬パース大学	令和3年5月21日
髙橋　美鈴	助産管理	看護学科　前期講義	群馬パース大学	令和3年6月9日
福島　加代	成人看護援助論Ⅱ 乳がん患者のケア	看護学部　講義	群馬医療福祉大学	令和3年6月14日
坂本　寿満子	フィジカルアセスメント	令和3年度訪問看護師養成研修ステップⅠ	群馬県看護教育センター	令和3年7月21日
木村　恭子	看護管理における情報管理	2021年度認定看護管理者教育課程セカンドレベル	群馬県看護教育センター	令和3年8月6日
上原　徳子	国家試験に合格するための勉強法	2021年度 団結式 （シンポジウム）	群馬パース大学	令和3年8月10日
木村　恭子	統合演習Ⅱ	2021年度認定看護管理者教育課程セカンドレベル	群馬県看護教育センター	令和3年9月28日 令和3年10月1日 令和3年10月5日 令和3年10月8日 令和3年10月15日 令和3年10月19日 令和3年10月26日
中村　小枝子	看護サービスの質管理	2021年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル	群馬県看護教育センター	令和3年10月20日
黄木　智夏	口腔ケアの理解と実践　口腔体操	伊勢崎市介護予防サポーター養成研修会	絣の郷　市民交流館	令和3年10月21日
石井　美希	疼痛マネジメントの基本	岩手県立大学看護学部 遠隔会議システムを利用したがん看護研修事業	Web開催	令和3年10月23日
福島　加代	活動報告「学びから実践へ」	令和3年度認定看護管理者教育課程フォローアップ研修	群馬県看護教育センター	令和3年11月11日
小谷野　春美	診療の補助技術	看護専門学校　講義	伊勢崎敬愛看護学院	令和3年10月21日 令和3年10月22日 令和3年11月4日
坂本　寿満子	災害看護Ⅰ	看護専門学校　講義	伊勢崎敬愛看護学院	令和3年10月14日 令和3年10月21日 令和3年11月2日 令和3年11月4日 令和3年11月9日
木村　恭子	教育担当者および実地指導者への育成・支援	令和3年度新人看護職員研修事業　研修責任者研修	群馬県看護教育センター	令和3年11月22日 令和3年11月29日
佐藤　由紀子	冠血管治療をテーマとしたコメント	第35回群馬県冠血管治療懇談会	前橋商工会議所	令和3年11月27日

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
高柳　愛美	オペ室からみた理想的な縫合糸とは salesとは?	企業　11月 WC上信越課会講演会	伊勢崎市民病院	令和3年11月19日
髙橋　美鈴	新人助産師研修	令和3年度新人看護職員研修事業　新人助産師研修	群馬県看護教育センター	令和3年12月3日
石倉　美穂子	透析看護の実際	看護学概論　臨床工学科	群馬パース大学	令和3年12月16日
須永　知香子	成人看護学方法論Ⅳ「死について考える」	看護専門学校　講義	本庄児玉看護専門学校	令和3年11月22日
五十嵐　美幸	成人看護学方法論Ⅳ「危篤・臨終・死亡時の看護」	看護専門学校　講義	本庄児玉看護専門学校	令和3年12月7日
真下　陽子	成人看護学方法論Ⅳ「終末期がん治療に伴う看護」	看護専門学校　講義	本庄児玉看護専門学校	令和3年11月29日
石井　美希	成人看護学方法論Ⅳ「終末期がん治療に伴う看護」	看護専門学校　講義	本庄児玉看護専門学校	令和3年11月30日
五十嵐　美幸	すべての看護師のための看取りのケア	すべての看護師のための看取りのケア研修会	公立富岡総合病院	令和4年2月12日

【医療安全管理室】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
後藤　恵 柴草　仁志	新型コロナウイルス対策	看護部地区支部会研修	福島病院　Web開催	令和3年4月17日
宮田　奈津紀	成人看護学方法論Ⅱ・人工肛門ストーマケア	看護専門学校　講義	本庄児玉看護専門学校	令和3年6月18日
後藤　恵	コロナ禍の今、ケアマネージャーが心がけること	伊勢崎ケアマネージャー会研修会	Web開催	令和3年7月2日
後藤　恵 柴草　仁志	高齢者施設感染対策訪問を振り返って	第1回在宅医療塾	Web開催	令和3年7月20日
後藤　恵 柴草　仁志	看護専門論Ⅴ　1-8	看護学科看護学　前期	桐生大学	令和3年8月6日 令和3年8月5日
塚原　みどり	QuickSAFER事例分析研修会	ImSAFER研究会	Web開催	令和3年12月11日
後藤　恵	周術期における感染管理 感染対策の基本	日本手術看護学会関東甲信越地区セミナー	Web開催	令和4年1月29日

4. C. P. C. (示説会)記録

(1)剖検状況

①年度別剖検状況

区 分＼年 度	29	30	元	2	3
死 亡 患 者 数 ( )は48時間以内死亡患者を含めた数です。	485 (635)	491 (634)	502 (627)	471 (671)	480 (658)
剖 検 数	5	9	8	7	5
剖 検 率 (%)	1.0	1.8	1.6	1.5	1.0

②死亡患者数・剖検数の疾患分類

種 別		疾患分類																						
		Ⅰ 感染症および寄生虫症	Ⅱ 新生物	Ⅲ 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	Ⅳ 内分泌、栄養および代謝疾患	Ⅴ 精神および行動の障害	Ⅵ 神経系の疾患	Ⅶ 眼および付属器の疾患	Ⅷ 耳および乳様突起の疾患	Ⅸ 循環器系の疾患	Ⅹ 呼吸器系の疾患	ⅩⅠ 消化器系の疾患	ⅩⅡ 皮膚および皮下組織の疾患	ⅩⅢ 筋骨格系および結合組織の疾患	ⅩⅣ 腎尿路生殖器系の疾患	ⅩⅤ 妊娠、分娩および産じょく(褥)	ⅩⅥ 周産期に発生した病態	ⅩⅦ 先天奇形、変形および染色体異常	ⅩⅧ 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	ⅩⅨ 損傷、中毒およびその他の外因の影響	ⅩⅩ 傷病および死亡の外因	ⅩⅩⅠ 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	ⅩⅩⅡ 特殊目的用コード	計
死亡患者数	合 計	17	289	1	4		3			38	79	19		2	11				8	1			8	480
	内 科	13	82	1	2		1			9	70	14		2	5				5				7	211
	精 神 科																							
	神 経 内 科						1			4					1									6
	循 環 器 内 科									16	4				2									22
	小 児 科										1									1				2
	外 科		21							1		3												25
	整 形 外 科																							
	脳 神 経 外 科																							
	心 臓 血 管 外 科									7	1	1							1					10
	皮 膚 科																		1					1
	泌 尿 器 科		14		1							1			3									19
	産 婦 人 科		1																1					2
	眼 科																							
	耳 鼻 いんこう 科		1																					1
	放 射 線 科																							
	麻 酔 科																							
	緩 和 ケ ア 内 科	4	170		1					1	2												1	179
	救 急 科						1				1													2
	歯 科 口 腔 外 科																							
剖検数	合 計		3				1				1													5
	内 科		3								1													4
	精 神 科																							
	神 経 内 科						1																	1
	循 環 器 内 科																							
	小 児 科																							
	外 科																							
	整 形 外 科																							
	脳 神 経 外 科																							
	心 臓 血 管 外 科																							
	皮 膚 科																							
	泌 尿 器 科																							
	産 婦 人 科																							
	眼 科																							
	耳 鼻 いんこう 科																							
	放 射 線 科																							
	麻 酔 科																							
	緩 和 ケ ア 内 科																							
	救 急 科																							
	歯 科 口 腔 外 科																							

＊死亡患者数は、48時間以内死亡を除いた数である。

（2）Ｃ．Ｐ．Ｃ（示説会）記録

Ｃ.Ｐ.Ｃ回数	剖検番号	年齢性別	科名	臨床診断	病理解剖学的所見
418 (4.13)	S.1935	81歳 女	内科	原発不明癌 多発肺転移	1. びまん性大細胞型Ｂ細胞性リンパ腫
419 (5.28)	S.1934	79歳 女	神経内科	運動ニューロン疾患	1. 筋萎縮性側索硬化症 2. 肺非結核性抗酸菌症および誤嚥性肺炎
〃	S.1936	67歳 男	内科	上部消化管出血	1. 胃消化性潰瘍
420 (7.30)	S.1937	85歳 男	内科	誤嚥性肺炎	1. 左肺下葉原発高分化扁平上皮癌 2. 右肺下葉ブラ内原発扁平上皮癌 3. 前立腺癌
〃	S.1938	18歳 男	内科	突然死	1. 原因不明の死亡
421 (12.20)	S.1939	70歳 男	内科	胃癌	1. 胃低分化腺癌、多発転移、化学療法後 2. 前立腺癌
〃	S.1940	85歳 男	内科	肝類上皮血管内皮腫	1. 肝血管肉腫、化学療法後
422 (2.25)	S.1941	88歳 男	内科	肺炎	1. 播種性血管内凝固症候群 2. 右気管支肺炎、サイトメガロウイルス肺炎
〃	S.1942	77歳 男	内科	右中葉原発肺癌 髄膜播種	1. 右原発性肺癌、化学療法後 2. 誤嚥性肺炎、サイトメガロウイルス肺炎

ＸⅡ　介護老人保健施設ひまわり

XII　介護老人保健施設ひまわり

1．業　務　概　要

1．スタッフ

施設長１名、課長１名(兼務)、係長１名、主査１名（兼務)、支援相談員２名（会計年度任用職員１名)、看護師長１名、看護主任１名、看護副主任２名、看護員４名、理学療法士２名（兼務１名)、作業療法士３名（兼務１名、会計年度任用職員２名)、言語聴覚士１名（兼務)、介護主任４名、介護福祉士13名（会計年度任用職員４名)、介護補助員１名（会計年度任用職員１名)、会計年度任用職員事務員３名(兼務２名)、医師４名（兼務４名)、薬剤師１名（兼務)、管理栄養士１名、調理師１名（兼務)、計48名。

2．業務の現況

入所サービスにおいては、在宅復帰支援を継続的に行った結果、在宅復帰・在宅療養支援機能加算（Ⅰ）の算定要件を引き続き維持することができた。

１日平均入所者は37.9人、利用率は75.8%であった。

通所リハビリテーションサービスにおいては、年間を通じて一定の利用者を確保でき、１日平均利用者が10.8人、利用率72.0%となった。

3．今後の目標

超高齢社会の中で、老健施設の役割は益々重要視されている。多様化する施設サービス事業者の中から、利用者に信頼され選ばれる施設を目指す。また、利用者のニーズに応えられるよう努力するとともに、限られた利用者定数の中で医療機関や居宅介護支援事業所との連携を密にして、在宅復帰を支援しながら継続的に利用率の向上を図り、経営努力を推進していきたい。

（松原　弘和）

2．経　営　状　況

（1）損益計算書

（単位　千円，%）

年度 / 科目	29		30		元		2		3	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
運営事業収益	244,553	103.9	239,747	98.0	241,610	100.8	219,019	90.6	212,931	97.2
施設介護料収益	154,980	103.2	151,492	97.7	152,096	100.4	153,509	100.9	154,060	100.4
居宅介護料収益	64,006	103.9	63,341	99.0	61,865	97.7	38,922	62.9	33,849	87.0
利用者等利用料収益	25,567	108.5	24,914	97.4	27,649	111.0	26,588	96.2	25,022	94.1
運営事業外収益	1,019	67.9	849	83.3	636	74.9	804	126.4	267	33.2
受取利息配当	170	66.1	100	58.8	70	70.0	102	145.7	2	2.0
その他運営事業外収益	849	68.2	749	88.2	566	75.6	702	124.0	265	37.7
特別利益	0	－	0	－	0	－	1,450	皆増	0	皆減
個定資産売却益	0	－	0	－	0	－	0	―	0	－
過年度損益修正益	0	－	0	－	0	－	0	―	0	－
その他特別利益	0	－	0	－	0	－	1,450	皆増	0	皆減
収入計	245,572	103.7	240,596	98.0	242,246	100.7	221,273	91.3	213,198	96.4
運営事業費用	239,579	101.4	247,944	103.5	248,618	100.3	242,911	97.7	239,785	98.7
給与費	178,781	100.0	185,362	103.7	185,569	100.1	184,634	99.5	181,564	98.3
材料費	10,099	106.8	9,727	96.3	10,234	105.2	9,629	94.1	9,942	103.3
経費	36,981	106.7	39,014	105.5	39,523	101.3	35,254	89.2	36,074	102.3
減価償却費	13,404	106.7	13,404	100.0	13,051	97.4	12,859	98.5	11,928	92.8
資産減耗費	0	皆減	0	－	0	－	381	皆増	144	37.8
研究研修費	314	74.2	428	136.3	241	56.3	154	63.9	133	86.4
運営事業外費用	1	皆増	2	200.0	2	100.0	4,387	219,350	4,612	105.1
支払利息及び企業債取扱諸費	0	－	0	－	0	－	0	―	0	―
雑損失	0	－	0	－	0	－	4,387	皆増	4,612	105.1
その他運営事業外費用	1	皆増	2	200.0	2	100.0	0	皆減	0	―
特別損失	0	－	0	－	0	－	1,450	皆増	0	皆減
固定資産売却損	0	－	0	－	0	－	0	―	0	―
過年度損益修正損	0	－	0	－	0	－	0	―	0	―
その他特別損失	0	－	0	－	0	－	1,450	皆増	0	皆減
支出計	239,580	101.4	247,946	103.5	248,620	100.3	248,748	100.0	244,397	98.3
収支差引	5,992	1024.3	△7,350	－	△6,374	－	△27,475	－	△31,199	―

（2）貸借対照表

（単位　千円，%）

科目＼年度	29		30		元		2		3	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
固定資産	238,485	94.7	225,971	94.8	216,786	95.9	204,320	94.2	194,486	95.2
有形固定資産	238,412	94.7	225,898	94.8	216,713	95.9	204,249	94.2	194,413	95.2
償却資産	553,161	100.0	553,870	100.1	557,737	100.7	550,880	98.8	550,231	99.9
減価償却累計額（Δ）	314,749	104.4	327,972	104.2	309,622	94.4	346,633	112.0	355,818	102.6
無形固定資産	73	100.0	73	100.0	73	100.0	73	100.0	73	100.0
流動資産	276,024	108.6	286,918	103.9	293,860	102.4	284,969	97.0	269,593	94.6
現金及び預金	237,578	111.3	249,792	105.1	255,765	102.4	250,108	97.8	235,880	94.3
未収金	34,769	94.4	33,126	95.3	34,094	102.9	30,861	90.5	29,713	96.3
有価証券	4,000	100.0	4,000	100.0	4,000	100.0	4,000	100.0	4,000	100.0
資産合計	514,509	101.7	512,889	99.7	510,646	99.6	489,289	95.8	464,081	94.8
固定負債	15,724	110.9	19,794	125.9	24,444	123.5	30,233	123.7	35,379	117.0
退職給付引当金	15,724	110.9	19,794	125.9	24,444	123.5	30,233	123.7	35,379	117.0
流動負債	21,977	103.9	23,638	107.6	23,118	97.8	23,447	101.4	24,292	103.6
未払金	4,520	117.5	5,315	117.6	3,923	73.8	4,210	107.3	4,593	109.1
引当金	12,735	101.2	13,610	106.9	14,517	106.7	14,573	100.4	15,041	103.2
その他流動負債	4,722	100.3	4,713	99.8	4,678	99.3	4,663	99.7	4,658	99.9
負債合計	37,701	106.8	43,432	115.2	47,562	109.5	53,681	112.9	59,672	111.2
資本金	508,718	100.0	508,718	100.0	508,718	100.0	463,083	91.0	463,083	100.0
剰余金	△31,911	84.2	△39,261	△123.0	△45,635	△116.2	0	－	△58,674	－
利益剰余金	△31,911	84.2	△39,261	△123.0	△45,635	△116.2	0	－	△58,674	－
資本合計	476,808	101.3	469,457	98.5	463,084	98.6	435,608	94.1	404,408	92.8
負債資本合計	514,509	101.7	512,889	99.7	510,646	99.6	489,289	95.8	464,081	94.8

3．業　務　統　計

（1）月別延べ利用者数

（入所実日数　365 日）　（通所実日数　249 日）（単位:人）

月	3階		4階		入所延べ人数	入所			退所			通所延べ人数	平均入所者数	平均通所者数
	(短期入所再掲)		(短期入所再掲)			3階	4階	計	3階	4階	計			
4月	560	(0)	631	(0)	1,191	3	5	8	5	5	10	209	39.7	10.0
5月	533	(0)	622	(0)	1,155	5	4	9	4	4	8	236	37.3	11.2
6月	570	(0)	668	(0)	1,238	1	4	5	0	3	3	266	41.3	12.1
7月	551	(9)	644	(21)	1,195	6	8	14	11	10	21	262	38.5	11.9
8月	527	(47)	646	(51)	1,173	15	15	30	11	13	24	250	37.8	11.4
9月	535	(32)	655	(51)	1,190	10	6	16	8	7	15	229	39.7	10.4
10月	577	(0)	636	(10)	1,213	3	5	8	9	8	17	230	39.1	11.0
11月	517	(14)	509	(33)	1,026	10	11	21	7	12	19	215	34.2	9.8
12月	534	(24)	577	(46)	1,111	12	15	27	13	12	25	253	35.8	11.0
1月	521	(35)	632	(27)	1,153	13	10	23	14	11	25	215	37.2	10.8
2月	491	(20)	481	(11)	975	10	6	16	6	7	13	102	34.8	10.2
3月	581	(32)	624	(5)	1,202	12	11	23	14	8	22	227	38.8	9.9
合計	6,497	(213)	7,325	(255)	13,822	100	100	200	102	100	202	2,694	37.9	10.8

許可数：50 床（3 階 24 床・4 階 26 床）　通所定員：15 人/日　※入所延べ人数は当日退所の数を含む

（2）年度別延べ利用者数

（単位：人）

年度 / 月	入所延べ人数				通所延べ人数				平均入所者数				平均通所者数			
	30	元	2	3	30	元	2	3	30	元	2	3	30	元	2	3
4月	1,302	1,293	1,239	1,191	257	275	0	209	43.4	43.1	41.3	39.7	12.2	12.5	0	10.0
5月	1,274	1,323	1,310	1,155	277	288	45	236	41.1	42.7	42.3	37.3	12.0	12.5	9.0	11.2
6月	1,296	1,260	1,228	1,238	264	198	233	266	43.2	42.0	40.9	41.3	12.6	13.2	10.6	12.1
7月	1,331	1,248	1,335	1,195	286	261	254	262	42.9	40.3	43.1	38.5	13.0	11.3	11.0	11.9
8月	1,343	1,429	1,311	1,173	305	266	207	250	43.3	46.1	42.3	37.8	13.3	12.1	9.9	11.4
9月	1,255	1,385	1,318	1,190	265	268	210	229	41.8	46.2	43.9	39.7	13.3	12.8	9.5	10.4
10月	1,234	1,360	1,293	1,213	274	287	225	230	39.8	43.9	41.7	39.1	11.9	12.5	10.2	11.0
11月	1,273	1,244	1,231	1,026	300	248	219	215	42.4	41.5	41.0	34.2	13.6	11.8	10.4	9.8
12月	1,333	1,244	1,249	1,111	283	271	202	253	43.0	40.1	40.3	35.8	14.2	12.3	10.1	11.0
1月	1,379	1,437	1,324	1,153	251	221	167	215	44.5	46.4	42.7	37.2	12.6	11.1	8.4	10.8
2月	1,261	1,309	1,199	975	251	212	149	102	45.0	45.1	42.8	34.8	12.6	10.6	7.5	10.2
3月	1,364	1,332	1,278	1,202	266	189	189	227	44.0	43.0	41.2	38.8	12.7	8.6	8.2	9.9
合　計	15,645	15,864	15,315	13,822	3,279	2,984	2,100	2,694	42.9	43.3	42.0	37.9	12.8	11.7	9.6	10.8

4．会議・委員会・研究会等

（1）委員会

委員会名	委員数	委員会の目的
判定委員会	9	施設利用希望者（入所・通所）及び一定期間利用が経過している者の継続利用について適切であるか審査し、施設の効率的利用を図る。
行事・余暇・編集担当	4	行事・慰問・余暇等を企画・実施し、利用者の心身の安定・向上を図り充実した施設生活を送ってもらう。また、「ひまわり通信」を発行し、家族や地域への広報活動を行う。
抑制廃止委員会	3	身体拘束がもたらす悪影響を理解し、身体拘束を行わないケアを継続するため、問題提起と職員教育を行う。
安全推進委員会	4	良質な医療・看護・介護を提供するために、職員の安全に対する意識を高め、安全管理、事故防止の徹底を図る。
給食委員会	3	利用者の栄養状態や嚥下状態に留意するとともに、個々にあった食事の提供ができるように食事に関する問題点を明確にし、検討改善を図る。
褥創対策委員会	4	入所者の褥創に関する問題点を明確にし、改善を図る。褥創の予防、対策に関する情報収集及び職員教育を行う。
教育・研究担当	3	年間の教育プログラムを作成し勉強会を通して、知識・技術の向上を図り、実践出来るようにする。研究活動を活性化し、施設内外の発表に向けて支援する。
ケアマネジメント・カルテ・R4担当	4	多様化する利用者が増える中で、個々のニーズに対応したケアマネジメントを行う。日々のケアマネジメント業務の見直しを行い、効率良く業務が行えるよう改善していく。
学生指導担当	5	充実した学習が行えるよう、学校等と協力し、実習環境を整える。

委 員 会 名	委員数	委 員 会 の 目 的
感 染 対 策 委 員 会	4	職員の感染についての知識の向上を図り、感染予防に努める。また、感染発生時の対応を行い、集団感染を予防し、被害を最小限にする。
福祉用具管理・整備担当	5	福祉用具機器を安全かつ清潔な状態で提供できる。
認知症ケア委員会	3	認知症について理解を深め、認知症利用者それぞれに合った適切なケアを行う。
サービス向上委員会	4	利用者及び家族が安心して利用できる環境を作り、職員が接遇意識をもって働くことができる。

（2）実習指導

期 間	学 校 名 等	人数	実 習 内 容
令和3年 7月 6日～ 3年 7月 7日	高崎健康福祉大学	11名	老年看護学実習

（3）行 事

月	行 事 名	概 要
4 月	公園散歩（西部公園）	季節の変化を肌で感じよう
5 月	風船バレー大会	皆で元気に体を動かそう
6 月	うちわ作り	オリジナルうちわを作ろう
7 月	かき氷とわたアメ作り	懐かしい屋台の味を味わおう
8 月	輪投げとヨーヨー釣り	懐かしい屋台ゲームを楽しもう
9 月	敬老会	みんなで楽しもう
10 月	公園散歩（西部公園）	季節の変化を肌で感じよう
11 月	仮装大会	おしゃれを楽しもう
12 月	パンケーキ作り	美味しく楽しもう
1 月	対抗戦ゲーム大会	頭を使って楽しもう
2 月	節分	職員と利用者の寸劇
3 月	プリンアラモード作り	美味しく楽しもう

※毎月開催：誕生日会、書道クラブ、映画鑑賞

ＸⅢ　訪問看護ステーションいせさき

XIII　訪問看護ステーションいせさき

1．業　務　概　要

1．スタッフ

所長１名、看護副師長１名、看護副主任２名、看護員２名、課長１名(兼務)、係長１名(兼務)、会計年度任用職員２名　計10名

2．業務の現況

ステーションの基本理念として「利用者に対し安全、安楽な看護を提供する」を掲げ、利用者及び家族の意思を尊重し介護主体、医療器機装着、ターミナル等、幅広く対応している。紹介元は併設する伊勢崎市民病院からの依頼が約72%、ケアマネジャーからの依頼は24%、開業医からの依頼は4%だった。また、ターミナル療養費・ターミナルケア加算の算定数は16件で前年度より４件増加、在宅看取14件で前年度より８件増加した。

利用者の訪問開始数は昨年度とほぼ変わらないが、訪問延べ回数は635回増加している。令和３年度の収益は2,495千円の赤字であった。

3．今後の目標

(1) 利用者からの意見、要望に耳を傾けた看護を行い、地域医療・介護連携を強化し利用者の増加を図る。

(2) スタッフの個々の教育に力を注ぎながら、訪問看護ステーションとして組織のケア力を高めていく。

(3) 選ばれる居宅サービス事業者として、また、病院併設の居宅サービス事業者として、各関連機関と良い協力関係を継続し、信頼される質の良い看護を提供して行きたい。

(登山　寿美江)

2．経　営　状　況

（1）損益計算書

(単位:千円，%)

科目＼年度	29		30		元		2		3	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
運営事業収益	54,095	101.8	52,021	96.2	50,119	96.3	47,265	94.3	50,053	105.9
介護保険収益	30,669	95.4	30,526	99.5	26,764	87.7	23,930	89.4	21,717	90.7
医療保険収益	22,764	112.0	20,827	91.5	22,675	108.9	22,708	100.1	27,489	121.1
その他利用料収益	662	103.1	668	100.9	680	101.8	627	92.2	847	135.1
運営事業外収益	177	93.7	135	76.3	273	202.2	491	179.9	114	23.0
受取利息配当金	60	66.4	40	133.3	9	22.5	41	455.6	1	2.4
その他運営事業外収益	117	119.4	95	81.2	264	277.9	451	170.8	113	24.8
特別利益	0	－	0	－	0	－	350	皆増	0	皆減
固定資産売却益	0	－	0	－	0	－	0	－	0	―
過年度損益修正益	0	－	0	－	0	－	0	－	0	―
その他特別利益	0	－	0	－	0	－	350	皆増	0	皆減
収入計	54,272	101.8	52,156	96.1	50,392	96.6	48,106	95.5	50,167	104.3
運営事業費用	51,782	101.8	52,999	102.4	53,583	101.1	54,012	100.8	52,472	97.1
給与費	48,278	100.7	49,649	102.8	50,469	101.7	51,178	101.4	49,997	97.7
材料費	272	147.0	235	86.4	249	106.0	390	156.6	412	97.9
経費	2,057	132.5	1,861	90.5	1,931	103.8	1,876	97.2	1,756	93.6
減価償却費	1,031	91.4	1,182	114.8	844	71.4	550	65.2	304	55.1
資産減耗費	48	皆増	0	皆減	49	皆増	0	皆減	0	―
研究研修費	96	331.9	72	75.0	41	56.9	18	43.9	3	16.7
運営事業外費用	0	－	0	－	0	－	202	皆増	189	93.6
支払利息及び企業債取扱諸費	0	－	0	－	0	－	0	－	0	―
雑損失	0	－	0	－	0	－	202	皆増	189	93.6
その他運営事業外	0	－	0	－	0	－	0	－	0	―
特別損失	0	－	0	－	0	－	350	皆増	0	皆減
固定資産売却損	0	－	0	－	0	－	0	－	0	―
過年度損益修正損	0	－	0	－	0	－	0	－	0	―
その他特別損失	0	－	0	－	0	－	350	皆増	0	皆減
支出計	51,782	101.8	52,999	102.4	53,583	101.1	54,564	101.8	52,661	96.5
収支差引	2,490	101.3	△843	－	△3,191	－	△6,458	－	△2,494	―

（2）貸借対照表

(単位：千円，%)

科目＼年度	29		30		元		2		3	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
固定資産	7,210	102.0	7,210	100.0	1,222	16.9	671	54.9	367	54.7
有形固定資産	3,297	100.9	2,115	64.1	1,222	57.8	671	54.9	367	54.7
償却資産	3,297	100.9	2,115	64.1	6,231	294.6	6,231	100.0	6,232	100.0
減価償却累計額（△）	3,913	102.9	5,095	130.2	5,009	98.3	5,560	111.0	5,865	105.5
流動資産	107,913	104.7	110,504	102.4	110,958	100.4	107,122	96.5	107,388	100.2
現金及び預金	91,973	106.5	95,191	103.5	94,465	99.2	91,358	96.7	91,187	99.8
未収金	7,940	91.0	7,313	92.1	8,493	116.1	7,764	91.4	8,201	105.6
有価証券	8,000	100.0	8,000	100.0	8,000	100.0	8,000	100.0	8,000	100.0
資産合計	111,210	104.6	112,619	101.3	112,180	99.6	107,793	96.1	107,755	100.0
固定負債	26,212	109.4	28,470	108.6	30,728	107.9	32,986	107.3	35,244	106.8
退職給付引当金	26,212	109.4	28,470	108.6	30,728	107.9	32,986	107.3	35,244	106.8
流動負債	12,379	100.9	12,372	99.9	12,867	104.0	12,680	98.5	12,878	101.6
未払金	409	111.9	418	102.2	484	115.8	473	97.7	595	125.8
引当金	3,763	101.4	3,737	99.3	4,175	111.7	3,982	95.4	4,056	101.9
その他流動負債	8,207	100.2	8,217	100.1	8,208	99.9	8,225	100.2	8,227	100.0
負債合計	38,591	106.5	40,842	105.8	43,595	106.7	45,666	104.8	48,122	105.4
資本金	52,854	102.1	53,963	102.1	53,963	100.0	53,963	100.0	53,963	100.0
剰余金	19,765	107.6	17,814	90.1	14,622	82.1	8,164	55.8	5,670	69.4
利益剰余金	19,765	107.6	17,814	90.1	14,622	82.1	8,164	55.8	5,670	69.4
資本合計	72,619	103.6	71,777	98.8	68,585	95.6	62,127	90.6	59,633	96.0
負債資本合計	111,210	104.6	112,619	101.2	112,180	99.6	107,793	96.1	107,755	100.0

3．業　務　統　計

（1）訪問実人数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護保険	38	42	40	39	43	45	43	41	38	37	36	38	480
医療保険	37	36	32	26	27	26	26	30	28	26	26	27	347
合　計	75	78	72	65	70	71	69	71	66	63	62	65	827

（2）訪問延べ回数

(単位：回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護保険	207	219	235	229	249	222	241	245	229	212	190	219	2,697
医療保険	221	232	229	203	196	199	196	192	229	239	186	262	2,584
合　計	428	451	464	432	445	421	437	437	458	451	376	481	5,281

（3）疾患別対象者

(単位：人)

疾患名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
悪性腫瘍	37	35	35	29	31	31	27	28	26	25	25	27	356
脳・神経	6	5	5	5	5	5	5	5	6	65	5	4	61
呼吸器	8	7	7	6	5	7	8	8	7	6	7	7	83
循環器	12	12	12	12	12	13	13	14	14	14	12	12	152
消化器	6	5	3	3	4	4	5	5	4	3	4	4	50
泌尿器疾患	3	3	3	3	2	3	3	3	3	3	1	1	31
整形外科	5	5	4	4	6	4	3	3	3	3	2	3	45
内分泌	4	5	5	5	6	5	6	6	6	6	5	6	65
認知症	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	3	3	25
難病	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
その他	6	5	6	6	5	7	4	5	5	6	7	5	67
合計	90	85	83	76	79	82	77	80	76	74	72	73	947

*重複計上

（4）年齢別対象者

(単位：人)

年齢別	～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳～
	71	25	37	88	108	186	163	147

（5）訪問内容

(単位：回)

訪問内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
保清の援助	207	188	200	210	216	203	204	206	238	249	211	271	2,603
排泄の援助	144	144	138	107	135	109	150	152	171	217	152	201	1,820
医療器具の管理	182	213	208	233	184	226	222	224	269	258	180	273	2,672
褥創処置	34	15	14	17	12	7	18	13	5	12	27	37	211
リハビリ	21	15	11	11	12	7	29	17	16	12	21	22	194
内服・処置・介護指導	422	447	459	432	444	405	435	431	457	451	351	480	5,214
福祉サービスのすすめ	10	11	10	9	13	8	4	7	11	4	2	19	108
精神的ケア	428	447	459	432	432	421	437	434	458	451	376	481	5,256
整容の援助	215	211	185	197	214	186	209	223	233	231	196	274	2,574
ターミナルケア	126	133	145	85	114	108	69	107	111	124	94	153	1,369
他部門との連絡	53	55	55	50	54	50	50	45	49	38	30	52	581
ＩＶＨ管理	15	22	16	38	26	31	48	50	44	35	28	22	375
注射・採血・検査	45	55	45	71	72	75	66	64	113	67	63	74	810
死後の処置	2	1	1	0	1	2	0	0	1	1	1	1	11
合計	1,904	1,957	1,946	1,892	1,929	1,838	1,941	1,973	2,176	2,150	1,732	2,360	23,798

*重複計上

（6）訪問時間（介護保険利用者のみ）

(単位：回)

時間	30分未満	30～60分	60～90分	90～120分	120分以上
	1,472	1,211	14	0	0

（7）医療機器装着者数

(単位：人)

医療機器名称	4月	5月	5月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
酸素療法	8	7	11	8	7	7	6	6	5	5	5	5	80
吸引器	0	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	14
CVポート	4	4	2	3	6	4	5	5	2	2	4	3	44
経管栄養	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	14
留置カテーテル	7	8	8	10	11	11	11	11	11	12	13	12	125
人工呼吸器	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
気管カニューレ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
人工肛門	9	10	10	10	9	9	9	10	11	10	10	10	117
人工膀胱	2	3	3	3	3	3	4	5	2	2	2	3	35
盲腸ポート	3	5	5	4	4	5	4	5	4	4	5	4	52
合計	35	41	41	40	42	41	41	45	37	37	43	41	484

※重複計上

（8）利用者の開始（紹介）状況：保険別

(単位：人)

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
市民病院	医療保険	4	6	8	4	4	4	4	7	7	1	3	5	57
	介護保険	0	1	0	1	3	2	0	0	0	0	1	0	8
開業医	医療保険	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	介護保険	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
施設	医療保険	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	1	4
	介護保険	0	1	0	0	2	2	3	0	1	1	1	2	13
合計		4	9	8	5	11	8	7	8	8	3	5	8	84

（9）訪問終了状況：保険別

(単位：人)

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院	医療保険	7	3	10	9	3	4	2	8	4	2	2	2	56
	介護保険	0	1	0	0	0	3	1	0	0	1	1	2	9
施設入所	医療保険	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	3
	介護保険	0	0	0	0	0	2	1	0	1	1	1	0	6
在宅死亡	医療保険	2	2	0	0	0	3	0	0	1	0	1	1	10
	介護保険	0	0	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	4
軽快	医療保険	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	4
	介護保険	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	1	0	5
合計		10	7	12	9	6	15	4	12	6	5	6	5	97

(10) 時間外携帯電話利用状況

(単位：回)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
時間外	5：00～8：30	25	6	1	9	4	2	2	2	6	5	4	5	71
	17：15～22：00	3	3	8	1	10	5	1	8	16	8	5	6	74
	22：00～5：00	7	0	3	0	3	3	0	4	1	0	0	5	26
	計	35	9	12	10	17	10	3	14	23	13	9	16	171
土曜・日曜・祝日	5：00～8：30	2	1	1	0	0	2	0	0	3	5	1	0	15
	8：30～17：15	8	22	9	14	13	14	8	5	25	22	4	11	155
	17：15～22：00	2	4	5	0	5	5	0	1	6	2	2	3	35
	22：00～5：00	2	2	2	1	1	5	1	2	1	2	0	3	22
	計	14	29	17	15	19	26	9	8	35	31	7	17	227
合計		49	38	29	25	36	36	12	22	58	44	16	33	398

(11) 緊急訪問件数

(単位：回)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
時間内	8：30～17：15	3	8	5	5	4	3	8	6	2	2	1	0	47
時間外	5：00～8：30	2	1	0	0	0	1	0	0	2	1	0	0	7
	17：15～22：00	2	1	4	4	2	1	1	2	3	0	1	2	23
	22：00～5：00	0	0	2	2	0	3	0	3	1	0	1	3	15
土曜・日曜・祝日	5：00～8：30	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	3
	8：30～17：15	6	4	2	2	6	8	3	3	4	7	1	1	47
	17：15～22：00	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	1	7
	22：00～5：00	2	0	0	0	2	1	0	0	1	2	0	3	11
合計		16	16	15	15	14	17	13	14	13	13	4	10	160

4．実習

(1) 実習指導

期　　間	学　校　名　等	人　数	実　習　内　容
3年6月15日～7月8日	桐　生　大　学	6	在宅看護論　　3年生
3年7月12日～8月6日	上　武　大　学	6	在宅看護論　　3年生

ⅩⅣ　群馬県立赤城特別支援学校
伊勢崎市民病院内教室

XV 群馬県立赤城特別支援学校伊勢崎市民病院内教室

1．開　設　の　趣　旨

昭和52年度から地域医療の充実を図るため、小児科医師を2名から4名に増員し、5月1日小児科専門病棟を開設した。小児慢性疾患等のため長期入院治療を必要とする患者の増加に伴い、地域住民から病弱学級を設置して就学に対する不安を解消し、継続して入院治療を受けられるよう強い要望があり、同年10月18日県知事、県教育委員会に陳情した。その結果、関係者の小児長期入院患者の教育問題に対する熱心な配慮が実を結び、昭和53年4月1日群馬県立養護学校伊勢崎病院分教室が開設された。

2．沿　革

昭和53年 3月　　伊勢崎病院西1階病棟8部屋222.15㎡（共用部分を含む）を伊勢崎病院分教室として建物使用許可
昭和53年 4月 1日　群馬県立養護学校伊勢崎病院分教室開設
　許可学級　3（複々式学級　小2・中1）　教職員　教諭3
　教室等　普通教室3、理科室、実技室、プレイルーム、職員室、教具室
昭和53年 4月 8日　入学式　児童生徒数　17名
昭和54年 4月 1日　群馬県立東毛養護学校伊勢崎市民病院分教室に名称変更
昭和55年 4月 1日　群馬県立東毛養護学校伊勢崎分校昇格
　許可学級　4（複々式学級　小2・中2）　教職員　教頭1　教諭3
　教室等　普通教室4、理科室、実技室、プレイルーム、職員室、教具室
昭和56年 4月 1日　許可学級　5（複式学級　小3・中2）　教職員　教頭1　教諭4
　教室等　普通教室5、理科室、実技室、プレイルーム、職員室、教具室
昭和58年 4月 1日　許可学級　6（複式学級　小3・単式学級　中3）
　教職員　教頭1　教諭5
　教室等　普通教室6、理科室、実技室、プレイルーム、職員室、教具室
昭和61年 4月 1日　教職員　教頭1　教諭6
昭和62年 4月 1日　教職員　教頭1　教諭7
平成元年 4月 1日　教職員　教頭1　教諭8
平成 3年 4月 1日　伊勢崎市民病院東1階病棟に移転、141.52㎡建物使用許可
　教室等　普通教室6、職員室
平成 9年 4月 1日　群馬県立赤城養護学校伊勢崎分校に名称変更
平成10年12月18日　伊勢崎市民病院南棟1階に移転、341.26㎡建物使用許可
　教室等　普通教室6、理科家庭科室、多目的室、プレイホール、職員室
平成27年4月1日　群馬県立赤城特別支援学校伊勢崎市民病院内教室に名称変更
　認可学級5　教職員　教諭5

3．児　童　生　徒　数

年間在籍者数　（単位　人）

学年 / 年度	小学部							中学部				合計		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	計	男	女	計
29	0	2	0	1	1	4	8	3	2	2	7	7	8	15
30	0	0	0	0	0	2	2	2	0	2	4	5	1	6
元	0	0	0	2	0	1	3	6	2	1	9	6	6	12
2	0	0	1	1	0	1	3	4	3	4	11	10	4	14
3	1	0	0	1	2	2	6	0	2	1	3	6	3	9

４．教 育 目 標

児童生徒一人一人が、自己を大切にするとともに自立と社会参加を目指して自ら学び、好ましい人間関係の中で明るく元気に明日へ向かって生きる豊かな人間性を身に付ける。

５．学校病院連絡会議

学校病院連絡会議は、学校側と病院側の職員が参加し、学校・病院運営の相互の理解、学校行事、学習指導、生活指導、児童生徒の病状等の事項を連絡協議して連携を図り、協力の充実に努める。

ＸＶ　編 集 委 員 名 簿

XV　編集委員名簿

編集委員

委員長	病院長	小林裕幸
副委員長	副院長兼経営企画部長	勅使川原　覚
委員	副院長	大林民幸
	副院長兼看護部長	木村恭子
	薬剤部長	下城正明
	リハビリテーション科技師長	後藤雄一
	中央放射線科技師長	武田　久
	中央検査科技師長	荒木和也
	栄養科主任	齋藤克哉
	経営企画部副部長兼総務課長	小此木　聡
	財務課長	松原弘和
	医療サービス課長	須斎暁男
	地域医療連携室長	大下洋美

事務局

経営企画部総務課	桑名隆毅
	大月　剛
	福島将志
	松井咲絵

伊勢崎市民病院年報

第　45　号

令　和　5　年　2　月　1　日

編集発行　伊勢崎市民病院

〒372-0817　伊勢崎市連取本町12番地1

電話（0270）25－5022

印刷所　第一印刷株式会社

〒372-0812　伊勢崎市連取町1344

電話（0270）25－0919